千歳市

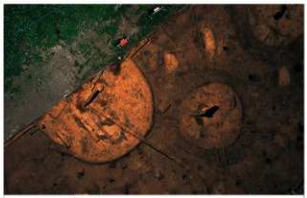
キ ウ ス 4 遺 跡 (10)

―北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成14年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

1．周堤墓〔X－17〕



2．周堤墓〔X－11・13〕

3．周堤墓の遺物〔X－10〕

4．4体合葬墓〔GP－1008〕

口絵　2

1．建物跡・土壙群〔Q地区・R地区〕

2．建物跡〔Q地区・建物27〕

3．建物跡〔Q地区・建物２〕

4．土壙〔Q地区・P－32〕

5．フラスコ状ピット〔I地区・ILP－３〕

1．南側盛土遺構土層断面〔Ｒ地区〕

2．盛土遺構の遺物〔Ｒ地区〕

3．朱漆塗りの弓　〔Ｌ地区〕

4．盛土中の焼土〔RMDF－44～50〕

5．焼土に埋設された土器〔RMVF－18〕

口絵　4

1．水場遺構〔A１地区〕

2．「Vd層」木製品出土状況〔R地区〕

3．縄文時代前期の竪穴住居跡〔A１地区〕

4．縄文時代後期前葉の竪穴状遺構〔G地区〕

5．河道跡とアイヌ文化期の木製品〔A２地区〕

6．キウス４遺跡近景

例　言

1．本書は、北海道横断自動車道建設に伴い財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成10（1998）年度に発掘調査を実施した、千歳市キウス４遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお本報告書では、平成15（2003）年２月に発行した北埋調報180集『キウス４遺跡（９）』の続編として保存処理等のため未掲載であった遺物、キウス４遺跡全体のまとめを掲載している。特にキウス４遺跡各報告書の索引に主眼を置いている。

2．平成14年度の整理編集作業は第２調査部第２調査課が担当した。

3．本書の執筆は、佐川俊一、阿部明義、第１調査部普及活用課藤原秀樹が行い、編集は阿部が行った。各章・節などの執筆担当者は以下のとおりである。

第Ⅰ章　阿部　　第Ⅱ章　阿部　　４（３）・（４）佐川

第Ⅲ章１・２　藤原　　３・４　阿部

第Ⅳ章　佐川

4．現場の調査状況は、過年度撮影したものを掲載した。鑑胎漆器およびマレクの撮影は、第１調査部第１調査課立川トマスが行った。

5．調査にあたっては、下記の諸機関および人々の指導、ご協力をいただいた（順不同・敬称略）。

野村崇、林謙作、国立歴史民俗博物館　春成秀爾・辻誠一郎、北海道開拓記念館　山田悟郎・小林幸雄、千歳市教育委員会　大谷敏三・田村俊之・豊田宏良・松田淳子、千歳サケのふるさと館　高橋理、恵庭市教育委員会　上屋真一・松谷純一・佐藤幾子・長町章弘、北広島市教育委員会　遠藤龍畝、札幌市埋蔵文化財センター　羽賀憲二、苫小牧市中央図書館　工藤肇、苫小牧市博物館　赤石慎三、厚真町教育委員会　乾哲也、倶知安町小川原緒記念美術館　矢吹俊男、伊達市教育委員会　大島直行・青野友哉、えりも町郷土資料館ほろいずみ　中岡利泰、南茅部町教育委員会　阿部千春・福田裕二、函館市教育委員会　佐藤智雄・野村祐一、芦別市星の降る里百年記念館　長谷山隆博、旭川市教育委員会　瀬川拓郎・友田哲弘、斜里町教育委員会　松田功、標津町教育委員会　椙田光明、帯広百年記念館　北澤実・山原敏朗、北海道大学　小杉康、札幌大学　木村英明、札幌国際大学　長崎潤一、北海学園大学　宮宏明、弘前大学　関根達人、東北学院大学　佐川正敏、東京都立大学　山田昌久、国学院大学　中村大、島根大学　山田康弘、青森県郷土館　鈴木克彦、青森県八戸市教育委員会　村木淳、八戸市博物館　小笠原善範、青森県階上町教育委員会　森淳、青森県東北町教育委員会　古屋敷則雄、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　佐々木嘉直・中川重紀・星雅之、岩手県宮古市教育委員会　竹下将男・鎌田祐二、秋田県立博物館　庄内昭男、秋田県埋蔵文化財センター　栗沢光男・牧野賢美・五十嵐一治・小島朋夏、秋田県鷹巣町教育委員会　佐野一絵、山形県埋蔵文化財センター　山口博之・小林圭一、山形県天童市教育委員会　押野一貴、東北歴史博物館　菊地逸夫、宮城県奥松島縄文村歴史資料館　菅原弘樹、福島県文化振興財団　森幸彦・鈴鹿良一・山岸英夫、新潟県新発田市教育委員会　田中耕作、新潟県朝日村教育委員会　滝沢規朗、栃木県文化振興事業団　江原英、千葉県市川考古博物館　堀越正之・領塚正浩、東京都東村山市下宅部遺跡調査団　千葉敏朗・石川正行、埼玉県立博物館　関義則、鹿児島県歴史資料センター黎明館　牛ノ濱修

記号等の説明

1．遺構名・遺構図について

（1）遺構名は、原則として過年度報告のキウス４遺跡各報告書の通りとした。その中には下記の記号の組み合わせで遺構名を付したものがある。

〔地区名〕A・H・I・K・Q・Rなど

〔層界〕U：樽前ｃ火山灰層より上位　　L：樽前ｃ火山灰層より下位

〔遺構種別〕X：周堤墓　GP：土壙墓　H：住居跡　P：土壙　SP：柱穴状ピット
KP：杭穴　M：盛土遺構　F：焼土　S：石器集中　FC：フレイクチップ集中
R：流水跡

（2）遺構図にはグリッド線に従って、方位記号を付したものがある。真北は南北方向の基線に対して西偏19度３分20秒である。レベルは標高（単位ｍ）を示す。

（3）掲載した遺構図等の縮尺は、スケールを付した。ただし集成図などでは省略したものがある。

2．遺物分類・記号について

（1）土器分類

Ⅰ群　縄文時代早期に属する土器群。
ａ類：貝殻腹縁文・条痕文のある土器群。
ｂ類：撚糸文・絡条体圧痕文・短縄文などが施される土器群。
ｂ－１類：東釧路Ⅲ式。ｂ－２類：コッタロ式。ｂ－３類：中茶路式。ｂ－４類：東釧路Ⅳ式。

Ⅱ群　縄文時代前期に属する土器群
ａ－１類：綱文土器・花積下層式併行相当。ａ－２類：静内中野式。
ｂ類：円筒下層式・植苗式・大麻Ｖ式に相当するもの。

Ⅲ群　縄文時代中期に属する土器群。
ａ類：円筒上層式・萩ヶ岡１・２式。
ｂ－１類：天神山式。ｂ－２類：柏木川式。ｂ－３類：北筒Ⅱ式（トコロ６類）。

Ⅳ群　縄文時代後期に属する土器群。
ａ類：初頭～前葉の土器。余市式・タプコプ式・入江式。
ｂ類：中葉の土器。ｂ－１類：ウサクマイＣ式。ｂ－２類：手稲式。ｂ－３類：鉈澗式。
ｂ－４類：鉈澗式の新しい段階または「エリモＢ式」。
ｃ類：後葉の土器。ｃ－１類：堂林式。ｃ－２類：「三ツ谷式」併行。ｃ－３類：御殿山式。

Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群。ｃ類：大洞Ａ・Ａ’式・タンネトウＬ式に属するもの。

Ⅵ群　続縄文時代に属する土器群。

Ⅶ群　擦文時代に属する土器群。

※キウス４遺跡出土土器の主体はⅣ群ｂ－４類からｃ－１類にかけてであり、その境界の微妙な段階を含んでいる。そのため、同時期は「Ⅳ群ｂ－４類」・「Ⅳ群ｃ－１類」・「Ⅳ群ｃ類」の分類があるが、本報告書では各報告書に記載してある分類を掲載してある。

※時期区分において、**「縄文時代後期後半」**の表記を行っているものがあるが、これはキウス４遺跡の主体時期である**「縄文時代後期中葉末～後葉」**を表す。

（2）石器等の分類記号

石器等は細分類を用いている報告書があるが（『キウス4遺跡（2）』・『同（9）』ほか）、この報告書では分類記号を用いていない。

（3）出土遺物分布図等での表示は、遺物の種類別に以下のシンボルマークで示したものがある。

●：土器　○：土製品　△：剥片石器　▲：剥片　□：礫石器　■：礫　△：石製品

☆：骨片　★：炭化物

また焼土・炭化物集中等はスクリーントーンで示したものがある。

3．土層について

（1）土層の混合状態を表現するために、以下のように表記してある。

A＋B：AとBが同量混じる。　　A＞B：AにBが少量混じる。

A≫B：AにBが微量混じる。　　A≒B：AとBはほぼ等しい。

（2）土層の色調には『新版標準土色帖』（小山・竹原1967）を使用し、カラーチャートの番号を付したものがある。

（3）土層の記述には下記の記号・略称を用いた場合がある。

Ta－a：樽前a降下軽石堆積物　　Ta－c：樽前c降下軽石堆積物

B－Tm：白頭山－苫小牧火山灰　　En－a：恵庭a降下軽石堆積物

En－L：恵庭a降下軽石堆積物起源のローム層

En－P：恵庭a降下軽石堆積物のうち未風化の軽石礫

軽石・パミス：特に示していない限り恵庭a降下軽石堆積物

（4）基本土層

Ⅰ層：現表土。耕作土。

Ⅱ層：樽前a降下軽石層（Ta－a）。1739年降下。

Ⅲ層：黒色腐植土。新千歳空港関連調査の「第一黒色土層（ⅠB層）」に相当する。

Ⅳ層：樽前c降下軽石・スコリア層（Ta－c・2,300～2,500年前降下）。

Ⅴ層：黒色腐食土。新千歳空港関連調査の「第二黒色土層（ⅡB層）」に相当する。粘性に富む。Ⅴ層は盛土遺構を境にⅤa層とⅤb層に分層した。また西部のA2地区では「ⅤD」層と称した泥炭に富む層が厚く堆積している。

Ⅵ層：暗褐色土～褐色土。Ⅴ層とⅦ層の漸移層。

Ⅶ層：ローム層。恵庭a降下軽石（En－a）が風化作用によってローム化した層。

Ⅷ層：恵庭a降下軽石層（En－a・15,000～17,000年前降下）。

Ⅸ層：風成二次堆積物とされているローム層と泥炭からなる層。［A2地区］

Ⅹ層：支笏第1降下軽石（Spfa－1）、間層のローム層、支笏第2降下軽石（Spfa－2）を一括した層。［A2地区］

その他「SE層」・「Vd層」などと称した層位がある。

目　次

口絵
例言・記号等の説明
目次
挿図目次・表目次・写真図版目次

Ⅰ．調査の概要…… 1

Ⅱ．キウス４遺跡の遺構と遺物…… 6
1．縄文時代後期中葉末～後葉の遺構…… 6
（1） 周堤墓
（2） 建物跡・土壙・柱穴群
（3） 盛土遺構
（4） 焼土
（5） 水場と水資源の利用
2．縄文早期後半～前期前半の遺構…… 34
3．その他の時期の遺構…… 36
4．遺物…… 38
（1） 土器・土製品
（2） 石器・石製品
（3） 木製品
（4） 自然遺物
（5） その他の遺物
5．自然科学的分析・鑑定から…… 60
（1） 概要
（2） 分析・鑑定の主な成果
6．新たに整理された遺物…… 65
（1） 籃胎漆器
（2） 金属製品

Ⅲ．考察…… 69
1．その後の周堤墓研究史…… 69
2．キウス４遺跡における周堤墓外の墓壙について…… 77
3．キウス４遺跡における縄文時代後期後半の土器編年…… 91
4．縄文時代後期後半の微隆線土器について…… 97

Ⅳ．キウス４遺跡遺構索引…… 101

引用・参考文献…… 131
報告書抄録
奥付

付図
・キウス４遺跡遺構位置図（縄文時代後期後半）

挿図目次

図Ⅰ－１　遺跡の位置
図Ⅰ－２　主な遺構群と掲載報告書

図Ⅱ－１　周堤墓位置
図Ⅱ－２　合葬墓のある周堤墓〔Ｘ－10〕
図Ⅱ－３　副葬品のある周堤墓例〔Ｘ－17〕
図Ⅱ－４　キウス４遺跡周堤墓の分類（１）
図Ⅱ－５　キウス４遺跡周堤墓の分類（２）
図Ⅱ－６　キウス４遺跡周堤墓の分類（３）
図Ⅱ－７　土壙・柱穴状ピット分布図
図Ⅱ－８　建物の配列
図Ⅱ－９　建物跡の分類
図Ⅱ－10　フラスコ状ピット例
図Ⅱ－11　土壙墓・フラスコ状ピットほか位置図
図Ⅱ－12　盛土遺構分布図
図Ⅱ－13　北側盛土遺構〔Ｆ・Ｇ地区〕（１）
図Ⅱ－14　北側盛土遺構〔Ｆ・Ｇ・Ｌ地区〕（２）
図Ⅱ－15　南側盛土遺構〔Ｒ地区〕（１）
図Ⅱ－16　南側盛土遺構〔Ｒ地区〕（２）
図Ⅱ－17　主な焼土分布域（縄文時代後期後半）
図Ⅱ－18　水資源利用の場
図Ⅱ－19　水場遺構・南側低湿地
図Ⅱ－20　縄文時代早期～前期の遺構
図Ⅱ－21　その他の時期の遺構
図Ⅱ－22　キウス４遺跡出土遺物グラフ
図Ⅱ－23　各時期の土器
図Ⅱ－24　主な土製品［縄文時代後期後半］
図Ⅱ－25　石器各種
図Ⅱ－26　主な石製品
図Ⅱ－27　Ｒ地区低地部の木製品出土状況
図Ⅱ－28　その他の遺物
図Ⅱ－29　主な遺構群と^{14}Ｃ年代測定値
図Ⅱ－30　鐙胎漆器片と金属製品

図Ⅲ－１　石狩低地帯における周堤墓の分布
図Ⅲ－２　キウス周辺における周堤墓の分布
図Ⅲ－３　北海道における環状列石・周堤墓などの分布
図Ⅲ－４　キウス４遺跡における墓壙群の位置
図Ⅲ－５　キウス４遺跡南側墓壙群（１）
図Ⅲ－６　キウス４遺跡南側墓壙群（２）
図Ⅲ－７　キウス４遺跡南北盛土間墓壙群（１）
図Ⅲ－８　キウス４遺跡南北盛土間墓壙群（２）
図Ⅲ－９　キウス４遺跡北側墓壙群（１）
図Ⅲ－10　キウス４遺跡北側墓壙群（２）
図Ⅲ－11　キウス４遺跡周堤墓周辺墓壙群（１）
図Ⅲ－12　キウス４遺跡周堤墓周辺墓壙群（２）
図Ⅲ－13　キウス４遺跡周堤墓内・外墓壙の規模
図Ⅲ－14　キウス４遺跡墓壙の長軸方向
図Ⅲ－15　キウス４遺跡出土の縄文時代後期後半の土器（１）
図Ⅲ－16　キウス４遺跡出土の縄文時代後期後半の土器（２）
図Ⅲ－17　掲載土器出土遺構・主体層位
図Ⅲ－18　微隆線の土器
図Ⅲ－19　微隆線の土器出土遺跡分布図

図Ⅳ－１　キウス４遺跡　主な遺構群と掲載報告書

表目次

表Ⅰ－1　年度別調査一覧
表Ⅰ－2　キウス４遺跡遺構・遺物集計
表Ⅰ－3　キウス４遺跡年表

表Ⅱ－1　周堤墓一覧
表Ⅱ－2　周堤墓の分類と諸要素の変遷
表Ⅱ－3　建物跡一覧（1）
表Ⅱ－4　建物跡一覧（2）
表Ⅱ－5　建物跡一覧（3）
表Ⅱ－6　建物跡一覧（4）
表Ⅱ－7　盛土遺構一覧
表Ⅱ－8　土器等点数集計表
表Ⅱ－9　石器等点数集計表
表Ⅱ－10　キウス４遺跡樹種同定結果（時期別）
表Ⅱ－11　Ｒ地区低地部出土木製品樹種同定結果（1）
表Ⅱ－12　Ｒ地区低地部出土木製品樹種同定結果（2）
表Ⅱ－13　Ｒ地区盛土焼土出土の動物・植物遺存体一覧（1）
表Ⅱ－14　Ｒ地区盛土焼土出土の動物・植物遺存体一覧（2）
表Ⅱ－15　Ｒ地区盛土焼土出土の動物・植物遺存体一覧（3）
表Ⅱ－16　キウス４遺跡自然科学的分析・鑑定一覧

表Ⅲ－1　北海道における環状列石・周堤墓など
表Ⅲ－2　周堤墓一覧
表Ⅲ－3　出土土器諸要素の変遷

表Ⅳ－1　キウス４遺跡　報告書掲載索引
表Ⅳ－2　キウス４遺跡遺構一覧（1）
表Ⅳ－3　キウス４遺跡遺構一覧（2）
表Ⅳ－4　キウス４遺跡遺構一覧（3）
表Ⅳ－5　キウス４遺跡遺構一覧（4）
表Ⅳ－6　キウス４遺跡遺構一覧（5）
表Ⅳ－7　キウス４遺跡遺構一覧（6）
表Ⅳ－8　キウス４遺跡遺構一覧（7）
表Ⅳ－9　キウス４遺跡遺構一覧（8）
表Ⅳ－10　キウス４遺跡遺構一覧（9）
表Ⅳ－11　キウス４遺跡遺構一覧（10）
表Ⅳ－12　キウス４遺跡遺構一覧（11）
表Ⅳ－13　キウス４遺跡遺構一覧（12）
表Ⅳ－14　キウス４遺跡遺構一覧（13）
表Ⅳ－15　キウス４遺跡遺構一覧（14）
表Ⅳ－16　キウス４遺跡遺構一覧（15）
表Ⅳ－17　キウス４遺跡遺構一覧（16）
表Ⅳ－18　キウス４遺跡遺構一覧（17）
表Ⅳ－19　キウス４遺跡遺構一覧（18）
表Ⅳ－20　キウス４遺跡遺構一覧（19）
表Ⅳ－21　キウス４遺跡遺構一覧（20）
表Ⅳ－22　キウス４遺跡遺構一覧（21）
表Ⅳ－23　キウス４遺跡遺構一覧（22）
表Ⅳ－24　キウス４遺跡遺構一覧（23）
表Ⅳ－25　キウス４遺跡遺構一覧（24）
表Ⅳ－26　キウス４遺跡遺構一覧（25）
表Ⅳ－27　キウス４遺跡遺構一覧（26）
表Ⅳ－28　キウス４遺跡遺構一覧（27）
表Ⅳ－29　キウス４遺跡遺構一覧（28）

写真図版目次

口絵1
1．周堤墓〔Ｘ－17〕
2．周堤墓〔Ｘ－11・13〕
3．周堤墓の遺物〔Ｘ－10〕
4．４体合葬墓〔GP－1008〕
口絵2
1．建物跡・土壙群〔Ｑ地区・Ｒ地区〕
2．建物跡〔Ｑ地区・建物27〕
3．建物跡〔Ｑ地区・建物２〕
4．土壙墓〔Ｑ地区・P－32〕
5．フラスコ状ピット〔Ｉ地区・ILP－３〕
口絵3
1．南側盛土遺構土層断面〔Ｒ地区〕
2．盛土遺構の遺物〔Ｒ地区〕
3．朱漆塗りの弓〔Ｌ地区〕
4．盛土中の焼土〔RMDF－44～50〕
5．焼土に埋設された土器〔RMVF－18〕
口絵4
1．水場遺構〔Ａ１地区〕
2．「Ｖｄ層」木製品出土状況〔Ｒ地区〕
3．縄文時代前期の竪穴住居跡〔Ａ１地区〕
4．縄文時代後期前葉の竪穴状遺構〔Ｇ地区〕
5．河道跡とアイヌ文化期の木製品〔Ａ２地区〕
6．キウス４遺跡近景

Ⅱ章
図版1
1．RLSP-118出土籃胎漆器の塗膜片（表面）
2．同上（裏面）
図版2
1．RLSP-118出土籃胎漆器の塗膜片
2．金属製品（マレク）表面
3．同　裏面

Ⅰ 調査の概要

1．調査要項

事 業 名：北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
受 託 者：財団法人　北海道埋蔵文化財センター
遺 跡 名：キウス４遺跡（北海道教育委員会登載番号Ａ－03－92）
所 在 地：千歳市中央208－16ほか
整理期間：平成14年４月１日～平成15年３月31日（平成14年度）

2．調査体制（平成14年度）

理　事　長　大澤　満（平成14年６月退任）
　　森重楯一（平成14年７月就任）
専務理事　宮崎　勝
常務理事　畑　宏明（第１調査部長兼務）
第２調査部長　西田　茂
第２調査課長　佐川俊一
主　　任　阿部明義

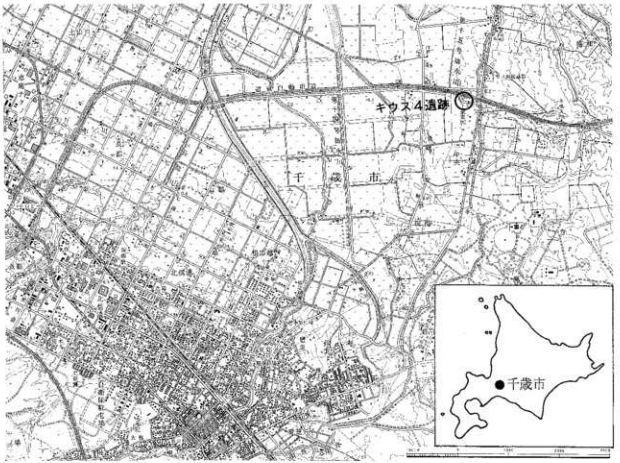
3．発掘調査と整理作業の経緯

昭和62（1987）年に、日本道路公団札幌建設局から北海道教育委員会に北海道横断自動車道（千歳～夕張間）建設について埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。北海道教育委員会は、昭和63（1988）年に千歳－夕張間の全線を対象とした所在確認調査を実施し、平成３（1991）年に範囲確認調査を実施した。この結果、記録保存のための発掘調査を必要とする埋蔵文化財包蔵地20ヵ所が明らかとなり、当センターで実施することとなった。

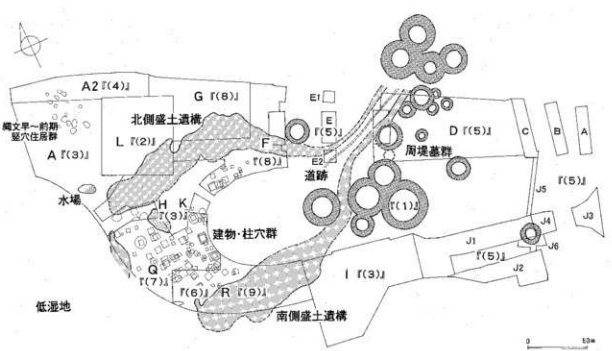
キウス４遺跡は、平成３年度から同８年度にかけて北海道教育委員会による範囲確認調査、平成５年７月および10月に全域の詳細試掘調査（トレンチによる分布調査）が行われた。その結果、周堤墓９基、盛土遺構２ヵ所、住居跡、土壙などが確認され、縄文時代後期の大規模な遺跡であることが判明した。本格的な調査は、平成７年度に自動車道の橋台・橋脚部分６ヵ所（Ａ～Ｆ地区）の2,429㎡について発掘調査を行ったのが最初である。平成８年度は、自動車道本線西側インターボックス部分（Ｌ地区）の調査3,930㎡を行い、平成９年度は２課体制で大規模に展開し、本線およびインターチェンジ部分（Ａ・Ｄ・Ｅ１・Ｅ２・Ｆ・Ｈ・Ｉ・Ｋ地区）20,970㎡の調査を行った。平成10年度は３課体制でＡ２・Ｇ・Ｊ・Ｑ・Ｒ地区18,940㎡の調査を実施した（図Ⅰ－２・表Ⅰ－１）。

整理作業は各年度の冬季に行われ、平成８年以降は夏季の現地発掘作業とも併行した。発掘調査は平成10年に終了したが、平成11年度に土壌水洗・フローテーション作業を千歳市で行った。平成11年度の冬季から平成14年度は整理作業のみが続けられた。報告書は、平成８年度に北埋調報119『キウス４遺跡』の刊行を初めとして、平成14年度までに当報告書を含め10冊を刊行した。

なお調査の経緯については、『キウス４遺跡（８）』ｐ２～５などに詳しいので参照されたい。



図Ⅰ－１　遺跡の位置



図Ⅰ－２　主な遺構群と掲載報告書

・『(2)』・『(3)』……は『キウス４遺跡（2）』・『キウス４遺跡（3）』……をさす。
なお『(1)』とは、北埋調報119集『キウス４遺跡』をさす。

表Ⅰ－1　年度別調査一覧

	調査面積(㎡)	H 5 (1993)	H 7 (1995)	H 8 (1996)	H 9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)
全域	3,380			『(1)』						
A～F (橋脚部)	2,429						『(5)』			
A 1	4,750					『(3)』				
A 2	2,230					『(4)』				
D	6,140						『(5)』			
E1・E2	220						『(5)』			
F	3,620							『(8)』		
G	3,690							『(8)』		
H	640					『(3)』				
I	5,400					『(3)』				
J (1～6)	4,860						『(5)』			
K	200					『(3)』				
L	3,930				『(2)』					
Q	3,920							『(7)』		
R	4,240						『(6)』 土壌水洗			『(9)』

発掘調査　　整理作業　　『(　)』報告書番号

表Ⅰ－2　キウス４遺跡遺構・遺物集計

報告書	地区	調査面積(㎡)	調査年(現地)	遺構						遺物			
				周堤墓	竪穴住居	建物跡	土壙・柱穴等	焼土	その他	土器等	石器等	木製品等	その他
『(1)』	(全域)	3,380	H 5	7		1	(多数)	(多数)		19,108	881		自然遺物
『(2)』	L	3,930	H 8		1		3	715	北側盛土	346,733	58,317	37	朱塗り弓他
『(3)』	A 1	4,750	H 9		17		258	61	水場・盛土	152,196	34,573	2	自然遺物他
	H	640				5	878	23	盛土	33,708	8,081	1	自然遺物
	K	200				2	236	3		10,956	895		
	I	5,400					29	1,535	南側盛土	39,275	25,447		磁器・鉄
『(4)』	A 2	2,230	H10		5		139	65		13,563	7,843	690	自然遺物他
『(5)』	A・B・C・D・E・E1 E2・J1～6	13,285	H 7・9・10	13	1	1	54	471	直線状盛土・道跡・T ピット・炭窯	18,036	7,979		鉄製品・古銭　他
『(6)』	R	4,240	H10		2	127	1,488	248		4,948	1,118	1	自然遺物
『(7)』	Q	3,920	H10		3	110	3,897	52	溝・盛土	105,921	28,130		自然遺物
『(8)』	F・G	7,674	H 7・9・10			21	1,147	2,227	北側盛土	987,450	164,148		自然遺物他
『(9)』	R	(4,240)	H10 (・11)					321	南側盛土	3,205,786	600,827	243	自然遺物多量
合　計		49,649		20	29	267	8,129	5,721		4,937,680	938,239	974	

・報告書－『(2)』・『(3)』……は『キウス４遺跡（2）』・『キウス４遺跡（3）』……をさす。
　なお『(1)』とは、北埋調報119集『キウス４遺跡』をさす。
・調査面積－『(1)』は全域のトレンチ調査のため重複する部分がある。『（6）』『（9）』は同地区。
・調査年度－『(9)』のH11は遺物・土壌水洗。
・遺物－『(9)』の集計はフローテーションで得られた小片を含んでいないため、実際には表記以上になる。
・土壙・柱穴－土壙墓・土壙・大型柱穴・柱穴などの区別が困難なものがあるため、合計した数値を掲載した。
　なお、建物跡や竪穴住居跡を構成する柱穴は含まれていない。

４．遺跡と調査結果の概要

キウス４遺跡は千歳市街地から北東約８km、馬追丘陵の西側緩斜面、標高４～19mに位置している（図Ⅰ－１）。縄文時代後期後葉を主体とし、北東約300mにはほぼ同時期の国指定史跡「キウス周堤墓群」がある。遺跡の構造は、周堤墓群のある東部の丘陵側、建物跡・土壙・柱穴群のある西部の緩斜面端部、水場遺構や河道際の杭列のある西～南部の低地側に大きく分けられ、さらに建物跡・土壙・柱穴群をとり囲むように盛土遺構が形成されている。また、低地側には縄文時代早～前期の竪穴住居群がある（図Ⅰ－２）。総遺物点数は約600万点で、土器等約500万点、石器等約100万点、木製品・その他約1000点に達している。大部分は縄文時代後期後半に属するものである（表Ⅰ－２）。

調査の成果や課題として、主に次の事項が挙げられる。

- **縄文時代後期後葉のキウスにおいて周堤墓を含む集落構造が明らかとなった。その構造や遺物内容から、建物跡群などの構造物の多くは周堤墓を築いた人々と直接関係があると思われる。**
- 国指定史跡キウス周堤墓群を含め、周堤墓の変遷を推定する資料が得られた。構造や遺物内容から、住居跡の規模に近い小型の周堤墓から徐々に大型化する傾向が把握できた。またキウス４遺跡の周堤墓は、道内の周堤墓の中でも初現的なものであることが推定できた。
- 縄文時代後期後葉の建物跡群が検出された。掘り込みは確認できなかった。出入口ピットをもち主柱穴・壁柱穴を備える住居とみられるものや、大型の４本柱で構成される高床の倉庫などが想定できるもののほか、その中間的な構造をもつ建物跡が多く、多様な構造がみられる。また、建物の配列が一時期整っていた可能性がある。
- 周堤墓外からも土壙墓とみられる遺構が多数検出された（フラスコ状ピットを含む）。これらの遺構と周堤墓との関係については不明な点が多いが、場所によってある程度の形態的特徴がみられる（当報告書Ⅲ章－２）。
- 盛土遺構の構造が明らかとなった。住居等の造成・建築の際に土地を削平するなどして排出された土に多量の生活用具や食物残渣を含ませている。盛土上面が生活の場・儀礼の場として利用されたものと思われる。
- 水資源利用の様子がうかがえる小規模な遺構が検出された。
- 縄文時代後期後半を主体に、大量の土器・石器等が出土した。特に縄文時代後期後葉の堂林式土器が多量に出土し、同型式の前後を含めた土器編年の見直しを行うことができた（『キウス４遺跡（８）』ｐ408～412、当報告書Ⅲ章－３ほか）。
- 細やかな加工技術をうかがわせる木製品や土製品・石製品、朱漆塗りの製品が多数出土した。

- 縄文時代後期前半までは小規模ながら活動の跡が見られ、後期後半で集落が営まれる。そして後期末以降ほとんど活動の跡がなくなる。集落廃絶の原因と過程が課題の一つである。

表Ⅰ－3　キウス４遺跡年表

時期		キウス４遺跡の状況	遺構	遺物	備考
旧石器時代		わずかに遺物が出土する。 （A２・D・J地区）		細石刃・掻器・剥片	
縄文時代	早期	前半は活動の跡が少ない。 後半は北西部の低地側に住居群・土壙が形成される。また東部の台地側に東釧路Ⅳ式が多数出土。特に遺跡南東部（J・I地区）で小型の焼土が多数形成される。	竪穴住居跡〔A１・２地区〕・土壙 焼土	土器約38,000点・石器～石刃鏃・石鏃なども出土。	
	前期	引き続き北西部の低地側にやや大型の竪穴住居が形成される。遺跡西～南では徐々に湿潤化していく。	竪穴住居跡〔A１・２地区〕・土壙 焼土	土器約17,000点・石器等・垂飾などの石製品。 木製品 564 点 〔A２地区〕	西～南部で河川大規模氾濫
	中期	前半は活動の跡少ない。 後半は小規模ながら北部から中央部にかけて遺構が散在する。	竪穴住居跡〔Q・R地区および北部〕 石斧集中〔A１地区〕	土器約1,500点・石器等	
	後期前半	初頭にやや活動の跡が見られる。タプコプ式と入江式土器が共伴する土壙がある。	竪穴住居跡・土壙〔Q地区〕焼土 竪穴状遺構〔G地区〕	土器約8、000点・石器等	
	後期後半	縄文前期の新しい段階から集落形成が本格化する様子がうかがえる。水場の利用が行われる。土地の削平・整地が行われ、まず低地側に排土している（「Vd層」ほか）。住居や建物の建築が始まる。このころ周堤墓が形成され始める。また、南北の盛土遺構が形成され始める。 堂林式期に住居や建物の建築が本格化する。やや大型の周堤墓が造成される。盛土遺構がさらに厚く堆積される。 「三ツ谷式」併行の段階で建物や盛土の形成が衰退する。 遺跡の北東側の周堤墓は堂林式期の新しい段階から形成され始めると推定される。	周堤墓20基 直線状盛土 道跡 建物跡266軒 土壙 盛土遺構 焼土 水場遺構 杭列	土器約4,800,000点・土製品約8,000点 石器約900,000点 石製品約1,000点 木製品 247点 漆器 骨片多量	
	晩期	活動の跡が少ない。		土器約200点・石器等	Ta－c降下 （約2300年前）
続縄文時代		遺跡北西部および北東部の限られた範囲でわずかに活動の跡が確認できる。		土器約300点 （後北C$_1$・C$_2$－D）・石器等	
擦文文化		遺跡中央北部付近で土器が出土する。 （D・H・L地区）		土器約100点	
アイヌ文化		遺跡西部および東部の限られた範囲でわずかに活動の跡が確認できる。	掘立柱建物跡１軒〔J２地区〕 杭列〔A２・L地区〕 集石１ヵ所〔L地区〕	木製品163点 鉄製品（マレクほか） 古銭２点（寛永通宝）	Ta－a降下 （1739 年）
近代		大正期に開墾か	炭窯〔D地区〕	陶磁器、鉄製品ほか	

Ⅱ　キウス４遺跡の遺構と遺物

１．縄文時代後期中葉末～後葉の遺構

（１）周堤墓

キウス４遺跡の周堤墓は、まず昭和63（1988）年の所在確認調査でX-a・b・c・d、平成５年の範囲確認調査によってX－１～９（X－８・９は後の調査で直線状盛土の一部とわかり欠番とした）が確認された。平成７・９年に新たにX－10～16・α、翌10年に遺跡南東部でX－17を確認した。以上合計20基を確認し、その内16基を発掘調査した。調査結果の概要は表Ⅱ－１に一覧として記載し、特に合葬墓のある周堤墓（X－10）や副葬品のある墓壙をもつ周堤墓（X－17）を図Ⅱ－２・３に例示した。周堤墓部分の詳細な調査内容・考察は以下の報告書にまとめられている。

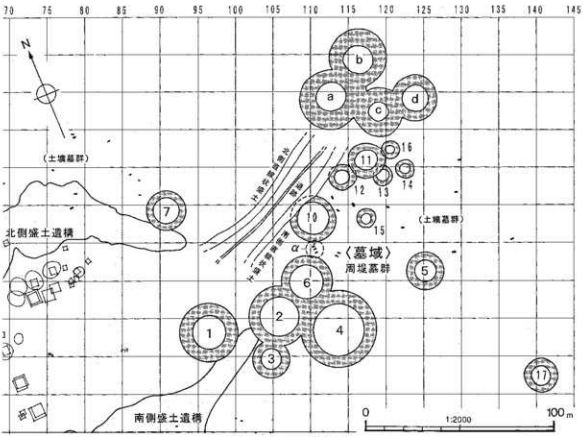
①北埋調報119集『キウス４遺跡』p.25～47

②北埋調報144集『キウス４遺跡（５）』p.37～111（記載）・p.228～260（考察）

特に②は、周堤墓の研究史・分布・キウス４遺跡の周堤墓の新旧関係および変遷などについて言及している。報告書以外で発表されたものとして、主に以下の文献がある。

③高橋和樹・藤原秀樹1999「北海道的墓制の成立　―周堤墓から御殿山系墓―」
『日本考古学協会1999年度釧路大会研究発表要旨』

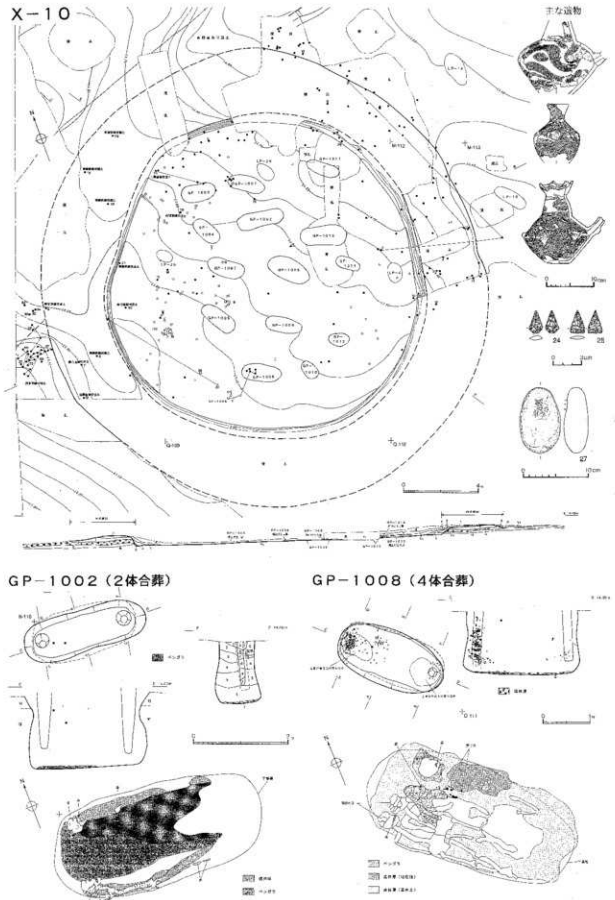
④藤原秀樹1999「道央部における縄文後期の墓制について　―周堤墓を中心として―」
『南北海道考古学情報交換会第20回記念シンポジウム発表要旨』



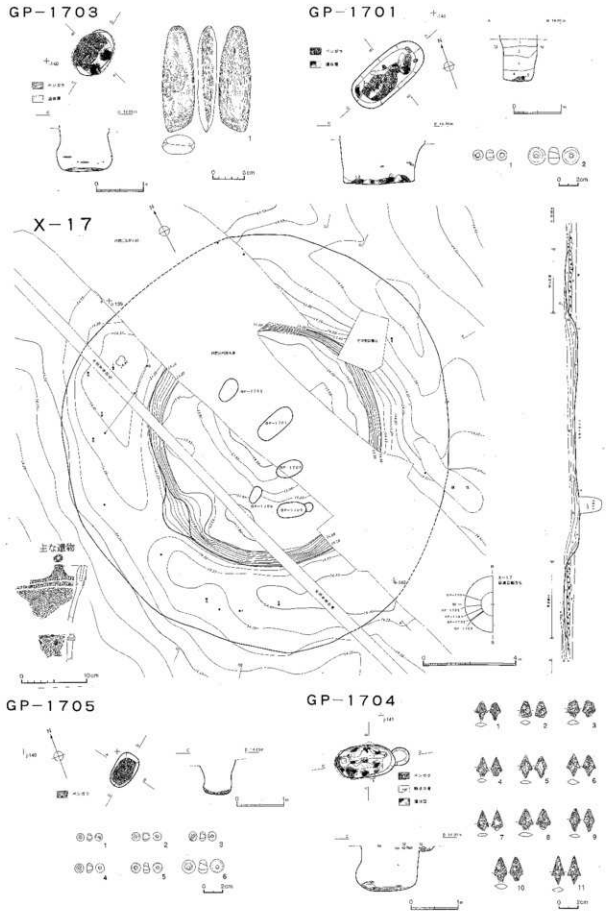
図Ⅱ－１　周堤墓位置

表Ⅱ－１　周堤墓一覧

	遺構	内容
H５部分調査『キウス４遺跡』	Ｘ－１	【規模】（外）32m・（内）19m・（比高差）0.5m　【遺物】Ⅳc土器、搬入土器、オロシガネ伏石製品 ※竪穴中央部にマウンドあり
	墓壙ＸＰ－１	壙底にベンガラ敷き。 覆土上位に立石あり。 墓標痕？あり。
	Ｘ－２	【規模】（外）31m・（内）19m・（比高差）0.7m　【遺物】Ⅳc土器
	Ｘ－３	【規模】（外）19m・（内）10m・（比高差）0.6m　【遺物】Ⅳc土器、 砥石
	Ｘ－４	【規模】（外）41m・（内）27m・（比高差）0.6m　【遺物】Ⅳc土器、スクレイパー ※遺跡内最大。 竪穴中央部および北部にマウンドあり ※中央マウンドに立石あり
	墓壙ＸＰ－１～９	（未調査）中央マウンドに２基、北側に４基、南側に３基
	Ｘ－５	【規模】（外）20m・（内）14m・（比高差）0.6m
	Ｘ－６	【規模】（外）28m・（内）17m・（比高差）0.6m　【遺物】Ⅳc土器（注口、 鉢）
	Ｘ－７	【規模】（外）20m・（内）13m・（比高差）0.5m　【遺物】Ⅳc土器
H７・９・10調査『キウス４遺跡（５）』	Ｘ－10	【規模】（外）23.4m・（内）16.6m・（比高差）0.6m　【主な遺物】Ⅳc土器、石鏃、たたき石 ※竪穴北東部にマウンドあり
	墓壙ＧＰ－1001～1014	【遺体】４体合葬（1008）、２体合葬（1002）、１体（1009・1010・1013）、その他痕跡あるものあり
		【埋葬形態】側臥伸展葬４（1002・1008・1009・1013）とみられる。※頭位は西、顔は北向きが多い。屈葬３（1010～1012）とみられる。
		【壙底ベンガラ敷き】６基（1002・1005・1007～1009・1013）　※1013は覆土にもベンガラあり
		【墓標の痕跡】両端　６基（1002・1005・1007～1009・1013）、一端　２基（1012・1014）、 ※墓標痕にベンガラ塗り　３基（1008・1009・1013）
		【主な遺物】朱漆塗りの櫛（1006）、Ⅳ群ｃ類小型鉢形土器（1006）、礫（1001）、炭化物（1008～1014）
	Ｘ－11	【規模】（外）20.5m・（内）12.6m・（比高差）0.5m　【主な遺物】Ⅳc（古段階）土器、石鏃、たたき石、砥石 ※竪穴中央部にマウンドあり
	墓壙ＧＰ－1101	中央マウンド上。西端に墓標痕あり。両端外側に付属ピットあり。
	Ｘ－12	【規模】（外）13.9m・（内）8.6m・（比高差）0.4m　【主な遺物】Ⅳc（古段階）土器、搬入土器片
	墓壙ＧＰ－1201・1202	【埋葬形態】伸展葬（1201）、屈葬（1202）とみられる。　※両者が並存する周堤墓
		【主な遺物】Ⅳc（古段階）土器
	Ｘ－13	【規模】（外）11.5m・（内）6.9m・（比高差）0.2m　【主な遺物】Ⅳc土器、砥石
	墓壙ＧＰ－1301	【遺体】人骨片・臼歯５本あり。【埋葬形態】伸展葬と見られる。【主な遺物】石鏃
	Ｘ－14	【規模】（外）10.1m・（内）６m・（比高差）0.1m　【主な遺物】Ⅳc（古段階）土器
	墓壙ＧＰ－1401	【埋葬形態】屈葬とみられる。
	Ｘ－15	【規模】（外）10.8m・（内）6.0m・（比高差）0.1m　【主な遺物】石槍またはナイフ、石斧
	墓壙ＧＰ－1501～1503	【遺体】１体（1503）　【埋葬形態】伸展葬とみられる。
		【墓標の痕跡】両端　１基（1503）、一端　１基（1501）
		【主な遺物】朱漆の塗膜（1503）
	Ｘ－16	【規模】（外）8.5m・（内）5.5m　【主な遺物】Ⅳc（古段階）土器
	Ｘ－17	【規模】（外）17.8m・（内）9.4m・（比高差）0.6m　【主な遺物】Ⅳc（古段階）土器 ※竪穴中央部にマウンドあり（径約５m、比高差0.2m）
	墓壙ＧＰ－1701～1705	【遺体】糊状の骨　１体（1703）、痕跡　３（1701・1702・1704）※未成年者か（1705）
		【埋葬形態】伸展葬１（1701）、屈葬２（1702・1704）、座葬？１（1703）
		【壙底ベンガラ敷き】５基すべて
		【主な遺物】（1701）ヒスイ玉６個、（1703）石斧、（1704）石鏃11、壙口に礫、（1705）ヒスイ玉２個
	Ｘ－α	【規模】　（外）－・（内）11.5m
	墓壙ＬＰ－７・８・11・12	【遺体】糊状の骨　２体（７・12）【埋葬形態】伸展葬とみられる
		【主な遺物】Ⅳc土器、石鏃（８）、炭化物（７・８・11・12）
未調査	Ｘ－a	【規模】（外）28.5m・（内）16.5m・（比高差）0.4m
	Ｘ－b	【規模】（外）33.8m・（内）17.9m・（比高差）0.3m
	Ｘ－c	【規模】（外）27.5m・（内）10.0m・（比高差）0.3m
	Ｘ－d	【規模】（外）25.0m・（内）16.0m・（比高差）0.4m



図Ⅱ－２　合葬墓のある周堤墓〔X－10〕



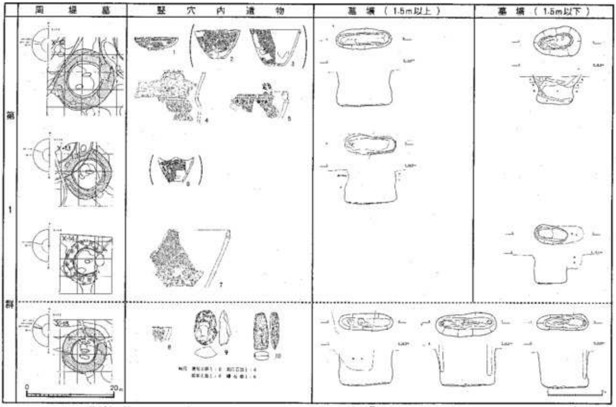
図Ⅱ－３　副葬品のある周堤墓例〔X－17〕

表Ⅱ－２　周堤墓の分類と諸要素の変遷

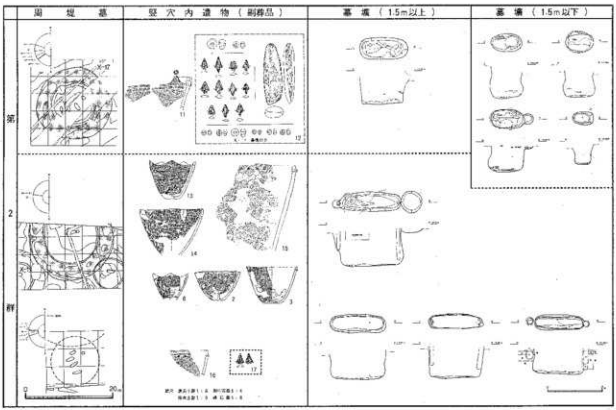
分類		周堤墓	規模	周堤	[illegible]	マウンド	竪穴内遺物 (または器など)	墓壙数	規模・形状 幅／長	長さ	形状	墓標 木柱	立石	他	ベンガラ	副葬品	埋め方	長軸方向	重複で判明する構築順序
1群	a類	X-12, 13, 14 (X-16?)	10~14(8~8.6 /(0~0.1~0.24	不明瞭	なし	なし	X-12台付鉢	1~2	0.22~0.41	100~110	丸・丸の一方が直	なし			なし	なし	規制なし	各周堤墓を揃えそろう	X-12·13 ↓
	b類	X-15 (X-47)	10×6 /0.1~0.1	不明瞭	なし	なし	なし	3	0.18~0.22	105~151	長	2/3 墓口内			なし	1/3 漆製品	埋め順序に対応		(X-15) ↓
2群		X-3, 5, 7, 11 17, 6	20前後10~14 /0.2~0.3~0.5	明瞭	やや明瞭	X-7 あり X-11あり	X-11鉢	1~5	0.25(X-11) 0.33~0.75 (X-17)	200 57~159	長(X-11) 丸(X-17)	あり なし		1/3	なし あり 2墓散布	なし 4/5 玉 石斧、石鏃	盛土上部やや固い 規制なし	ややふれる	X-11 時間差なし 12号
3群	a類	X-6, 10, 8, 4 12号	21~35×15~17 /0.5~0.6	明瞭	あり	X-10あり 付口あり	X-10鉢、注口壺 X-鉢	14	0.31~0.59	100~229	長・丸直	9/14 墓口内		1/14	半数あり	2/14 漆製品、弓	盛土上部突き固め	ややふれる	X-10
	b類	X-1, 2, 8 1号	31~37×16~20 /0.7~2.0	明瞭	あり	X-1 あり 1号 あり	18 深鉢 注口、壺 石鏃	5~	0.40~1.00	85~200	丸	1/03 墓口外	2/0 墓口内	1/0	あり	なし？	盛土上部突き固め (粘土)	大きくふれる	1号
4群		X-4 3, 5, 6, 7 11号	41~50×22~30 /0.9~1.3	顕在	あり	X-4 あり (2段)	X-4 ストーン	1~6~				あり？墓壙外	あり 墓壙外	あり？	なし	なし？	盛土上部突き固め		11号 ↓ 3号 5号
5群		2・4号	75×32~45 /2.4~5.4	顕在	あり		28 土偶 石鏃、石皿	1~	0.69	108	丸	1/1 墓口外		1/1	あり	1/1 石皿			4号 2号

主な要素の変遷

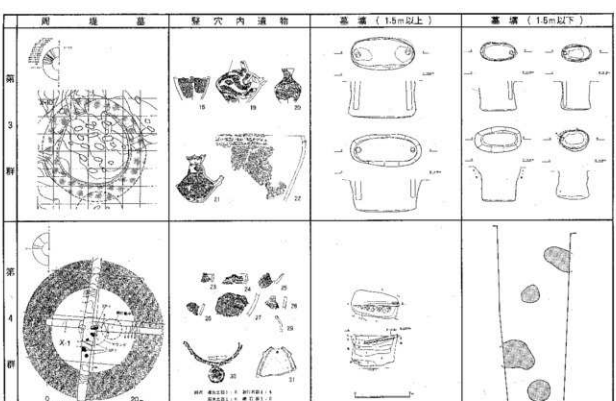
分類	規模	周堤	[illegible]	マウンド	竪穴内遺物	墓壙数	規模・形状	木柱	立石	他	ベンガラ	副葬品	埋め方	長軸方向
主に1・2群	小 浅い	不明瞭	なし ↓ やや明瞭	なし ↓ あり	なし あってもまれ ↓ 鉢	1~2 ↓ 5前後	丸 長が長もしくは一方のみ ↓ 長く・鋭いと丸みあり 周堤墓間で異なる	なし ↓ 長い墓壙の内にあり	なし	なし ↓ あり	なし ↓ 2墓散布	なし ↓ 玉・石斧・石鏃・漆器	規制なし ↓ 規制あり	そろう ↓ 出入口向きややそろう
主に3群	↓	明瞭	あり	あり	鉢・注口・壺	10以上	丸・長が長 ↓ 丸みが強く	丸い墓壙でも内にあり ↓ あり？墓壙外	なし ↓ あり 墓壙外	あり	半数あり	漆・弓	上部を固める	ふれる ↓ 大きくふれる
主に4・5群	大 深い	顕在	あり	複数	石器ら		丸みが強く	あり？墓壙外	あり	あり	ない墓壙が多く	石皿	上部を固める	
主な特徴・変遷	※次第に大きく、深く			※当初から存在か	※多量化 多様化	※規模に比例※多くはない	※一時期を除いて次第に丸みを帯びる傾向	※次第に墓壙外へ移動？ ※立石は徐々に出現 ※立石は他遺跡と比べ少ない			※一時増加するも次第に減少	※次第に多様多様？ ※周堤墓間格差大	※規制は次第に強化	※次第にふれだす



図Ⅱ－４　キウス４遺跡周堤墓の分類（１）



図Ⅱ－５　キウス４遺跡周堤墓の分類（２）



図Ⅱ－６　キウス４遺跡周堤墓の分類（３）

これらの調査結果から、キウス４遺跡の周堤墓の特徴は以下のように挙げられる。

周堤墓の主な特徴

・比較的小型のものが多い
・竪穴が浅く、周堤がほとんど確認できないものが多い
・周堤部分の重複が多い……特にＸ－11周辺の小型の周堤墓に多い
・竪穴内にマウンドをもつものがあるが、あるものとないものの差があり、中央以外に位置するものもある
・竪穴内の墓壙数が周堤墓により大きな差がある（１～14基）
・竪穴内、特に墓壙付近に遺物が少ない（ただしＸ－10など完形に近い注口土器が出土する周堤墓もある）

周堤墓内の墓壙の主な特徴

・形態・規模から、伸展葬および屈葬の両者の埋葬姿勢をもつ墓壙がある
・検出された人骨あるいはその痕跡は、頭位が西～北西で顔が北を向くものが多い
・壙底にベンガラを撒くものが多い
・長軸方向の両端あるいは一端に木柱痕のみられる土壙墓がある
・複数の遺体が合葬されている土壙墓がある（４体－GP-1008、２体－GP-1002）
・副葬品が極めて少ない（Ｘ－17の墓壙にはヒスイ玉などの副葬品がある）

以上の点から、主に文献②・④において次のように考察された。

周堤墓の規模、周堤部の重なりや出土遺物から周堤墓を１群～４群に分け、１群→４群へと変化し、小型の周堤墓から大型の周堤墓へと規模が拡大する傾向を指摘した（図Ⅱ－４～６・表Ⅱ－２）。規模拡大に付随する変化として、竪穴内遺物の顕在化、墓壙平面形の円形化、墓標のある墓壙の増加と石柱の出現、墓標位置の移動などが挙げられる。なお、国指定史跡キウス周堤墓群にもこの分類を当てはめ、３群・４群、そしてさらに大型の周堤墓の５群を設定し相当させ、キウス４遺跡から大型化してキウス周堤墓群に周堤墓が移行する過程を表している。

また周堤墓の成立に関しては、住居跡に注意している。キウス４遺跡の縄文時代後期後半の住居跡は、円形で掘り込みがほとんどなく、出入り口の施設をもち、規模が小型の周堤墓と類似している。このことから、住居跡をモデルとして周堤墓が形成されたとしている。このように初現的な姿が存在することから、周堤墓はキウス４遺跡を含めた石狩低地帯南部において成立し、堂林式土器の分布域に拡散していった、としている。

被葬者層を推定することは困難であるが、周堤墓内での埋葬位置について着目している。マウンド上の墓壙、中央墓壙、その周囲の墓壙について検討しているが、規模や副葬品などの点から差が不明瞭である。Ｘ－10にみられるように墓壙数が増加する中で被葬者層に変化が生じ、墓壙の配列に規制が生じ、周堤墓が大型化する一つの要因になっているものと考えられた。

さらに道央部における後期の墓制全体に言及している。縄文時代後期「中葉末から北海道への在地性を強めた集団が個人墓としての周堤墓を造築」し、大型化していく。周堤墓以外にも多様な墓制が並存し、「地域集団による独自性」が顕著に現れてくる時期であると結論づけた。

（２）建物跡・土壙・柱穴群

キウス４遺跡では、大小さまざまな柱穴状ピット・土壙が検出され、総数は約10,000基にのぼる。このうち縄文時代後期に属するものは約9,000基である。特に遺跡西部の台地上に密集しており、重複しているものも多い（図Ⅱ－７）。これらの「穴」には、建物を構成する柱穴状ピット・フラスコ状ピット・土壙墓と判断される楕円形の土壙、用途不明の土壙、杭列、溝などが含まれている。

１）建物跡

建物跡は266軒検出された。上記密集域において、現地調査中に建物跡（住居跡を含む）と判断でき１軒として調査したものもあるが、多くは柱穴状ピットを単独の遺構として調査を行い調査終了後に図上復元したものである。「建物跡」には、大きくは２種類の構造がみられ、一つは住居跡もしくは同様の上部構造をもつもの、もう一つは高床の倉庫などが想定される、４本柱の掘立柱建物である。検出状況からこれらを明確に区別することが困難であるものが多く、すべて「建物跡」と称している。

なお上記遺構数のうち、建物跡を構成する柱穴は約2,000基である。

建物跡の考察は、以下の報告書に掲載されている。

- 『キウス４遺跡（６）』ｐ.359～369……主に覆土の違いによる分類
- 『キウス４遺跡（７）』第２ｐ.359～373……主に規模による分類・配置
- 『キウス４遺跡（８）』第１ｐ.371～384……主に構造と配置・出入り口付き住居の集成

構造　縄文時代後期後半の住居跡とみられる遺構は、以下の施設をもつものが基本である。

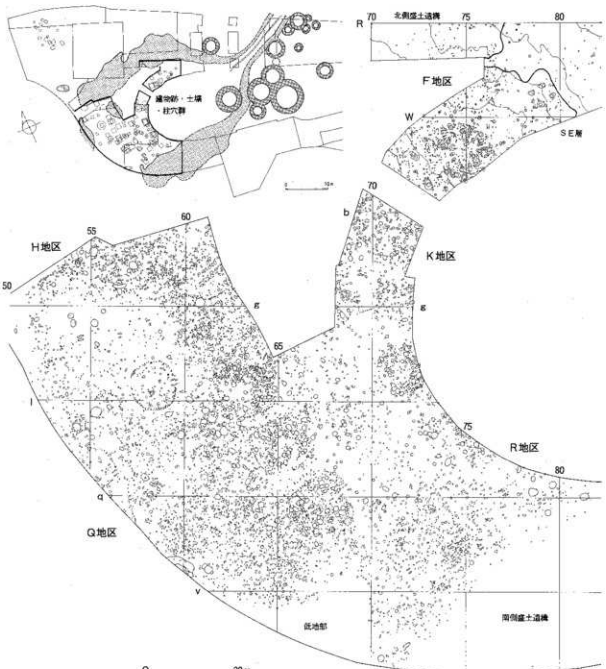
- 掘り込み……浅いか全く確認できない（掘り込みのあるものはＱ地区建物４とＬ地区Ｈ－１のみ）
- 主柱穴……やや大型で深い柱穴４基が方形に配される
- 壁柱穴……主柱穴の周囲を小型の柱穴が短い間隔で多数めぐる
- 炉……住居跡の中央もしくは出入り口に近い位置にある
- 出入り口ピット……壁側にハの字状に開く楕円形ピットが２基ある

以上は典型的な構造であり、いずれかの付属施設を欠いた状態で検出されたものも多い。検出状態での分類を図Ⅱ－９に示した。Ａ－１がもっとも基本的な形態であり、15軒確認できた。またＡ－１で炉を欠いたＡ－２が31軒確認された。以下、壁柱穴が検出されなかったもの（Ｃ・Ｄ）、出入り口ピットが検出されなかったもの（Ｂ・Ｄ）があり、その中で炉や主柱穴が確認されなかったものを分類している。それぞれ炉や浅い柱穴が削平を受けて消滅したものが多いと思われる。また主柱穴や壁柱穴の一部のみ検出された建物跡もこの分類に当てはめている。

これらの事情を考慮すると、壁柱穴・出入り口ピット・炉のいずれかが存在するものは、住居跡もしくは同様の上部構造をもつ建物跡と推測できる（Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ－１、計124軒）。ただしこれらの中、特にＢ－２には、建物を建造する際の支えなどの補助的な柱が壁柱穴として含まれている場合があり、住居とは性格の異なるものが含まれている可能性がある。

一方、これらの付属施設が検出されず主柱穴のみが検出された建物跡（Ｄ－２、141軒）の中に、住居とは性格を異にする４本柱の掘立建柱建物跡が含まれていると思われる。主柱穴間距離と柱穴の確認面からの深さをもとに改めて分類を試みた。このうち深さが0.8mを超える柱穴があるＤ－２ａ・ｂ・ｃの「深」にあたる21軒は、高床もありうる４本柱の掘立柱建物跡と考えられる。逆に規模が小さく柱穴の浅いＤ－２ｃの37軒は、小規模な４本柱の掘立柱建物跡である可能性もあるが、壁柱穴や出入り口ピットが削平により消滅した住居跡であることが考えられる。その他の建物跡は、柱穴の短径長や深さなどを検討して推定されるものであるが、その区別は困難である。

配列　『キウス４遺跡（７）』第２ｐ.373・『（８）』第１ｐ.383・384にまとめられている。図Ⅱ－８に建物の配置を主柱穴のみの構成で掲載した（『（８）』）。建物の配置には粗密が認められ、一定の規則性がみられるものがある。ただし、当時の整地行為や近現代の深度耕作によって削平されている部分が多い点に注意が必要である。図上のメッシュは30m×15mで、建物の方位とほぼ等しいN－９°－Wに設定してある。この交点上に柱穴間距離５m以上で主柱穴の直径が１mを超える建物が多い。柱穴の重複が目立ち、同じ場所で何度も建てかえを繰り返している。これらの大型柱穴により構成される建物跡は、配列に強い規制が認められる。また、東西30mのラインの中間にもやや不規則ながら建物が列をなしているように見える。西側では壁柱穴が円形にめぐり炉や出入り口ピットを備える、住居跡とみられる建物跡が列をなしている。緩やかな規制ながらも配列に規則性が見られる。

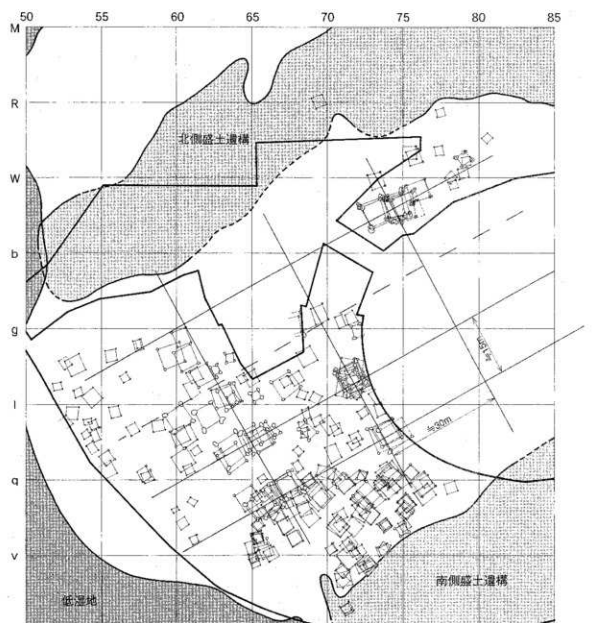


図Ⅱ－７　土壙・柱穴状ピット分布図

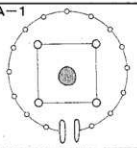
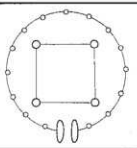
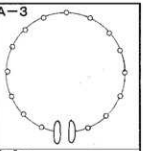
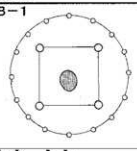
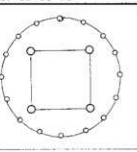
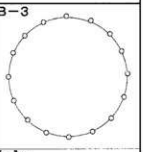
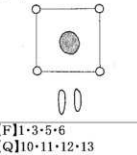
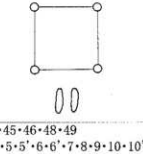
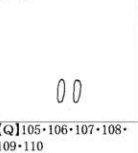
一方、北側盛土付近や南側盛土遺構に近い部分では、柱穴が多く検出されたものの建物跡の図上復元が困難なところが多かった（H地区・R地区）。そのような中で構成された建物跡は方位や配列が不規則であり、上記の大型柱穴による建物の配列とは別に、集落の縁辺部として盛土遺構付近に配置されていた可能性がある。

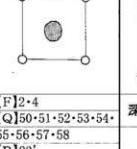
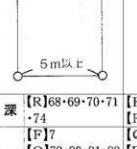
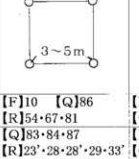
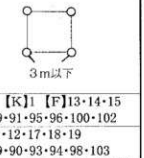
建物跡の主体時期は縄文時代後期後半で、周堤墓や盛土遺構が営まれていた時期にあたるものの、盛土遺構の下から検出されたものなど一部に早くから営まれていたものがあったと見られる。また、250軒以上の建物のうち、同時にどのくらいの建物が存在したかは不明である。しかし建物の配列に強い規制がみられることから、少なくとも列をなして存在していた時期があるものと思われる。

以上のことから、南北の盛土の間には大型の柱で構成される建物が規則的に配置され、その周囲や盛土遺構に近い縁辺部に小型の建物が分布するという景観をなしていた時期があったようである。



図Ⅱ－８　建物の配列

A 壁柱穴あり 出入り口ピットあり	A－1  【H】1・2　【K】9 【Q】1・2・3・4・5・6・7・8・9・14・42 H5H－1	A－2  【F】8 【Q】15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・47・63・65・75	A－3  【F】20 【Q】78
B 壁柱穴あり 出入り口ピットなし	B－1  【H】4　【K】1 【Q】41・59・60	B－2  【H】3 【Q】61・62・64・66・67・68・69・70・71・72・73・74・76・77・85・88	B－3  【F】21
C 壁柱穴なし 出入り口ピットあり	C－1  【F】1・3・5・6 【Q】10・11・12・13 【R】1・2・7'	C－2  【Q】43・44・45・46・48・49 【R】3・4・4'・5・5'・6・6'・7・8・9・10・10'・11・12・14・15・16・17	C－3  【Q】105・106・107・108・109・110

D 壁柱穴なし 出入り口ピットなし	D－1	D－2a	D－2b	D－2c
				
深	【F】2・4 【Q】50・51・52・53・54・55・56・57・58 【R】23'	【R】68・69・70・71・74	【F】10　【Q】86 【R】54・67・81	【H】1　【K】1　【F】13・14・15 【Q】89・91・95・96・100・102
中	【F】7 【Q】79・80・81・82 【R】41・73・73'・75	【Q】83・84・87 【R】23'・28・28'・29・33'・40・40'・45・45'・47・61・82・89・90・93・94	【F】11・12・17・18・19 【Q】89・90・93・94・98・103 【R】32・42・42'・43・43'・46・46'・51・51'・53・53'・64・65・80・91・97
浅	【R】34・34'	【R】19・23・26・30・33・48・49・49'・50・52・52'・55・56・57・57'・58・72'・76・82'・83・83'・88・90・92・95・96	【Q】92・97・99・101・104 【R】18・20・21・22・24・25・26・27・31・35・36・37・38・38'・39・39'・44・59・59'・60・62・63・66・77・78・79・84・85・86・87・98・99

【 】地区名

深　柱穴深さ0.8m以上
中　柱穴深さ0.5～0.8m
浅　柱穴深さ0.5m以下

図Ⅱ－９　建物跡の分類

表Ⅱ－３　建物跡一覧（1）

報告書番号	地区	遺構名	発掘区	主柱穴	壁柱穴	出入口ピット	主柱穴間距離(m) 東－西	主柱穴間距離(m) 南－北	分類	備考
1		H-1	K-58						A－1	
2	L	H-1	T-63						－	
3	H	HL.H-1	e-59			HLP9,10,19,20			A－1	
3	H	HL.H-2	e-57			HLP136,207,214			A－1	
3	H	HL.H-3	e-56						B－2	
3	H	HL.H-4	f-52						B－1	
3	H	大型柱穴列	e-61	HLP410,412,522,537			2.35	2.37	D－2 c	
3	K	KLH-1	d-71						B－1	
3	K	大型柱穴列	d-69	KLP1,2,5,8			2.43	2.57	D－2 c	
5	D	LH-1	T-107							
6	R	建物跡1	y-71	1374,1376,1081,1086		1071,1072,1073	2.16	1.95	C－1	
6	R	建物跡2	y-71	1079,1082,1373,1375		1071,1072,1073	2.53	2.58	C－1	
6	R	建物跡3	q-77	1020,1027,1029,1048		1017,1018	2.87	2.60	C－2	
6	R	建物跡4	t-74	586,615,1191/P43		1316,1320,1349	2.75	2.50	C－2	
6	R	建物跡4'	t-74	586,615,1190/P43		1316,1320,1349	2..58	2.52	C－2	
6	R	建物跡5	q-76	1163,1273,1276,1323	1157ほか2基	1261,1265	4.60	4.42	C－2	
6	R	建物跡5'	q-76	1196,1273,1276,1321	1264ほか3基	1262,1266,1269,1270	4.84	4.80	C－2	
6	R	建物跡6	s-73	390,540,577	418	19,20	2.77	2.78	C－2	
6	R	建物跡6'	s-73	391,540,577	417	19,20	2.76	2.92	C－2	
6	R	建物跡6"	s-73	393,401,541,577	547,548		2.35	2.10	C－2	
6	R	建物跡7	s-73	392,400,543,576		17,18,416	1.88	2.20	C－2	
6	R	建物跡7'	s-73	392,400,543,575		17,18,416	1.73	2.30	C－2	
6	R	建物跡8	u-71	494,566,568			3.10	2.68	C－2	
6	R	建物跡9	u-71	490,563,570		15,16	3.10	3.10	C－2	
6	R	建物跡10	t-70	315,478,481	470,474	327,330	3.64	4.60	C－2	
6	R	建物跡10'	t-70	308,478,481,732	484		3.90	4.40	C－2	
6	R	建物跡11	t-70	3314,339,473		13,14	2.90	2.60	C－2	
6	R	建物跡12	r-69	1,943,1612	9ほか4基	11,12	5.20	5.50	C－2	
6	R	建物跡13	r-69	2,170,1615,1626	3ほか3基		4.80	5.10	D－2 a	
6	R	建物跡14	r-69	7,1602			3.50	?	D－2 b	
6	R	建物跡15	q-74	137,157/QSP4429,4451	157	QSP4422,4423	4.30	4.10	C－2	
6	R	建物跡16	t-75	421,1318,1390,1398		1316,1320,1349	2.63	2.62	C－2	
6	R	建物跡17	q-74	125/QSP4428,4449	129ほか2基	4422,4423	4.80	4.10	C－2	
6	R	建物跡18	u-73	229,353,867,1750			2.48	1.96	D－2 c	
6	R	建物跡19	u-73	219,224,1743			3.57	2.60	D－2 b	
6	R	建物跡20	u-73	132,358,866			2.55	1.90	D－2 c	
6	R	建物跡21	v-72	802,821,875			2.36	1.90	D－2 c	
6	R	建物跡22	v-72	806,824,876			2.96	2.15	D－2 c	
6	R	建物跡23	v-72	809,826,1676			3.90	3.90	D－2 b	
6	R	建物跡23'	v-72	825,1676,1684			3.69	3.33	D－2 b	
6	R	建物跡24	v-72	805,823,877			2.05	2.49	D－2 c	
6	R	建物跡25	v-72	822,829,846,885			2.43	2.58	D－2 c	
6	R	建物跡26	v-70	854,1705,1730			2.76	2.63	D－2 c	
6	R	建物跡26'	v-70	853,1673,1674,1705			2.43	3.08	D－2 b	
6	R	建物跡27	q-76	1160,1271,1275,1282			2.55	2.66	D－2 c	
6	R	建物跡28	q-76	1162,1280,1294,1340	1164ほか2基		4.50	3.95	D－2 b	
6	R	建物跡28'	q-76	1162,1280,1300,1340			4.40	3.90	D－2 b	
6	R	建物跡29	r-75	289,1170,1295,1313	1166ほか2基		2.90	3.00	D－2 b	
6	R	建物跡30	r-75	291,1181,1296,1315	1311		3.10	3.60	D－2 b	
6	R	建物跡30'	r-75	290,1181,1314			3.28	3.68	D－2 b	
6	R	建物跡31	s-75	443,1168,1175,1188			2.30	2.34	D－2 c	
6	R	建物跡32	s-75	442,1174,1193			2.43	2.55	D－2 c	
6	R	建物跡33	r-75	441,1304,1318	446,1166		3.32	3.29	D－2 b	
6	R	建物跡33'	r-75	440,1305,1318	299ほか3基		2.83	3.20	D－2 b	
6	R	建物跡34	v-71	555,560,729,834	827		5.12	5.00	D－2 a	
6	R	建物跡34'	v-71	555,559,729,834	557ほか2基		5.33	4.92	D－2 a	
6	R	建物跡35	u-71	556,558,570,881			2.14	1.86	D－2 c	
6	R	建物跡36	u-72	527,571,882			3.24	2.43	D－2 b	
6	R	建物跡37	w-70	1702,1731,1732,1736			2.78	2.72	D－2 c	
6	R	建物跡38	u-70	567,730,733,787			2.08	2.10	D－2 c	
6	R	建物跡38'	u-70	567,730,735,736			2.30	2.25	D－2 c	
6	R	建物跡39	p-75	1144,1157/QSP4427			2.90	2.97	D－2 c	
6	R	建物跡39'	p-75	1144,1157/QSP4427			2.88	2.92	D－2 c	
6	R	建物跡40	q-74	133,160,1196/QSP4425			4.32	4.53	D－2 b	
6	R	建物跡40'	q-74	133,160,1196/QSP4426	1150,QSP4428		4.25	4.47	D－2 b	
6	R	建物跡41	q-72	83,120,186,354	70ほか4基		5.22	5.20	D－2 a	
6	R	建物跡42	q-74	72,117,127/QSP4452			2.46	2.40	D－2 c	
6	R	建物跡42'	q-74	72,117,135/QSP4453			2.97	2.40	D－2 c	
6	R	建物跡43	q-73	99,115,128,132			2.45	1.76	D－2 c	
6	R	建物跡43'	q-73	98,115,126,132			2.60	1.68	D－2 c	
6	R	建物跡44	q-74	101,136,1713			2.40	2.60	D－2 c	

表Ⅱ－４　建物跡一覧（2）

報告書番号	地区	遺構名	発掘区	主柱穴	壁柱穴	出入口ピット	主柱穴間距離(m) 東－西	南－北	分類	備考
6	R	建物跡45	q-74	118,155,158,264			4.26	3.27	D－2 b	
6	R	建物跡45'	q-74	116,118,158,265			4.36	3.20	D－2 b	
6	R	建物跡46	r-72	204,235,245,355			2.92	2.96	D－2 c	
6	R	建物跡46'	r-72	204,228,237,355			2.58	2.84	D－2 c	
6	R	建物跡47	r-72	196,219,223,352			3.44	3.72	D－2 b	
6	R	建物跡48	s-72	203,331,357,367			3.22	3.76	D－2 b	
6	R	建物跡49	s-72	231,347,379			3.83	4.15	D－2 b	
6	R	建物跡49'	s-72	230,347,379			4.00	4.09	D－2 b	
6	R	建物跡50	s-70	305,311,321,332			3.36	2.48	D－2 b	
6	R	建物跡51	p-72	P40,87,/QSP3157,4457			2.42	2.00	D－2 c	
6	R	建物跡51'	p-72	40,86/QP223,4457			2.17	2.17	D－2 c	
6	R	建物跡52	q-71	50,42,144			3.98	4.19	D－2 b	
6	R	建物跡52'	q-71	42,50,144			3.98	4.35	D－2 b	
6	R	建物跡53	r-71	47,190,204,237			2.66	2.54	D－2 c	
6	R	建物跡53'	r-71	47,189,204,237			2.48	2.63	D－2 c	
6	R	建物跡54	q-70	145,152,153/QP68,260			3.20	3.40	D－2 b	
6	R	建物跡55	q-70	P4,25/QP261,262			4.55	4.84	D－2 b	
6	R	建物跡56	s-68	760,935,959,1498			3.88	3.52	D－2 b	
6	R	建物跡57	t-67	740,777,913			3.22	3.36	D－2 b	
6	R	建物跡57'	t-67	740,776,913			3.18	3.32	D－2 b	
6	R	建物跡58	u-66	627,628,794,902			3.16	3.06	D－2 b	
6	R	建物跡59	v-65	639,651,797			2.16	2.14	D－2 c	
6	R	建物跡59'	v-65	639,651,797			2.43	2.00	D－2 c	
6	R	建物跡60	v-65	636,643,644,650/QSP2440			2.35	2.68	D－2 c	
6	R	建物跡61	u-65	669,670,/QSP1789,1792			3.00	2.92	D－2 b	
6	R	建物跡62	t-65	149,664,709			2.80	2.86	D－2 c	
6	R	建物跡63	t-65	148,680,705			2.08	2.92	D－2 c	
6	R	建物跡64	t-65	649,677,693,706			2.18	2.47	D－2 c	
6	R	建物跡65	t-65	665,679,706,706'			2.10	2.52	D－2 c	
6	R	建物跡66	t-65	657,676,698,707			2.60	2.38	D－2 c	
6	R	建物跡67	q-67	P7,14,28/QP293			4.16	4.47	D－2 b	
6	R	建物跡68	q-67	P13,20,33/QP219			5.44	5.60	D－2 a	
6	R	建物跡69	q-67	P16,27,30/QP269			5.80	5.66	D－2 a	
6	R	建物跡70	r-67	P26,41,42/QP218			5.60	6.56	D－2 a	
6	R	建物跡71	q-67	P15,31/QP212,218			4.85	5.68	D－2 a	
6	R	建物跡72	s-67	947,955,1590,1816	1808		4.14	4.05	D－2 b	
6	R	建物跡73	r-65	P8,23,24/QP13			6.50	5.67	D－2 a	
6	R	建物跡73'	r-65	P9,11,23/QP13			5.80	4.74	D－2 a	
6	R	建物跡74	r-65	P10,26,32/QP141			5.50	6.60	D－2 a	
6	R	建物跡75	q-65	1436/QP30,33,QSP3228			5.10	5.16	D－2 a	
6	R	建物跡76	r-66	1401,1435,1487,1550			3.70	4.02	D－2 b	
6	R	建物跡77	s-66	962,1416,1476			2.29	2.22	D－2 c	
6	R	建物跡78	q-68	1637,1774/QSP3153			2.78	2.57	D－2 c	
6	R	建物跡79	q-68	1774',1836,/QSP3154			2.72	2.47	D－2 c	
6	R	建物跡80	q-68	1,1629,1639/QSP3155	1630		2.84	2.93	D－2 c	
6	R	建物跡81	r-68	1490,1588,1604	1592ほか2基		3.94	3.80	D－2 b	
6	R	建物跡82	r-68	926,959,1489,1606			2.94	3.72	D－2 b	
6	R	建物跡82'	r-68	926,959,1490',1605			3.22	3.11	D－2 b	
6	R	建物跡83	t-67	783,917',961,973			3.23	3.44	D－2 b	
6	R	建物跡83'	t-67	783,917',961,973			3.15	3.53	D－2 b	
6	R	建物跡84	t-65	692,1656/QSP1750			2.20	2.22	D－2 c	
6	R	建物跡85	t-65	691,978,982,986			2.48	2.50	D－2 c	
6	R	建物跡86	q-65	1447,1502,1518',1671			2.34	2.16	D－2 c	
6	R	建物跡87	r-67	1854,1857,1935			2.09	2.30	D－2 c	
6	R	建物跡88	w-70	835,840,850,1699	838,1737		4.07	3.70	D－2 b	
6	R	建物跡89	s-75	439,1173,1189,1305	454ほか2基		3.45	3.40	D－2 b	
6	R	建物跡90	r-73	140,235,247,263			3.50	4.00	D－2 b	
6	R	建物跡91	r-71	187,207,235			2.60	2.24	D－2 c	
6	R	建物跡92	t-71	333,482,502	338,342		3.72	3.70	D－2 b	
6	R	建物跡93	u-65	656,720,892			3.80	3.20	D－2 b	
6	R	建物跡94	u-65	721,892			3.88	4.68	D－2 b	
6	R	建物跡95	u-65	631,658,791			3.36	2.88	D－2 b	
6	R	建物跡96	s-66	970,976,1334,1485	964,1819		3.70	3.29	D－2 b	
6	R	建物跡97	s-65	985,991,1403,1460			2.38	2.50	D－2 c	
6	R	建物跡98	r-65	1440,1443,1863			1.98	2.06	D－2 c	
6	R	建物跡99	q-65	1507/QSP3229,3234,3236			2.10	1.58	D－2 c	
7	Q	建物1	p-57	H12P3,4,5,6	H12P9ほか46基	H12P1,2	2.68	3.16	A－1	
7	Q	建物2	o-55	543/H5P3,4,6,45	H5P8ほか30基	H5P1,2	2.91	3.04	A－1	

表Ⅱ－5　建物跡一覧（3）

報告書番号	地区	遺構名	発掘区	主柱穴	壁柱穴	出入口ピット	主柱穴間距離(m) 東－西	南－北	分類	備考
7	Q	建物3	m-54	H3P1,2,3,4	505ほか11基	527,571	2.11	2.19	A－1	
7	Q	建物4	n-54	523,532,533,568	534,4396	566,3987	1.82	2.92	A－1	
7	Q	建物5	o-61	879,882,968,2308,2309	956ほか28基	P142,149	2.27	1.89	A－1	
7	Q	建物6	j-52	448,449,451,452	450,453	455	2.22	1.85	A－1	
7	Q	建物7	n-54	530,550,562,564	511,3983	H15P1	1.93	1.93	A－1	
7	Q	建物8	p-55	35,36,37/H5P34	H5P26ほか4基	H24P1,2,3,4	?	3.70	A－1	
7	Q	建物9	n-54	H14P3,4,5	531ほか2基	H14P1,2	2.02	2.85	A－1	
7	Q	建物10	k-63	P34,75,76,113,115		H26P1,2	4.74	5.47	C－1	
7	Q	建物11	o-63	P97,169,242,277		2711,2712,2715,2716	5.76	5.60	C－1	
7	Q	建物12	m-62	P90,93,98,150,187		H31P1,2	5.22	5.44	C－1	
7	Q	建物13	k-71	2029,2031,2050/P135		4488,4491	2.94	3.25	C－1	
7	Q	建物14	j-71	P70,108,121,129	2032ほか18基	2097-2100	5.80	5.75	A－2	
7	Q	建物15	k-67	P53,79,170,178	576ほか16基	2150,2151	5.70	5.23	A－2	
7	Q	建物16	h-60	P27,28,41,42	289ほか20基	H32P1,2	5.04	5.38	A－2	
7	Q	建物17	k-63	P46,73,114,181	943ほか20基	2878/P292/H34P1,2	5.29	5.16	A－2	
7	Q	建物18	n-74	P134,204,265,283	3013ほか14基	H29P1,2	5.88	5.61	A－2	
7	Q	建物19	l-53	402,410,444,460	401ほか33基	H7P1,2	4.19	4.56	A－2	
7	Q	建物20	j-71	P69,107,130,138	2054ほか1１基	4468,4469	4.60	4.86	A－2	
7	Q	建物21	n-73	P131,263,264,282	3007ほか16基	H30P1,2	6.87	7.07	A－2	
7	Q	建物22	p-73	4420,4430,4447/RLSP124	4443ほか3基	4422,4423	5.26	5.14	A－2	
7	Q	建物23	m-73	3182,3191/P203,281	3022ほか13基	H28P1,2	4.91	5.12	A－2	
7	Q	建物24	f-69	1413,1428,1444,1502	H22P3ほか35基	H22P1,2	3.57	4.32	A－2	
7	Q	建物25	k-54	503,3963,3966,3969	482ほか13基	479,480,481	3.93	3.82	A－2	
7	Q	建物26	j-71	2014,2065,2103,2126	2016ほか7基	4467	2.99	3.74	A－2	
7	Q	建物27	j-61	370,1052,1861,1906	1045ほか19基	H17P1,2	3.35	3.30	A－2	
7	Q	建物28	j-67	585,1552,2154,2158	584ほか2基	2146,4772,4773	3.08	2.97	A－2	
7	Q	建物29	m-57	2,4,26,65,66,84	H1P3ほか34基	H4P1,2	2.66	2.67	A－2	
7	Q	建物30	l-55	67,86/H2P1,8	H1P3ほか24基	H1P1,2	2.62	3.00	A－2	
7	Q	建物31	h-55	220,222,223,241	218ほか6基	H8P1,2	2.85	3.05	A－2	
7	Q	建物32	f-70	1484,1553,1583,4667	1470ほか18基	1518,1519	1.94	3.04	A－2	
7	Q	建物33	t-62	605,611,654,669	618ほか23基	662,666	2.89	2.43	A－2	
7	Q	建物34	s-60	750,767,784,2506,2593	632ほか9基	693,694	2.59	2.41	A－2	
7	Q	建物35	h-57	253,254,256,258	251ほか2基	H10P1,2	2.23	2.71	A－2	
7	Q	建物36	k-53	471,474,475,476	454ほか16基	485	2.21	2.17	A－2	
7	Q	建物37	m-54	509,520,3978,4640	499ほか2基	504/H16P1	2.17	1.54	A－2	
7	Q	建物38	l-53	495,496,516	494ほか2基	H13P1	3.25	3.32	A－2	
7	Q	建物39	f-68	P54,59	1403ほか11基	1411,1412,1504,4697	?	6.17	A－2	
7	Q	建物40	f-68	P55,58	1424ほか27基	1409,1420	?	4.22	A－2	
7	Q	建物41	o-63	P92,100,146,194	975ほか43基		5.88	6.68	B－1	
7	Q	建物42	j-64	3743,3748,4538	2852ほか15基	3744,3747	3.28	3.44	A－1	
7	Q	建物43	n-60	180,886,898,2222		P186,189	4.36	4.31	C－2	
7	Q	建物44	n-60	P82,83,87,143		P186,189	4.67	4.53	C－2	
7	Q	建物45	h-68	592,595,599,2149		596,597	4.21	4.29	C－2	
7	Q	建物46	g-60	1165,4170/P31,112		4068,4069,4073,4132	3.96	4.18	C－2	
7	Q	建物47	f-71	1528,1533,1552,4679	1534	1454,1455,1523,1524	2.46	2.99	A－2	
7	Q	建物48	l-72	P209,210,266,267		3042,3043,3044,3045	2.12	2.36	C－2	
7	Q	建物49	h-57	252,255		H9P1,2	?	?	C－2	
7	Q	建物50	h-59	339,347/P21,26			6.04	5.50	D－1	
7	Q	建物51	n-65	P165,214,241,247			5.27	5.69	D－1	
7	Q	建物52	j-62	P44,45,48,274			5.26	4.70	D－1	
7	Q	建物53	n-65	P151,168,196,215			5.00	4.69	D－1	
7	Q	建物54	n-65	P153,195,243,246			4.15	5.09	D－1	
7	Q	建物55	m-58	H11P1,2,3,4			3.11	2.94	D－1	
7	Q	建物56	r-61	1211,1360,1364,2532			1.50	2.11	D－1	
7	Q	建物57	s-60	797,799,1226,1230			1.78	1.12	D－1	
7	Q	建物58	k-73	2019,3174			?	3.65	D－1	
7	Q	建物59	l-52	431,439/HLP461	432ほか6基		2.34	2.72	B－1	
7	Q	建物60	l-52	P515,518	514,3981		?	2.94	B－1	
7	Q	建物61	k-71	2048,2130,2198/P139	2125ほか6基		6.57	5.89	B－2	
7	Q	建物62	j-71	P104,127,136,137	2035ほか23基		5.60	6.50	B－2	
7	Q	建物63	j-71	P109,110,128,140	2040ほか13基	2053	5.76	6.41	A－2	
7	Q	建物64	j-71	P122,124,173,180	2020ほか6基		6.50	7.72	B－2	
7	Q	建物65	k-61	950,1051,1063	366ほか40基	3478,3485	4.53	3.04	A－2	
7	Q	建物66	o-70	3108,3116,3138,3147	3103ほか14基		3.10	4.45	B－2	
7	Q	建物67	j-71	2106,4417/P105,172	2127,2128		3.78	3.20	B－2	
7	Q	建物68	g-71	P101,102,103	1525ほか24基		2.53	3.57	B－2	
7	Q	建物69	m-70	P231,232,233,234	4761ほか2基		2.42	2.80	B－2	
7	Q	建物70	k-69	P174,175,176,177	2176ほか5基		2.60	2.41	B－2	

表Ⅱ－６　建物跡一覧（４）

報告書番号	地区	遺構名	発掘区	主柱穴	壁柱穴	出入口ピット	主柱穴間距離(m) 東－西	南－北	分類	備考
7	Q	建物71	m-69	3060,3094/P239,256	3064ほか5基		2.38	2.11	B－２	
7	Q	建物72	l-68	P63,179,240,251	2181ほか13基		1.83	2.67	B－２	
7	Q	建物73	p-73	4419,4437,4444,4456	4418ほか8基		2.21	2.08	B－２	
7	Q	建物74	p-67	3326,3353,4205/P268	3251ほか４基		1.90	2.56	B－２	
7	Q	建物75	j-64	4133,4134,4135,4136	2863ほか15基	2887,2888,2893-2896	2.15	2.16	A－２	
7	Q	建物76	j-56	226,231,232,235	256ほか3基		2.00	2.06	B－２	
7	Q	建物77	u-61	731,732,737,743,744	729ほか4基		1.90	1.95	B－２	
7	Q	建物78	o-57		199ほか13基	P7,8	?	?	A－３	
7	Q	建物79	n-74	P201,221/RLP45			?	6.35	D－２ a	
7	Q	建物80	m-60	P91,51/5P2,5P3			5.76	5.40	D－２ a	
7	Q	建物81	l-71	2030,2084,2132			5.72	6.62	D－２ a	
7	Q	建物82	j-71	2102/P123,171			4.99	5.30	D－２ a	
7	Q	建物83	o-60	817,870,962,2250			4.78	4.75	D－２ b	
7	Q	建物84	n-65	P154,166,217,245			4.65	4.24	D－２ b	
7	Q	建物85	m-69	P235,236,237,238	3053ほか6基		3.32	4.26	B－２	
7	Q	建物86	m-68	P62,65,66,67			2.88	4.08	D－２ b	
7	Q	建物87	p-69	3149/P260,262/RLSP144			2.77	4.74	D－２ b	
7	Q	建物88	p-71	3141,3157,3161/RLSP42	3162		3.44	2.59	B－２	
7	Q	建物89	q-58	28,29,30,31			2.73	2.71	D－２ c	
7	Q	建物90	k-63	P71,80,116,272			2.34	2.80	D－２ c	
7	Q	建物91	l-73	P205,206,207,208			2.58	2.65	D－２ c	
7	Q	建物92	n-71	P224,225,226,227			2.66	2.49	D－２ c	
7	Q	建物93	m-68	P64,125,252,255			2.13	2.75	D－２ c	
7	Q	建物94	m-68	2012/P253,254,259			1.90	2.43	D－２ c	
7	Q	建物95	n-71	P132,228,229,230			2.26	2.15	D－２ c	
7	Q	建物96	m-66	P162,163,164,216			2.13	2.82	D－２ c	
7	Q	建物97	k-68	2163,2170,2173,2179			2.28	2.23	D－２ c	
7	Q	建物98	p-60	865,874,875,966			2.37	2.45	D－２ c	
7	Q	建物99	h-63	1880,1888/P72,273			2.56	2.26	D－２ c	
7	Q	建物100	k-65	P74,78,117,118			2.17	2.30	D－２ c	
7	Q	建物101	j-67	588,2157,2160,3764	2161		2.33	2.34	D－２ c	
7	Q	建物102	l-62	P25,37,39,43			1.94	2.32	D－２ c	
7	Q	建物103	o-62	997,3807,3811,3832			2.18	2.05	D－２ c	
7	Q	建物104	o-67	3314,3324,4242/P258			1.74	2.17	D－２ c	
7	Q	建物105	q-56			P35,36,81			C－３	
7	Q	建物106	f-68			H19P1,2			C－３	
7	Q	建物107	f-68			H18P1,2			C－３	
7	Q	建物108	e-68			H20P1,2			C－３	
7	Q	建物109	e-69			H21P1,2			C－３	
7	Q	建物110	l-56			H22P23,24			C－３	
8	F	建物1	Y-73	P1,2,3,4		P5,6	5.95	6.55	C－１	
8	F	建物2	Y-73	P7,8,9,10			7.60	6.52	D－１	
8	F	建物3	X-74	P11,12,13,14		15,16	6.27	6.07	C－１	
8	F	建物4	X-74	P17,18,19,20			4.52	5.37	D－１	
8	F	建物5	Y-75	P21,22,23,24		P25,26	6.92	6.47	C－１	
8	F	建物6	X-75	P27,28,29		P30,31	6.50	6.60	C－１	
8	F	建物7	X-76	P32,33,34,35,36			5.12	4.95	D－２ a	
8	F	建物8	W-73	P37,38,39,40	407ほか19基	P41,42	3.60	4.10	A－２	
8	F	建物9	U-75	P43,44,45	517ほか34基	P46,47,48,49	3.50	3.50	A－１	
8	F	建物10	U-75	P50,51,52,53			3.42	3.85	D－２ b	
8	F	建物11	U-77	P54,55,56,57			5.32	5.97	D－２ a	
8	F	建物12	W-78	P58,59,60,61			5.45	5.42	D－２ a	
8	F	建物13	W-78	P62,63,64,65			6.25	5.67	D－２ a	
8	F	建物14	V-79	P66,67,68,69			6.12	6.92	D－２ a	
8	F	建物15	U-79	P70,71,72,73			2.85	2.90	D－２ c	
8	F	建物16	U-79	P74,75,76	694ほか22基		5.65	5.65	B－１	
8	F	建物17	T-80	P77,78,79,80			5.37	5.05	D－２ a	
8	F	建物18	R-77	P81,82,83,84			5.42	5.02	D－２ a	
8	F	建物19	Q-69	P85,86,87,88			7.02	7.50	D－２ a	
8	F	建物20	Y-71		142ほか9基	P89,90			A－３	
8	F	建物21	X-71		245ほか16基				B－３	
8	F	建物21	X-71		245ほか16基				B－３	

2）土壙墓

周堤墓に伴う墓壙以外に検出された、縄文後期後半とみられる土壙墓は47基検出された。密集する領域はないが、Ⅰ地区やＧ地区など盛土遺構の外側（建物群から）にも数多く分布する。土壙墓の内容や周堤墓の墓壙との関係については、当報告書Ⅲ章－２において藤原が考察している。

3）フラスコ状ピット

Ｆ地区で３基（P-129・130・131）、Ｑ地区で３基（P-１・11・49）、Ｒ地区で２基（RLP-35・36）、Ⅰ地区で２基（ILP-３・14）検出された。また断面がフラスコ状ではないが規模・形状から同様の土壙と見られるものがＲ地区で１基（RLP-34）、Ⅰ地区で２基（ILP-１・２）、以上合計13基を確認した（図Ⅱ－11）。図Ⅱ－10に例示した。

規模・形状：平面形が円形で上端径２～３m、深さ１～２m、断面がオーバーハングするものが多い。

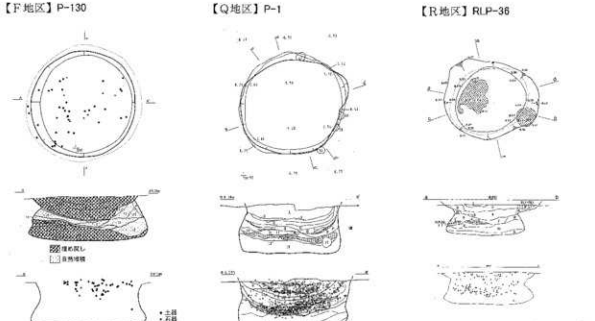
分布：Ｆ・Ｑ・Ｒ地区では、標高９m前後の台地縁辺部の盛土遺構際あるいは下から検出されている。またＦ・Ｒ・Ⅰ地区では、２～３基のフラスコ状ピットが近接している。

覆土：一部自然堆積があるものの、埋め戻しの土と見られる軽石混じりの乱れた土層断面を示すものが多い。埋まりかけたフラスコ状ピットに、盛土遺構形成と同時に排土の一環として埋め戻されたものが多いと考えられる。

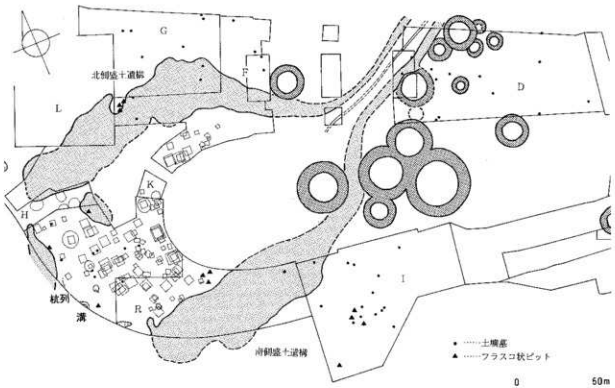
遺物出土状況：壙底は少ない。ほとんどが覆土の上～中位から出土する。その多くはⅣ群ｂ－４類・Ⅳ群ｃ類土器とそれに伴う石器等である。なお、RLP-34の覆土のⅣ群ｂ－４類注口土器が南側盛土遺構の下層出土の土器と接合している。

時期：縄文時代後期後半、盛土遺構形成直前あるいは初期に掘削から埋没まで行われたものが多いと考えられる。なおＦ地区の３基はＶｂ層の焼土を切って掘削されており、同期の短期間に営まれていたとみられている。覆土の炭化物の^{14}Ｃ年代測定値として、3,300±40yB.P.（Ｑ地区P-１）がある。

性格：貯蔵穴・墓などが想定されるが、不明な点が多い。ただし堆積状況や遺物出土状況からは墓として利用したものが多いと思われる。



図Ⅱ－10　フラスコ状ピット例



図Ⅱ－11　土壙墓・フラスコ状ピットほか位置図

4）土壙（用途不明）

用途不明の土壙は、遺跡全体に散在しているが、その多くは時期の特定が困難なものである。ただし覆土の遺物などから縄文時代後期後半に属するものが多いとみられ（遺跡西部の低地側に集中する土壙を除く）、特にQ地区では23基を検出している。規模、形状とも多様である。

5）建物以外の柱穴

検出された柱穴から建物跡を図上復元したが、それらを構成できない柱穴が非常に多く残った。F・G地区で900基近く、H地区では全土壙878基のうちの大部分、K地区でも全土壙273基のうちの大部分、Q地区では大型の柱穴や出入り口ピットが63基で小型の柱穴状ピットに至っては3,800基以上になる。またR地区でも1,474基にのぼる。これらの中には、削平などにより大部分が消滅した建物跡やその補助的なもの、干し場などの屋外の仮施設、柵の一部、その他多様な目的で打ち込まれた杭穴などが含まれているものと考えられる。

6）杭列

Q地区の南西部、標高8.5mの等高線に沿うように22基の小ピット列が並んでいる。細く帯状にのびる部分的な盛土遺構に併行している。

またこれ以外に旧河道際や水資源利用のための杭列や杭穴と考えられる遺構がある（後述）。

7）溝

Q地区の南西部、段丘崖がやや突き出す部分から検出された。幅約1.5m、深さ約15cmと浅く、その性格は不明である。

（３）盛土遺構

キウス４遺跡には、建物跡・土壙群をはさんで南北に帯状に盛土遺構が分布する。Ⅴ層の黒色土にEn－a軽石・ロームが多量に混在する。確認した盛土遺構は次のとおりである（表Ⅱ－７）。

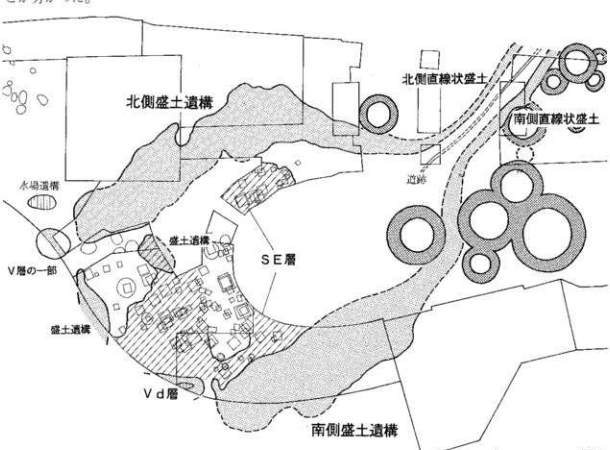
①北側直線状盛土（Ｄ・Ｅ地区）　②南側直線状盛土（Ｄ・Ｅ地区）
③北側盛土遺構（Ａ・Ｈ－Ｌ－Ｆ・Ｇ地区）　④南側盛土遺構（Ｉ－Ｒ地区）
⑤盛土遺構（Ｈ－Ｑ地区の東部）　⑥盛土遺構（Ｈ－Ｑ地区の西部）

また、盛土遺構に近い堆積状況を示す層位として、

⑦「Ⅴｄ」層（Ｑ－Ｒ地区）　⑧「Ⅴ－イ・ロ・ハ・ニ」層の一部（Ａ地区）
⑨「ＳＥ」層

がある。このうち①・②は道跡とともに周堤墓と直接的な関係をもつものと考えられ、他と区別されるものである。③・④は範囲確認調査の時点で確認されていたもの。ただし③はその範囲が当初の推定範囲よりも南側に寄っていることが確認された。⑤・⑥は北側盛土遺構の南西にある薄い部分的な盛土遺構である。⑦は南側の低湿地に、⑧は北側の斜面に堆積するＥｎ－ａ軽石混じりの土層である。「盛り上げた」のではなく、低地側に「流した」ような堆積状況を示す。⑨は「盛土遺構」ではないが、土地の削平後の整地行為などにより再堆積したと考えられる、盛土遺構と連動した堆積層である。

盛土遺構全体では（①－）③－⑤－⑧－⑥－⑦－④（－②）と結ぶことができ、当初確認された南北の帯状の盛土遺構を主体としながらも、建物・土壙群を取り囲んだ環状の盛土遺構になっていることが分かった。



図Ⅱ－12　盛土遺構分布図

北側盛土遺構（図Ⅱ－13・14）

東の周堤墓側はやや標高が高く傾斜の緩やかな台地上に形成されており、層厚は20～30cmでやや薄い。西側は傾斜面に形成されており、末端は標高6.5m、Ａ１地区の水場遺構付近に達している。最大1.1mの層厚のあるＬ地区の「Ｓ盛土」は、何枚もの薄層が低地側に下るように堆積している様子がうかがえる。また特にＦ・Ｇ地区では、盛土遺構直下に小型の薄い焼土が多数あり、盛土遺構中に層厚のある大型の焼土が形成されている様子が観察される。焼土の平面分布には大きな偏りがみられ、大型の焼土が形成されたり小型の焼土が密集したりする層位があったり、場の利用のされ方に差異があったようである。

黒色土主体の「下層」は鵡澗式新段階から堂林式古段階の土器が主体的に出土する。

黄褐色土主体の「中層」は堂林式の比較的新しい段階の土器が主体的に出土している。

黒褐色土主体の「上層」は堂林式新段階から「三ツ谷式」併行の土器が主体的に出土している。

南側盛土遺構（図Ⅱ－15・16）

層厚50cm前後の安定した堆積層が台地と低地部の境に広範囲に広がっている。黒色土主体の盛土遺構－下位（Ｆ・Ｇ地区の「下層」に相当）と、黄褐色土主体の盛土遺構－上位（Ｆ・Ｇ地区の「中層」「上層」に相当）に大きく分かれる。下位は鵡澗式新段階から堂林式古段階の土器が、上位は堂林式の古～新段階の土器が主体的に出土している。平面的には盛土の高まりや上面の色調差を重視して14単位（Ｒ地区）の盛土ブロックに分け、さらに色調や混入物からそれぞれ層位を細分した。北側盛土遺構同様、焼土の分布に大きな特徴がみられる。大型の焼土を形成する盛土ブロックと小型の焼土が数多く分布する盛土ブロックの差異が明瞭である。

断面図を見ると、薄い層が何層にもわたって堆積しており、台地側から低地側緩斜面に向かって平坦面を造りながら排出している様子が観察される。

盛土遺構形成過程の推定

現地調査および遺物整理の結果をもとに、盛土遺構の形成過程と建物跡群を含めた周辺の状況について推定した。（『キウス４遺跡（９）』第２ｐ.251・252と一部重複。）

【ａ．盛土遺構形成直前（縄文時代後期中葉）】

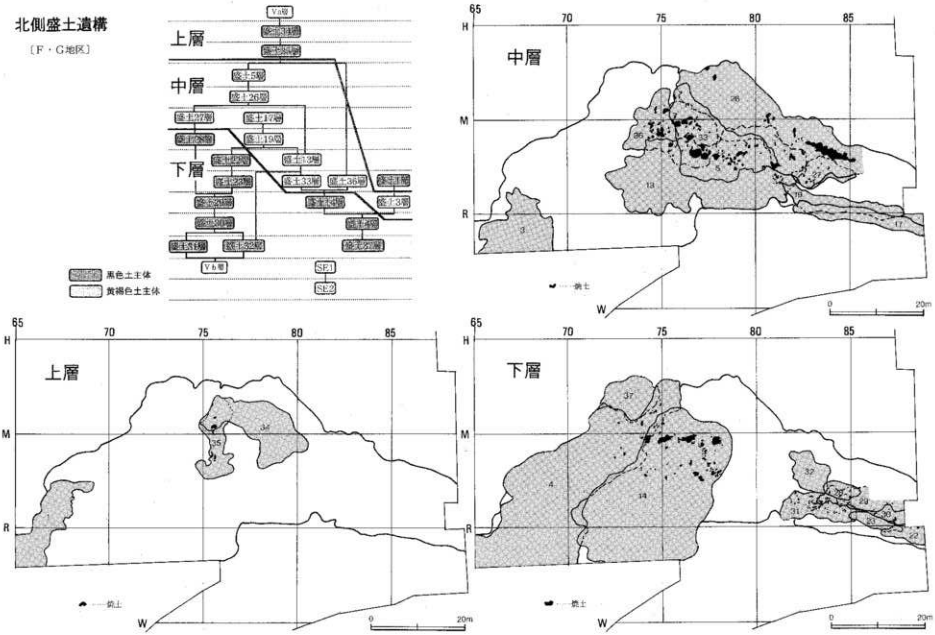
小型で薄い焼土が高密度に形成される。特に盛土遺構の「予定」範囲に多く残っている。これは居住空間創出のための野焼きが行われた可能性があるものと考えられる。建物群の範囲はその後の削平などによって大半が消滅したものと考えることができる。また、このころフラスコ状ピットが掘削されたと考えられる。続いて西側の台地上で土地の削平が始まる。初期のころは特に高まりの目立つ部分やごく限られた区域がその対象となったと考えられる。削平や柱穴掘削の結果生じた土壌は主に北西側や南西側の低地部へ排出され、水場遺構付近や南側の流水跡を埋没させてＶ層の一部やＶｄ層が形成されていったと推定できる。その際、土器・石器のほか木製品など生活で使用した遺物も排出している。また盛土遺構のものよりも大型の礫が多く含まれるが、これは台地上の礫が「片付けられた」結果と考えることができる。

【ｂ．盛土遺構形成開始期（縄文時代後期中葉）】

台地上では引き続き住居や建物、土壙が構築され、土地の削平や掘削が本格化してくる。そして盛土遺構の下層が形成され始める。その際に大型の焼土を形成し、その中央部に土器を設置（埋設）するものがある。また完形の注口土器が置かれたり、その場でつぶしたような深鉢を広げて置いたりする土器が多い。この段階で儀礼的行為が想定される遺構・遺物が多くみられる。そして北部のＶ層や

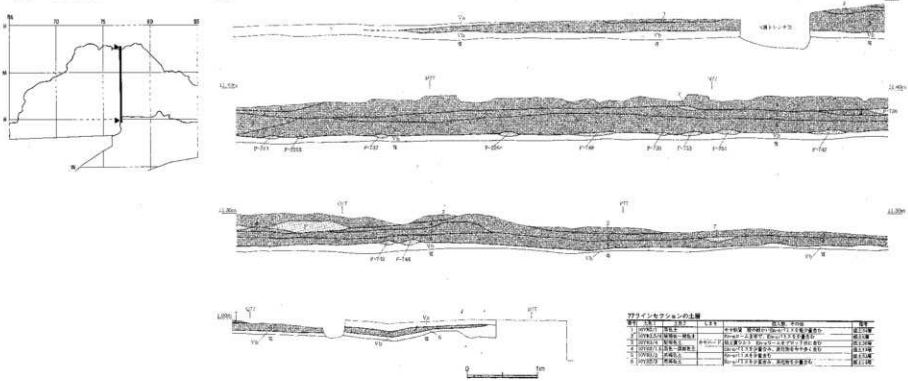
表Ⅱ－７　盛土遺構一覧

周堤墓隣接	**北側直線状盛土**	D・E地区	『(5)』p112～125
	規模	幅4.24m×層厚0.10～0.32m	※焼土LF－97～99 関係有り
	遺物	土器９点	
	南側直線状盛土	D・E地区	『(5)』p112～125
	規模	幅4.6～6.0m×層厚0.08～0.28m	※X－10・12より新しい
	遺物	土器479点・石器等91点	
建物跡・土壙群周縁の盛土遺構	**北側盛土遺構**	A1・H－L－F・G地区	『(2)』p50～231・『(3)』p38～43・250～257・『(8)』第１p25～236
	規模	長さ約160m×最大幅40.5m×最大厚1.10m	
	盛土ブロック・分層	〔A１地区〕AM-1 〔H地区〕HM-1(2層) 〔L地区〕S(4層)・C・N 〔F・G地区〕上層３層(1・34・35)・中層９層(3・5・13・17・19・26・27・33・36)・下層10層(4・14・22・23・28～32・37)	
	遺構など	焼土473ヵ所・集石１ヵ所・土器集中ほか	
	遺物	土器等801,528点・石器等271,058点、赤彩弓ほか、骨片・炭化物多量	
	南側盛土遺構	R－１地区	『(3)』p207～216・『(9)』第１p31～614
	規模	長さ約150m×最大幅38m×最大厚0.85m	
	盛土ブロック・分層	〔R地区〕A(10層)・B(2層)・D(17層)・E(6層)・G(3層)・J(2層)・K(2層)・V(5層)・W(4層)・X(2層)・Y(5層)・Z(3層) 〔１地区〕A(2層)・B(1層)	
	遺構など	焼土401ヵ所・フレイクチップ集中10ヵ所・石器集中・土製品集中ほか	
	遺物	土器等2,899,286点・石器等548,271点、赤彩弓ほか、骨片・炭化物多量	
	盛土遺構	H・Q地区	『(3)』p257～259・『(7)』第１p210～216
	規模	23m×19m	
	盛土ブロック	〔H地区〕HM-2(2層) 〔Q地区〕１層	
	遺構など	焼土２ヵ所	
	遺物	〔H地区〕土器等1,650点・石器等216点	
	盛土遺構	H・Q地区	『(3)』p259～261・『(7)』第１p210～216
	規模	45m×８m	
	盛土ブロック	〔H地区〕HM-3 〔Q地区〕１層	
	遺構など	焼土２ヵ所以上	
	遺物	〔Q地区〕土器等20,402点・石器等5,509点	
盛土遺構に類似する堆積層	**「Ｖｄ」層**	R・Q地区	『(7)』第１p216～226・『(9)』第２p1～106
	規模	約20m×９m×最大厚1.55m	
	分層	〔Q地区〕「南側低湿部」〔R地区〕７層（Vd・Vd下層・11～15）	
	遺構など	焼土３ヵ所	※下位に流水跡（RLR-7）
	遺物	土器等18,547点・石器等3,248点・木製品（脚付容器ほか）	
	「V-イ・ロ・ハ・ニ」層の一部	A地区	『(3)』
	規模	約15m×約10m	
	分層	V－イ・ロ・ハ・ニ　※台地側（H地区）から低地側（A地区・水場遺構付近）への斜面	
	遺構など	焼土９ヵ所	
	遺物	（包含層）	
	「ＳＥ」層	G・Q・R地区	『(7)』第１p210～216・『(8)』第１p70・71ほか・『(9)』第２p107～124
	規模	約130m×約70m×最大厚0.35m	
	分層	ＳＥ層・ＳＥ１層・ＳＥ２層	
	遺構など	焼土G地区12ヵ所ほか・遺物集中「ＬＩ」	
	遺物	〔G＋R地区〕土器等87,725点・石器等20,145点	

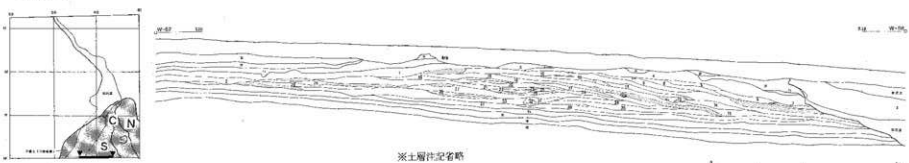


図Ⅱ－13　北側盛土遺構［F・G地区］（1）

〔F・G地区〕

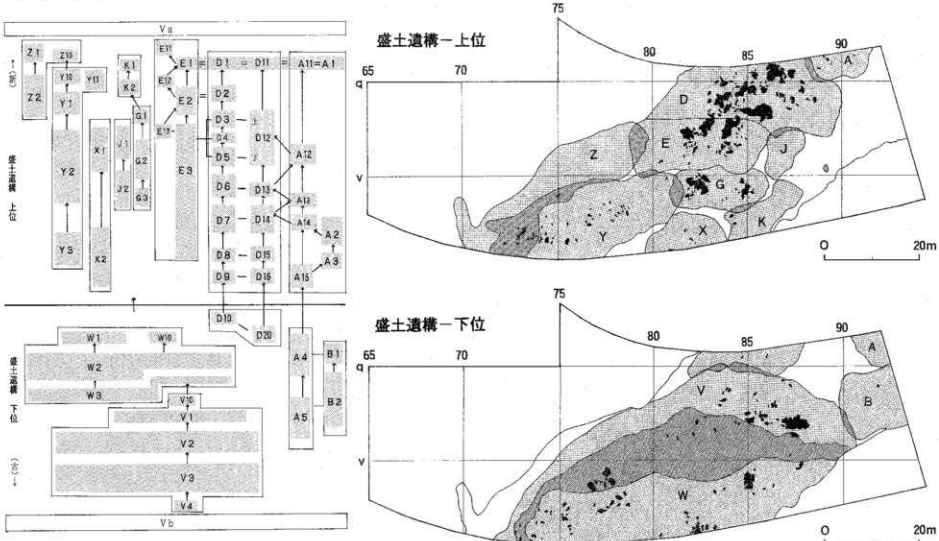


〔L地区〕

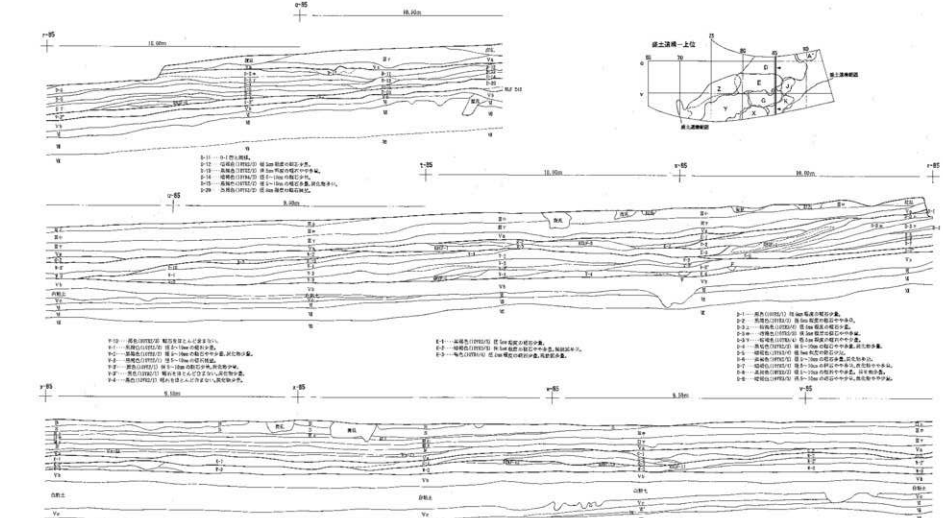


図Ⅱ－14　北側盛土遺構〔F・G・L地区〕(2)

南側盛土遺構　〔R地区〕



図Ⅱ－15　南側盛土遺構〔R地区〕（1）



図Ⅱ－16　南側盛土遺構（R地区）（2）

南西部のＶｄ層下位はほぼ堆積が終わる。

【ｃ．盛土遺構形成期（縄文時代後期中葉～後葉）】

盛土遺構の下層から中層に当たる部分が形成される。大型焼土群が集中するエリアがあったり、埋設土器や朱漆塗りの弓など特殊な遺物がみられる。これらの盛土が堆積していくと、盛土遺構の「予定」範囲のほぼ全面にわたり帯状の盛土遺構が現れることとなった。そして台地上では削平・掘削が続き、黒色土（Ⅴ層）の大部分が排出されてしまった。褐色土（Ⅵ層）や黄褐色ローム層（Ⅶ層）が主体となる土壌が排出されるようになり、それまでの盛土遺構の上に新たな盛土ブロックを形成するようになった（盛土遺構－中層・上位）。台地に近いブロックだけでなく、やや離れた部分にも独立して小さな盛土ブロックを設けるようになる。また台地側との境ではある程度高くなってきたため、縁辺部の土壙や柱穴を埋没させて台地側にも少し盛土を形成するようになる。さらに内側に部分的な盛土遺構が形成されていく。

【ｄ．盛土遺構形成末期（縄文時代後期後葉）】

土壌や遺物の排出量が減少し、全体的に汚れたような薄い層が形成される（盛土遺構－上層・上位）。また盛り上げた土壌の一部が崩落し再堆積している。南側盛土遺構は早くから放棄され、しばらくして北側盛土遺構も集落の終焉とともにその機能を失うこととなる。

盛土遺構の役割（性格）

『キウス４遺跡（９）』第２ｐ.253において、想定も含めて以下の役割を挙げた。

①土地削平・掘削による余剰土壌の排土場

②生活物資・残渣の排出場所……単に「捨てた」のではなく、自然界に「送」ったという意識？

③土器焼き場など、生活物資の製作の場……サケの「保存」のための行為を含む

④焼土を中心とした集会の場……集落の構成要員の集合場所、交易などの来客の歓迎など

⑤儀礼的行為の場　……日常的にモノを「送」る程度のものから、非日常的な儀式的なものまで

⑥葬送の場？……盛土遺構中の墓があったか？

キウス４遺跡全体の盛土遺構の分布をみると、さらに以下の役割を考えることができる。

⑦台地部と低地部の地形的分化……台地上で削平・整地を行う中で、建物を建てる場と水資源の利用を行う低地（湿地）との区別をしたことが考えられる。

⑧集落の内と外の境界……このことが最も大きな役割の一つと思われる。建物跡群を環状に近い形で盛土遺構がめぐっており、「ムラ」としてある程度完結した姿をしている。盛土遺構が切れている部分が「ムラ」の出入り口のような役割を果たしていたと考えられ、西側では低地へ、東側の周堤墓付近では丘陵やその麓へと向かう道があったと想定される。また集落構成員の意識として、盛土遺構が精神的にもウチの世界と外の世界を分けていたと考えられる。

盛土遺構は、単に排土場や「捨て場」としてだけでなく、居住空間の一部として物理的にも精神的にも生活に密接に関係していたものとみられる。

（４）焼土

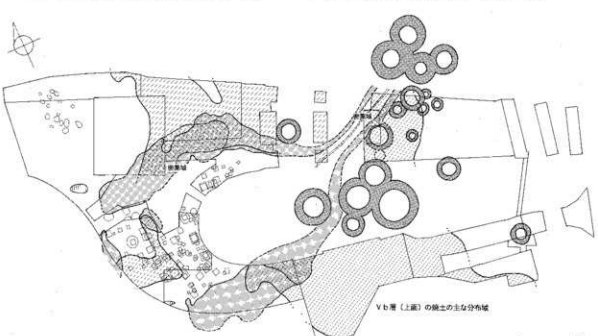
キウス４遺跡全体で5,721ヵ所の焼土を検出した。時期が明確に判断できるものは少ないが、検出層位と周辺の出土遺物から、縄文時代後期後半に属するものが大部分であるものと見られる。ただしＶｂ層の中ほどから下位にかけては縄文時代早期後半に属すると見られる焼土も多く含まれている（Ⅱ章－２）。ここでは、縄文時代後期後半のもののうち、住居の炉や盛土遺構で検出された焼土を除く、主にＶｂ層上面で検出された焼土について記述している。

分布の特徴　焼土の主な分布域を図Ⅱ－17に示した。遺跡中央部から東側の台地上に多く分布しており、特に南側盛土遺構の東（Ⅰ地区）がやや密度が高い。そして周堤墓群付近の東側はほとんど焼土がない。一方西側は標高6.7ｍを境に低地側には焼土がみられない。当時の湿地帯との境界を表しているものと考えることができる。そして直線状盛土や北側及び南側盛土遺構の直下に特に密集している。逆に建物跡群のある範囲は、一部に焼土が見られるもののその数は少ない。これは、土地の削平を含む整地行為によって多くの焼土が消滅したものと考えられる。密度の差はあるものの、以上の領域に全面的に焼土が形成されていたとみられる。

構造の特徴　規模は径10cm程の小型のものから６ｍを超える大型のものまでさまざまであるが、30～40cm程度の小型のものが大部分を占めている。厚さは最大で15cmを超えるものがあるものの、１～２cmの非常に薄く被熱したものが多い。平面形は不整形なものが大部分で、多くの焼成箇所が集合したものもみられる。色調は暗褐色～極暗褐色のものがほとんどで、盛土遺構中の焼土などと比べて明らかに明度が低い。また中央部にやや高い明度をもち、周囲へと漸変する焼土が多い。ただし盛土直下の焼土の一部には乱れた色調を示すものがあり、土地の造成により移動したものや流れ込みのものが含まれているものとみられる。

以上のような形状や色調から、焼土の大部分はその場で焼成されたものと考えられ、集落造成のための野焼きなどの行為が行われた可能性がある。なお、Ｖｂ層焼土は主に以下に記載されている。

- 『キウス４遺跡（２）』p.184～194
- 『キウス４遺跡（３）』第１ p.369～415
- 『キウス４遺跡（５）』p.147～164
- 『キウス４遺跡（６）』p.249～260
- 『キウス４遺跡（７）』第１ p.179～192
- 『キウス４遺跡（８）』第１ p.315～320



図Ⅱ－17　主な焼土分布域（縄文時代後期後半）

（５）水場と水資源の利用

キウス４遺跡周辺には、近年まで遺跡の南約100mにキウス川、西約100mにオルイカ川（現第十五号排水川）が流れていた。そしてキウス４遺跡の西部は標高７m以下の低地が広がり、珪藻分析の結果などからも河川の氾濫原などの湿潤な環境を呈していたとみられる。そして調査の結果、窪地や流水跡といった自然地形が確認され、それに伴う人為的な痕跡を検出することができた（図Ⅱ－18）。

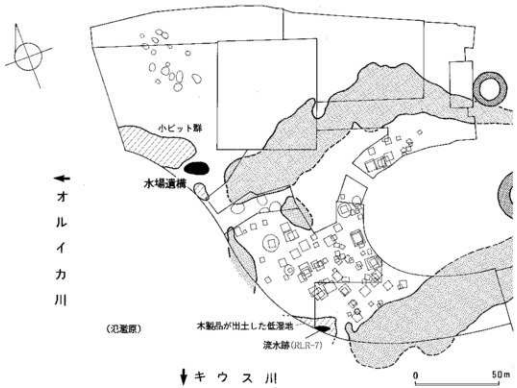
水場遺構付近（図Ⅱ－19上段）　『キウス４遺跡（３）』第１p.81～111ほか

北側の低湿地では、径２m前後で不整形、深さ1.5m前後の土壙群がある。覆土には鉱澗式の新段階から堂林式古段階の土器、石器や木製品が密集する。周囲に明瞭な遺構がないが、壙底付近からの湧水を利用した水場遺構とみられる。また、水場遺構の西側と南側に杭の残るものも含めた小ピット群がある。報告ではこれらの所属する時期や性格は不明としているが、水場遺構と同一面で検出されていることやその位置関係から、何らかの関連があるものと考えられる。

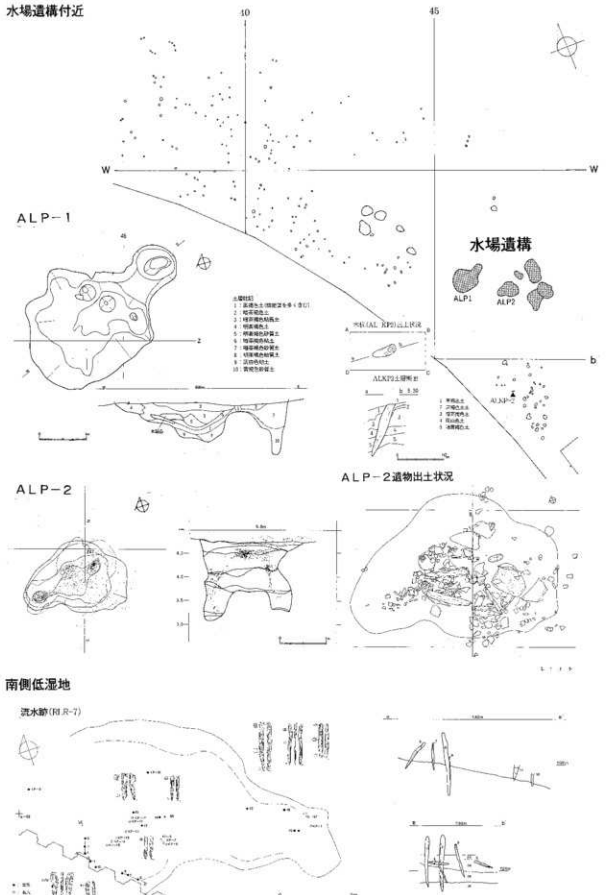
南側低湿地（図Ⅱ－19下段）　『キウス４遺跡（９）』第２ p.1～106ほか

小規模な流水跡（RLR-７）から杭列が検出され、覆土や上位の堆積層（Ｖｄ層）から脚付容器などを含む木製品・繊維製品が多数出土している（Ⅱ章－４（３））。杭列２列（10点）、単独の立杭９点が出土した。また杭穴が10ヵ所検出された。杭列は流路に対し直交するものと斜方向に並ぶものがある。長さ20～150cmの杭が大部分は垂直に刺さっている。また短い横木のような杭もみられる。杭穴は流路に対し斜方向２列並んでおり、同様の杭状の木製品が刺さっていたものと思われる。同時にどの程度の杭列が存在したかは不明だが、積極的に解釈すれば水資源利用のための足場の施設や小規模な漁の仕掛けなどが想定される。

この流水跡は南のキウス川の氾濫原で分流していたものと考えられ、Ｖｄ層が堆積するまでの短期間に小規模に利用されていたと考えられる。そして、周堤墓や建物跡、盛土遺構などが営まれている間は、キウス川や北側の低湿地などで引き続き水資源の利用が行われていたと考えられる。



図Ⅱ－18　水資源利用の場



図Ⅱ－19　水場遺構・南側低湿地

２．縄文時代早期後半～前期前半の遺構

キウス４遺跡の主体時期は縄文時代後期後半であるが、次に多くの遺構群がある時期が縄文時代早期後半～前期前半である。検出された遺構は、竪穴住居跡23軒・土壙66基・柱穴状ピット114基、焼土が少なくとも100ヵ所以上である。遺構の大部分は遺跡西部の低地側に集中している。

遺跡西部の住居跡・土壙群

『キウス４遺跡（３）』第１p.44～80・112～146、『キウス４遺跡（４）』p.61～170に記載がある。特に『（４）』p.219～223には、地形と集落の分布域の関係を中心とした考察がある。

標高６ｍ前後の平坦面から竪穴住居跡21軒・土壙57基・柱穴状ピット114基、焼土87ヵ所、掘上土８ヵ所を検出した。竪穴住居跡は確認面長軸径2.0～7.3mとさまざまであるが、径３～４ｍの小型で円形のもの（図Ⅱ－20のALH-10例）と、長軸７ｍを超える大型の隅丸長方形の住居跡（図Ⅱ－20のALH-３例）の２つの形態に大きく分けられる。前者は早期後半～前期前半、特に早期後半中茶路式が多く、後者は前期前半のものと判断される。なお、炉は検出されないものが多く、壁柱穴などの付属施設をもつものともたないものがある。土壙は確認面長軸径0.2～2.4m、深さは10～60cmとあるが、径１ｍの浅い掘り込みの土壙が多い。

標高５ｍ付近の北部の尾根上において、焼土と柱穴状ピットが南北に列をなしている。焼土は東側の列と西側の列に差がみられ、前者はよく焼けており焼骨片が多数出土し、後者は焼けが弱く焼骨片が少ない。シカ・サケなどの動物骨が出土し植物遺体が出土していないことから、動物質食料の加工に伴って形成された焼土と考えられている。出土した遺物は早期後半～前期初頭で他の遺構群と同様の時期であり、住居跡に伴う屋外炉である可能性を示唆している。また柱穴状ピットは焼土に伴う小規模な施設を構成していたと考えられている。

珪藻分析などから、平坦面およびその周辺の環境が陸域から湿潤化していく結果が得られている。そのような中で、低位の早期の遺構が埋没し遺物が流され、前期には斜面に木製遺物がとどまり、後に低地側に全面的に泥炭が堆積していく様子が想定されている。

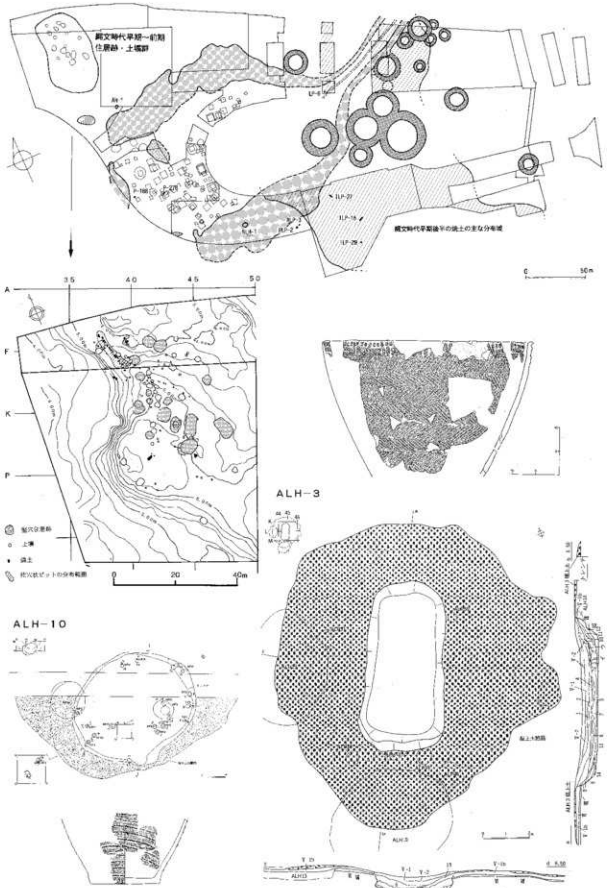
遺跡東部の焼土群

周堤墓周辺（Ｄ・Ｅ地区）やその南側（Ｉ・Ｊ地区）には、焼土がやや密に分布する範囲がある。その多くは前述の通り縄文時代後期後半に属するとみられるものであるが、Ⅴｂ層中～Ⅵ層から検出されたものの中には、周辺の遺物などから縄文時代早期後半のものと思われるものが多く分布している。規模は小さく、被熱層が薄いものがほとんどである。

縄文時代早期後半の遺物は焼土の分布域にほぼ一致しており、南北の分布域の間（周堤墓Ｘ－１～６のある範囲）が主体部と予想される。このことから『キウス４遺跡（５）』において、「早期末葉の時期の集落はこの地域に存在した可能性があ」り、後期後半の人々が「周堤墓を構築する際に、労力を節減するために住居跡のくぼみを利用したのでは」ないかという点を芝田が指摘している。

その他の遺構

広域に遺構が散在している。住居跡は後期の水場遺構の東側で１軒、南側盛土の範囲の下位から１軒検出されており、いずれも小型の円形のものである。土壙は北部のＥ地区で１基、南部のＩ地区で３基、Ｒ地区で２基、西部のＱ地区で２基が挙げられている。Ｉ地区の土壙のうち２基はＴピットである。この他にも「時期不明」とした土壙の中にも縄文時代早期後半に属するとみられる土壙が複数含まれていると思われる。



図Ⅱ－20　縄文時代早期～前期の遺構

３．その他の時期の遺構

＜旧石器時代＞

北西部のＡ２地区で掻器や剥片が出土したが、焼土や炭化物集中などの遺構は確認されなかった。

＜縄文時代中期後半＞

遺構が散在する。南部のＲ地区では、傾斜面との境界付近から径４ｍほどの円形の竪穴住居跡が検出されている。床面壁際に上面に炭化物が集中し、その下に円形の掘り込みがある。年代測定値や出土遺物から柏木川式期のものとみられる。南西部のＱ地区でも竪穴住居跡が２軒検出されており、例示した（図Ⅱ－21）。楕円形で長軸3.9m掘り込みはやや浅く、長軸上のやや南寄りに地床炉をもつ。床面から柏木川式土器が出土している。北西部のＡ１地区では遺構は確認されなかったが、緑色泥岩の石斧およびその原材23点などが集中して出土した地点がある。はさまれた土壌の年代測定値から縄文時代中期後半に属するとみられる。さらに遺跡の北部、市道の歩道造成工事に伴う範囲（千歳市教育委員会調査）からは、焼失家屋とみられる竪穴住居跡が検出され、床面から柏木川式土器や石器類が出土している。

＜縄文時代後期前葉＞

北部の北側盛土遺構下付近（Ｇ地区）において、「竪穴状遺構」が６基検出された。上端長径は3.7～8.3mと差があるが、概して大型で浅い掘り込みの皿状の遺構である。中には余市式の土器囲い炉を伴う竪穴住居とみられる遺構がある（図Ⅱ－21）。また、覆土に厚さ20cmをこえる焼土が形成されているものがあるが、これは後に竪穴のくぼみを利用して火を焚いたものとみられる。西部のＱ地区では、長軸2.5mほどの楕円形の浅い土壌が検出され、壁際に土器囲い炉とみられる焼土と土器が確認された。入江式とタプコプ式土器が共伴している（図Ⅱ－21）。また壁際に溝が巡る竪穴住居跡が１軒検出されているが、形態からみて縄文中期～後期前葉に属するとしている。さらに市道の歩道部（千歳市教育委員会調査）からも竪穴住居跡や土壌が検出されている。

＜縄文時代後期中葉＞

遺跡中央部のＤ地区から竪穴住居跡１軒の一部が検出されている。市道の歩道部（千歳市教育委員会調査）では、径１ｍほどの土壌の壌底から手稲式の壺形土器が完形で出土しており、「埋納」されたと考えられている。

＜アイヌ文化期＞

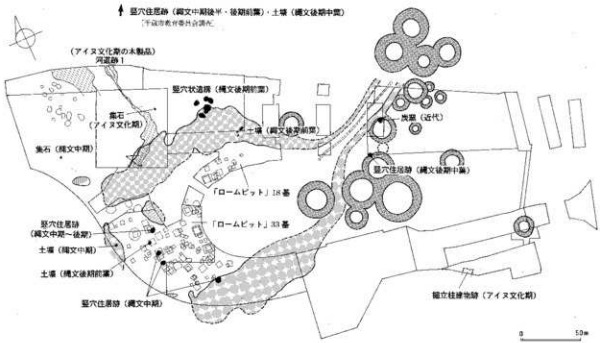
遺跡南東部のＪ２地区から長方形の掘立柱建物跡が１棟検出され、周辺から寛永通宝が出土した。また北西部のＬ地区からＡ２地区にかけての河道跡から、曲げ物の側板や箆状木製品など多数の木製遺物が出土している。Ｌ地区では杭跡が検出され、河川利用に伴う遺構があったと考えられる。また錘石と考えられる小型の楕円体の礫（ピッ）の集中出土地点がある。

＜近代＞

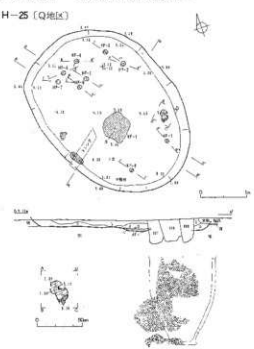
周堤墓Ｘ－10付近から炭窯が検出されている。

＜時期不明＞

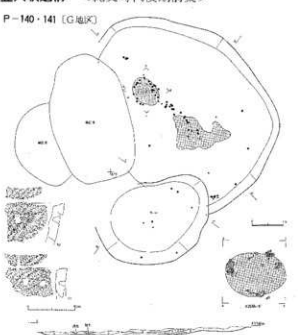
土壌・Ｔピット・柱穴状ピット・焼土など所属時期の不明な遺構も数多く検出されている。図示（図Ⅱ－21）したものは「ローム質埋土の土壌」あるいは「ロームピット」と呼称したもので、50基以上が検出されている。形態は大型の柱穴状ピットに類しており、埋土がほぼ純粋なＥｎ－ａロームで構成されているものである。分布に規則性はなく、遺物を全く含まない。人為的なものかは判断が困難であるが、覆土の堆積は自然であるとみられている。



竪穴住居跡　＜縄文時代中期後半＞

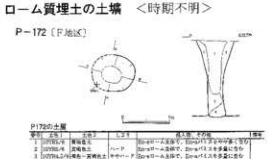


竪穴状遺構　＜縄文時代後期前葉＞



土壙　＜縄文時代後期前葉＞

ローム質埋土の土壙　＜時期不明＞



図Ⅱ－21　その他の時期の遺構

４．遺物

（１）土器・土製品（図Ⅱ－22～24　表Ⅱ－８）

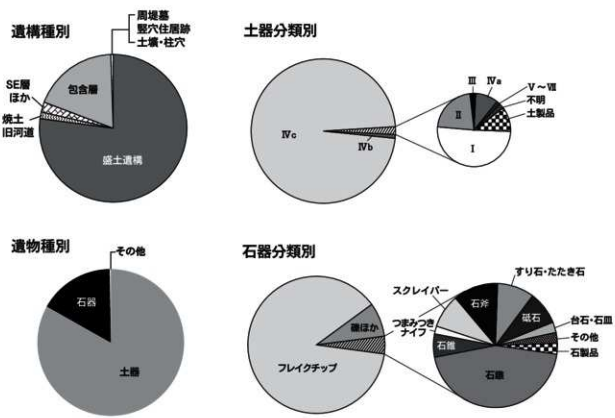
キウス４遺跡からは約500万点（推計重量約20t）もの土器・土製品が出土した。復元した土器は1,500個体を超えている。時期は縄文時代早期前半から擦文時代に及ぶが、主体は圧倒的に縄文時代後期後半で98%以上を占める。他の時期では、縄文早期後半（Ⅰ群ｂ類）が約38,000点、前期前半（Ⅱ群ａ類）が約17,000点、後期前葉（Ⅳ群ａ類）が約8,000点の順に多く出土している。その他の時期は概して少ない。縄文時代後期後葉の膨大な遺物量に比べ、後期末以降は極端に少ないことが大きな特徴である。

遺構から約400万点、包含層から約90万点出土している。遺構出土土器のうち、約380万点は盛土遺構からのもので95%を占める。また包含層でも、盛土遺構に由来するとみられるⅤａ層出土の土器が約30万点を占めており、キウス４遺跡の大部分の土器・土製品は盛土遺構に集中している。盛土遺構以外では、周堤墓が約1,200点、竪穴住居跡が約2,200点、建物跡や土壙墓を含む土壙・柱穴からは約25,000点、盛土遺構中を除く焼土からは約3,000点、削平後の再堆積層である「ＳＥ」層から９万点以上、その他低湿地や旧河道から約77,000点の土器・土製品が出土している。

後期後半の盛土遺構の中から約4,000点の縄文時代早期～後期前葉の土器が出土しており、削平された台地側で各時期において小規模ながら活動がみられた跡であると考えられる。

＜縄文時代早期＞

Ⅰ群ａ類貝殻条痕文土器が北東部のＤ地区からわずかに出土している（『キウス４遺跡（５）』p.185）。Ⅰ群ｂ類では、中茶路式や東釧路Ⅳ式が北部の竪穴住居跡群付近から多く出土している。東釧路Ⅳ式は広範囲に出土しており、遺跡東部にも多い。



図Ⅱ－22　キウス４遺跡出土遺物グラフ（総合）

＜縄文時代前期＞

「花積下層式相当」、綱文、静内中野式の土器が北部の竪穴住居跡群付近から多く出土している。綱文土器は盛土遺構にもいくらか含まれていた。整った羽状縄文が施される土器が多く、全体的には前期の中でも初期のものが多い。縄文早期～前期の土器は、主に以下の報告書に掲載されている。

- 『キウス４遺跡（３）』第１p.152～175
- 『キウス４遺跡（４）』p.112～126、考察 p.223～229

特に考察では、キウス４遺跡出土のⅡ群ａ－１類をａ～ｆに分類し、「美々３式」から静内中野式に相当する土器の編年を掲載している。

＜縄文時代中期＞

Ⅲ群ａ類は萩ヶ岡２式とみられる土器がわずかに出土している。Ⅲ群ｂ類は天神山式（萩ヶ岡３式）、柏木川式、北筒式土器が出土しているが、特に柏木川式が竪穴住居跡などからやや多く出土している。胴部がややふくらみ、口縁部がやや外反する。口唇上に縄文圧痕がみられるものがある。

＜縄文時代後期前葉＞

北部のＧ地区において、土器囲い炉に余市式土器が用いられている。西部のＱ地区の土壙から入江式土器とタプコプ式土器が共伴して出土している（図Ⅱ－21）。入江式は曲線主体の沈線と直線主体の沈線の土器がある。余市式は盛土遺構からもやや多く出土している。器壁は厚く非常にもろい。

＜縄文時代後期中葉＞　❖Ⅲ章－３参照。

ウサクマイＣ式、手稲式、鉈澗式がＶｂ層などから出土している。市道の歩道部（千歳市教育委員会調査）で、径１ｍほどの土壙の壙底から手稲式の壺形土器が完形で出土している。縄文のみが施文されている。鉈澗式、特にその新段階の土器が盛土遺構の下層を主体に多量に出土している。刻みが衰退し突瘤が出現する時期であり、キウス４遺跡において特徴的な土器群である（Ⅲ章－３）。

＜縄文時代後期後葉＞　❖Ⅲ章－３参照。

キウス４遺跡の主体時期であり、堂林式が圧倒的に多い。「三ツ谷式」併行、御殿山式は少ない。

縄文時代中期末～後期後葉の土器分類・編年については、主に以下の考察・まとめがある。

- キウス４遺跡『（２）』p.408～412……後期中葉末～後葉の土器集成・属性分析
- キウス４遺跡『（８）』第１p.408～412……後期中葉～後葉末の編年
- キウス４遺跡『（９）』第２p.262～267……Ⅳ群ｂ－４類・Ⅳ群ｃ－１類の分類

＜縄文時代晩期＞

後期末の御殿山式～晩期前葉の大洞Ｂ式相当がわずかに出土している。また晩期後葉の土器もわずかに出土しており、遺跡東部のＪ３地区から赤彩されたママチ３類の土器が出土している。

＜続縄文時代＞

遺跡北部のＡ２地区の河道跡２から、胴部に鋸歯状沈線の施される恵山式が１個体出土している。また北部のＤ地区の道跡付近からは、後北Ｃ$_1$～Ｃ$_2$-Ｄの土器が出土している。

＜擦文時代＞

遺跡西部のＨ地区と北部のＬ地区・Ｄ地区から坏が出土している。

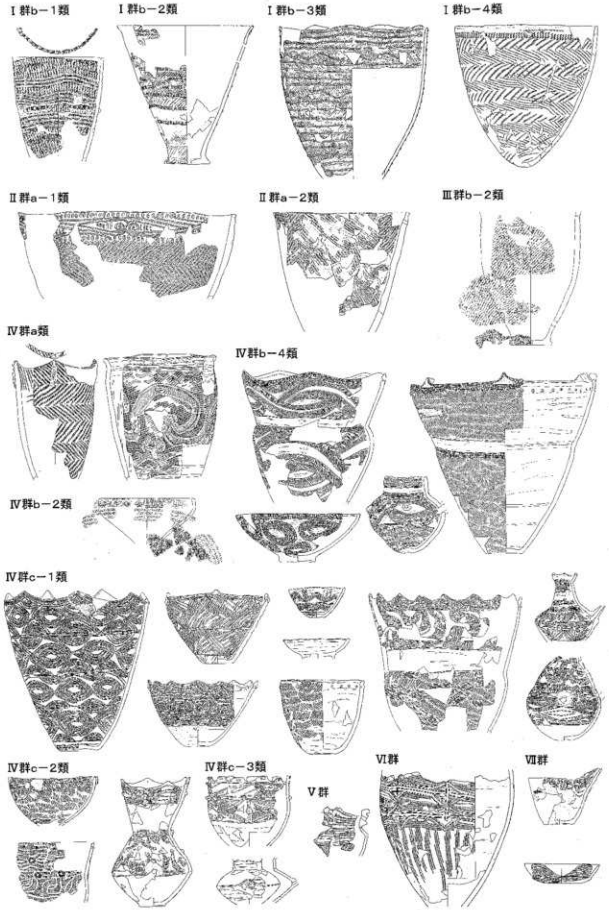
土製品

縄文時代早期の土器片を用いた再生土製円盤１点があるほかは、すべて縄文時代後期後半に属するものであり、豊富な種類の土製品が出土している。特にスタンプ形土製品が特徴的で、主体時期のうち古段階では大型のものが多く、新段階では小型で刺突が主体のものが多い。また道南～東北地方の同時期のものと比較して、土偶が極端に少ないことが特徴である。

表Ⅱ－8　土器等点数集計表

遺構種別	遺構・層位ほか	地区	縄文早期						縄文前期			縄文中期			縄文後期								晩期	続縄文	擦文	土製品			不明	合計
			Ⅰa	Ⅰb	Ⅰb-1	Ⅰb-2	Ⅰb-3	Ⅰb-4	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳb-4	Ⅳc	Ⅳc-1	Ⅳc-2	Ⅳc-3	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	ミニチュア	土製品	焼成粘土		
周堤墓	竪穴	D・Jほか		51				14							947	3			154											1169
	墓壙	D・J		3											33															36
竪穴住居跡		A1		926						131																			1	1088
		A2					37	27		190																				254
		L																	1										9	10
		Q		15										33		3		9	344								1			405
		R		21	1			20						13		248			86	3									25	417
土壙・柱穴		（トレンチ）																	302											302
		A1		176						30					152	2	2		13											375
		A2			4	3	91	1	1662																					1761
		D・E		2											22															24
		F・G			8							4				4529			2722				30				1			7294
		H													10	12	432		565											1019
		I		6															236										3	245
		K																	52											52
		Q		42						9	2		6	129		262	1	244	10463				1				7			11166
		R			5			5		1				2		2		24	1899	341							1		9	2289
溝		Q		10						2								3	147											162
盛土遺構	北側直線状	D・E													9															9
	南側直線状	D・E		27											452															479
	北側盛土	A1													403	1			107								3			514
		H													1	11			984								1			994
		L		1	117			17		8				44		94	2057		136054							24	72	104	1	138595
		F・G	1		114	2		44	2	5		32			5	104	11		711176					6			25	263		711790
	南側盛土	R		255	293	14	5	234		91	10		45	236		811	72	17225	2687709	168300						163	596	6361	469	2882892
		I		96						2		2		3		273	3368		12540								5	1	7	16297
	盛土	Q		196						11			11	80		62	12	150	19874				1				6			20402
焼土		A1		29						9					6				8											52
		A2				6	85	4		245																				340
		DEJ	8												26															34
		F・G			1											1			279											281
		I		65															38										4	107
		K																									1			1
		L								4				1		6	12		324											347
		Q												5		3		2	349											359
		R			3											1	1	39	1057	186								2	6	1295
旧河道		A2		2						1									82				3	7						95
		L			9			1		1				3		7	208		69028				1		4	105	26	27	1	69421
		R		11	22			68		9			4	35		9	3	132	1164	174									9	1640
その他	水場遺構	A1													1909	2	55		346								1			2313
	南側低地部	Q		1						5			11	7		24	19	189	2863											3119
		R		2	5	1		4		17			9	23		23	22	767	12802	1740							3	4	6	15428
	SE層	F																	74704											74704
		R		2	9			8		9				74		2	1	58	11638	1209	1						2	5	3	13021
包含層		（トレンチ）						59								3			18951				58				2		28	19110
		A〜E・J	26		9	1	5	9161	5	5		240		2		22	93		8154				12	252	26		9			18022
		A1		16797						8922		3			105022	219	437		13469				116	26	2		3		1525	146541
		A2	4	4	18	412	3054	1348		5060			8	4		88	4		1108				1							11113
		F・G	1	1	24		1	19	1	131		14				815	3		73093				1		34					74138
		H		20											4	13	3911		32074						11		1			32123
		I		3143						2	1	4		20	42	4	5034		14111						5		9		98	22526
		K		10													1210		9675						5		3			10903
		L		14	313			53		5				43		123	885		136755				1	1	23	22	33	72	19	138362
		Q		35						22			26	264		136	5	293	69530								17			70308
		R		53	189	9	4	146		20	1		4	36		59	2	748	264209	28054	12	8			4	13	35	113	34	293752
総計			40	22015	1144	448	3282	11233	1670	14947	14	299	124	1057	109043	7967	17860	19883	4401229	200007	13	8	225	292	114	327	863	6952	2257	4823313

＊砕片点数の数え方の違いで表Ⅰ－２と異なる数値のものがある。


Ⅰ群b－1類
Ⅰ群b－2類
Ⅰ群b－3類
Ⅰ群b－4類
Ⅱ群a－1類
Ⅱ群a－2類
Ⅲ群b－2類
Ⅳ群a類
Ⅳ群b－4類
Ⅳ群b－2類
Ⅳ群c－1類
Ⅳ群c－2類
Ⅳ群c－3類
Ⅴ群
Ⅵ群
Ⅶ群

図Ⅱ－23　各時期の土器

図Ⅱ－24　主な土製品［縄文後期］

（２）石器・石製品など（図Ⅱ－22・25・26　表Ⅱ－９）

キウス４遺跡からは約100万点（推計重量約５t）の石器・礫・石製品が出土した。伴って出土した土器から、主体時期は縄文時代後期後半であるが、旧石器時代～続縄文時代の各時期にわたっている。

遺構から約75万点、包含層から約20万点出土している。遺構出土石器等のうち、約70万点は盛土遺構からのもので95%を占める。また包含層でも、盛土遺構に由来するとみられるＶａ層出土の土器が約５万点を占めており、土器と同様にキウス４遺跡の大部分の石器・石製品は盛土遺構に集中している。盛土遺構以外では、周堤墓が約950点、竪穴住居跡が約1,600点、建物跡や土壙墓を含む土壙・柱穴からは約7,000点、盛土遺構中を除く焼土からは約1,400点、削平後の再堆積層である「ＳＥ」層から２万点以上、その他低湿地や旧河道から約16,000点の石器・石製品が出土している。

器種別では、フレイクチップが83万点余り（Ｒ・Ｕフレイク含む）で87%を占め圧倒的に多く、礫・原石などが約74,000点で８%、残り５%が定形的な石器である。定形的な石器の中では、石鏃が約40%を占め最も多い。盛土遺構では石鏃が50～60%を占める層位がある。次いで石斧が約4,700点、スクレイパーが約3,700点、砥石が約3,400点、たたき石が約3,000点、石錐が約2,400点の順に多い。

石材は、剥片石器では黒曜石が大部分であり、頁岩や珪質頁岩は石錐などに多くみられる。礫石器のうち、石斧などの磨製石器は緑色泥岩・泥岩が主体で、蛇紋岩や片岩などもある。砥石は砂岩が主体で、それ以外の礫石器は以上の石材のほか安山岩や片岩・珪岩など、用途に適した石材が選択的に使用されているようである。

以下に特徴的な石器等について記載する。

＜石鏃＞

縄文早期に多い柳葉形や小型の五角形のもの、縄文前期に多い「三角鏃」などもみられるが、縄文後期の土器に伴う石鏃で最も多いものは、有茎でかえしが平基の扁平で鋭利な形態をもつものである。

＜石斧＞

打製石斧は主に縄文早期後半～前期前半の土器が出土する範囲にある。縄文中期とみられる石斧集中の中にも打製・磨製両者が出土している。後期後半は磨製が大部分で、全面磨製のものも数多く出土している。完形で出土したものは小型のものを除いてほとんどない。なお、扁平な石斧の中央部付近を擦り切ったものやその途中のものも前期や後期の土器に伴って出土している。

＜たたき石・すり石＞

たたき痕とすり面の両者が見られるものも多く出土している。特にカンラン岩や片麻岩などが石材の、側面がすり面の車輪形のすり石（たたき石）が特徴的で、数多く出土している。

＜その他＞

細石刃２点、掻器４点など旧石器がわずかに出土している。Ｄ地区では縄文早期に属する石刃鏃が１点出土している。また石錘が縄文早期後半～前期前半の土器が出土している遺跡北部のＡ１・２地区や北東部のＤ地区、西部のＨ地区から出土している。集中出土はない。

つまみ付きナイフは縦長のものが多いが、石匙状のものも見られる。

石製品

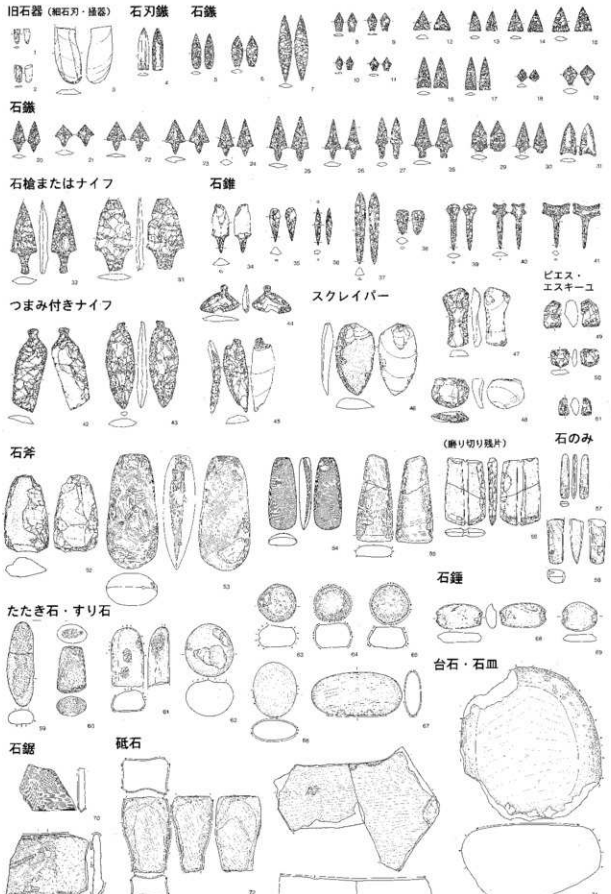
縄文時代前期の土器に伴うもの（玦状耳飾の一部とみられる垂飾など）がわずかに出土しており、それ以外のほぼすべてが縄文時代後期後半に属するものである。この時期に特徴的なものは、異形石器・石棒・オロシガネ状石製品である。石棒は完形で出土したものはない。また、玉類や垂飾などの装飾品が豊富にあり、ヒスイやカンラン岩・蛇紋岩・滑石など多種の石材が用いられている。

（阿部）

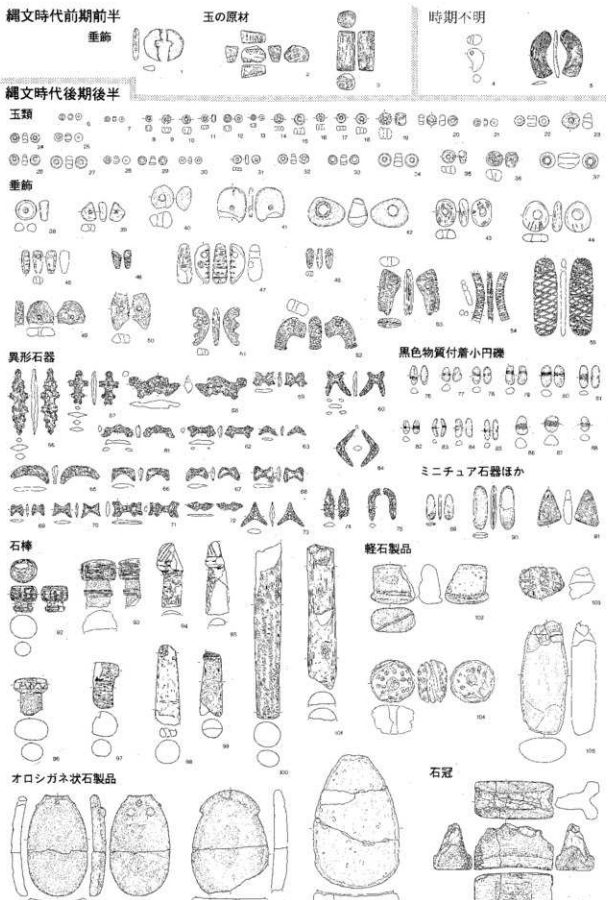
表Ⅱ－９　石器等点数集計表

遺構種別	遺構・層位ほか	地区	旧石器	石鏃	石槍・ナイフ	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	石斧	石のみ	たたき石	すり石	石鋸	砥石	台石・石皿	石錘	Rフレイク	ピエス・エスキーユ	Uフレイク	加工痕のみられる礫	石核	原石・石器素材	フレイクチップ	礫	石製品	その他	合計
周堤墓	竪穴	D・Jほか		6	1		1	2	6		4	1		25			1		1				86	601	1		736
	墓壙	D・J		21					1														29	158	8		217
竪穴住居跡		A１		9			1	7	9		4	6		2	6		11		1	1			287	41			385
		A２		1			1		5					3									15	25			50
		L																					3				3
		Q		8		2	1	1	4		6	3		3	7		3					1	1086	18			1143
		R				1						1	1	3			3						32	14			55
土壙・柱穴		（トレンチ）		1				2	6		1			2			5			1			59	7			84
		A１		2			2	2			1	5		1	1		4			1			29	14			62
		A２		5		1	2	2	4						2								29	49	1		95
		D・E		3																			6				9
		F・G		44	10	5		14			28	5		9	12		32				1		1090	191			1441
		H		4		5		1	4		2			5	3		4		4				188	120			340
		I							2		1	1					1						965	7			977
		K		4		1		3	1		1			1	1		4		2				189	20			227
		Q		70	5	11	4	11	101		53	11		8	116		15		2		4		2222	568	3	3	3207
		R		15				9	11		12	10		3	10		38					15	531	64			718
溝		Q		2																		2	19	9			32
盛土遺構	南側直線状	D・E		8				1	4		4			5									11	55	4		92
	北側盛土	A１		10	1	1		2	3		1			5	1		9		1			1	1357	62			1454
		H		12	2	1		2	11		1	1		14	5		3		1				505	67	3	1	629
		L		627	28	128	26	132	268		143	13	22	458	110		741		255		32	162	19716	4068	87		27016
		F・G		2872	87	258	61	468	549		743	180	3	616	30	2	663	4			10	733	99810	10546	175	13	117823
	南側盛土	R		9538	73	1462	339	1733	1119	42	702	97	27	1039	213		3621	52	2584	721	246	1219	501640	19342	608	247	546664
		I		87	1	13	5	12	34		7	9		8	1		29		8		4	20	936	429	2		1605
	盛土	Q		79		12		15	116		15	3		17	12		11		7	1	32	17	3725	1443		4	5509
焼土		A１																					3	1			4
		A２		19			1	5	15			3					11						126	35			215
		DEJ		1																			1	5			7
		F・G		5					1					1			3						657	11			678
		I					2	1															55	14			72
		K																									
		L		5					2					2									67	42			118
		Q		2					2						1						1	2	71	20	1		100
		R		3				2	2			1		5	2		5					1	84	54	1		160
旧河道		A１		33	1	5	2	2	23	2	26	16	2	31	21	1	11			25	6	12	4454	293	3		4969
		A２		7			1	1	6		3	2					3				1		30	80		1	135
		L		336	4	57	9	39	56		38		2	41	6		357		147		12	55	8658	775	22		10614
		R		5	2			5	4		2	3		1	5		8	3	3			38	241	49	2		371
その他	水場遺構	A１									1												102	55			158
	南側低地部	Q		6			5	3	14		11			6	14		5		1		2	11	359	197	2		636
		R		20	1	6	4	12	33		79	24		68	46		36		16	22	2	16	965	1257	5		2612
	SE層	F		288	9	13	5	38	17		46	4		7			50	5				107	13905	3008	8	1	17511
		R		55	1	8	8	24	29		13	1		18	2		69		25	5	3	34	1890	457	1		2643
包含層		（トレンチ）		96	10	24	14	42	134		48	24		44	6		149	6	8	1	13	16	2159	501	2		3297
		A～E・J	2	209	5	5	65	157	80		53	46		49	2	2	32	2	56		8	19	5962	1220	4	1	7979
		A１		370	21	41	81	94	251	6	100	237	12	158	181	4	144	1	1	134	17	73	27427	3232	20		32605
		A２	5	203	4	24	51	123	642		26	79		91	48		83		17		27	2	4154	1763		13	7355
		F・G		826	48	85	14	204	255		350	108	1	205	8		336	1			7	376	20983	2801	40	1	26649
		H	1	116	20	18	5	18	88		41	5		171	30		120		12		4	18	4874	1547	6	21	7115
		I	1	114	4	7	26	93	51		22	17	1	27	5		85		12		12	10	21536	762	6		22791
		K		16		6			6		2			7	1		4		5	1			617	3			668
		L		502	12	77	15	67	177		125	6	57	83	101		577		368		32	163	15093	3031	30		20516
		Q		299	6	29	9	63	314		128	40		42	131	8	27		5	2	102	197	12429	3599	11	9	17450
		R		1178	10	114	87	242	232	5	145	27	4	160	44		721	3	422	231	34	280	38896	5816	56		48707
総計			9	18142	366	2420	847	3654	4692	55	2988	989	132	3444	1184	17	8034	77	3964	1146	612	3600	820363	68546	1112	315	946708

※砕片点数の数え方の違いで表Ⅰ－２と異なる数値のものがある。


旧石器（細石刃・掻器）
石刃鏃
石鏃
石鏃
石槍またはナイフ
石錐
つまみ付きナイフ
スクレイパー
ピエス・エスキーユ
石斧
（敲り切り残片）
石のみ
石錘
たたき石・すり石
台石・石皿
石鋸
砥石

図Ⅱ－25　石器各種


縄文時代前期前半
垂飾
玉の原材
時期不明
縄文時代後期後半
玉類
垂飾
異形石器
黒色物質付着小円礫
ミニチュア石器ほか
石棒
軽石製品
オロシガネ状石製品
石冠

図Ⅱ－26　主な石製品

（３）木製品

１）木製品総括（表Ⅱ－10）

キウス４遺跡から出土した木製遺物にはアイヌ文化期、縄文時代後期後半、同早期後半から前期前半のものがある。以下、時期別に出土状況を概観してみる。

アイヌ文化期のものはL地区、H地区、Ａ２地区から出土している。A.D.1739年に降下した樽前ａ火山灰（Ta-a）直下のⅢ層上面で検出された河道跡などから出土している。主なものとしては樽側板（スギ）、杭（コナラ属、トネリコ属）、建材（コナラ属）、板材片（トウヒ属、オニグルミ）、櫂ミニチュア（スギ）、漆容器片（ブナ属）などがある。スギやブナ属は道央部では自生していないので交易品と思われる。

縄文時代後期後半のものは、Ａ１地区、R地区から出土している。R地区ではQ地区との境にある流水跡RLR-７の低地部から脚付舟形容器（トネリコ属）、石斧柄（コナラ属）、槌状木製品（カエデ属、コナラ属）、杭（コナラ属ほか）、簾状製品（不明）などが出土した。樹種同定の結果、木製品の器種により樹種を選択している様子がうかがわれた。

Ａ１地区では北側盛土遺構西端の北西緩斜面下の低地部から出土した。Ａ１地区の水場遺構（ALP－１～４）が分布する範囲を中心としたところである。主なものとしては朱漆塗容器片（トチノキ属）、

表Ⅱ－10　キウス４遺跡樹種同定結果（時期別）

樹種名				アイヌ文化期		縄文後期後半		縄文前期前半		旧石器時代		合計	備考（推定樹種）
	科名	属名	種名	点	(%)	点	(%)	点	(%)	点	(%)	点	
針葉樹	いちい	イチイ	イチイ	1	1.0							1	
		モミ		1	1.0							1	トドマツ
	まつ	トウヒ		4	3.9							4	エゾマツ、アカエゾマツ
		カラマツ								23	100.0	23	ダイマツ
	すぎ	スギ	スギ	6	5.8							6	
広葉樹	やなぎ	ヤナギ		20	19.4	17	5.2					37	エゾノカワヤナギ オノエヤナギ バッコヤナギ
	くるみ	クルミ	オニグルミ	5	4.9							5	
	かばのき	クマシデ				3	0.9					3	サワシバ、アカシデ
		ハンノキ		11	10.7	5	1.5	7	6.0			23	ハンノキ、ケヤマハンノキ
	ぶな	ブナ		1	1.0							1	ブナ、イヌブナ
		コナラ		25	24.3	149	45.8	51	43.6			225	ミズナラ、コナラ、カシワ
	にれ	ニレ		2	1.9	5	1.5					7	ハルニレ、オヒョウ
	くわ	クワ				1	0.3					1	ヤマグワ
	かつら	カツラ	カツラ			1	0.3					1	
	もくれん	モクレン		1	1.0	1	0.3					2	ホオノキ、キタコブシ、コブシ
	ゆきのした	アジサイ	ツルアジサイ	1	1.0	2	0.6	1	0.9			4	ノリウツギ
			ノリウツギ			4	1.2	5	4.3			9	
	ばら	サクラ		2	1.9	10	3.0					12	エゾヤマザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、エゾウワミズザクラ
	まめ	イヌエンジュ	イヌエンジュ			1	0.3					1	
		ハギ				1	0.3					1	エゾヤマハギ
	みかん	キハダ				2	0.6	2	1.7			4	キハダ、ヒロハノキハダ
	にがき	ニガキ	ニガキ			1	0.3					1	
		ツルウメモドキ		3	2.9							3	
	にしきぎ	ニシキギ				2	0.6					2	ニシキギ、マユミ、ツリバナ
	かえで	カエデ				14	4.3					14	イタヤカエデ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ
	とちのき	トチノキ				4	1.2					4	
	ぶどう	ブドウ	ヤマブドウ			2	0.6					2	
	うこぎ	ハリギリ	ハリギリ	1	1.0	9	2.8					10	
		トネリコ		16	15.5	74	22.8	47	40.2			137	ヤチダモ、アオダモ
	もくせい	ハシドイ		1	1.0	4	1.2	1	0.9			6	ハシドイ
	すいかずら	ニワトコ		1	1.0	10	3.0					11	エゾニワトコ
その他				1	1.0	3	0.9	2	1.7			6	
合計		（23科30属）		103	100.2	325	99.5	117	100.2	23	100.0	568	

朱漆塗丸木弓片（ニシキギ属）、尖頭木製品（コナラ属、トネリコ属）、串状木製品（トネリコ属、アジサイ属）、楔状製品（カエデ属）などがある。朱漆塗容器片の樹種はトチノキ属であり、道央部では自生していないことから搬入品の可能性がある。

縄文時代前期前半のものはＡ１地区、Ａ２地区から出土した。キウス４遺跡の中では最も西端にあたる標高4.0～4.5mの低地部分である。あまり明確な木製品は出土していないが、器種としては尖頭加工棒（アジサイ属）、割材（コナラ属）、丸木材（トネリコ属、ハンノキ属）、杭状製品（ハシドイ属、トネリコ属）、板材片（コナラ属、トネリコ属）などが出土している。コナラ属、トネリコ属の炭化材などが目立って出土する特徴がある。

このほか旧石器時代の木質遺物がＡ２地区から出土している。縄文時代前期前半の木製品が包含される層の下位から出土しており、すべてカラマツ属と同定された。地層や年代からおそらくグイマツと推定されている。

キウス４遺跡の調査で出土した木質遺物の樹種同定結果の一覧を表Ⅱ－10に掲載した。これまでに樹種同定を行った木質遺物の点数は571点である。これらの同定結果を時期・樹種別に分けて点数とその時期での割合を示し、備考欄にはその推定される樹種名を記入した。

アイヌ文化期の木質遺物は15科18属、このうち種まで同定できたものが３種類ある。針葉樹はイチイ、モミ属、トウヒ属、スギの３科４属である。スギは樽側板、櫂ミニチュアに利用されている。トウヒ属は板材、モミ属は建材片、イチイは流木として検出されている。広葉樹は12科14属である。コナラ属、トネリコ属、ヤナギ属、ハンノキ属の順に多く出土している。

縄文時代後期後半と同前期前半の木質遺物はすべて広葉樹のみで針葉樹は同定されていない。コナラ属が40%以上を占め、次にトネリコ属が多い。縄文時代後期後半は19科23属でコナラ属が最も多く、次いでヤナギ属、トネリコ属、カエデ属、サクラ・ニワトコ属の順である。時期別では最も多くの樹種が同定されている。縄文時代前期前半は５科６属である。コナラ属が最も多く、次いでトネリコ属、ハンノキ属、ノリウツギの順である。コナラ属とトネリコ属で全体の８割以上を占めている。旧石器時代はカラマツ属のみである。

なお、木製遺物は下記の報告書に記載されている。

- 『キウス４遺跡（２）』ｐ.28～34　　・『キウス４遺跡（３）』第１ｐ.223～242
- 『キウス４遺跡（４）』ｐ.34～60、105～170　　・『キウス４遺跡（９）』第２ｐ.１～106

２）Ｒ地区低地部出土木製品の樹種同定結果について（図Ⅱ－27　表Ⅱ－11・12）

Ｒ地区の低地部から出土した木製品の樹種同定は246点（散孔材２点を含む）について行った。ここではこのうち流水跡RLR－１・５・８とRLR－７、Ⅴｄ層から出土してグリッド単位で取上げた以外の203点について出土地点を図示した（図Ⅱ－27）。ただし、出土地点が不明なもの５点（119・140～142・151）と籠状製品などの下から出土したもの４点（31・83・90・109）については図示していない。

表Ⅱ－11・12は低地部出土木製品のうち樹種同定を行った資料一覧である。図Ⅱ－27は木製品の出土状況図で図中の番号は一覧表の番号と同じである。

樹種同定の結果、最も多い樹種はコナラ属94点（46.3%）である。以下、トネリコ属43点（21.2%）、ヤナギ属13点（6.4%）、ニワトコ属10点（4.9%）、カエデ・サクラ属8点（3.9%）という結果であった。コナラ属とトネリコ属で全体の三分の二を占めている。

木製品はその器種によって使用される樹種が選択されているようである。容器類（トネリコ属）、

表Ⅱ－11　R地区低地部出土木製品樹種同定一覧（1）

番号	樹種名	遺構名ほか	遺物番号	層位	遺物名称	備考	番号	樹種名	遺構名ほか	遺物番号	層位	遺物名称	備考
1	コナラ属	x65-1	17936	V d下	丸木材	79	67	コナラ属	x65-3	18185	V d2	板材	17
2	トネリコ属	w65-11	18076	V d2	柳付容器	未報告	68	ニワトコ属	w65-16	18207	V d2	太枝材	88
3	コナラ属	x65-3	18078	V d2	割材	48	69	ハギ属	w65-16	18208	V d2		
4	トネリコ属	x65-3	18079	V d2	板材	15	70	トネリコ属	x65-3	18209	V d2		
5	トネリコ属	x65-4	18080	V d2	容器片	5	71	ヤナギ属	x65-3	18210	V d2		
6	コナラ属	w65-16	18082	V d2	切片	113	72	ハシドイ属	w65-16	18211	V d2	杭状製品	37
7	ヤマブドウ	w65-16	18083	V d2			73	コナラ属	x65-4	18212	V d2	杭状製品	64
8	ノリウツギ	w65-16	18084	V d2	串状製品	93	74	ヤナギ属	x65-4	18213	V d2		
9	トネリコ属	w65-16	18085	V d2	細枝材	101	75	トネリコ属	w65-16	18214	V d2	板材	8
10	トネリコ属	w65-15	18087	V d2	柳付容器片	1	76	ハリギリ	w65-16	18215	V d2		
11	ニワトコ属	w65-16	18088	V d2			77	樹皮	x65-4	18216	V d2		
12	トネリコ属	w65-15	18089	V d2	抉入部付丸木材	30	78	コナラ属	x65-4	18219	V d14	割材	54
13	トネリコ属	w65-16	18090	V d2	丸木材	76	79	コナラ属	w66-13	18220	V d15		
14	トネリコ属	w65-16	18093	V d2	丸木材	75	80	ニワトコ属	x65-1	18223	V d11		
15	コナラ属	w65-16	18094	V d2	丸木材	85	81	ヤナギ属	w66-13	18224	V d15		
16	コナラ属	w65-16	18096	V d2			82	トネリコ属	x65-2	18225	V d11		
17	トネリコ属	w65-12	18097	V d2			83	トネリコ属	x65-2	18226	V d11	細枝材	103、図示省略
18	コナラ属	w65-15	18098	V d2	丸木材	80	84	コナラ属	x65-2	18227	V d11	丸木材	78
19	ハンノキ属	w65-11	18099	V d2			85	ヤナギ属	x66-1	18229	V d15		
20	トネリコ属	w65-15	18100	V d2	容器片	4	86	トネリコ属	x66-1	18230	V d15		
21	コナラ属	w65-15	18101	V d2	割材	56	87	トネリコ属	x65-4	18231	V d15		
22	カエデ属	w65-15	18102	V d2	槌状製品	29	88	コナラ属	x66-1	18232	V d15		
23	クマシデ属	w65-15	18104	V d2			89	イヌエンジュ	x65-4	18233	V d15	細枝材	112
24	ニワトコ属	w65-15	18105	V d2			90	トネリコ属	x65-1	18234	V d11	杭状製品	65、図示省略
25	トネリコ属	w65-15	18106	V d2	尖頭加工棒	34	91	コナラ属	x65-2	18235	V d11		
26	散孔材	w65-14	18107	V d2	棒状製品	32	92	コナラ属	x65-3	18236	V d11		
27	トネリコ属	x65-3	18108	V d2	容器片	6	93	コナラ属	x65-2	18237	V d11	割材	47
28	コナラ属	x65-3	18109	V d2			94	ヤナギ属	x65-2	18238	V d11	細枝材	108
29	サクラ属	x65-3	18110	V d2			95	トネリコ属	x65-2	18239	V d11	棒状製品	33
30	ヤナギ属	x65-3	18111	V d2	細枝材	106	96	トネリコ属	x65-1	18240	V d11	把手付容器	未報告
31	サクラ属	x65-3	18112	V d2		図示省略	97	トネリコ属	x65-1	18241	V d11	柳付容器	未報告
32	ニワトコ属	x65-3	18114	V d2			98	ハンノキ属	x65-1	18242	V d11	突起付貫口板材	10
33	トネリコ属	w65-16	18115	V d2	杭状製品	43	99	トネリコ属	x65-2	18243	V d11	容器片	7
34	コナラ属	w65-15	18116	V d2	太枝材	86	100	コナラ属	x65-7	18244	V d12		
35	コナラ属	w65-5	18117	V d2	細枝材	107	101	コナラ属	x65-1	18245	V d12	杭状製品	45
36	カエデ属	w65-11	18119	V d2	割材	53	102	コナラ属	x65-3	18246	V d12	太枝材	92
37	サクラ属	w65-15	18121	V d2			103	ニガキ	x65-3	18247	V d12	串状製品	98
38	コナラ属	w65-15	18122	V d2	杭状製品	69	104	ノリウツギ	x65-8	18248	V d13	ヒキリ棒？	97
39	コナラ属	w65-15	18123	V d2	丸木材	84	105	コナラ属	x65-8	18249	V d13		
40	コナラ属	w65-12	18128	V d2	石斧柄	23	106	コナラ属	x65-8	18250	V d13	杭状製品	70
41	コナラ属	w65-11	18129	V d2	石斧柄	24	107	コナラ属	x65-2	18251	V d14		
42	コナラ属	w65-16	18130	V d2	太枝材	90	108	コナラ属	x65-1	18252	V d14		
43	コナラ属	w65-16	18131	V d2	割材	62	109	トネリコ属	x65-1	18253	V d14	割材	61、図示省略
44	コナラ属	w65-15	18132	V d2	太枝材	89	110	ハシドイ属	x65-1	18254	V d14		
45	ハンノキ属	w65-14	18133	V d2	丸木材	77	111	コナラ属	x65-1	18255	V d14		
46	ヤマブドウ	w65-10	18134	V d2			112	コナラ属	x65-8	18256	V d13		
47	コナラ属	w65-15	18135	V d2	杭状製品	38	113	樹皮	x65-8	18257	V d13		
48	クマシデ属	w65-15	18136	V d2			114	コナラ属	x65-8	18258	V d13		
49	コナラ属	w65-13	18162	V d2	槌状製品	25	115	コナラ属	x65-8	18259	V d13		
50	コナラ属	w65-10	18163	V d2	丸木材	82	116	コナラ属	x65-8	18260	V d13		
51	コナラ属	w65-14	18164	V d2			117	コナラ属	x65-8	18261	V d13	切片	114
52	トネリコ属	w65-14	18165	V d2	杭状製品	66	118	コナラ属	x65-8	18262	V d13		
53	トネリコ属	w65-14	18166	V d2			119	コナラ属	w65-13	18268	V d15		位置不明
54	コナラ属	w66-3	18167	V d2	割材	50	120	コナラ属	x65-8	18269	V d14	杭状製品	39
55	コナラ属	w65-15	18168	V d2	角材	19	121	カエデ属	x65-6	18270	V d14	抉入付丸木材	31
56	コナラ属	w65-15	18169	V d2	割材	60	122	サクラ属	x65-2	18271	V d14		
57	コナラ属	w65-11	18170	V d2			123	ノリウツギ	x65-3	18272	V d14	串状製品	95
58	トネリコ属	w65-12	18171	V d2	割材	52	124	コナラ属	x65-2	18273	V d14	割材	57
59	コナラ属	w65-12	18173	V d2	杭状製品	73	125	コナラ属	x65-2	18274	V d14	太枝材	87
60	コナラ属	w65-12	18174	V d2	丸木材	81	126	トネリコ属	x65-6	18275	V d14	杭状製品	42
61	コナラ属	x65-2	18176	V d2	杭状製品	40	127	トネリコ属	x65-2	18276	V d14		
62	コナラ属	x65-2	18177	V d2	細枝材	100	128	トネリコ属	x65-2	18277	V d14		
63	コナラ属	w64-16	18179	V d2			129	カエデ属	x65-2	18278	V d14		
64	コナラ属	w64-16	18180	V d2	割材	63	130	トネリコ属	x65-3	18279	V d14		
65	トネリコ属	w65-16	18181	V d2	細枝材	99	131	トネリコ属	x65-7	18281	V d14	角材	18
66	コナラ属	w65-13	18184	V d2	杭状製品	67	132	コナラ属	x65-8	18282	V d14	杭状製品	44

表Ⅱ－12　Ｒ地区低地部出土木製品樹種同定一覧（2）

番号	樹種名	遺構名ほか	遺物番号	層位	遺物名称	備考	番号	樹種名	遺構名ほか	遺物番号	層位	遺物名称	備考
133	コナラ属	x65-8	18283	Ⅴd14			170	コナラ属	RLR-7	14			
134	コナラ属	x65-7	18284	Ⅴd14			171	コナラ属	RLR-7	15			
135	トネリコ属	x65-3	18285	Ⅴd14	割材	46	172	コナラ属	RLR-7	25			
136	トネリコ属	x65-3	18286	Ⅴd14	細枝材	104	173	ヤナギ属	RLR-7	26			
137	コナラ属	x65-2	18287	Ⅴd14	割材	55	174	コナラ属	RLR-7	27			
138	コナラ属	x65-2	18288	Ⅴd14	板材	13	175	コナラ属	RLR-7	28-1		太枝材	91
139	コナラ属	x65-2	18289	Ⅴd14	杭状製品	⑤	176	ニワトコ属	RLR-7	28-2			
140	サクラ属	x65-7	18290-1	Ⅴd14	串状製品	94。位置不明	177	トネリコ属	RLR-7	29			
141	トネリコ属	x65-7	18290-2	Ⅴd14		位置不明	178	ニワトコ属	RLR-7	30			
142	サクラ属	x65-7	18290-3	Ⅴd14		位置不明	179	コナラ属	RLR-7	31		杭状製品	71
143	コナラ属	x65-8	18291	Ⅴd14			180	コナラ属	RLR-7	32		杭状製品	74
144	カツラ	x65-3	18292-1	Ⅴd14	板材	11	181	コナラ属	RLR-7	34			
145	サクラ属	x65-8	18293	Ⅴd14			182	コナラ属	RLR-7	36		杭状製品	72
146	コナラ属	x65-7	18295	Ⅴd14			183	コナラ属	RLR-7	37			
147	カエデ属	x65-8	18296	Ⅴd15	杭状製品	26	184	ニワトコ属	RLR-7	40			
148	ニワトコ属	x65-3	18299	Ⅴd14	細枝材	105	185	コナラ属	RLR-7	41			
149	クマシデ属	x65-3	18300	Ⅴd14			186	ハリギリ	RLR-7	42-1		有孔板材	9
150	コナラ属	x65-7	18305	Ⅴd14	杭	⑧	187	ハリギリ	RLR-7	42-2		有孔板材	9
151	ヤナギ属	x65-7	18306	Ⅴd14		位置不明	188	樹皮	RLR-7	43			
152	サクラ属	x65-7	18307	Ⅴd14	杭	⑨	189	ヤナギ属	RLR-7	44			
153	コナラ属	x65-7	18308	Ⅴd14	杭	⑦	190	ハリギリ	RLR-7	46		脚付容器片	2
154	コナラ属	x65-8	18309	Ⅴd14	杭	⑥	191	トネリコ属	RLR-7	48		角材	22
155	コナラ属	x65-7	18310	Ⅴd14	杭	⑪	192	ハリギリ	RLR-7	49		容器片	3
156	コナラ属	x65-6	18311	Ⅴd14	杭	⑩	193	ハリギリ	RLR-7	50			
157	コナラ属	x65-6	18312	Ⅴd14	杭	①	194	コナラ属	RLR-7	52		杭	⑱
158	コナラ属	x65-2	18313	Ⅴd14	杭	②	195	モクレン属	RLR-7	53		杭	⑫
159	コナラ属	x65-2	18314	Ⅴd14	杭	③	196	キハダ属	RLR-7	54		杭	⑬
160	コナラ属	x65-2	18315	Ⅴd14	杭状製品	④	197	ヤナギ属	RLR-7	55			
161	ヤナギ属	x65-2	18316	Ⅴd15	杭状製品	68	198	コナラ属	RLR-7	56			
162	コナラ属	RLR-7	2				199	コナラ属	RLR-7	57			
163	トネリコ属	RLR-7	3				200	ヤナギ属	RLR-7	58		杭	⑭
164	トネリコ属	RLR-7	5				201	カエデ属	RLR-7	59-1		杭	⑮
165	コナラ属	RLR-7	7				202	カエデ属	RLR-7	59-2		杭状製品	⑯
166	ハリギリ	RLR-7	9		板材	12	203	カエデ属	RLR-7	59-3		杭状製品	⑰
167	トネリコ属	RLR-7	10		板材	16	204	コナラ属	RLR-7	60			
168	トネリコ属	RLR-7	11		板材	14	205	ニワトコ属	RLR-7	61			
169	コナラ属	RLR-7	13				206	ヤナギ属	RLR-7	63		杭	⑲

＊遺構名ほかは、発掘区または流水跡RLR－7と記入した。
＊備考欄には『キウス４遺跡（9）』に掲載した遺物の図番号を記入した。○数字は杭列、立杭の遺物を示した（図Ⅶ－12～18）。

ニワトコ属、モクレン、キハダ属）などである。

樹種別の分布についてはあまり特徴的なことはみられないが、あえて言うと以下のようなことが指摘できる。

- 多くを占めるコナラ属とトネリコ属は全体に分布している。
- ハリギリは東側にまとまって分布している。
- イヌエンジュ、ノリウツギ、クマシデ属、カツラ、ニワトコ属、ハンノキ属など点数の少ない樹種は分散しており、何らかの木材利用を目的に持ち込まれたものであろうか。
- 狭い範囲内にコナラ属、トネリコ属の他に各種の樹種が集まっている部分がある。
  石斧柄２点（40・41）が出土した１ｍ南東側で長さ約１ｍの板材、杭状製品、丸木材などが東西方向に並んでいる。これらの樹種はトネリコ属（14,75）、ハシドイ属（72）、コナラ属（73）、ヤナギ属（74）などである。比較的多くの樹種が出土していることからここに集められたのではないかという印象を受ける。

図II－27　R地区低地部の木製品出土状況

（４）自然遺物

１）動物遺存体

これまで同定を依頼したキウス４遺跡の動物遺存体資料は、平成８年から10年まで合計2,540件にのぼる。報告書別の依頼件数は表Ⅱ－16のとおりである。資料はキウス４遺跡の主体的な時期である縄文時代後期後半の盛土遺構および盛土焼土から検出されたものが最も多い。この他に、キウス４遺跡西端のＡ１地区、Ａ２地区から検出された縄文時代早期後半から前期前半の資料がある。これらの資料についての個々の報告はキウス４遺跡の各報告書で高橋　理氏によりなされている。またR地区盛土遺構の報告を行った『キウス４遺跡（９）』では遺跡全体の同定作業により同定された動物種を掲載し、キウス４遺跡全体をまとめた報告をいただいている。以下では高橋氏の報告と重複するところがあるかもしれないが、各地区で報告された内容の要旨についてまとめてみることとする。

縄文時代早期後半～前期前半の資料について

平成９年度に調査されたＡ１地区と翌平成10年調査のＡ２地区では、当該期の遺構が多く検出された。これらの地区で検出された焼土遺構からは動物遺存体が回収されている。Ａ１地区では14ヵ所の焼土遺構から動物遺存体が検出された。不明なものが多い中で焼土３ヵ所と包含層からはサケ科の椎骨と歯、ニホンジカが検出されている。翌平成10年度にはＡ１地区の北側に隣接するＡ２地区が調査され、ここでも多くの焼土遺構から動物遺存体が回収された。標高5.0～5.4mの微高地上に焼土群が３ヵ所（ａ～ｃ群）検出された。このうち２ヵ所（ａ・ｂ群）は直線的な配置で互いに平行な位置関係にあり、もう一群は東側の緩やかな斜面に広がるやや規模の大きなもの（ｃ群）である。このうち動物遺存体の出土量が最も多いのはｃ群（LF－107）、次いでａ群である。ｂ群の資料は焼土１ヵ所のみである。同定された骨は魚骨ではサケ科が非常に多く（サケ主体だがサクラマスも含まれている可能性がある）、他にイトウ、アメマス、ワカサギ科、コイ科がわずかにみられる。

獣骨ではシカが比較的多く、ほかにヒグマ、キツネなどのイヌ科動物が少量みられた。またａ群焼土の分布域には柱穴状ピット群の分布が重なることから高橋氏は捕獲動物の処理の場としての施設を推定されている。

縄文時代後期後半の資料について

南北の盛土遺構および盛土中の焼土からは多くの動物遺存体資料が回収された。盛土遺構の資料は土壌水洗により、盛土焼土はフローテーション法により回収されたものである。ただしメッシュのフルイ目は前者が５㎜、後者は１㎜で実施した。盛土遺構の遺物を少しでも多く回収するためにこのような方法で行ったが、その結果、盛土遺構からは５㎜以下の微細な遺物を回収することができず、高橋氏が指摘したように魚骨などは盛土構成土と盛土焼土との間でデータを比較することができないこととなった。

獣骨ではニホンジカが最も多く、次いでイノシシ、ヒグマが検出された。高橋氏によれば「成獣のイノシシが多く確認された。（中略）イノシシの個体群が維持されたらしい。（中略）何らかの形の「飼育」が行なわれた可能性」を指摘している（北埋調報124）。なお、R地区から検出されたイノシシの出土点数は1,915点にのぼり、これまで北海道内で最も多く検出された苫小牧市柏原５遺跡（苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1997）の4,000点を超えるものに次ぐとのことである。

魚骨ではサケ科、コイ科が主体で、サケ科は盛土よりも盛土焼土から出土している。高橋氏によれば出土部位は椎骨が圧倒的に多いことから頭部を切り離されたものが「消費」されている。焼土から

出土していることからサケはヒエ属とともに儀礼的行為が行なわれたのではないかと考えている。そして盛土焼土中からはワカサギ科が検出されていることから冬季後半～春季にかけて遡河し春先に産卵することから焼土の形成時期をこの時期と推定している（北埋調報124）。

キウス４遺跡では平成８年～10年まで調査を行った各地区の動物遺存体資料について高橋理氏に最終的な同定作業と報告を、また資料が多い時には太子夕佳氏、山崎京美氏に同定分類作業を依頼した。毎回、資料が多いにもかかわらず同定分類作業および報告をしていただきお礼を申し上げます。

２）炭化種子

炭化種子についても動物遺存体と同様に平成８年から平成10年までに調査を行ったキウス４遺跡の各地区から資料を検出して吉崎氏、椿坂氏に同定作業と報告をいただき、キウス４遺跡の各報告書に掲載してきた。炭化種子の同定作業を依頼した資料件数は合計665件である。以下、報告いただいた原稿にもとづいて種子、堅果の種類ごとに報告の要旨をまとめてみる。

ヒエ属　縄文時代後期後半の盛土遺構、盛土焼土から出土している。L地区ではすべて脱穀された状態でヒトが意図的に行った。ただし古代人が積極的かつ恒常的に利用していたかどうかは疑問である。栽培された可能性が強いとのことである。R地区の盛土遺構からは509粒得られている。野生のイヌビエより大きく撥文時代のものに近いとのことである。

キク科　キク科の痩果でおそらくヨモギとのことである。何らかの儀礼行動に関係があったらしい。アイヌ民族のヨモギに関する特別な伝統。葬送儀礼との関連をもつものか。アイヌ民族の中では食用、薬用、儀礼用として利用されていた。住居跡からはほとんど出土しないとのことである。

キハダ属　縄文早期からアイヌ民族例に至るまで利用の痕跡が認められている。

アサ　縄文時代の幻覚剤？加熱して煙を吸引？アイヌ民族の例によれば毒キノコ、イケマなどの利用がある（知里1993）。油脂植物なのか繊維植物なのか決定しがたい。

コナラ亜属堅果　コナラ、ミズナラ、カシワの３種類がある。殻斗が共伴しない限り種の決定は困難。堅果の利用としては、その出土例が少なく縄文時代の重要な食糧源になり得たかどうかは疑問（山田1993）とのことである。出土例が少ない理由としては、以下の２点が考えられるという。

① 堅果が緊急時の補完的食糧であった

② 堅果を処理した後の残滓の廃棄場所が通常の発掘場所からずれていた

ヒシ属　日本列島各地に普通に見られ、食されている。アイヌ民族の食糧源として重要であり、特に北海道東部にはヒシに関する説話が多いとのことである。縄文時代から重要な食物であった筈だが、報告例は意外と少ない。

タデ科　アイヌ民族に食用の例がある。タデ科の種子、果実を干して臼で搗き外皮を除き、飯に焚き油脂をつけて食べるケースがある。アカザも同様とのことである（知里1993）。タデ科はどの遺跡からも検出されるのでもう少し詳しく追求する必要があるとのことである。

ニワトコ属　実と若芽は食用になりまた広く薬用にも利用されていた。セイヨウニワトコは発酵させてワインを作ったりワインの色付けに利用（堀田ほか1989）。エゾニワトコに同様の利用例があるかどうか？

3）R地区盛土焼土出土の動植物遺存体について（表Ⅱ－13～15）

R地区の盛土、盛土焼土から検出された動植物遺存体の同定結果については、『キウス4遺跡（９）』においてその報告を行った。ここでは盛土焼土ごとに検出された動植物遺存体両方の結果を掲載し、現場における焼土の観察所見と動植物遺存体の同定結果を比較し特徴的な事柄を引き出してみたい。

植物遺存体について

・種子がまったく検出されなかった資料3件（RMDF-66, RMEF-12, RMWF-29）

炭化種子同定サンプルの抽出にあたっては、少なくとも各盛土焼土から1件ずつ選び種子同定を依頼した。しかし、まったく種子の出土しなかった資料が3件あった。これらの資料は、フローテーションの土壌が他と比較して少なかったわけではなく、いずれも乾燥重量で2kg前後あった。

・キク科とクルミ属が検出されなかった資料17件

キク科とクルミ属はほとんどの資料から検出されているが、この2種類とも出土しなかった資料が17件ある。これらの焼土は概して小型のものが多い。

・キク科の出土量が多いもの27件（0.1ｇ以上、およそ1000粒以上）

このうち0.5ｇ以上（5000粒以上）のものは４件ある（RMVF-16, 23, RMWF-15, RMYF-47）。

・ヒエ属が10粒以上出土した資料14件（内、1件は盛土Ｗコラムサンプル）

このうち30粒以上出土したものは6件（RMDF-1, 48, 50, RMWF-12, 25, 42）ある。焼土の大きさは大型2基（RMDF-1, RMWF-12）、小型4基である。大型のものでは、RMDF-1が長軸７ｍ以上（R地区では最大）、RMWF-12は長軸3.75ｍである。

・コナラ属の出土したもの11件（内、1件は盛土Ｙコラムサンプル）

このうち3件（RMWF-40, 51, 52）からは盛土焼土のほとんどから出土するキク科、クルミ属が出土しなかった。

・ヒシ属の出土したもの5件（RMVF-４，５, RMWF-14, 15, RMYF-20）

RMVF-4, 5はｔ－86区、RMWF-14, 15はｘ－75区、RMYF-20はｘ－76区から検出されている。ヒシ属が出土した焼土の分布はｔ－86区とｘ－75・76区の2ヵ所に分かれるようである。

・クリ属の出土したもの2件（RMWF-14, 盛土Ｄコラムサンプル）

RMWF-14はヒシ属も出土した焼土でｘ－75区に位置する。盛土Ｄコラムサンプルはｒ－84区から採取したものである。この2件は直線距離で約45ｍ離れている。

動物遺存体について（なお魚骨については細かな検討はしていない）

・骨のまったく出土しないもの4件（RMAF-7, RMGF-10, 25, RMJF-7）

・イノシシが10点以上出土したもの3件（RMDF-3, 12, RMWF-14）

・ヒグマの出土したもの1件（RMVF-41）

焼土中からは土器片のほかに石棒の破片が出土している。ヒグマと関連するものであろうか？

R地区盛土焼土出土の動植物遺存体一覧表の説明（表Ⅱ－13～15）

この一覧表は『キウス4遺跡（9）』にて報告したキウス4遺跡R地区の盛土焼土等から出土した動植物遺存体結果の一覧表を編集したものである。動物遺存体は資料の骨片総重量と動物種ごとに破片点数を記載した。植物遺存体は植物種ごとに点数（粒数あるいは破片数）、またはその出土量を下記のようにシンボルマークで表示した。アサ属、ブドウ属の網をかけた数字は破片数を示し、そのほかはすべて粒数である。

キク科　●：1.00ｇ以上　◎：0.50ｇ以上1.00ｇ未満　○：0.10ｇ以上0.50ｇ未満　×：出土なし　＊その他は0.10ｇ未満の出土量

クルミ属　○：1.00ｇ以上　×：出土なし　＊その他は1.00ｇ未満の出土量　　**コナラ属、ヒシ属、クリ属**　○：出土あり

表Ⅱ－13　Ｒ地区盛土焼土出土の動物・植物遺存体一覧（1）

	遺構名	骨片重量（g）	鳥綱	哺乳綱	小型哺乳綱	中型哺乳綱	大型哺乳綱	シカ	イノシシ	イノシシかシカ	ヒグマ	ネズミ	イヌ科	骨角器	ニシン科	ウグイ属	サケ科	コイ科	硬骨魚綱	チョウザメ科	カジカ科	キュウリウオ科	小型硬骨魚綱	アユ	ヤツメ	タナゴ	ツノザメ科	科	甲殻綱十脚目	ヒエ属	アサ	タデ科	キク科	アカザ属	ナス科	ユリ科	マタタビ属	ニワトコ属	ブドウ科	クマシデ属	キハダ属	アサダ属	コナラ属	クルミ属	ヒシ属	クリ属
1	RMAF01	0.06																															×													
2	RMAF02	0.86																															×													
3	RMAF04	3.50																															×											×		
4	RMAF05	0.05																														3												×		
5	RMAF06	0.00																															×													
6	RMAF07																															1												×		
7	RMBF01	0.03																	1														×											×		
8	RMDF01	2.00															35		2											38		7		5												
9	RMDF02	0.00															1																													
10	RMDF03	16.40							14						1		127		2																				1							
11	RMDF04	37.50		12													191	7	91				1																							
12	RMDF05	3.20										1				1	265		173													1														
13	RMDF06	9.40		4	1			3				6				4	685	2	780		2	1		1						1		22		3			2		13					○		
14	RMDF07	0.25		1													2		1												1	5														
15	RMDF08	1.52												1			46		13																											
16	RMDF10	0.01																													1		×													
17	RMDF11	0.59		1													11		4																											
18	RMDF12	3.93							17							1	67																	3												
19	RMDF14	0.43							1								5															1														
20	RMDF16	0.49															6															48	×													
21	RMDF17	0.02																															×													
22	RMDF18	1.02							1								12															34														
23	RMDF19	1.15															34														4			1												
24	RMDF20	0.29															17																													
25	RMDF21	2.26															1		1													1														
26	RMDF22	0.58							2								40															21														
27	RMDF23	2.13															18																×										○			
28	RMDF24	0.16															1															3	×													
29	RMDF25	0.46															9															4														
30	RMDF26	1.41															41																×													
31	RMDF27	0.00																															×													
32	RMDF28	0.52															33															14	×													
33	RMDF29	0.30															1																	3										×		
34	RMDF30	7.71						1	7								21		1																											
35	RMDF31	2.61							7								9																×													
36	RMDF32	0.16																														10	×													
37	RMDF33	0.00															3																×													
38	RMDF34	1.35															21		1													3														
39	RMDF35	1.26															86		4													151		3												
40	RMDF36	1.28							4								5															2	×													
41	RMDF37	0.21															5																													
42	RMDF38	0.62							2								21																													
43	RMDF39	0.67															22															9	×											○		
44	RMDF40	0.56															25		40													101	×													
45	RMDF41	0.34															13		13											3		13					1									
46	RMDF42	0.23															15		28											3		5	○						1							
47	RMDF43	0.18															29		17													2														
48	RMDF44	1.91										1					5		42												2	15				1	1									
49	RMDF45	0.26															7		12											6	3	13		3												
50	RMDF46	0.03																	4											2	5	6								1						
51	RMDF47	2.74																	56													1	×													
52	RMDF48	2.04						1								1	17		12											47									2		1					
53	RMDF49	1.40															13		4														×													
54	RMDF50	0.04															6		5											35	1	5		4												
55	RMDF51	0.81															57		31			2										64	○													
56	RMDF52	0.80		1													25		20											1		19														
57	RMDF53	8.43		3				3									116		36			1						1				1							1							
58	RMDF54	0.07																															×	3												
59	RMDF55	1.75															173		107											1		241		5					1							
60	RMDF56	0.97													1		9		15			2										2	×													
61	RMDF58	1.29		2													65		24													4		1												
62	RMDF59	0.38															13	1	9													5														
63	RMDF60	6.77		3													53		15													2														
64	RMDF61	5.42		12													119		124														×	1										×		
65	RMDF62	3.84															54		32																									×		
66	RMDF63	0.58															34		75		5												×													
67	RMDF64	1.93															56	42	179		10											1							1							
68	RMDF65	0.95															52		116											1			×											×		
69	RMDF66	0.10															4																													
70	RMDF67	10.67						1									33		5														×						1							
71	RMEF01	1.20														1			2													26												×		
72	RMEF02	1.20						1									6		12																											
73	RMEF03	0.39															7		9															1										×		
74	RMEF04	1.60																																												
75	RMEF05	0.83															1																×													
76	RMEF06	0.65															1																											×		
77	RMEF07	0.52														1	9		18																									×		
78	RMEF08	0.50															1															1												×		
79	RMEF09	0.09															11		6													7												×		
80	RMEF10	0.04															5		3													72	×													
81	RMEF11	0.35		1													3		1													4	×						1							
82	RMEF12	0.32															3																													
83	RMEF13	0.82		2													2															2														
84	RMEF14	3.04		4													13																×													
85	RMEF15	0.12															2															1	×													
86	RMEF16	0.13		1													2															6												×		
87	RMEF17	0.71		1	2												23		11													2	×						1							
88	RMEF18	0.66															3															2														
89	RMEF19	0.47		3													2																											×		
90	RMEF20	0.36		1													25		29													3														
91	RMEF21	0.73															35		43											1		9														
92	RMEF22	0.54															20													1				1												
93	RMEF23	0.59															5		8													113	×													
94	RMEF24	1.40			1										1		40		21											8	2	43	○													
95	RMEF25	9.46	1	4								2			1	1	95	1	34																											
96	RMEF26	0.32																															×													
97	RMEF27	0.66															10		10													2							1							
98	RMEF28	1.59															6		26																											
99	RMEF29	0.63																	3																											

表II－14　R地区盛土焼土出土の動物・植物遺存体一覧（2）

	遺構名	骨片重量（g）	鳥綱	哺乳綱	小型哺乳綱	中型哺乳綱	大型哺乳綱	シカ	イノシシ	イノシシかシカ	ヒグマ	ネズミ	イヌ科	骨角器	ニシン科	ウグイ属	サケ科	コイ科	硬骨魚綱	チョウザメ科	カジカ科	キュウリウオ科	小型硬骨魚綱	アユ	ヤツメ	タナゴ	ツノザメ科	科	甲殻綱十脚目	ヒエ属	アサ	タデ科	キク科	アカザ属	ナス科	ユリ科	マタタビ属	ニワトコ属	ブドウ科	タマシデ属	キハダ属	アサダ属	コナラ属	クルミ属	ヒシ属	クリ属
100	RMEF30	0.60						4											8													5														
101	RMEF31	1.86		1												3	2	1	201													1	×													
102	RMEF32	2.50		3												1	17		17	1												63														
103	RMEF33	0.70		1													18													2		3														
104	RMEF34	0.02																	1													1														
105	RMEF35	0.02																													1		×													
106	RMEF36	0.00															1																×											×		
107	RMEF37	0.05															2															1	×													
108	RMEF38	0.05																	7														×											×		
109	RMEF40	1.44		2													85		94																									×		
110	RMEF46	1.46		2													12		7													1	×													
111	RMEF49	0.20		1													10	13	11																											
112	RMEF50	2.18		3	1												87		60													4														
113	RMEF51	0.77		1													16		16																											
114	RMEF52	0.80										2					35		64																											
115	RMEF53	0.36															10	5	17													1		1					5							
116	RMEF54	1.62		8													42	4	52												3															
117	RMEF55	4.83															69	1	11															1												
118	RMEF56	3.14		6	1			1				1				3	15		154											4	7			3												
119	RMEF57	3.96		5													24	14	19														×													
120	RMEF58	4.34						1								1	13	2	19														×													
121	RMEF59	0.34															2	1															×													
122	RMGF01	0.55															15	5	33																									○		
123	RMGF02	0.51															9		11																											
124	RMGF03	0.37															22	1	29																											
125	RMGF04	0.06																																												
126	RMGF05	0.05															3		2																									×		
127	RMGF06	0.00															1																											×		
128	RMGF08	0.20															11																○											×		
129	RMGF09	0.42															17																													
130	RMGF10																																											×		
131	RMGF11	0.16															5	1	5																									×		
132	RMGF12	0.24						1									14		11		1																									
133	RMGF13	0.49										1			1		12	16	39											1																
134	RMGF14	1.31													1		19	44	105						1							1														
135	RMGF15	0.49		1												30														4		8	○													
136	RMGF16	0.16																	10														×											×		
137	RMGF17	0.19																	18													2	×										1				
138	RMGF18	0.29														1			6											1														×		
139	RMGF19	0.40														3			69																									×		
140	RMGF20	0.54																	50														×													
141	RMGF21	0.72														4	33	1	41													1														
142	RMGF22	0.15															11		27														×											×		
143	RMGF23	0.15																												4		13														
144	RMGF24	0.09																	2													9														
145	RMGF25																															1												×		
146	RMGF26	0.03																																										×		
147	RMGF27	0.05																	4													1												×		
148	RMJF01	0.00																												3														×		
149	RMJF02	0.02																												3		1												×		
150	RMJF03	0.01																												2		2		1										×		
151	RMJF04	0.09															1															6														
152	RMJF05	0.01																																										×		
153	RMJF06	0.07																														2												×		
154	RMJF07																															6	×											×		
155	RMKF01	0.12																															×											×		
156	RMKF02	0.10																	1											1														×		
157	RMVF01	0.00																	1																											
158	RMVF02	0.72		2													14	7	6											1		4												×		
159	RMVF03	0.12															1															3	×	32										×		
160	RMVF04	0.03						8																						1		3	×												○	
161	RMVF05	0.07															1																×						1						○	
162	RMVF06	0.16		8																												4	×											×		
163	RMVF07	1.42																														1												×		
164	RMVF08	0.37															10															1												×		
165	RMVF09	0.07																														1												×		
166	RMVF10	3.90															41	3	16													13												×		
167	RMVF11	0.11																														17														
168	RMVF12	0.13															26		8											9		7												×		
169	RMVF13	0.88		4													10	17	15													1	×											×		
170	RMVF14	0.31															19		15											1		2												×		
171	RMVF15	0.19						1									20	1	11											1			○											×		
172	RMVF16	0.07															8		4													1	◎													
173	RMVF17	0.85						6									15		63											2		25	○										○	×		
174	RMVF18	12.01		14	4												170	142	354																		2	1	2							
175	RMVF19	0.21														2	2		10																											
176	RMVF20	6.30		17	1			12						1		19	94		261											8		1														
177	RMVF21	0.56		2	2											4	35		40																								○	×		
178	RMVF22	0.02																																										×		
179	RMVF23	3.07		3				7							1	1	138		147											13		191	◎						7							
180	RMVF24	0.01															2		1											3			×								1					
181	RMVF26	4.76		1												5	45		94														×													
182	RMVF28	0.41															3		17														×													
183	RMVF29	0.01																																												
184	RMVF30	0.91															12		4													6							1							
185	RMVF31	0.48							1								5													1																
186	RMVF32	4.70														1	70	4	82											2	1	19		7				10			14					
187	RMVF33	0.96															28		66											1																
188	RMVF34	0.10															7		4																											
189	RMVF35	0.01																															×											×		
190	RMVF36	0.80										1					47		35			2											×													
191	RMVF37	0.50		1												3	17		8														×													
192	RMVF41	0.90									1						26		65														×													
193	RMVF42	0.00						1																								2	×											×		
194	RMVF43	0.01															1		1													4	×						1							
195	RMWF02	0.77															31													2			○													
196	RMWF04	1.22															74		1											1				1												
197	RMWF05	3.15											1			7	59		7				4																							
198	RMWF06	0.43															9													1		1														

表Ⅱ－15　R地区盛土焼土出土の動物・植物遺存体一覧（3）

	遺構名	骨片重量(g)	鳥綱	哺乳綱	小型哺乳綱	中型哺乳綱	大型哺乳綱	シカ	イノシシ	イノシシかシカ	ヒグマ	ネズミ	イヌ科	骨角器	ニシン科	ウグイ属	サケ科	コイ科	硬骨魚綱	チョウザメ科	カジカ科	キュウリウオ科	小型硬骨魚綱	アユ	ヤツメ	タナゴ	ツノザメ科	科	甲殻綱十脚目	ヒエ属	アサ	タデ科	キク科	アカザ属	ナス科	ユリ科	マタタビ属	ニワトコ属	ブドウ科	クマシデ属	キハダ属	アサダ属	コナラ属	クルミ属	ヒシ属	クリ属
199	RMWFP07	0.24															14													1	2	3												×		
200	RMWFP08	0.58										1					28		1											3		117														
201	RMWFP09	1.93		1	1				1								70													13	3	103														
202	RMWFP10	0.81			1												63		18											2		48	○						3							
203	RMWFP11	0.00															7		4																									×		
204	RMWFP12	0.50			1											5	10		37											31		25	○	3												
205	RMWFP13	0.50														4	9		31											10		9														
206	RMWFP14	64.70			1			8	24			3				115	593	1	126		3					1						4	○		3				27						○	○
207	RMWFP15	7.90		2	1	1	13		3								84		42											4		2	●						12					×	○	
208	RMWFP17	2.50			2												21	31	34											2	1	8	○													
209	RMWFP19	1.60															1	3	10														×													
210	RMWFP20	0.60															5	6	32																	1								×		
211	RMWFP21	10.90		4					1							6	190	241	432			1									1	10					1		4							
212	RMWFP22	5.11		2												2	79	66	110													5					2									
213	RMWFP23	1.98		2													67		70								1				2	220	○			1			2							
214	RMWFP24	0.36															9		5											24		62							2							
215	RMWFP25	0.72		1													27		14											57		27														
216	RMWFP27	0.40															46		11														×													
217	RMWFP29	0.15															7		10																											
218	RMWFP30	0.08															4		2											3		3														
219	RMWFP31	2.79															178		341											1		1	○													
220	RMWFP32	1.58		3								2					39	4	39			3																								
221	RMWFP33	0.43														1	4															14														
222	RMWFP35	1.02		3				4							4		18		7																											
223	RMWFP36	1.05															17		30													204	○													
224	RMWFP37	4.40		11	1												28		34													2														
225	RMWFP39	0.23											1				13															3														
226	RMWFP40	4.24		1												7	261		346											10			×										○	×		
227	RMWFP41	0.36			3											3	7		8											2			×										○	×		
228	RMWFP42	1.39		3	1							1				3	51		77											47		4								1						
229	RMWFP43	2.09			2											12	156		212											23			×	2									○			
230	RMWFP44	4.41			1							1					110	8	232			1								6	1	5	×	1												
231	RMWFP45	3.56		9													79		169														×													
232	RMWFP46	7.90			7				1								105		232																				1				○			
233	RMWFP47	3.35			1				1							2	63	8	106							1						1						1	63							
234	RMWFP48	1.22														4	46		48													32					3							×		
235	RMWFP50	2.22														3	49		126																											
236	RMWFP51	2.36		18												4	25		63																											
237	RMWFP52	5.42		1				5							2	8	427		111														×				1	1					○	×		
238	RMWFP53	1.19														4	7		45											2		128												×		
239	RMWFP54	3.15														2	44		168											2	1	236	○					2								
240	RMWFP55	0.17															12		26																								○	×		
241	RMXF01	0.62		1								1				1	35	2	18													1	○											×		
242	RMXF02	0.06															3													1		2														
243	RMXF03	0.04																												1		1	○											×		
244	RMXF04	0.13															13		9																									×		
245	RMXF05	0.98														2	85	12	108																											
246	RMYF01	4.71		1												5	68	21	151		1	1																						×		
247	RMYF02	82.00		114					2	1							168	19	474														×													
248	RMYF03	1.15		1													34		125											1		43														
249	RMYF05	1.28															16		2													1		1										×		
250	RMYF07	0.15															16		4													4														
251	RMYF08	1.28		4	6												42		15													27		3												
252	RMYF09	0.49															51	1	32													5														
253	RMYF11	0.44		1												1	19	1	4												1			6												
254	RMYF12	0.70															77	2	36													22														
255	RMYF14	0.81	1	1												1	41		8											1		21														
256	RMYF15	4.58		7													76	10	86																											
257	RMYF16	6.88		158					2								66																													
258	RMYF17	1.56																																												
259	RMYF18	5.45							5								90		101													9														
260	RMYF19	2.48		1	1											1	81	7	126													2												×		
261	RMYF20	1.02															23		23											1															○	
262	RMYF22	0.50															9																×													
263	RMYF23	3.58		2								4				3	10		78			1					2						×													
264	RMYF24	0.12															4																													
265	RMYF26	1.90		1				1	4								24		14														×										○			
266	RMYF27	16.98		18													210		86														×													
267	RMYF28	1.38		2												2	52		89														○						3							
268	RMYF30	7.71		16				2				1					79		27														×													
269	RMYF31	5.44		1				1								1	104		22								1						×													
270	RMYF32	4.05		27										2			59		22														×													
271	RMYF33	7.54		10				2									73	6	35														×													
272	RMYF34	10.86						2							3	5	28		26		1												×													
273	RMYF35	11.32		1	1				9			1					49		25														×													
274	RMYF36	8.88							2			1				1	61	3	101			2												1												
275	RMYF37	3.74		4													50	6	20											1																
276	RMYF38	8.54		14													23	51	544														×													
277	RMYF39	0.42															31		20											2		2							1							
278	RMYF40	0.44															3		88											1														×		
279	RMYF41	6.29		2				1								31	54		187											1			○	1												
280	RMYF43	3.88														17	124		290													3	○						1							
281	RMYF46	3.43		3				2				1					75		107																											
282	RMYF47	1.16		1													63		114											10	1		◎													
283	RMYF48	0.30															15	14	12														○													
284	RMYF49	0.19															8	4	5														○													
285	RMYF50	2.74															45	11	29																											
286	RMA	0.23																														4	×													
287	RMD①	5.10						1								5	32		20											2		240		6												○
288	RMD②	1.60						1											3													1		1												
289	RME	2.40							3								45		15			1										2														
290	RMJ	0.80		1													5		4													3		1												
291	RMK																															2	×													
292	RMV	1.10															6		10													4	×				1		1							
293	RMW	3.40		4													97		96											10		57														
294	RMX	0.60		1													3															4														
295	RMY	10.60		9	1	1		2	5							1	72		23									1		3		1											○			

（５）その他の遺物（図Ⅱ－28）

１）赤彩関連遺物

縄文時代後期の遺構や包含層から、土器・土製品や木製品などに赤彩された遺物が多数出土している。また周堤墓の墳底などに赤色顔料そのものが多量に撒かれているほか、盛土遺構などから赤色顔料の塊や小片が多数出土している。

朱塗りの弓（木製品）　北側盛土遺構の下層および南側盛土遺構の下層から塗膜のみが残った弓が出土している。長さは１ｍ前後になるとみられ、糸巻き痕が残る。また北西部の水場遺構付近からも木質部の残っている丸木弓の一部が出土している。細・太の撚り糸を隙間なく丹念に巻き込んでおり、ベンガラ漆と朱漆が塗り重ねられているとのことである（『キウス４遺跡（３）』第１ｐ.231）。

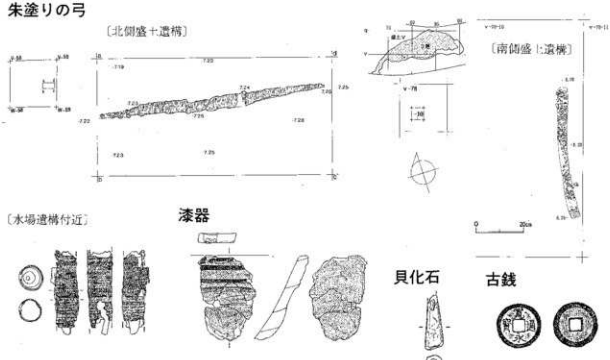
漆器（木製品）　水場遺構付近から出土したもの（下図）と建物跡の主柱穴から出土したものがある（当報告書Ⅱ章－６）。前者は鉢形容器の口縁部とみられ、沈線の表現もある。内外面・口唇上にベンガラ漆が塗られているとのことである。後者は編目が残る塗膜片で、籃胎漆器である。

赤彩礫　南側盛土遺構から、ほぼ全面に赤色顔料が付着している安山岩とメノウの礫が出土した。前者は赤色顔料をすりつぶした礫と考えられ、後者は赤彩製品とみられる。

赤彩土器　土器の外面および内面に赤彩された土器が多数出土している。ベンガラと朱が用いられており、後者は搬入とみられる土器に塗布されている。また内面に赤色顔料が残っているものは、注口土器などを再利用して、赤色顔料塗布のためのパレットのような用途で用いられたと考えられる。

２）その他

北側盛土遺構より下位の層から検出された土壙（縄文時代後期前半か）から、ヤスリツノガイの一種とされる貝化石の殻頂部が出土している。北西部のアイヌ文化期の木製品が出土した河道跡付近（Ｌ地区）と南東部の掘立柱建物跡が検出された付近（Ｊ２地区）から寛永通宝が出土している。なおＬ地区からは鉄製品も出土している（Ⅱ章－６）。このほか、近代のものとみられる陶磁器類が多数出土している。また土壙（縄文時代後期後半）に貯えられた純粋に近い粘土が出土している。



図Ⅱ－28　その他の遺物

5．自然科学的分析・鑑定から

（1）概要

キウス４遺跡の各報告書刊行にあたって、下記の表Ⅱ－16に挙げるように多種多数に亘って分析・鑑定を依頼・委託してきた。その結果、遺跡の古環境を推定復元したり、当時の人々の動・植物の利用のあり方や遺物製作技術の一端を明らかにしたり、遺物の原材入手先（交易のあり方）の推定をするなど、考古学的な考察からは限界のある事象についての貴重な資料及び見解を得ることができた。これらの成果は、時間的な制約などから不十分ではあるものの、各報告書の個々の記載事項やまとめに反映されている。

表Ⅱ－16　キウス４遺跡自然科学的分析・鑑定一覧

分析内容	キウス４遺跡報告書番号									計
	『(1)』	『(2)』	『(3)』	『(4)』	『(5)』	『(6)』	『(7)』	『(8)』	『(9)』	
^{14}C年代測定（液体シンチレーション） （京都産業大学）		15	5					4	3	27
^{14}C年代測定（AMS） （㈱地球科学研究所）			21	10	15	1	19		15	81
テフラ分析 （当センター　花岡正光）			11							11
地割れ観察 （北海道立地質研究所　廣瀬亘ほか）					1地点					1地点
花粉分析 （北海道開拓記念館　山田悟郎）		1地点 27試料								1地点 27試料
珪藻分析 （石狩市教育委員会　志賀健司）		1地点 28試料		1地点 26試料						2地点 54試料
花粉・珪藻・植物珪酸体分析 （㈱パリノ・サーヴェイ）			3地点 68試料						3地点 32試料	6地点 100試料
人骨の人類学的観察 （国立科学博物館　松村博文ほか）					11					11
動物遺存体の同定 （千歳サケのふるさと館　高橋理）		325	388	76		19	346	428	958	2540
植物種子の同定 （札幌国際大学　吉崎昌一ほか）		76	38	47		20	10	150	324	665
炭化材樹種同定 （㈱パリノ・サーヴェイ）		21							6	27
炭化材樹種同定 （北海道大学　佐野雄三ほか）					6(2)					6
木製遺物の樹種同定 （当センター　菊池育子）		20	166	139					246	571
キノコ同定 （北海道大学名誉教授　五十嵐恒夫）									3	3
脂肪酸分析 （㈱ズコーシャ）			17		37		6		3	63
アスファルト分析 （北海道大学　小笠原正明）		4						6	7	17
赤色顔料・漆製品分析 （北海道開拓記念館　小林幸雄）		6	5						15	26
黒曜石原産地分析 （京都大学　藁科哲男）		50	17	50	11		30		21	179
黒曜石水和層測定 （京都大学　藁科哲男）				50	11					61
ヒスイ製品・玉類原産地分析 （京都大学　藁科哲男）		3			8			30(うちヒスイ9)		41

敬称略。　・『(2)』・『(3)』……は『キウス４遺跡（2）』・『キウス４遺跡（3）』……をさす。
なお『(1)』とは、北埋調報119集『キウス４遺跡』をさす。
・炭化材樹種同定の（ ）は報告点数

（２）分析・鑑定の主な成果

１）^{14}C年代測定結果（図Ⅱ－29）

遺構の形成年代とその過程を考察したり、遺物の編年を考察したりする年代値を得るため、各地区において炭化材などの測定試料を採取し、合計109点の年代測定を依頼した。他の分析・鑑定に比べコメントが少ないので、ここでやや紙面を割くこととする。

測定方法は、平成９年度（『キウス４遺跡（２）』・『同（３）』の一部）までは液体シンチレーション法によるものであったが、平成９年度以後は少量の試料でより精緻に計測が可能なＡＭＳ法によるものとした（ただし試料の内容から一部は液体シンチレーションによる）。測定試料の内容は、人骨片・炭化材・木片・堅果・種子・土器付着の黒色物質（ススト）・土壌などさまざまで、数値の比較には注意が必要である。クルミ殻や土器付着の「ス」など分析試料の種類によって問題のある数値が出たものもみられる。特に「ス」は想定される年代値よりも古い数値になる傾向にある。炭化材では現地で確認した層準をほぼ反映した結果が得られたものが多い。なお図Ⅱ－29に掲載した数値は、出土遺物や層準を明らかに反映していないとみられる、想定より数百年から数千年の違いのある数値を除外していることを断っておく。

遺構のデータは覆土の試料が多い点に注意が必要であるが、出土土器から想定される年代に近い値が得られている。

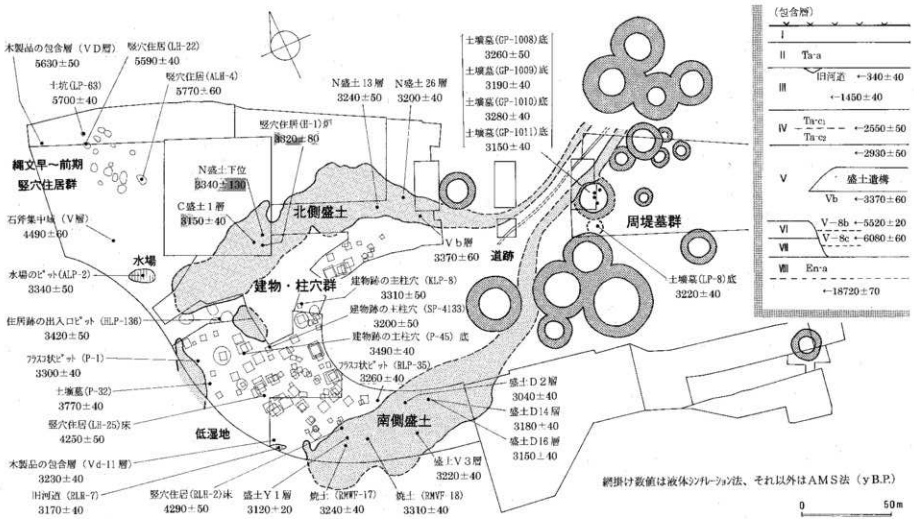
北部の縄文時代早期～前期の土器が出土する竪穴住居群・土壙群では、5,550～5,800yB.P.の範囲におさまり前期前半に相当する。また低地の木片の測定値もこの範囲にある。早期の土器片付着の試料や低地の試料の一部では6,200～6,700yB.P.の数値が得られている。これらの結果や出土遺物から、遺跡北部の平坦面付近は約6,500年前～約5,500年前の間で断続的に利用されたと考えられる。

縄文時代中期後半の遺物が出土する竪穴住居２軒（Ｑ地区 LH-25・Ｒ地区 RLH-２）の測定値は4,200～4,300yB.P.の間でほぼ一致しており、柏木川式の時期を反映している。またＡ１地区の石斧集中域の数値もやや古いものの近い値である。

縄文時代後期後半の遺物が出土する遺構では、まず周堤墓Ｘ－10の墓壙のデータがあり、3,200yB.P.前後の数値を示す。Ｘ－αの墓壙の数値もこの値に近い。他の周堤墓の墓壙の数値がないが、周囲の周堤墓は、Ｘ－10より小型のものが多いことからさらに古い時期から営まれていたと想定できる。建物跡・土壙群では、フラスコ状ピットや主柱穴などおおむね3,200～3,500yB.P.の範囲に入る。覆土の試料ながら、出土土器の様相から想定される値よりも古い数値が得られた。盛土遺構の年代測定値は3,310±40～3,040±40yB.P.以上の幅をもった約300年にわたっている。特に南側盛土遺構では、下位が約3,350～3,230年前、上位が約3,230～3,100年前の数値を示している。一方低地部は3,150～3,350yB.P.の範囲にある。

以上の結果から、キウス４遺跡における主体時期の遺構群の盛衰を積極的に解釈すると、台地上で建物などが造営され始めたのが約3,400年前で本格化したのが約3,300年前、遺跡内の低地部の水資源利用が行われたのが約3,350～3,200年前、盛土遺構が形成されたのが約3,350～3,100年前、周堤墓が構築されたのが約3,300～3,100年前で、3,100年前ころに集落が衰退したと想定される。

一方、包含層においても年代測定を行っている。図Ⅱ－29の右上の通りで、特にＥｎ－ａの下位の数値やＴａ－c_1・c_2の間の試料は、火山灰降下年代の推定に関して有効なものである。また、各遺構群の形成期やその前後の時期を反映した数値が得られている。



図Ⅱ－29　主な遺構群と^{14}C年代測定値（補正年代）

２）古環境の復元

各時代の古環境について検討するため、テフラ・珪藻・花粉・植物珪酸体など多岐にわたって分析を依頼した。その結果、恵庭ａテフラ（Ⅷ層）から樽前ａテフラ直下（Ⅲ層）までの堆積環境の変化・植生変化などが総合的に捉えられた。

珪藻分析では、特に低地部の環境変化の様相が明らかとなった。その結果によれば、

＜Ｅｎ－ａ降下前＞　流れのない水域→湿原・泥炭形成→

＜Ｅｎ－ａ～Ｔａ－ｃ＞　乾燥した陸域→湿潤な陸域→（縄文後期ころ）泥炭形成→

＜Ｔａ－ｃ～Ｂ－Ｔｍ＞　流れのない水域・泥炭形成→（1,450年前ころ）弱い流れのある水域→

＜Ｂ－Ｔｍ～Ｔａ－ａ＞　弱い流れのある不安定な水域→泥炭形成→

＜Ｔａ－ａ降下以降＞　沼沢地～湿原（ヨシ属やヨモギ属などの草本類）

という大きな流れがみられる。またＲ地区南側盛土遺構の下層の試料では、約6,000年前の前後で泥炭層が形成され、不安定な流水域からあたり一帯が湿潤地になり、盛土遺構形成期以降では乾いた状態になったということである。これらの環境変化によって、各時期の人々の活動範囲やそのあり方が変化していったようである。

花粉分析によって周辺の森林植生がある程度推定できている。Ｅｎ－ａ降下前ではカラマツ属を主体とする針葉樹から構成される植生で、縄文時代早期以降は大きな変化が見られ、約6,500年前以降コナラ亜属を主体とした落葉広葉樹林が広がっていたと考えられている。なお北西部の低地側では、ハンノキ湿地林が繁茂していたということである。

３）地割れ

キウス４遺跡東部のＪ３・Ｊ５地区で長さ約200ｍ、幅10～20ｍの帯状の地割れが検出された。正断層の陥没構造と小規模な地割れからなっていると観察された。周辺ではキウス７遺跡からも検出されているが、時期が異なるようである。Ｔａ－ｃからＴａ－ａ降下の間の時期であるが、明確な時期は不明である。ただし、剣淵断層南方延長部のイベントなどに対比される大規模な地震によって生じた可能性を示唆している。

４）人骨の人類学的観察

周堤墓の墓壙から出土した人骨の保存状態と人類学的所見が示された。残存状態が良くなく、判別が困難であるものが多い中で、頭骨の形状や下顎骨、特に歯から年齢・性別などを判別している。GP-1002の２体は、一方が男性的でもう一方が女性と推定された。またGP-1301の１体は壮年女性、LP-２の１体は壮年と推定された。

５）動物遺存体・植物種子同定　❖Ⅱ章－４（４）参照

６）炭化材の樹種同定

周堤墓の墓壙の壙底および覆土から出土した炭化材６点（うち報告２点）と、盛土遺構の土壌および盛土中の焼土、Ｖｂ層の焼土から出土した炭化材27点の樹種同定を依頼した。

周堤墓の試料はコナラ属とヤナギ属という結果が出た。周囲の落葉広葉樹が利用されているようである。Ｖｂ層焼土の試料は燃料材として使用されたかは不明であった。盛土遺構の試料は１点のみが低湿地に繁茂するハンノキ属で、それ以外は全て落葉広葉樹であるコナラ属コナラ亜属コナラ節またはトネリコ属であった。遺跡周辺に繁茂する比較的硬質な材を選択的に燃料材として利用していることが考えられている。盛土遺構中の焼土に伴う材はそうした燃料材が炭化したもので、盛土遺構出土の材も焼土に密接に関係すると考えられている。

７）アスファルトの分析

北側および南側盛土遺構中から見た目より軽い黒色物質が時々出土し、土器の内面や注口土器の注口部、石鏃の基部や、小礫に筋状に付着する黒色物質も見られた。これらのうち、塊のものと土器付着の黒色物質を併せて17点について分析を依頼した。また併せて北海道内外の遺跡や秋田県や新潟県の原産地のデータもいただいた。

結果17点中16点はアスファルトであることが分かり、その測定値のばらつきから複数の産地から運ばれてきた可能性があるとのことである。そのうちのいくつかは木古内町新道４遺跡などで出土している釜谷産とみられるアスファルトに測定値が近似するという。また北海道内において釜谷以外の産地が存在することが考えられている。

８）赤彩土器と漆製品の分析

水場遺構付近から出土した赤彩された木製容器片３点と丸木弓片２点、そして盛土遺構中から多出する赤彩土器片のうち12点と、弓などの漆製品（塗膜のみ）４点、そして赤色顔料の塊とみられる礫１点の分析を依頼した。

木製容器片は３点ともベンガラが塗布されていた。赤彩土器は、搬入されたと考えられる微隆線の土器には主に水銀朱が用いられ、鱈澗式および堂林式に属する在地の土器にはベンガラ（酸化第二鉄）が用いられている。在地土器に水銀朱が塗布されていないことから、前者は搬入元（東北地方北部とみられる）または中継地で水銀朱が塗布されたと考えることができる。在地土器には、ある程度十分に得られているベンガラが塗布されたと考えられる。また内面に赤彩のあるものは、ベンガラ塗布用の絵皿（パレット）として利用された可能性が大きいとのことである。一方、弓に付着する赤色顔料はすべて水銀朱が塗布されており、形態不明の塗膜片では下地にベンガラを塗るものもあるという。

水銀朱が塗られているのは、土器では搬入とみられるものであったことから、朱塗りの弓も東北地方方面から搬入された可能性がある。彩色方法では、何層かに塗り分けたり異種の顔料を使用したりするなど多様性がうかがえる。

９）黒曜石製およびヒスイ製遺物の原材産地分析

キウス４遺跡で出土した石器等の石材鑑定では、肉眼観察では礫面に流理の線と粒がみられ赤井川産と推定できる黒曜石製遺物が群を抜いて多かった。分析はそれ以外の特徴のある黒曜石製遺物を多くして依頼した。その結果、赤井川産地のほか道東の白滝赤石山・あじさいの滝、置戸、十勝三股、ケショマップ、美蔓、道北の近文台、道南の豊泉など多くの原産地から黒曜石が供給されていることが分かった。その比率を求めることは困難であるが、赤井川産が大きな割合を占める中で、赤石山・あじさいの滝といった白滝産地の結果が得られたものがやや目立つ。特に周堤墓の墓壙 GP-1704に副葬された石鏃の石材は赤井川よりも十勝・白滝赤石山産といった道東の産地のほうが多くなっている。また時期別では、主に縄文時代後期後半と縄文時代早期後半～前期前半の土器を伴う石器群から分析したものであるが、その結果に大きな差はなかったものの、後者は十勝三股産や置戸産の分析結果の割合がやや高いようである。

ヒスイは20点分析を依頼し、そのほとんどが糸魚川産であることが示され、残りは風化などのため判別が困難とのことであった。糸魚川産ヒスイが縄文時代後期において使用されている遺跡の中でもキウス４遺跡は最も遠い位置の一つであり、希少価値が大きいとみられ、キウス４遺跡がヒスイの玉類を入手できる力（経済力）が大きかったことが考えられている。

（阿部）

６．新たに整理された遺物

キウス４遺跡は平成10年度に現場調査を全て終了したが、遺物保存処理等の関係からすぐに報告できなかった籃胎漆器と金属製品についてここで報告する。籃胎漆器は平成10年度R地区の建物跡主柱穴の１基から出土した塗膜片である。金属製品（マレク）２点は、平成８年度に調査したL地区から出土したものである。

（１）籃胎漆器

平成10年に調査したR地区のｑ－73区建物跡45・45´主柱穴RLSP－118の覆土壁際から出土した籃胎漆器の被膜片である。破片が多い中には、かご目編みの部分が認められ、斜めに交差したり縦に直交している。赤漆の下には光沢のない黒褐色部分が認められ、生漆？が塗られている可能性がある。赤色顔料については分析していないのでベンガラなのか朱なのかは不明である。

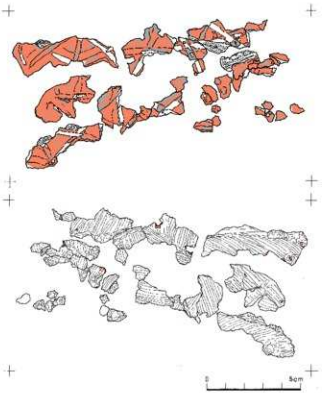
（２）金属製品（マレク）

平成８(1996)年、L地区の調査でJ－62区のⅢ層から出土したものである。１は長さ9.4㎝、幅9.9㎝、厚さ1.1㎝、重さ30.56ｇである。破片４点が接合し、先端部は残存している。下端中央部が最も厚みのある部分である。２は長さ7.37㎝、幅1.39㎝、厚さ1.39㎝、重さ40.91ｇである。１に比較すると、小型で全体の形状がU字形をしている。先端部は欠損しているが、その断面が徐々に細くなっていることからマレクの先端部分と思われる。

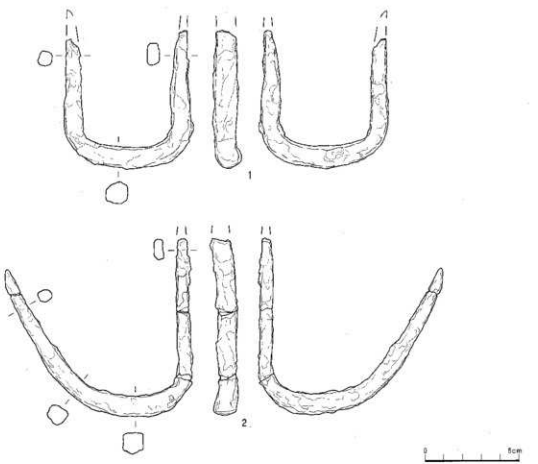
１・２ともに錆こぶが付着していたため現場では金属製品として取上げていたが、室内で錆を除去したところマレクであることが判明した。J－62区Ⅲ層ではアイヌ文化期の集石が１ヵ所検出されており、このマレクも同時期の遺物と思われる。L地区ではこの他に旧河道からマレクが１点出土している（『キウス４遺跡（２）』図Ⅳ－３－16）。

（佐川）

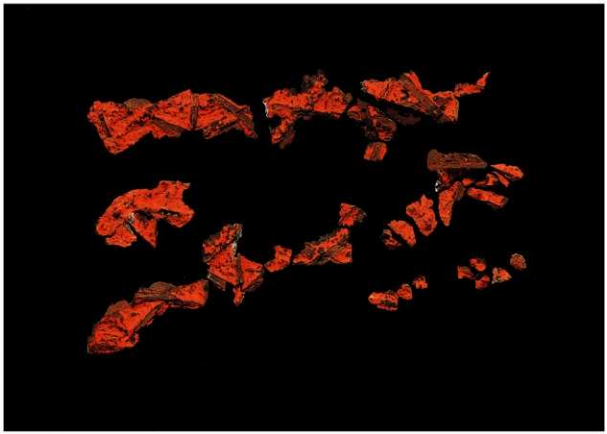
籃胎漆器と金属製品の出土地点



RLSP－118の籃胎漆器片（上：表面　下：裏面）



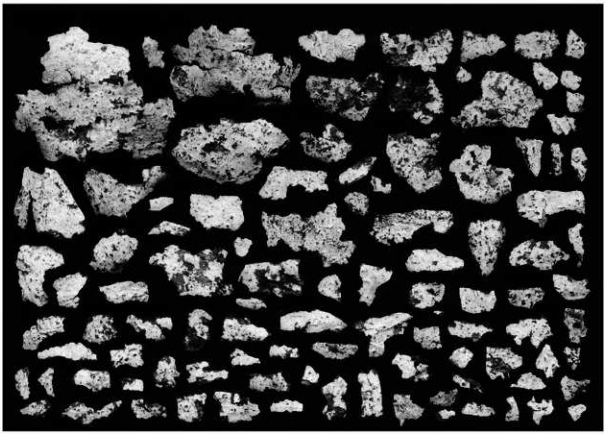
図Ⅱ－30　籃胎漆器片と金属製品



1．RLSP－118出土籃胎漆器の塗膜片（表面）

2．同上（裏面）

図版　2



1．RLSP－118出土籃胎漆器の塗膜片

2．金属製品（マレク）表面

3．同　裏面

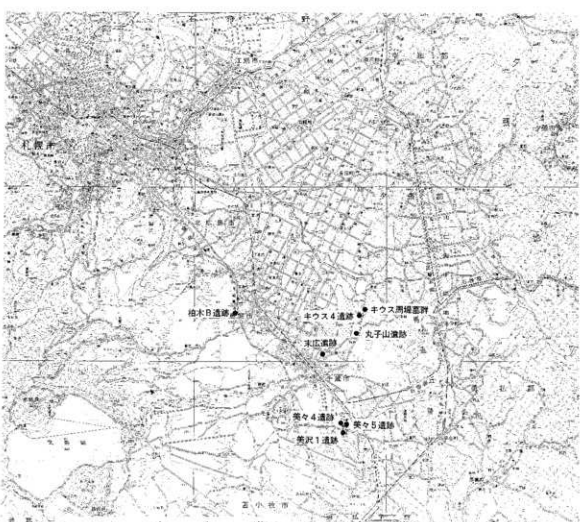
Ⅲ　考察

1．その後の周堤墓研究史

北海道における後期後葉の特徴的な墓制である周堤墓については様々な研究・報告がなされており、筆者も以前に一度まとめたことがあった（藤原2000）。ここでは、主に前稿以後に調査・報告されたものについて再度簡単にまとめてみる。

①千歳市キウス13号周堤墓

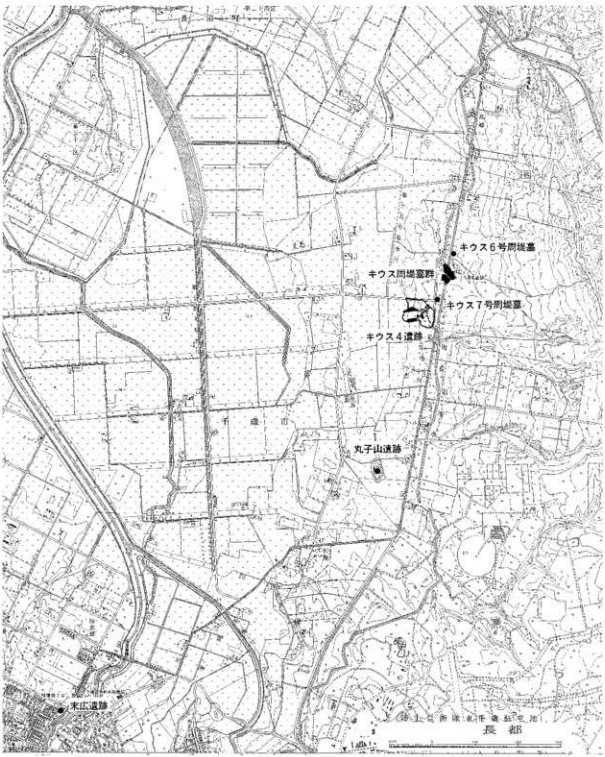
1978年に大谷によりキウス周堤墓群11・12号、丸子山遺跡内の１基とともに位置や規模が報告されたものである（大谷1978）。しかし、「すべてが墓址かどうかについては、…検討の余地がまったくなくはないが…」と断定は避けていた。翌年の1979年にまとめられた『千歳市における埋蔵文化財（上）』（千歳市教委1979）ではこの13号周堤墓も含めて、千歳市内の遺跡の所在地、所有者などが一覧表に記載されている。しかし、この13号周辺は耕作による土地の均平化が進み、現地での所在の確認は困難であった。



図Ⅲ－１　石狩低地帯における周堤墓の分布

その後、2001年10月に国道337号線道路整備事業にともない、13号所在地の試掘調査が実施された。その結果、13号周堤墓は存在せず、縄文時代後期・晩期を主体とする遺跡であることが判明した。このため、平成13年12月に「キウス13号周堤墓」は「オルイカ１遺跡」と名称変更されている。このオルイカ１遺跡の発掘調査は北海道埋蔵文化財センターにより2002年に実施された（北埋調報188　2003）。調査区には深土耕による円形の大きな撹乱が確認され、これを周堤墓と誤認したと推測される。

なお、石狩低地帯およびキウス周辺における周堤墓の分布を示したものが図Ⅲ－１・２である。



図Ⅲ－２　キウス周辺における周堤墓の分布

②芦別市野花南周堤墓群（旧称、野花南環状土籬）

1953年芦別郷土研究会発見・調査、1954年河野広道調査の周堤墓である。その後、1999年に北海道埋蔵文化財センターにより測量調査が実施され、実測図が掲載された（北埋調報137　1999）。これ以前の研究史（矢野1998）およびこの図から、野花南環状土籬は２基が隣接して存在することが想定された（藤原前稿など）。そのため、2000年４月に道指定史跡となるに伴ない名称を「野花南周堤墓群」と改称している。

2002年には測量調査に関する報告が佐藤・長谷山によってなされた（佐藤・長谷山2002）。それによると、従来から知られている１号周堤墓は外径23.4m、内径16.7mで周堤幅は3.7～4.2m、新たに存在が推測される２号周堤墓は窪地のみが確認されたため外径・周堤幅は不明で、内径11.4m、竪穴深さは５～12㎝ほどと紹介されている。また、この他にもう一つ小さな窪みが存在するという。この報告に基づき一覧表の数値を訂正しておいた。

このように、芦別市野花南でも複数の周堤墓が隣接し存在していると推測されている。

③標津町伊茶仁チシネ第３竪穴群遺跡

1984年に町教委の踏査で５基が確認されたものである。1997年にその内の１基の発掘調査が実施され、1999年に報告されている（椙田1999）。調査された４号は、外径18m、内径10m、周堤幅４～５m、竪穴掘り込み面からの周堤高さは25～30㎝、竪穴深さは10㎝である。この４号の約４分の１を発掘した結果、竪穴内からは土壙墓３基、土壙１基の落ち込みが確認された。この内の１基の土壙墓を調査している。墓壙の規模は壙口部で112×43㎝、口底部で90×26㎝、深さ120㎝で長軸方向はＮ－103°－Ｗである。墓壙内の長軸方向両端には墓標（木柱？）の痕跡があり、頭側ではそれが炭化している可能性が指摘されている。これはキウス４遺跡Ｘ－10のＧＰ－1008例とも共通するものである。壙底面には頭骸骨の痕跡が認められ、西頭位であることが判明した。ベンガラや副葬品は認められなかった。また、埋土上面は摩周ｌ火山灰で覆われており、意図的になされたと考えられている。これもキウス４遺跡で埋土上面が非常に堅い墓壙があったことと類似するものであろう。

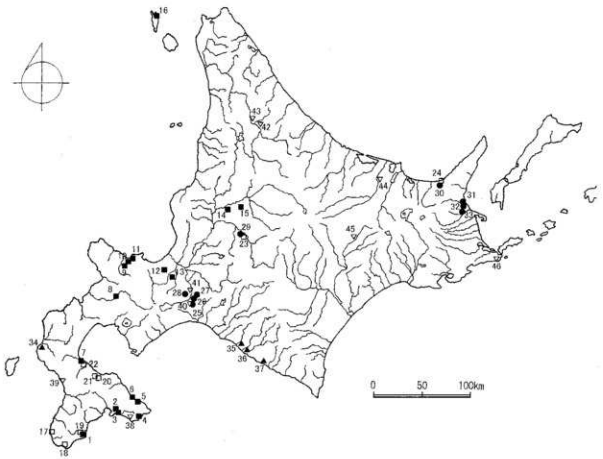
この他に、未発掘の土壙墓２基の長軸外側に墓標（木柱？）と推測される円形の落ち込みが確認されている。なお、竪穴内や周辺から周堤墓に伴なう遺物は発見されなかった。

④標津町伊茶仁ふ化場第１遺跡

1963年に大場利夫が踏査・発見し、1978年に標津町教委により発掘調査が実施されたものである（標津町教委1979）。この後道路拡張に伴ない、1998年に周堤墓から200mほど離れた地点が町教委により調査された（椙田1999）。その際、周堤墓内の墓壙に規模などが類似する墓が１基検出されている。椙田氏によると、調査区の関係で明確な周堤や竪穴は確認出来なかったが、1963年に発見されたものの他に、もう１基の周堤墓が存在している可能性があるとのことである（標津町教育委員会　椙田氏のご教示による）。

⑤ロシアの周堤墓類似遺構

シベリア大陸やサハリンに周堤墓である可能性が指摘されていた遺構・遺跡が存在していた。まず、アムール川下流のコンドン村に周堤墓に近いと推測された円形の遺構があったが（加藤1981）、2000年の発掘調査の結果、新石器時代の大型住居であることが判明している（長沼2001）。次に南サハリンのドーリンスキー区ソコル遺跡でも７ヶ所の円形の土塁が存在し、周堤墓の可能性も考えられてい



図Ⅲ－３　北海道における環状列石・周堤墓などの分布

た（野村1997）。これは出入り口が２ヶ所ある特殊なもので、今では旧ソ連時代の軍事施設と推測されている（手塚2001）。また、千島列島北部のオンネコタン島ネモ湾に直径10～18mの周堤を持つ遺構が７基存在しているが、これも軍事施設と推測されている（手塚2001）。このように、かつてロシアに存在するとされた周堤墓の可能性のある遺構・遺跡は、今では全て周堤墓ではないと考えられている。

以上が、前稿以後に調査・発表された知見である。この結果、北海道における周堤墓の総数は68基となった。これを一覧表にしたものが表Ⅲ－２である。また、道内の環状列石や周堤墓などの分布をまとめたものが図Ⅲ－３、表Ⅲ－１である。

これらによると周堤墓は、石狩低地帯に80%以上が集中しており、他に道東部のオホーツク海沿岸にもまとまって存在していることがわかる。一方、道南部では堂林式やそれに相当する時期の遺跡が調査されているが（南茅部町垣ノ島Ａ遺跡、松前町東山遺跡など）、周堤墓の存在は明らかではない。また、道北部や十勝・釧路地方では前稿で述べた通り、堂林式の遺物は散点的に出土するのみで、周堤墓も分布していない。このことから、今後調査例が増加しても、周堤墓は主に道央部の石狩低地帯、内陸部およびオホーツク海沿岸に偏って分布する傾向は変わらないものと考えられる。

表Ⅲ－１　北海道における環状列石・周堤墓など

■環状列石・配石遺構（墓壙あり）			
1	湯の里１遺跡	（後期前葉）	知内町
2	日吉遺跡	（後期中葉）	函館市
3	石倉貝塚	（後期前葉）	函館市
4	浜町Ａ遺跡	（後期前葉？）	戸井町
5	八木Ｂ遺跡	（後期中葉）	南茅部町
6	臼尻Ａ遺跡	（後期中葉）	南茅部町
7	浜松２遺跡	（後期中葉）	八雲町
	浜松５遺跡	（後期前葉）	八雲町
8	曽我北栄環状列石	（後期中葉）	ニセコ町
	曽我滝台遺跡	（後期中葉）	ニセコ町
9	モンガクＢ遺跡	（後期中葉）	仁木町
10	安芸遺跡	（後期中葉？）	余市町
	八幡山遺跡	（後期中葉？）	余市町
	西崎山環状列石	（後期中葉）	余市町・小樽市
11	地鎮山環状列石	（後期中葉）	小樽市
	忍路環状列石	（後期中葉）	小樽市
12	Ｎ19（発寒神社）遺跡	（後期？）	札幌市
13	Ｓ94（白石神社）遺跡	（後期中葉？）	札幌市
	Ｓ354遺跡	（後期？）	札幌市
14	音江環状列石	（後期中葉）	深川市
15	神居古潭５遺跡	（後期中葉）	旭川市
16	船泊遺跡	（後期中葉）	礼文町

□環状列石・配石遺構（墓壙なし）			
17	大津遺跡	（後期前葉）	松前町
18	東山遺跡	（後期前葉）	松前町
19	湯の里５遺跡	（後期前葉）	知内町
20	倉知川右岸遺跡	（後期前葉）	森　町
21	鷲ノ木４遺跡	（後期中葉）	森　町
22	野田生１遺跡	（後期中葉）	八雲町
23	野花南熊の沢遺跡	（後期後葉）	芦別市
24	オクシベツ川遺跡	（後期後葉）	斜里町

●周堤墓			
25	美沢１遺跡	（後期後葉）	苫小牧市
	美々４遺跡	（後期後葉）	千歳市
	美々５遺跡	（後期後葉）	千歳市
26	末広遺跡	（後期後葉）	千歳市
27	丸子山遺跡	（後期後葉）	千歳市
	キウス４遺跡	（後期後葉）	千歳市
	キウス周堤墓群	（後期後葉）	千歳市
28	柏木Ｂ遺跡	（後期後葉）	恵庭市
29	野花南周堤墓群	（後期後葉）	芦別市
30	朱円周堤墓	（後期後葉）	斜里町
31	伊茶仁チシネ第３竪穴群遺跡	（後期後葉）	標津町
32	伊茶仁ふ化場１遺跡	（後期後葉）	標津町
33	伊茶仁カリカリウス遺跡	（後期後葉）	標津町

▲積石墓			
34	生渕遺跡	（後期後葉）	北檜山町
35	緑丘遺跡	（後期後葉）	新冠町
36	静内御殿山墳墓群	（後期後葉）	静内町
37	ホロケ遺跡	（後期後葉）	三ツ石町

▽その他後期の墓壙			
38	釜谷２遺跡	（後期後葉）	戸井町
39	小茂内遺跡	（後期後葉）	乙部町
40	美々４遺跡	（後期中葉）	千歳市
41	カリンバ３遺跡	（後期後葉）	恵庭市
42	智東４（智東Ｄ）遺跡	（後期中葉）	名寄市
43	ピウカ２遺跡	（後期後葉）	美深町
44	北川（一区４）遺跡	（後期後葉）	端野町
45	上利別20遺跡	（後期後葉）	足寄町
46	初田牛20遺跡	（後期後葉）	根室市

また、かつてシベリア大陸やサハリンなどに存在するとされた周堤墓に類似する遺構は全て周堤墓ではないことも判明した。そのため、周堤墓という縄文時代後期に特徴的な墓制は、北海道にほぼ限定されるものであるとも言える。

更に、前稿において周堤墓は複数で１単位となり、基本的に単独で存在することは無いとした。これは林などが従来から唱えていたことである（林1979、木村英1981、木村尚1984）。今回、キウス13号が存在しないこと、１基とされていた野花南周堤墓群および伊茶仁ふ化場１遺跡で複数基存在する可能性が指摘されたことで、現在のところ単独で存在する周堤墓の例は全て無くなった。このことからも、周堤墓は基本的に複数基が隣接して存在するものであると言える。この複数の周堤墓はキウス４遺跡例から言っても、ある一定期間並存し、同時に墓域として機能していたと推測される。

そして、多くの周堤墓がまとまる国指定史跡キウス周堤墓群やキウス４遺跡では、周堤墓群の分布が大きく２ヶ所に分かれ対になっている。この２つの遺跡のように、継続的に周堤墓が構築された際には、最小単位である２基１単位の並立が再生産され、その結果周堤墓のまとまりも大きく２分されることになったと考えられるのである。

なお、近年道南部を中心に縄文時代後期前葉から中葉にかけての配石遺構や環状列石の報告が増加しているが、それでも周堤墓の分布域と重なることはない（図Ⅲ－３）。このような分布域からだけではなく、前稿でも述べたように、墓域の立地や墓域と集落との位置関係からも環状列石・配石遺構と周堤墓との直接的系譜関係は疑問である。

しかし、最近の論考でも、系統的では無いとの断りはあるが、函館市石倉貝塚の環状盛土遺構と周堤墓の共通性を指摘するもの（小杉2001）や、秋田県伊勢堂岱の環状列石と朱円周堤墓との配石という形態的類似性を強調し、周堤墓の起源とするもの（今村2002）が見られる。

前稿や今回も述べたように、環状列石と周堤墓では構築時期や分布に大きな差異が見られること、初期の周堤墓では配石がほとんど見られず、夙に関連性が指摘される配石や積み石のある朱円周堤墓群や柏木Ｂ遺跡のものは後半期もしくは終末期の周堤墓であることからも、両者の関連性や系統関係については今のところあまり強調できないと思われる。（藤原）

図Ⅲ－2　周堤墓一覧

No.	所在地	遺跡名	略号	外径	内径	竪穴深さ	周堤幅	周堤高さ	平面形	墓壙数			時期	出入口	マウンド	備考	文献
										竪穴内	周堤上	周堤外					
1	苫小牧市	美沢1遺跡	JX－1	15.30×13.00	8.80× 8.10	0.40	3.00～ 2.00	0.02	円形	2			堂林			周堤を形成している状態ではない	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
2	苫小牧市	美沢1遺跡	JX－2	14.00×13.30	9.00× 8.70	0.20	2.00～ 1.00		円形	4			堂林			周堤なし	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
3	苫小牧市	美沢1遺跡	JX－3	26.00×22.50	13.20×12.30	0.82	5.50～ 4.00	0.30～0.20	円形	17			堂林～三ツ谷				美沢川流域の遺跡群Ⅲ
4	苫小牧市	美沢1遺跡	JX－4	25.50×23.40	14.40×14.20	2.00	5.60～ 8.40	0.65	円形	18			堂林～三ツ谷				美沢川流域の遺跡群Ⅲ
5	苫小牧市	美沢1遺跡	KX－1	25.40×22.50	12.35×11.80	0.26	4.00～ 3.50	0.10	円形	10			堂林～三ツ谷			周堤がKX－2に流れ込む	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
6	苫小牧市	美沢1遺跡	KX－2		9.08× 7.70	0.30			隅丸方形	0			堂林			未完成、周堤なし	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
7	千歳市	美々4遺跡	BS－1		12.00×11.50	0.15		0.10	不整形	9			堂林			竪穴不明瞭、BS－1→BS－3	美沢川流域の遺跡群Ⅳ
8	千歳市	美々4遺跡	BS－2		11.60× 9.70				長円形	4			堂林			竪穴立ち上がり確認できず、周堤なし	美沢川流域の遺跡群Ⅳ
9	千歳市	美々4遺跡	BS－3	20.00×18.50	12.00×10.60	0.50～0.30	4.00～ 2.00	0.20～0.10	円形	11	9		堂林	あり	1（5.5×5.5/0.4）	溝幅2.5～3.5、中央マウンド上に墓壙1基	美沢川流域の遺跡群Ⅳ
10	千歳市	美々4遺跡	X－1	16.40×16.10	9.65× 9.20	0.45	3.30～ 2.80	0.20	円形	2			堂林	あり？		X－2・4→X－1	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
11	千歳市	美々4遺跡	X－2	29.00×26.50	15.90×15.60	1.30	6.70～ 3.60	0.60	円形	15	12		堂林	あり		X－2・4→X－1　他に竪穴内で周堤墓に伴わない墓壙7基	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
12	千歳市	美々4遺跡	X－3	24.80×20.00	11.26× 9.50	0.52	6.20～ 3.80	0.25	楕円形	7			堂林	あり		X－4→X－3　他に竪穴内で周堤墓に伴わない墓壙7基	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
13	千歳市	美々4遺跡	X－4	18.00×17.00	11.00×10.00		3.50		円形	1			堂林			竪穴把握できず　X－2・4→X－1	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
14	千歳市	美々4遺跡	X－6		11.00×10.00	0.42			円形	5			堂林			周堤不明、周堤墓ではない可能性あり　X－2→X－6	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
15	千歳市	美々4遺跡	X－9		10.50×10.30	0.20	10.00	0.10	円形	5			堂林			周堤範囲不明瞭	美沢川流域の遺跡群Ⅸ
16	千歳市	美々5遺跡	BX－1		6.20× 4.73	0.17			長円形	2			堂林			竪穴南壁不明瞭	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
17	千歳市	末広遺跡	ⅡK－1	31.00	17.00	0.50～0.40	7.00	0.60～0.40	円形	9			堂林	あり	1（6.8×6.3/0.3）		末広遺跡における考古学的調査
18	千歳市	末広遺跡	ⅡK－2	25.00	15.00	0.20	5.00	0.17～0.10	円形	10	1		堂林		くぼみ1（1.2×1.1）		末広遺跡における考古学的調査
19	千歳市	末広遺跡	ⅡK－3	28.00	15.00	0.05	6.50	0.20	円形	2			堂林			全体の2分1以上調査	末広遺跡における考古学的調査
20	千歳市	丸子山遺跡	1号	26.00	17.00×15.00	0.60	6.70～ 5.50	0.50～0.30	円形	1			堂林	あり	1（5.6×5.0/1.5）		丸子山遺跡における考古学的調査
21	千歳市	丸子山遺跡	2号	18.00	13.00	0.25～0.20	4.00～ 2.70	0.15	円形	4			堂林	あり？		2号→1号	丸子山遺跡における考古学的調査
22	恵庭市	柏木B遺跡	第1号	21.00×20.40	12.60×11.60	0.42～0.30	4.60～ 3.70	0.45～0.15	円形	21	18	5	三ツ谷	あり		1号→2号	柏木B遺跡
23	恵庭市	柏木B遺跡	第2号		9.68× 8.76	0.25～0.15			円形	11			三ツ谷			周堤の広がり確認できず	柏木B遺跡
24	恵庭市	柏木B遺跡	第3号		11.64×11.16	0.10～0.05			円形	8			三ツ谷				柏木B遺跡
25	恵庭市	柏木B遺跡	第4号		12.20				不明	7			三ツ谷				柏木B遺跡
26	恵庭市	柏木B遺跡	第5号		12.20				不明	3			三ツ谷				柏木B遺跡
27	千歳市	キウス周堤墓群	1号	37.00×26.00	17.00×16.00	*2.00～*	10.00		隅丸方形	5			三ツ谷～御殿山	あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
28	千歳市	キウス周堤墓群	2号	75.00×65.00	32.00	*5.40～*	21.50～16.50		円形	*1*			三ツ谷～御殿山	あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
29	千歳市	キウス周堤墓群	3号	50.00	30.00	*0.90～*	10.00		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
30	千歳市	キウス周堤墓群	4号	75.00	45.00	*2.60～*	15.00		円形			1		あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
31	千歳市	キウス周堤墓群	5号	47.00	28.00×26.00	*1.00～*	10.50～ 9.50		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
32	千歳市	キウス周堤墓群	6号	45.00	25.00×22.00	*0.90～*	11.50～10.00		円形							竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
33	千歳市	キウス周堤墓群	7号	45.00	28.00	*1.30～*	8.50		円形	*1*						竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
		キウス周堤墓群	8号													1998登録抹消、キウス4遺跡内に存在	キウス4遺跡（5）
		キウス周堤墓群	9号													1998登録抹消、キウス4遺跡X－6に相当	キウス4遺跡（5）
		キウス周堤墓群	10号													1998登録抹消、キウス4遺跡X－4に相当	キウス4遺跡（5）
34	千歳市	キウス周堤墓群	11号	45.00	25.00	*0.70～*	10.00		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
35	千歳市	キウス周堤墓群	12号	30.00	16.00	*0.50～*	7.00		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
		キウス周堤墓群	13号														大谷1978、2001年登載抹消
36	千歳市	キウス4遺跡	X－1	32.00	19.00	0.50	6.50	0.20	円形	*1*			堂林		1（6.0×6.0/0.20～0.10）	周堤頂部削平	キウス4遺跡
37	千歳市	キウス4遺跡	X－2	31.00	19.00	*0.70*	6.00	0.20	円形				堂林			竪穴部深さは内側Ⅰ黒層上面と周堤頂部、周堤高さは外側との比高差	キウス4遺跡
38	千歳市	キウス4遺跡	X－3	19.00	10.00	*0.60*	4.50	0.40	円形				堂林			竪穴部深さは内側Ⅰ黒層上面と周堤頂部、周堤高さは外側との比高差	キウス4遺跡
39	千歳市	キウス4遺跡	X－4	41.00	27.00	0.62～0.35	7.00	0.30～0.10	円形	*9*			堂林		2（6.0×6.0/0.3、5.0×4.5/0.2）	周堤頂部削平	キウス4遺跡
40	千歳市	キウス4遺跡	X－5	20.00	14.00	0.30	3.00	0.20	円形				堂林			周堤頂部削平	キウス4遺跡
41	千歳市	キウス4遺跡	X－6	28.00	17.00	0.35～0.27	5.50	0.20	円形				堂林			周堤頂部削平	キウス4遺跡
42	千歳市	キウス4遺跡	X－7	20.00	13.00	0.40～0.20	3.50	0.20	円形				堂林			周堤頂部削平	キウス4遺跡
43	千歳市	キウス4遺跡	X－10	23.38×23.16	16.56×15.16	0.31～0.25	3.56～ 3.18	0.31	円形	14			堂林		1（2.8×2.8/0.15）		キウス4遺跡（5）
44	千歳市	キウス4遺跡	X－11	20.45	12.56	0.38～0.14	3.84～ 3.04	0.14	円形	*1*			堂林	あり	1（6.0×6.0/0.05）	X－12→X－11	キウス4遺跡（5）
45	千歳市	キウス4遺跡	X－12	13.92×13.28	8.64× 8.00	0.24～0.16	2.80～ 2.40	0.16	円形	2			堂林			X－12→X－11、X－12→直線状盛土	キウス4遺跡（5）
46	千歳市	キウス4遺跡	X－13	11.48×10.44	6.89× 6.48	0.20～0.10	2.42～ 1.86	0.00	円形	1			堂林			X－13→X－11	キウス4遺跡（5）
47	千歳市	キウス4遺跡	X－14	10.08	6.00	0.10	2.30～ 2.00	0.00	円形	1			堂林				キウス4遺跡（5）
48	千歳市	キウス4遺跡	X－15	10.84×9.84	6.04× 5.40	0.07	2.52～ 1.92	0.07	円形	3			堂林				キウス4遺跡（5）
49	千歳市	キウス4遺跡	X－16	8.50	5.50				円形				堂林				キウス4遺跡（5）
50	千歳市	キウス4遺跡	X－17	17.82×16.25	9.44× 8.68	0.48～0.26	3.88～ 2.92	0.15	円形	5			堂林	あり	1（5.0×5.0/0.18）		キウス4遺跡（5）
51	千歳市	キウス4遺跡	X－a	28.50×25.00	16.50×15.50	*0.26～0.11*	8.60～ 3.70	0.46～0.30	円形				堂林			竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	キウス4遺跡（5）
52	千歳市	キウス4遺跡	X－b	33.80×32.50	17.90×15.80	*0.26～0.00*	10.60～ 7.00	0.28～0.17	円形				堂林			竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	キウス4遺跡（5）
53	千歳市	キウス4遺跡	X－c	27.50×18.50	10.00× 8.90	*0.38～0.07*	8.80～ 4.00		円形				堂林			竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	キウス4遺跡（5）
54	千歳市	キウス4遺跡	X－d	25.00	16.00				円形				堂林				キウス4遺跡（5）
55	千歳市	キウス4遺跡	X－α		11.50				不明	4			堂林				キウス4遺跡（5）
		キウス4遺跡	X－β		9.00				不明	2			堂林				キウス4遺跡（5）
56	芦別市	野花南周堤墓群	1号	23.40	16.70	0.32	4.20～ 3.70	0.17	円形	3			堂林				新芦別市史、佐藤・長谷山2002
57	芦別市	野花南周堤墓群	2号		11.40	0.12～0.05			円形	1			？				滝里遺跡群Ⅸ、佐藤・長谷山2002
58	斜里町	朱円周堤墓群	A号	28.00×27.00	22.00×21.00				円形	*20*			御殿山				斜里町史、河野広道ノート1981
59	斜里町	朱円周堤墓群	B号	44.48×41.60	27.10×22.38	0.66～0.45	12.10～ 6.70		円形	1			御殿山			竪穴部深さは床面と周堤頂部の比高差	斜里町史、河野広道ノート1981
60	標津町	伊茶仁ふ化場1遺跡		31.50×27.50	20.00	0.30	8.00～ 3.00	0.20	円形	*2*			堂林	あり			標津の竪穴Ⅱ
		伊茶仁ふ化場1遺跡															標津町教委、椙田氏のご教示による
61	標津町	伊茶仁チシネ第3遺跡	1号	18.00	11.00	～0.30	4.00～ 3.00	0.49～0.30	方形?							竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
62	標津町	伊茶仁チシネ第3遺跡	2号	20.00	10.00	～0.30	5.00	0.39～0.30	円形							竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
63	標津町	伊茶仁チシネ第3遺跡	3号	31.00×25.00	19.00×16.00	*0.40～0.20*	6.00～ 4.00	0.50～0.00	楕円形					あり？		竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
64	標津町	伊茶仁チシネ第3遺跡	4号	18.00	10.00	0.30～0.20	5.00～ 4.00	0.30～0.25	円形	*3*						中央にくぼみ	標津の竪穴Ⅷ、椙田1999
65	標津町	伊茶仁チシネ第3遺跡	5号	15.00	6.00×	*0.40～0.30*	7.00～ 5.00	0.60～0.10	円形							竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
66	標津町	伊茶仁カリカリウス遺跡	無名川	17.00	10.50	*0.40～0.10*	3.50～ 2.00		楕円形								椙田1996
67	標津町	伊茶仁カリカリウス遺跡	カリカリウス川1		10.00				円形								椙田1996
68	標津町	伊茶仁カリカリウス遺跡	カリカリウス川2		10.00				円形								椙田1996

※「竪穴深さ」での斜数字は、竪穴床面から周堤頂部までの比高差。※「墓壙数」での斜数字は全掘していないため、まだ増える可能性のある数。

2　キウス４遺跡における周堤墓外の墓壙について

キウス４遺跡では周堤墓に伴なう墓壙の他に、ほぼ同じ時期に作られた周堤墓外の単独の墓壙も見つかっている。この周堤墓外の墓壙は①南側盛土より南側に分布するもの、②南北盛土の開口部、建物跡群や住居跡群の中に分布するもの、③北側盛土より北側に分布するもの、④周堤墓群周辺に分布する周堤墓外のもの、の大きく４つに分けることができる（図Ⅲ－４）。

ここでは、その４ヶ所の墓壙のまとまり＝墓壙群について簡単にまとめ、それぞれの墓壙群間、および周堤墓内の墓壙との関係について考えてみたい。

①南側墓壙群（Ⅰ・Ｒ地区に分布するもの、図Ⅲ－５・６）

Ⅰ地区で13基、Ｒ地区で１基の合計14基が墓壙とされている。このうち、Ⅰ地区の３基（ＩＬＰ－11・21・24）は形状や埋土の状況が他と異なるため、少なくとも後期後葉の墓ではないと考えられる。逆に、記載は無いが規模や埋土などから１基（ＩＬＰ－13）は墓壙と推測される。このため、合計12基が本群に該当する。

本群の12基は調査区全域に散在しているが、２基が長軸方向を揃えて隣接しているものが３組見られる。平面形は長楕円形で周堤墓の墓壙に類似している。遺体層やベンガラ、副葬品、墓標が確認されたものは無い。壙底面長軸長が150㎝を超えるものは３基のみで、小型のものが多い。

なお、Ｒ地区の１基はⅠ地区に近いもので、盛土辺縁部を切って構築されており、盛土遺構よりも新しいものである。

この南側墓壙は南側盛土の外側（南側）に位置し、貯蔵穴群と隣接している。また、規模は長軸長が100㎝以下のもの、100～150㎝のもの、150㎝のものの大きく３つに分かれそうであるが、周堤墓の墓壙よりも概して規模が小さいと言える。

②南北盛土間墓壙群（Ｑ・Ｒ地区に分布するもの、図Ⅲ－７・８）

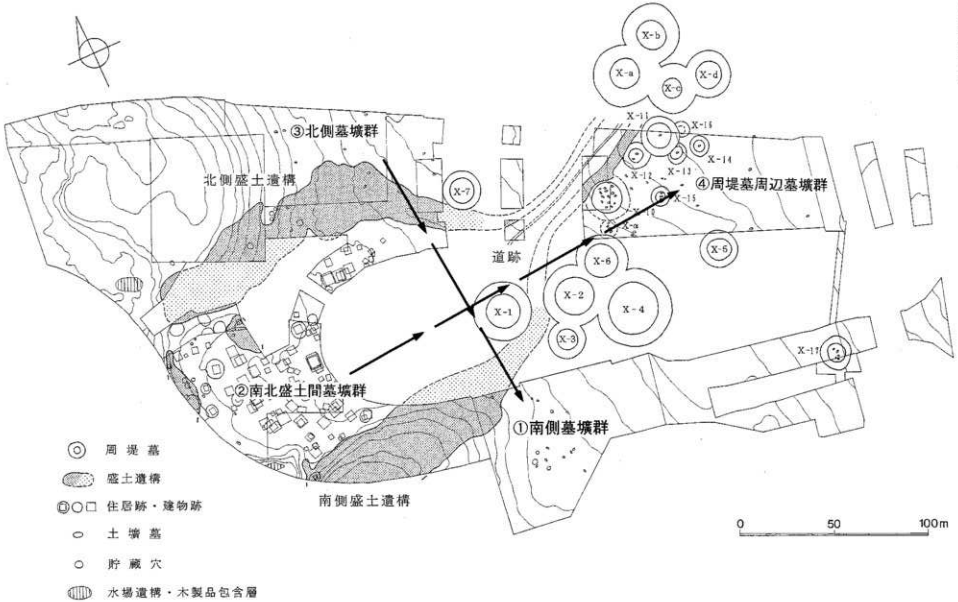
Ｒ地区の１基およびＱ地区の８基が墓壙であるとされているが、うち１基（Ｐ－199）は時期不明である。分布に偏りは無く、調査区全域に散在するが、２基が長軸方向を揃えて隣接しているものが２組見られる。人骨が検出されたもの１基、遺体層とベンガラが確認できたもの４基、ベンガラであるか不明な赤色土が確認できたもの１基である。副葬品や墓標が確認されたものは無い。また、建物群やそれに付属する柱穴群に切られているものが２基ある。

長軸長は全て150㎝以下である。短軸長は60㎝を境に上下に２分されそうである。いずれにしても規模が小さく丸みを帯びたものが主体となっている。また、他の墓壙群に比べてベンガラの撒布例が多いことも特徴である。

この南北盛土間墓壙群は建物跡群と重複する位置にあり、切り合いからそれよりも古いものである。墓壙埋土内に混入する遺物が非常に少ないこと、Ｐ－111で出土した土器は幅が広めの沈線で鋸歯状の文様が施文されていることからも、キウス４遺跡が営まれた時期の中ではやや古く構築されたものと推測できる。

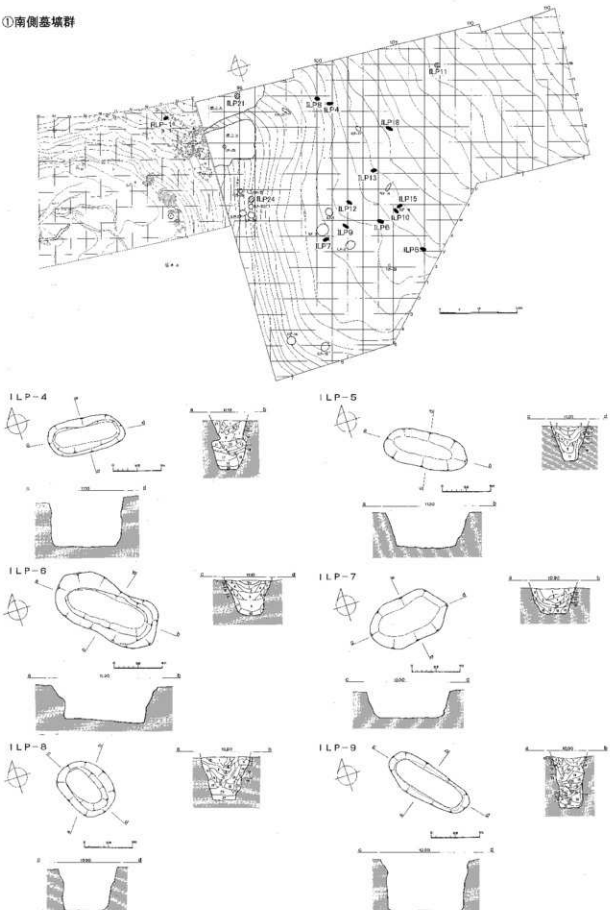
③北側墓壙群（Ｆ・Ｇ地区に分布するもの、図Ⅲ－９・10）

14基が確認されている。この内、北側盛土直下から検出され、盛土遺構よりも古いものが４基ある。遺体層もしくは人骨が検出されたものは４基である。分布に偏りは無く、調査区全域に散在するが、

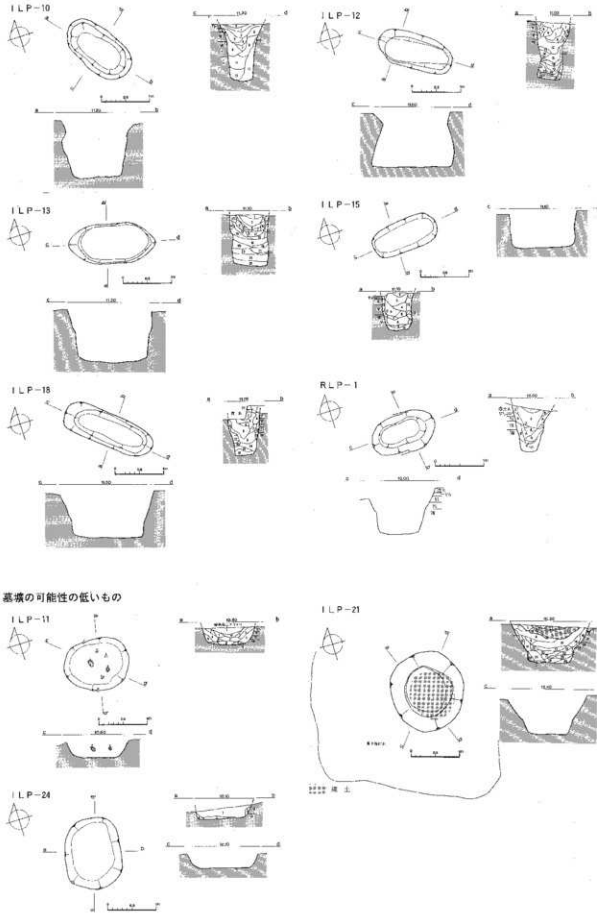


図Ⅲ－4　キウス4遺跡における墓壙群の位置

①南側墓壙群

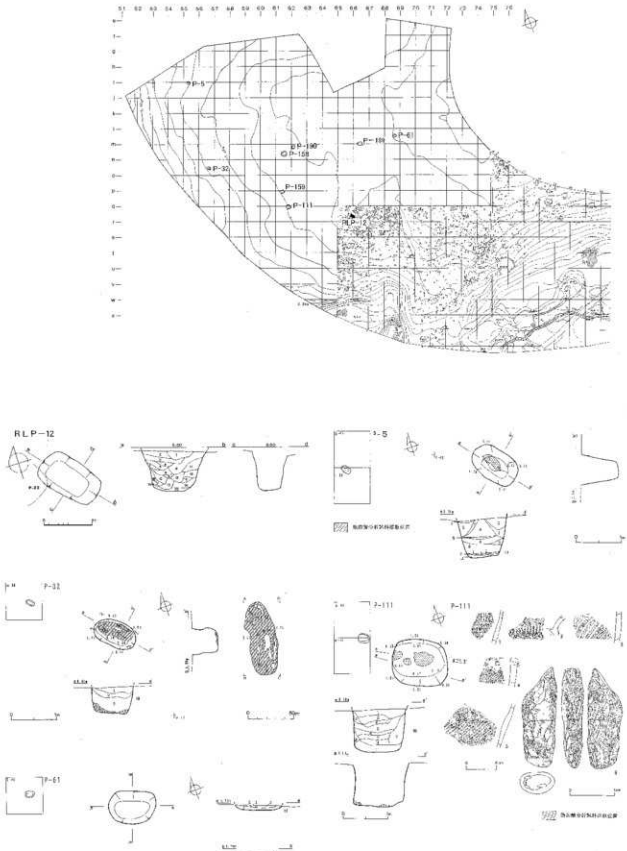


図Ⅲ－５　キウス４遺跡南側墓壙群（１）

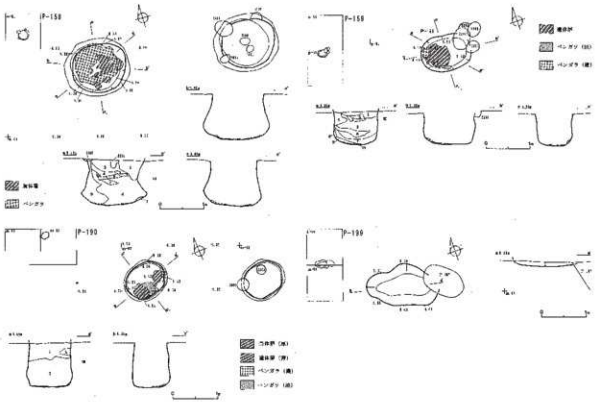


図Ⅲ－６　キウス４遺跡南側墓壙群（２）

②南北盛土間墓壙群



図Ⅲ－7　キウス４遺跡南北盛土間墓壙群（1）



図Ⅲ－８　キウス４遺跡南北盛土間墓壙群（２）

２基が長軸方向を揃えて隣接しているものが３組見られる。墓壙長軸長は193～76cmとばらつきがあるが、160cmで２分され、160cm以上が伸展葬、以下が屈葬と推測されている。前者に属するものは４基、後者は10基である。副葬品やベンガラ、墓標が確認されたものは無い。なお、埋土上部をロームで充填したと考えられる墓壙が２基ある。

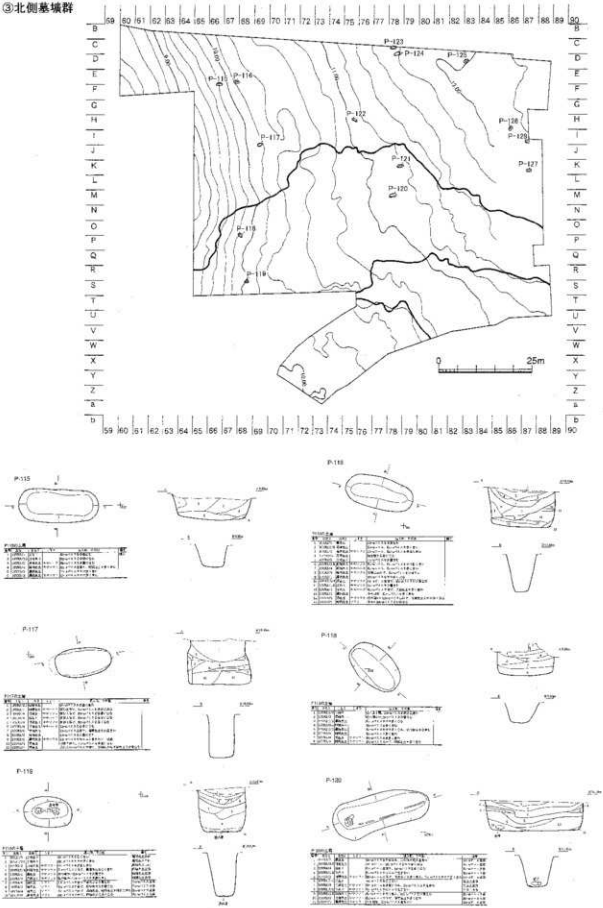
盛土遺構より下位で検出されたものがあることから、周堤墓や盛土遺構が営まれた時期のなかでも早い段階で構築された墓壙が存在している。また、規模においては長軸長ではバラツキが大きいが、短軸長が短く、幅の狭いものが多いことが特徴である。

④周堤墓周辺墓壙群（D地区に分布するもの、図Ⅲ－11・12）

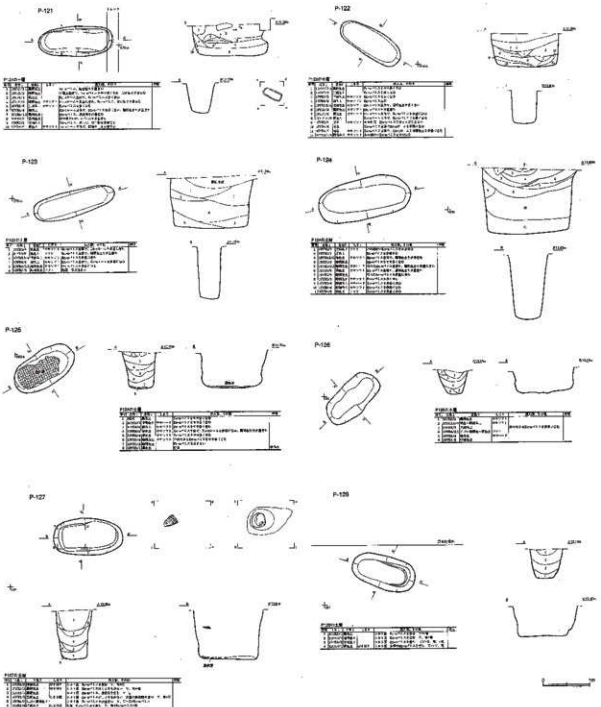
周堤墓周辺で確認された単独の土壙墓は13基である。この内２基は周堤墓Ⅹ－10より古いものである。墓壙は調査区全域に散在しており、必ずしも周堤墓の周辺に偏在していない。なお、２基が長軸方向を揃えて隣接しているものが２組見られる。

13基中、人骨もしくは遺体層が確認できたものは12基である。このうち、ベンガラの撒布も見られたもの３基、副葬品が出土したものは１基である。周堤墓よりも古い２基は平面形が円形に近いものである。この他の11基は墓壙長軸長が150cm以上のものが９基、以下のものが２基と大型のものが多いこと、長軸長に比べて短軸長が狭いものが多いことが特徴である。これらは、Ⅹ－12・13・15・αの周堤墓第１群とした古い段階の周堤墓の墓壙と類似しており、ほぼ同時期に作られたものと推測される。初期の段階の周堤墓では竪穴内に１～３基程度しか墓壙が作られないために、結果的に周堤墓外にも多くの墓壙が構築されたと考えられるのである。

③北側墓壙群



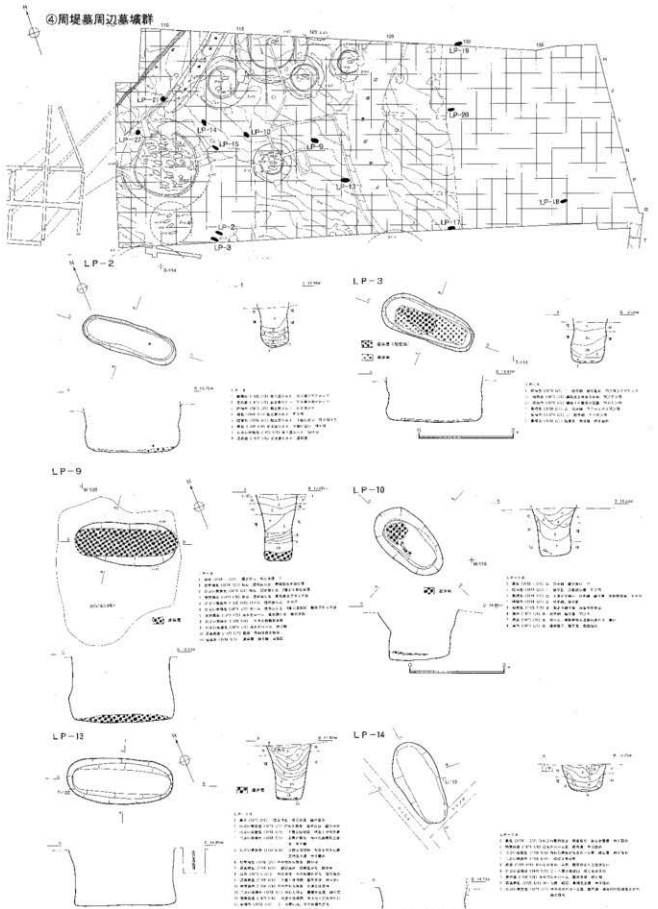
図Ⅲ－９　キウス４遺跡北側墓壙群（１）



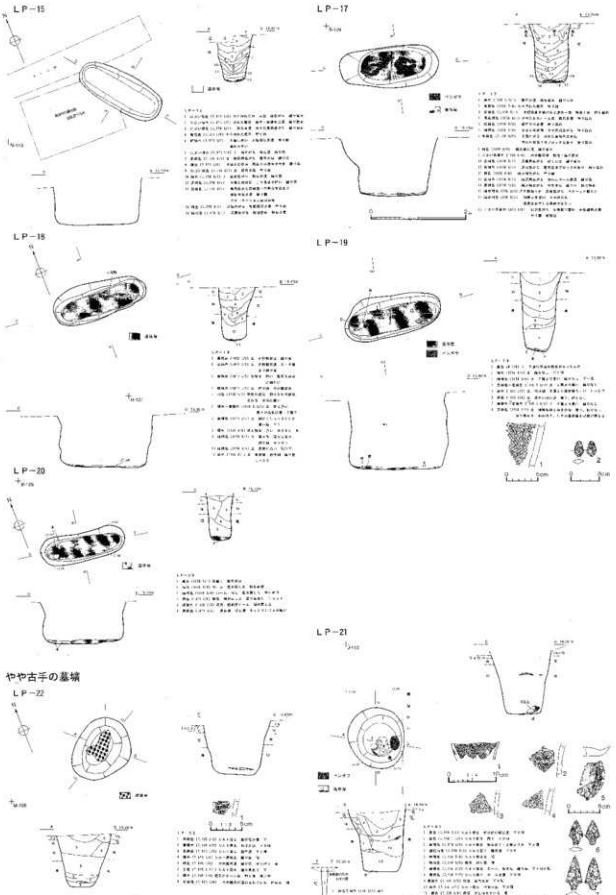
図Ⅲ－10　キウス４遺跡北側墓壙群（２）

以上の44基（最大で47基）が周堤墓外にある、後期後葉の墓壙の概要である。③を除くと基本的にベンガラの撒布や副葬品のあるものはほとんど無く、墓標があるものは１基も無いこと、合葬が見られないこと、などが周堤墓内の墓壙との大きな違いと言える。一方で、墓壙の長軸方向はいずれも北西～西方向にまとまっており、ややバラツキが大きいが周堤墓内の墓壙と類似している（図Ⅲ－14）。

墓壙の規模は群によって若干の差異が見受けられる（図Ⅲ－13）。①南側③北側は比較的類似しているが、相対的に①南側では長軸長が短めで、規模が小さく丸みを帯びており、③北側は長軸長が長



図Ⅲ－11　キウス４遺跡周堤墓周辺墓壙群（１）



図Ⅲ－12　キウス４遺跡周堤墓周辺墓壙群（２）

く短軸長が短い、細長いものが比較的多いとも言える。また、②盛土遺構間は長軸長が短く丸みを帯びた墓壙であり、④周堤墓周辺では長軸長が長く短軸長が短いものが比較的多く、第１群とした古い段階の周堤墓の墓壙に類似している。

墓壙の平面形や規模は構築された時期と密接に関連するものである。以前筆者は、周堤墓の構築順から墓壙の規模の変遷について触れたことがあった（藤原2000）。おおまかにまとめると、第１段階（古）＝丸みを帯びた墓壙と細長い墓壙の並存、中でも細長い墓壙の短軸長が短い、第２段階＝細長い墓壙の短軸長が次第に大きくなる、この段階でも丸みを帯びた墓壙と細長い墓壙が並存するが、両者の差が顕著ではなくなる、第３段階（新）＝長軸長が短くなり丸みを帯びるようになり、墓壙規模は均一化する、という変遷をたどると考えた。

これを周堤墓外の墓壙にも準用してみると、丸みを帯びた墓壙は第１～３段階のいずれにも存在するため時期の特定にはあまり有効ではない。しかし、周堤墓内墓壙で丸みを帯びたものと比べても、極端に丸いものは第１もしくは第３段階のいずれかと推測できるであろう。細長い墓壙については長軸長が長く、短軸長が短いものが相対的に古い傾向があると言える。

この他に、周堤墓外の墓壙群が構築された時期を特定するものとして、他の遺構との切り合い関係がわかる例が①～③にいくつかある。①南側では盛土辺縁部を切るものがあり、南側盛土形成時の最終段階以降に構築されたと考えられる。②盛土遺構間では建物跡群に切られるものがあり、建物群よりも古い時期の墓壙と推測できる。③北側では盛土遺構に覆われるものがあり、それよりも古い時期の墓壙と推測できる。

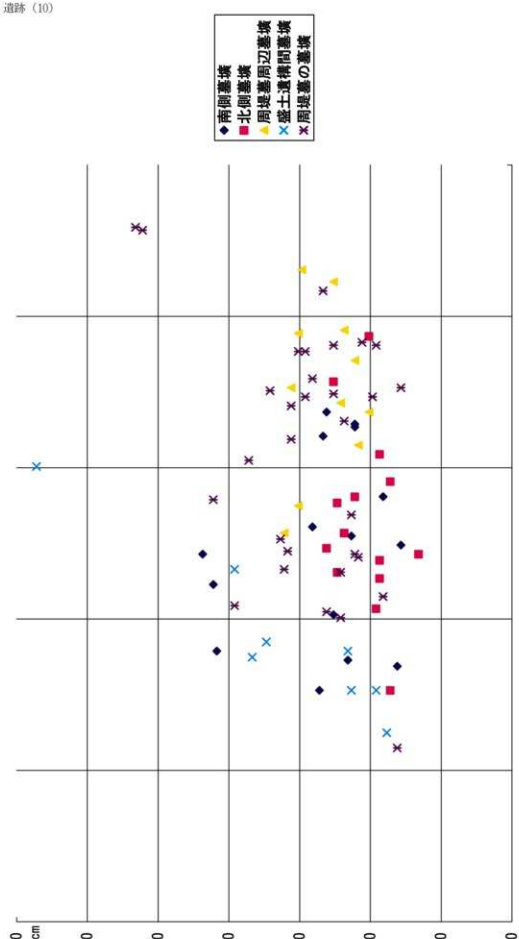
この墓壙規模の変遷と切りあい関係から墓壙群の構築順を推測すると、丸みを帯びた墓壙が多く、建物跡に切られる②盛土遺構間墓壙がもっとも古いものと言える。次いで、④周堤墓周辺墓壙では長軸長が長いこと、周堤墓第１群の墓壙に類似するものがあることからやや古手に位置付けられるであろう。残る①・③は新しい段階のものと考えられるが、両者には類似点が多く一概に結論付けることは出来ない。③北側では短軸長が短いこと、盛土遺構との新旧関係から①南側よりも③北側のほうが若干古いのではないかと推測される。

以上から、大まかには②盛土遺構間→④周堤墓周辺→③北側→①南側と墓域が変遷したと推測される（図Ⅲ－４）。しかし、②と④③①では差異が明瞭であるが、特に③と①では必ずしも特徴が明確に弁別できない。このことから、これら墓壙群は継起的に変遷していったのではなく、並存していた時期も長かったと推測される。なお、墓壙内の出土遺物がほとんど無いことから、出土土器による編年は出来なかった。

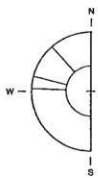
この変遷が認められるならば、キウス４遺跡における墓域の成立とその変遷については次のように考えられる。

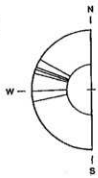
縄文時代後期後葉の、キウス４遺跡で最初に集落が作られ始めた時期では、西側の集落周辺に隣接して丸みを帯びた墓壙が作られた。次いで、対置される東側に周堤墓が作られ、墓域としての性格が強まり、周堤墓内には細長い・丸い両方の墓壙が、周堤墓周辺には主に細長い墓壙が、作られるようになった。そして、墓域＝周堤墓周辺、対置される居住域＝建物跡群、広場＝南北盛土間、と遺跡内での空間配置も明瞭になってきた。

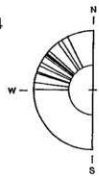
その後、周堤墓が大型化しはじめる周堤墓第２・３群に相当する時期以降に、周堤墓外の墓壙は南北盛土遺構の外縁部に対置して配置されるようになる。その詳しい時期については明瞭でないが、堂林式の新手の時期からあまり遡ることはないであろう。このような墓壙群の対置はおそらく周堤墓群の２分と関連するものであろう。周堤墓の分布は連続しているようにも見えるが、特に大型の周堤墓

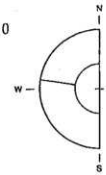


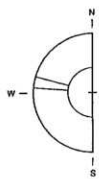
図Ⅲ－13　キウス４遺跡周堤墓内・外墓壌の規模

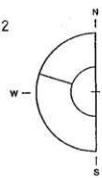


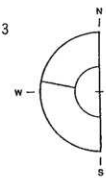


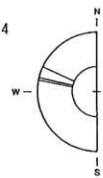


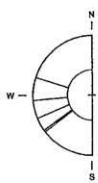


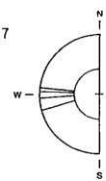


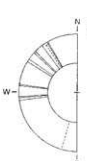


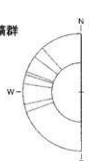


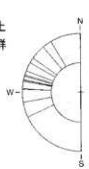


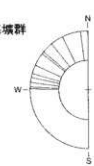












図Ⅲ－14　キウス４遺跡墓壙の長軸方向

ではＸ－10を境にして北側と南側に配置が分かれていると考えられる。これは、Ⅲ－１でも述べたように、２基１単位の周堤墓の組み合わせが再生産されたためと推測した。このような、周堤墓および墓壙群の配置には林の言う双分制も想定される（林1977）。

この墓壙群の変遷は、単なる位置の変遷だけではなく、周堤墓との相対的な関係において質的変化も遂げていると考えられる。既述したように、周堤墓内外の墓壙での大きな差異は墓標、ベンガラ、副葬品の存在の有無であった。前稿でも述べたように、第１群とした古い段階の周堤墓ではベンガラの撒布や副葬品の存在は顕著ではない（藤原2000）。周堤墓周辺墓壙群の多くがこの時期のものとすると、この段階の周堤墓は竪穴が浅く周堤も低いことからも視覚的にも内外を隔絶する要素は弱く、周堤墓内・外の差異は決して大きなものではなかったと思われる。

一方で、北側・南側墓壙群が形成される時期では、周堤墓内の墓壙はベンガラの撒布などが顕著となりだし、一部の墓壙には副葬品も見られるようになる。墓標の有無という視覚的差異と相俟って、周堤墓内・外の墓壙間格差が相対的に拡大していったと言えるのである。これは周堤墓の規模が拡大し、周堤が次第に高くなり、周堤墓の存在自体が内外を区画する性格をより強く有しはじめたことと軌を一にすることであろう。墓域が周堤墓周辺から離れることも、両者の格差がより顕著となっていく過程の一環と考えられるのである。

では、周堤墓内・外の墓壙の被葬者にはどのような差異があったのであろうか。かつて、幼小児埋葬の排除が言われていたこともあったが（林1979）、現在では必ずしも明確ではない。ここでは国指定史跡キウス周堤墓群において、周堤墓外の墓壙から石棒が検出されている（石川1969）ことに注目したい。石棒保有者がシャーマン的存在であった（大谷1975）、と仮定するならば、周堤墓内外の差は被葬者個々人の差異の反映では無く、それぞれが石棒を有するようなまとまった集団間の何らかの差異を示すものと考えられる。周堤墓外の墓壙では副葬品やベンガラ・墓標が周堤墓内の集団と比べてほとんど見られないことは、周堤墓内・外の集団間で持つものと、持たざるものの差、を表すものと考えられる。更に言うならば、それら集団間の何らかの優劣関係を示す可能性もある。

このような、周堤墓内・外格差の拡大化については、後期末葉から晩期初頭の副葬品の多量化から推測される、いわゆる首長層出現（瀬川1983）への過程が必ずしも単純なものではく、集団相互の格差拡大とも密接に関連する重層的な変化であったことを示すものであろう。つまり、より高位の集団＝部族の結合強化、秩序の維持が区画墓の解体によって示される（瀬川1983）、だけでは無く、区画墓＝周堤墓の規模拡大の中に、既にその萌芽が見られると考えられるのである。

なお、キウス４遺跡の建物跡群では大型と中・小型建物で大きな差があり、大型建物は同一地点で建て替えられる例の多いこと、大型建物が規則的に配置され、その周辺に小型建物が配置されていることなどが指摘されている（石井2001）。想像をたくましくするならば、大型建物に象徴される集団と、小型建物複数で表される集団が存在し、それぞれが石棒を有していたが、周堤墓あるいは墓壙群それぞれで行われる祖先祭祀では両者は弁別され、前者が後者よりも優位な立場にあったと考えられるのである。

現在のところ、中央墓壙や副葬品・ベンガラ撒布・墓標の有無で表される周堤墓内の墓壙間格差の拡大とともに、周堤墓内と外との墓壙群間の格差も次第に拡大していったと考えられる。このような集団間の重層的な関係がキウス４遺跡の墓制に反映されていると考えられるのである。

（藤原）

3．キウス４遺跡における縄文時代後期後半の土器

1）はじめに

キウス４遺跡の各報告では、縄文時代後期の主体時期に対する分類として、「Ⅳ群ｃ類」堂林式を基本としながらもその前後型式についての解釈に微妙な相異がある。筆者自身も先行の報告と近年の報告とでは分類を異にしている部分がある。ここではキウス４遺跡で出土した当該期の土器を改めて見直し、堂林式とその前後型式との画期を求め、堂林式の細分を試みた。

2）当該期の土器型式名について

縄文時代後期後半の土器編年、特にエリモＢ式をめぐる経緯については、『キウス４遺跡（２）』において袖岡がまとめている。また近年では、後期後葉の諸型式設定に関する昭和初期段階からの研究史を工藤肇（苫小牧市）がまとめている（工藤2000）。

鉢澗式とエリモＢ式

『キウス４遺跡（２）』では、「便宜的に」刻み列をもつ土器を「鉢澗式の新しい部分またはエリモＢ式」として堂林式から分離した。これは、「刻み列」が鉢澗式成立および衰退の重要な要素であることによる。突瘤や刻みなどの文様要素を層位別に属性分析したところ突瘤の変化よりも刻みの衰退が層位的に如実に現れているのである。

縄文時代後期中葉の土器については1976年に鷹野光行がトコロチャシ南尾根遺跡の出土土器に基づき、手稲式→鉢澗式→エリモＢ式と再整理して位置付けた。しかし突瘤がエリモ遺跡Ｂ地点の土器にはあるが鉢澗式には見られない点が以前から指摘されていた（名取・松下1969）。1989年、小樽市忍路土場の出土土器から鉢澗式を４段階に分類（Ⅵ～Ⅸ期）した田口尚は、その３・４段階にエリモＢ式を対比させ、鉢澗式の新しい部分に併行する型式として位置付けた（北埋調報53）。突瘤と刻みを併せもつ「エリモＢ式」は、その分布が限られており、鉢澗式は少なくとも道央部一帯に広がっている。以上のような事情から、「エリモＢ式」が大きくは鉢澗式の範疇に収まることから、本稿では汎用されている「鉢澗式」の名称を用いることとする。

堂林式

1967年「長沼町幌内堂林遺跡調査報告」において、野村崇が提唱している。突瘤の施される第一群と沈線主体の第二群が層位的に同時存在し、別々の機能をもっていたとされる。提示された資料を見ると、鋸歯状沈線や帯状文、ハの字状短刻線など今回のキウス４遺跡出土土器の各段階の要素が見られるが、三叉文につながる文様のある土器が含まれるなど全体的にはやや新しい段階のものが多いようである。刻み列をもつものがわずかに数点含まれているものの、貼瘤や爪形文に近い文様をもつものは含まれていない。こうした点を尊重して、今回のキウス４遺跡における分類を行っている。

三ツ谷式

乙部町三ツ谷貝塚の資料をもとに大場利夫らによって設定された型式である。設定された資料が堂林式から上ノ国式にかけての資料が混在し、過渡的な段階の様相を呈している。その後他地域での出土例から、突瘤と爪形文が並存する土器が加わるなど、三ツ谷式の解釈に変化が生じている。標識遺跡から遠いことなども含めて、今回の分類では「三ツ谷式」をそのまま用いず、この段階の土器を「三ツ谷式」併行、としている。ただし三ツ谷貝塚で提示された資料の主体は沈線文と「隆点」（小型の貼瘤か）であり、これに爪形文の初現的なものを加えて「三ツ谷式」を理解していく方向性もある。いずれにせよキウス４遺跡では、多くはないもののこの段階の土器がまとまりをもって出土している。

３）各段階の内容と変遷（図Ⅲ－15・16）

鵡澗式－新（末）段階

盛土遺構下位の中でもさらに下位の部分や低地部から出土した資料などに基づいている。忍路土場遺跡での編年で鵡澗式４段階中の４段階目（Ⅸ期）にあたる。刻み列のある土器を一括しているが、緩やかな波状口縁をもつものや磨消を多用し区画内を羽状縄文が充填する土器など、この段階より一段階古いと考えられるものが含まれている（４・10・14など）。

〔器形〕深鉢の口縁は緩やかに波を打つ５単位の波状口縁が残る（２）が、波頂部が尖るものが出現する（１・３）。口唇は肥厚する切出形がまだ残っている（１）が、肥厚しない切出形口唇がみられるようになる（５）。深鉢の胴部くびれはやや強い。また器壁が７㎜以上の比較的厚い土器が多い。底部は平坦で面積の大きいものが多い。鉢には大型の台が付くものがある（６・14）。注口土器は球体に近く、口頸部が太く短く直立するものが多い。微隆線をもつ搬入土器も球体に近い（17）。

〔文様〕鵡澗式で盛行した口縁部や頸部の刻み列が残るものの、衰退する。２条単位の刻み列であったものが１列になったり（４・５ほか）、沈線でえがいた刻みになったりする（８）。また刻み列のほかに突瘤が施され始める段階である（２・４）。胴部の文様は弧線文や入組文を主体とした帯状文が健在で、磨り消しや充填縄文により区画内を施文している。またこの段階で鋸歯状沈線や弧線文を規則性をもって密にえがく文様が出現する（３・５・７）。注口土器は弧線文や入組文を主体とした帯状文が主体である。胴部の貼瘤はやや大きな瘤状のものが続き、縦割りのものも多くみられる（12ほか）。

堂林式－古段階

盛土遺構下位の比較的上位の部分や、盛土遺構の中位の層から出土した資料などに基づいている。

〔器形〕深鉢の口縁は緩やかな波状口縁が姿を消し、波頂部が尖る５単位の波状口縁が多くなり、平縁では５単位の小さな突起をもつものが多くなる。口唇は肥厚しない切出形口唇が多くなる。深鉢の胴部くびれはやや弱くなる。器壁のやや厚い土器がまだ多く残っている。注口土器は引き続き口頸部が直立するものもあるが、口縁に向かってすぼまる形態をもつものが多くなる。

〔文様〕刻みが抜けて３本の横走沈線のみになるものがある（19）。深鉢から浅鉢まで各器種の口縁部に突瘤が施されるようになる。縄文地に突瘤のみの土器が圧倒的に多い。また無文の土器も目立っている。胴部に文様が施されるものでは、帯状文が残るものの（18）、鋸歯状沈線（20）や弧線文（21）が規則性をもって密にえがかれ、帯状文の沈線化が進む。注口土器は鵡澗式の名残が顕著で、弧線文や入組文を主体とした帯状文が施文されている（26・27）。頸部と胴部の境に巡っていた刻み列が隆帯（26）や３本の横走沈線に置き換わっているものもみられる。また帯状文の沈線化が進むが、規則性のある弧線文の組み合わせがほとんどである（28・29）。

堂林式－中段階

盛土遺構の中位の層や、盛土遺構上位のうち比較的下位から出土した資料などに基づいている。中規模の周堤墓から出土した注口土器も含まれる（44）。

〔器形〕深鉢の口縁は、波状口縁の単位数がそれまでの５単位から徐々に増加する（34・35）。口唇は鋭角になり鋭い切出形口唇が多くなる。深鉢の胴部くびれはだんだん弱くなる。また器壁が５～７㎜の薄い土器になってくる。底部は小さくなり、上げ底気味にくぼむようになる。鉢には小さな台がつくものもある（38）。注口土器は口頸部が長くなる傾向がある。口縁に向かってすぼまり、口縁部付近で小さく外反する形態をもつものが多くなる。また胴部最大径がやや下方になっていく。微隆線で文様が構成され搬入と考えられる土器は、環状（48）など特殊な形態の土器が現れるようになる。

〔文様〕突瘤が施される深鉢が盛行し、特に口縁部に突瘤と横走沈線がめぐる深鉢が圧倒的に多くな

る。胴部くびれの無文帯はだんだん幅広になる。胴部に文様が施されるものでは、鋸歯状沈線や対向弧線文などがやや不規則になるものも目立ってくるようになる（39）。帯状文は少ないが、入組帯状文が続いている。鉢では区画内の縄文が消滅したり、ハの字状短刻線で充填したりするものが現れる（40）。注口土器は帯状文の区画内に沈線を密に充填するものや全面縄文地に弧線文の組み合わせを密にえがくものが主体である。微隆線をもつ土器は、隆帯状に細い刻み列が施されるものが多くなる。

堂林式－新段階

盛土遺構の中位～上位の層から出土した資料などに基づいている。

〔器形〕深鉢の口縁は、波状口縁の単位数がさらに増加し、10単位を超える「小波状口縁」が現れる（52）。鋭い切出形口唇で、段をもつものが多くなる。深鉢の胴部くびれはだんだん弱くなり目立たなくなる。底部はさらに細くなるものが現れる（55）。注口土器は口頸部が長くなる傾向が続くが、太くなり口縁部が広がる傾向にある。微隆線の搬入と考えられる土器は、巻貝形（64・65）がある。

〔文様〕胴部くびれの無文帯はさらに幅広になり、口縁部の文様態が（突瘤＋）横走沈線のみになるものが現れる（53）。胴部に文様が施されるものでは、帯状文が形を変えて増えてくる。蛇行したり渦をえがいたり、直線的な帯状文と曲線的な帯状文を組み合わせたりと多様化している。入組帯状文が変化し、クランク状の帯状文が現れる（51・55）。帯状文にはその区画に沿って列点（51）が施されたり、刺突が充填されたりするものも現れる。鉢では区画内の縄文がないものが増え、ハの字状短刻線で充填するものが多くなる（56）。注口土器では、全面縄文地のものは沈線が乱れる（58）。鋸歯状の帯状文が現れ、帯状文の区画に沿う列点やハの字状短刻線で充填されるものが多くなる。

「三ツ谷式」併行

盛土遺構の上位の層やさらにその上位のⅤａ層から出土した資料などに基づいている。

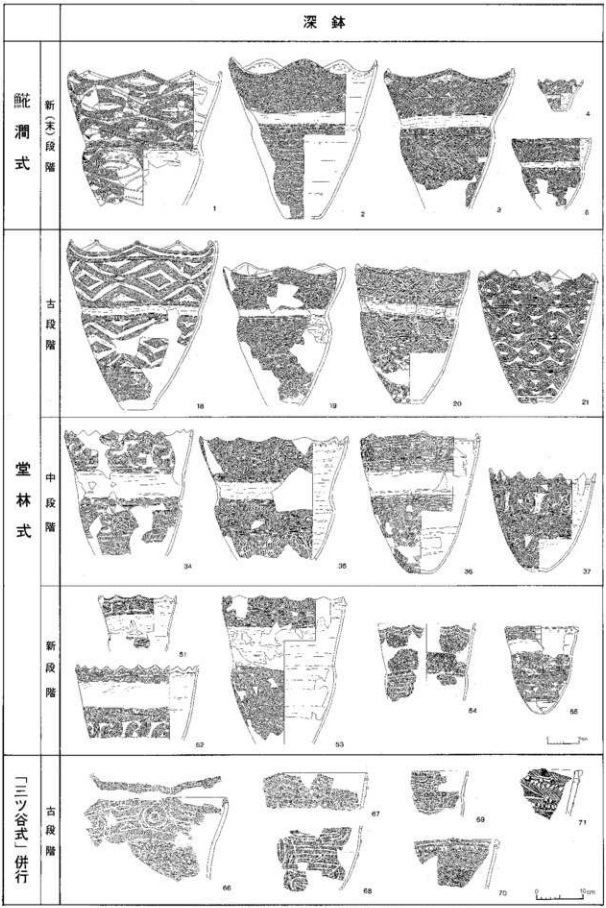
〔器形〕小型の深鉢に胴部の張り出すもの（69）が現れる。また広口壺（74）が出現する。注口土器は口頸部がさらに大型化し、底部に台状の作り出しをするものが現れる（76）。

〔文様〕豆粒状やボタン状の貼瘤が多数付され始める。突瘤は縦長につまみ出された状態になり、爪形に近づいている（70）。やや不規則な帯状文や沈線がえがかれている。壺形土器は縄文地よりハの字状短刻線や刺突などが目立つ。

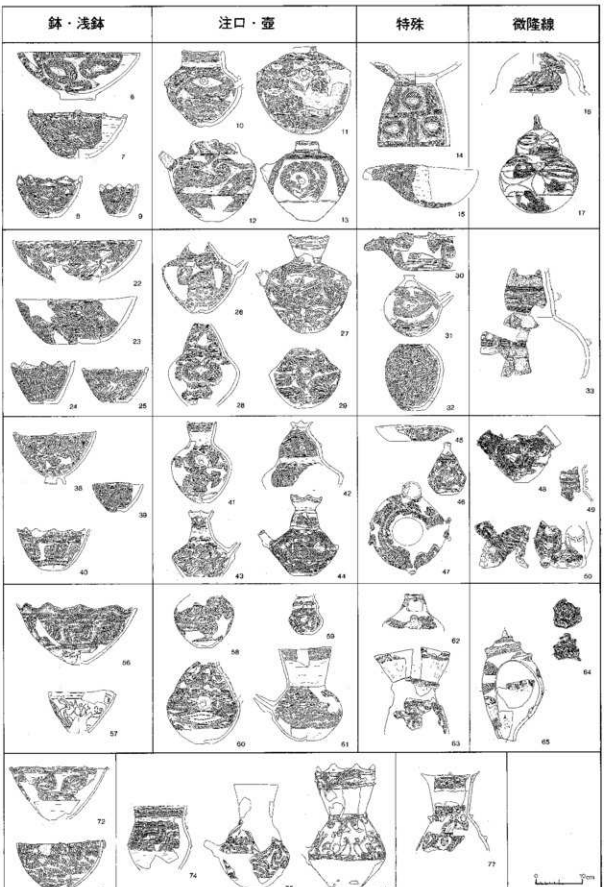
全体的な諸要素の変遷を表Ⅲ－３に示した。深鉢では厚手から薄手への器厚の変化、波状口縁の単位の増加と平坦化、口唇の鋭角化、胴部くびれの平坦化とそれに伴う無文帯の拡大・口縁部文様帯の縮小化、帯状文の沈線化とクランク文への変化、羽状縄文の多用から斜行縄文主体への変化などが挙げられる。壺・注口土器では、主に長頸化と器形（器種）の多様化、帯状文の沈線化・ハの字状短刻線による充填などが挙げられる。

４）おわりに

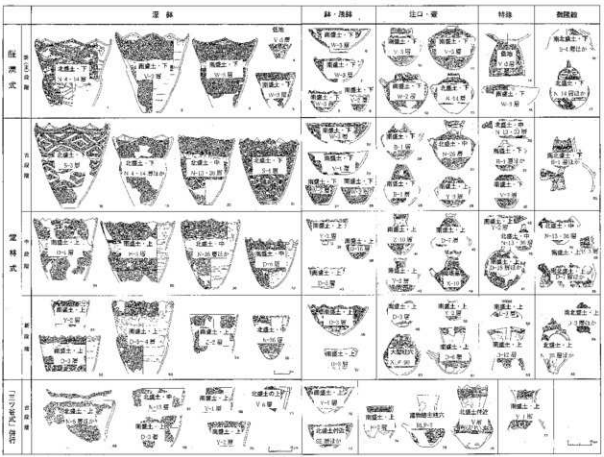
キウス４遺跡の膨大な出土土器を扱ったにもかかわらず、時間的制約と不手際により十分に検討することができなかった。しかし、堂林式の内容やその変遷を示し、その前後型式について触れることができた。堂林式の前に刻みと突瘤を併せ持つ一群があり、大きくは鯡澗式の範疇に入る。この分類が認められるならば、周堤墓を含めたキウス４遺跡の遺構群は鯡澗式の新（末）段階の土器が使用される時期から造営され、本格化する中で新型式の堂林式土器が成立するということになる。また貼瘤や爪形文が施される、堂林式とは分離される一群の土器（「三ツ谷式」併行）が成立し発展する中でキウス４遺跡の集落が衰退するという経過をたどると説明することができる。



図Ⅲ－15　キウス４遺跡出土の縄文時代後期後半の土器（１）



図Ⅲ－16　キウス４遺跡出土の縄文時代後期後半の土器（２）



図Ⅲ－17　掲載土器出土遺構・主体層位

表Ⅲ－３　出土土器諸要素の変遷

器種		深鉢・鉢・浅鉢										注口・壺											その他
要素		器形				文様						器形					文様						
		器	波状口縁	口唇	胴部くびれ	底部	刻み	突瘤	隆文帯	帯状文	沈線	地文	口縁部	胴部最大径	注口部	底部	刻み	結合	帯状文	沈線	地文		
脱渡式	新段階	渡	揺やかな緩和		強	平・広			強	由縁帯状文主体		羽状縄文多い・無消	太・短	やや上	太・短	平		やや大・縦形小形	由縁帯状文主体		全面羽文・或羽状縄文・無消	単孔土器	
	新～末～身層		波浪形	反り始める						由縁帯状文主体（縁かけ状入組文・鋭文などあり）	密な沈線出現（帯状文の沈線化）イナズマ沈線・鋭帯状沈線・羽縁文					無心の上げ底			由縁帯状文主体（縁かけ状入組文・鋭文など）				
草林式	古段階		多単位からなし無（7単位）							縁直状の帯状文あり	密・縦沈線本格化 イナズマ沈線・縁帯状沈線・羽縁文	羽状縄文最小始める						単位化	帯状文の沈線化 イナズマ沈線・鋭鋭文		全面縄文・羽帯・本格化		番手形土器
	中段階		単位から二増減			上げ底				入組帯状文多用・ハの字状短刻線出現	縦沈線 文様連続が始れる（多様化する）入組文増える		縦	中	縦・長			小型化	ほとんどなし	縦沈線文様多様化	全面縄文本格化		羽状土器
	新段階		小波状口縁出現			上げ底あり			広	クランク文多用・ハの字状短刻線多用	沈線 文様連続が始れる（多様化する）	羽行縄文多い							山形文・ハの字状短刻線多用	沈線 文様連続が始れる（多様化する）	無文部増加	双口土器	
「三ツ谷式」参行	古段階		小波状口縁本格化						貼壁	円文なども多くなる・ハの字状短縁線やや減少			太・長			台の中心出し		ボタン状沈部・小型結合の多数化	ハの字状短刻線多用		無文部さらに増加		
	新段階	薄			弱	強		爪形文		ハの字状短刻線少なくなる				やや下									

※ この表は各時期の主体となる要素を示した概念的な表である。調整けの時期はキウス４遺跡では主体的に出土していない。

4．縄文時代後期後半の微隆線の土器について

キウス４遺跡出土の縄文後期後半の土器は沈線による文様装飾が主体であるが、その中に微隆線による装飾のある土器が含まれていた。堂林式土器などとは胎土が異なり、多くは赤彩されている。これらの土器は、東北地方の「瘤付土器」などに含まれている土器に類似するものである。東北各県の出土資料の一部を実見した点も踏まえて、微隆線でえがかれた土器の特徴について簡単にまとめ、キウス４遺跡における出土の意義を考察してみる。

【文様の特徴】（図Ⅲ－18）

東北地方の報告例では、「微隆線」「微隆起文」「ミミズバレ状の微隆起文」「みみず腫れ状の隆沈線」などと称している。文様を構成する線の両側を浅くくぼませたり、周囲の粘土を寄せて線を浮き上がらせたりする手法で２本１組を基本としてえがかれており、帯状文を意識していると思われる。文様構成は弧線文・タスキ状入組文がえがかれたり大小の貼瘤が付されたりするなど、同時期の注口土器や一部深鉢形土器にみられる文様を基本としているものが多い。遺跡分布図（図Ⅲ－19）ではミミズバレ状の極めて細い微隆線の土器が出土した遺跡を黒塗り、文様を構成する線の両側を浅くくぼませた微隆線に類似する「隆沈線」などの土器が出土した遺跡を白抜きにして区別してある。

【器形の特徴】

胴部が球体に近い注口土器が基本である。環状土器（横位・縦位）、巻貝形土器、そして土偶にも微隆線が施されたものがあり、時期が新しくなるにつれて器形が多様化したことが考えられる。

【分布】（図Ⅲ－19）

主体は新潟県阿賀野川流域－福島県会津地方－阿武隈川付近以北の東北地方一帯で、北海道石狩低地帯以南での出土を確認しており、遠くは石川県にも出土地点がある（米泉遺跡）。また出土量としては、岩手県北部～青森県南部と福島県西～北部にやや多く見られる。

東北南部では出土遺跡が比較的密であるが、破片が少数出土している遺跡が多い。ただし福島県北東部と新潟県北部にはややまとまった資料がある。前者は三貫地貝塚の完形注口土器などがあり、微隆線文系の土器ではあるが、ミミズバレ状の細い微隆線と区別が微妙なものが多い。後者は山北町上山遺跡・朝日村元屋敷遺跡・新発田市中野遺跡でまとまった資料がある。上山遺跡では全面赤彩された巻貝形土器が出土している（東京国立博物館蔵）。元屋敷遺跡では、巻貝形土器のほかにも単孔壺形土器や完形の小型壺形土器など豊富に出土している。中野遺跡では、微隆線の注口土器が出土するほか、幅が狭く縄文が充填された帯状文をもつ土器があり（図Ⅲ－18の６）、微隆線成立の手がかりになるような土器が出土している。一方隣接する山形県域では、微隆線の土器が出土する遺跡はそれほど多くはみられないものの、村山市宮の前遺跡では人面付土器があり（図Ⅲ－18の15）、特色がある。

東北地方北部では出土遺跡分布がやや疎であるが、岩手県北部～青森県南部の馬渕川流域にややまとまりが見られる。特に軽米町長倉Ⅰ遺跡では、大型の「ダルマ」形の注口土器や赤彩された環状注口土器などが出土している（図Ⅲ－18の１）。また宮古市近内中村遺跡・花泉町中神遺跡では包含層から巻貝形土器が出土している。秋田県域では少数であるが、大内町鹿爪遺跡には赤彩された人面付土器があり、特色のある土器が出土している。また近年微隆線の土器が出土する遺跡が確認されている（森吉町椚内Ａ・漆下）。

北海道では、昭和59（1984）年に長沼町12区Ｂ遺跡の異形環状土器が初めて報告され、平成８（1996）年に千歳市キウス４遺跡で出土した。近年では八雲町野田生１遺跡（北埋調報183集）・南茅部町垣ノ島Ａ遺跡・松前町東山遺跡といった道南部で確認され始めている。また千歳市美々４遺跡の出土資料

の中にも含まれていたことが分かった（『キウス４遺跡（８）』第１p.389）。各遺跡とも量は少ないが、異形の土器や全面赤彩など装飾が豊かなものが多い。

【出土状況の特徴】

遺構に確実に伴って出土したものは稀で、野田生１遺跡の例がある。竪穴住居跡の床面に後期中葉の鉢潤式に相当する土器と伴出している。その他は、捨て場や盛土遺構など時期がある程度限定される出土例があるものの、遺物包含層出土や単独での出土例が多数見られる。

【赤彩について】

赤彩が施された微隆線の土器は、おおむね分布域全体に見られるが、特に北海道は赤彩土器の比率が高い。また新潟県域にも多くみられる。また北海道12区Ｂ・キウス４・野田生１および新潟県籠峰では赤色顔料分析により、水銀朱が塗布されたという結果が得られている。

【時期】（図Ⅲ－18）

縄文時代後期中葉～後葉、おおむね十腰内Ⅳ～Ⅴ群・瘤付土器第Ⅰ～Ⅱ段階（小林2001）の時期に伴って出土している。大きく新旧があり、以下の特徴がある。

古段階（おおむね鉢潤式（新）・十腰内Ⅳ式・瘤付土器第Ⅰ段階に相当）

器種は注口土器を基本とした、「ダルマ形」のものが多い。胴部の瘤はボタン状や縦割りの瘤が多く、当該期における他の注口土器の要素と共通しているものが多い。文様は弧線文の組み合わせが多く、対向弧線やたすきがけの入組文などで構成される。微隆線の断面は比較的なだらかである。

新段階（おおむね堂林式・十腰内Ⅴ式・瘤付土器第Ⅱ群に相当）

器種は巻貝形・人面付異形土器・環状土器など特殊なものが出現する。文様は弧線や直線の組み合わせなど多様化してくる。また隆帯上に細かい刻み列と尖り気味の小型の貼瘤が施されるものが多いことが特徴である。微隆線の断面は三角形になり鋭くなっており、微隆線上にも小さな瘤がつくものがあることも特徴である。

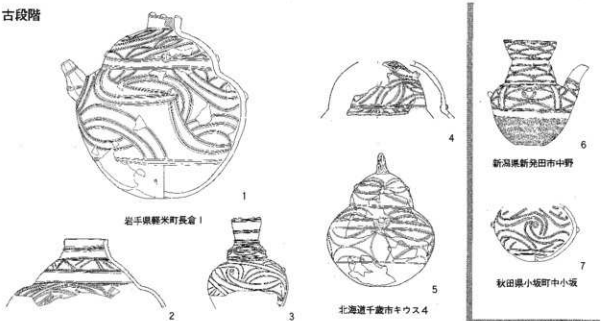
巻貝形土器は、微隆線と隆帯上に細い刻みが施されるものが古く（上山・近内中村ほか）、微隆線が少なくなり（中神）、刻みが消え（山形県上山市泥部）、ついに隆帯化する（秋田県鷹巣町藤株）という変遷が想定される。また人面付土器も同様の変遷が想定され（宮の前・鹿爪→尾形）、北海道上磯町茂辺地遺跡出土や秋田県琴丘町狐森遺跡出土の人面付土器につながるものと考えられるが、伴出土器の検討を行っておらず不明である。

以上の点から、微隆線土器の成立とキウス４遺跡での状況を想像を加えて推測してみる。

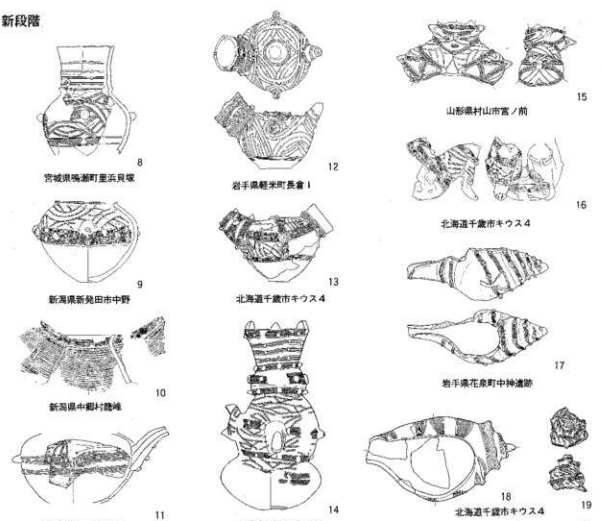
初現的な土器があることや他の注口土器との区別が微妙な土器があることなどから、微隆線の土器は注口土器の変化の過程で東北南部の地域において成立したと考えられる。そして瘤付土器の拡散と関連して特に北方へと技術が伝播し、大型化したり装飾を加えたりしながらそれほど時間をおかずに北海道まで達したと考えられる。

ちょうどそのころキウス４遺跡は、集落の造成が盛んになり人口が増加し始めたと考えられる時期で、交易などにより赤彩された微隆線の土器が搬入されたと考えられる。そして集落の人口が徐々に増加する中で力（生産・消費・流通）が増大し、さらに多様な搬入品が得られたと想定される。赤彩された微隆線土器は、集落の中心的な人物や他の集団に対しての威信材としての役割、また儀礼的シンボルといった役割を一時期は果たしていたことも考えられる。しかしある程度の機能を果たした後は周堤墓内の墓壙などの個人的な墓に納めることはなく、ムラ全体の力として盛土遺構に「送った」と考えられる。（阿部）

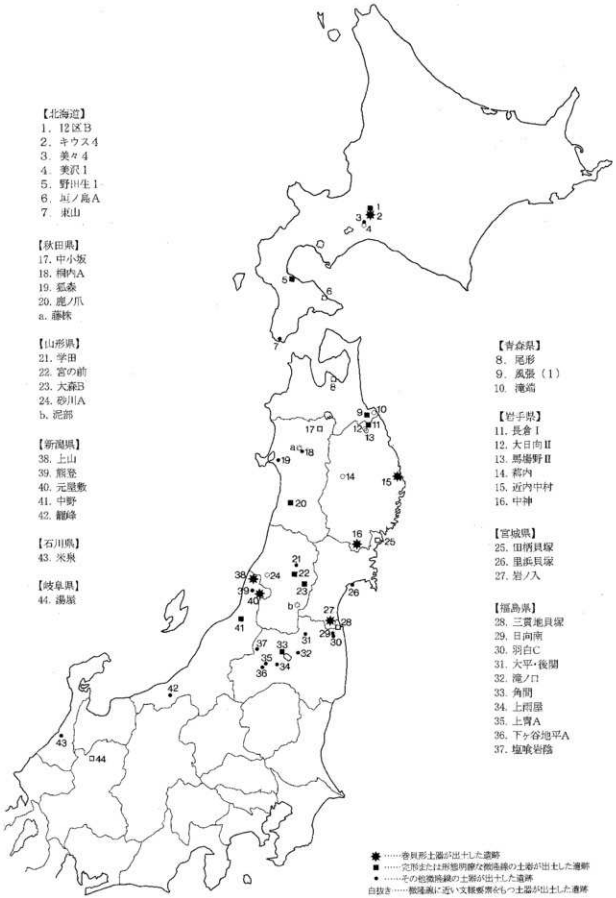
古段階



新段階



図Ⅲ－18　微隆線の土器



図Ⅲ－19　微隆線の土器出土遺跡分布図

Ⅳ　キウス４遺跡遺構索引

●一覧表　註

1．北海道横断自動車道建設に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成５・７～10年度に発掘調査を実施したキウス４遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書（全９冊）の遺構索引である。

2．索引は、最初に遺構の種類ごとに並べその中で地区名のアルファベット順に掲載した。ただし、Ｆ・Ｇ地区については遺構番号を通しで付けているためその番号を優先させた。

3．遺構は周堤墓、竪穴住居跡、建物跡（大型柱穴列を含む）、盛土遺構（盛土中の焼土を含む）、河道跡、その他がある。その他としたものには、直線状盛土、道跡、杭列、溝状遺構、集石、炭窯がある。

4．地区名はアルファベットと算用数字により23地区に分けた。なお、平成５年度に行った詳細試掘調査は工事用地内の全域を対象としているため地区名は付けていない。年度ごとに調査した地区名は以下のとおりである。

平成７（1995）年度	Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ地区
平成８（1996）年度	Ｌ地区
平成９（1997）年度	Ａ１'・Ｄ・Ｅ１・Ｅ２・Ｆ・Ｈ・Ｉ・Ｋ地区
平成10（1998）年度	Ａ２・Ｇ・Ｊ（Ｊ１～Ｊ６）・Ｑ・Ｒ地区

＊当初、Ａ地区としていたが、平成７年のＡ地区と重複するためこの索引ではＡ１地区とした。

5．発掘区の設定はキウス４遺跡の工事予定地内全域に４ｍ×４ｍの方眼をかけ、東西、南北のラインに付けた記号によるグリッド名とした。東西方向のグリッドラインは北からアルファベットの大文字（Ａ～Ｚ）、同小文字（ａ～ｚ）、算用数字（１～６）の順に付けた。南北方向のグリッドラインは西から東に向かって算用数字（30～156）で表示した。グリッドの名称は北西隅の杭とした。
なお、遺構が２グリッド以上にまたがるものはそのうちの１グリッドを代表させた。

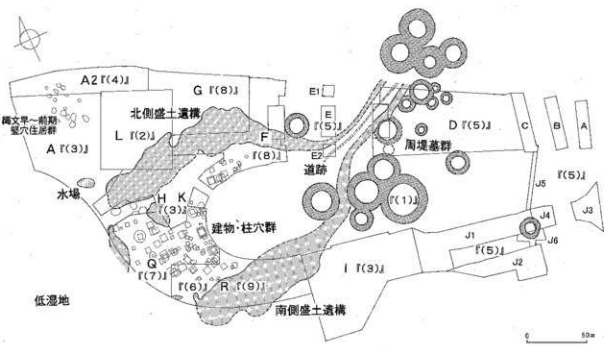
6．検出層位はローマ数字で表した基本土層とした。この他に盛土○層、ＳＥ層（整地層）、遺構の床・壁などと表記したものがある。

7．遺構の時期は報告書に記載したものをそのまま掲載した。時期不明のものについては、空欄あるいは不明とした。調査年は西暦で表した。

8．報告書番号はキウス４遺跡のシリーズ番号を入れた。なお、１冊目の報告書はシリーズ番号が付いていないが「１」とした。

9．本文、図、写真はその遺構が掲載されている最初の頁数を入れた。分冊となっている報告書は分冊番号を入れた。頁数を打っていない写真は図版番号の数字を丸括弧付きで表示した。

10．備考欄には土壙の性格（土壙墓、貯蔵穴、柱穴など）、建物番号（建物の柱穴と認定したもの）などを記入した。また、表のみでしか掲載されていないものは表の頁数を入れた。



図Ⅳ－１　キウス４遺跡　主な遺構群と掲載報告書

『(2)』・『(3)』……は『キウス４遺跡（２）』・『キウス４遺跡（３）』……をさす。
なお『(1)』とは、北埋調報119集『キウス４遺跡』をさす。

表Ⅳ－１　キウス４遺跡　報告書簡易索引

主なテーマ		主な報告書掲載ページ	内　容
周堤墓	記載	『(1)』p.25～47	X－1～7（・8・9）のトレンチによる確認調査
		『(5)』p.37～111	X－10～17・α、周堤墓内の墓壙31基（４体合葬墓など）
	考察	『(5)』p.228～266	研究史、周堤墓の分布、周堤墓の分類、キウス周堤墓群との関係、キウス４遺跡の周堤墓の構築過程など
建物・柱穴群（縄文後期）	記載	『(6)』p.23～249	建物跡127軒、土壙10基、フラスコ状ピット２基など
		『(7)』第１p.28～178・194～203 第２p. 7～236	建物跡110軒、土壙墓８基、フラスコ状ピット３基、土坑26基など （遺体の痕跡のある土壙墓、炭化ドングリ入り柱穴あり）
		『(8)』第１p.238～314	建物跡21軒、土壙墓14基、フラスコ状ピット３基、ロームピットなど
	考察	『(6)』p.359～369	建物跡および柱穴状ピットの分類・新旧関係、「道跡」など
		『(7)』第２p.359～373	規模による建物跡の分類、重複関係、配置、集落構成など
		『(8)』第１p.371～384	建物の方位・配列、出入り口付き住居検出遺跡一覧など
盛土遺構	記載	『(2)』p.50～183	北側盛土の最厚部の一部を３ブロック分け
		『(3)』第１p.312～342ほか	北側盛土の一部と南側盛土の一部
		『(8)』第１p.25～71	北側盛土22層分層、層位別地形図など
		『(9)』第１p.31～614	南側盛土上下２層14ブロック分け、層厚図など
	考察	『(9)』第２p.251～255	盛土遺構の特徴・形成過程の推定・性格
水場・河川利用（縄文後期）	記載	『(3)』第１p.81～103	湧水を利用したと考えられる水場遺構
		『(9)』第２p. 1～106	斧の柄・容器など多様な木製品、旧河道跡の杭列など
土器編年等（縄文後期）	考察	『(2)』p.379～399	堂林式研究史、文様の分類、各種属性分析、微隆線の土器
		『(8)』第１p.385～412	搬入土器、接合関係、縄文後期後半～晩期の編年
		『(9)』第２p.256～270	器種組成、接合関係、盛土上下別集成および分類
縄文早～前期の竪穴住居群など	記載	『(3)』第１p.44～80	早期後半の６軒、前期前半の大型住居跡２軒など
		『(4)』p.67～104	早期後半～前期前半の住居跡５軒、土壙、焼土など
	考察	『(4)』p.219～231	早～前期の集落構成、土器編年、木製品についてなど
キウス４遺跡のまとめ		『(9)』p. 1～130	遺構・遺物のまとめ、索引など

表Ⅳ－２　キウス4遺跡遺構一覧(1)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
周堤墓													
全域	X-1	d-96	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		26		27		(4)	XP-1
全域	X-2	b-106	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		30		31		-	
全域	X-3	h-105	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		30		31		-	
全域	X-4	d-114	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		33		34		(7)	XP-1～9
全域	X-5	V-125	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		38		39		-	
D	X-5	S-125		縄文後期	1997	5		37		37		3	
全域	X-6	W-109	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		38		41		(6)	
全域	X-7	N-91	Ⅲ	縄文後期後半	1993	1		44		45		-	
D	X-10	N-110	Ⅲ	縄文後期後葉	1997	5		38		39		9	
D	X-11	F-117	Ⅲ	縄文後期後葉	1997	5		63		65		17	
D	X-12	I-114	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		74		71		19	
D	X-13	I-119	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		77		78		21	
D	X-14	H-122	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		81		82		22	
D	X-15	N-117	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		84		85		23	
D	X-16	F-120		縄文後期後葉	1997	5		88		89		26	
J	X-17	i-140	Ⅲ	縄文後期後葉	1998	5		90		91		27	
D	(X-α)	R-110		縄文後期後葉	1997	5		99		32		32	仮称
周堤墓内の基壌													
全域	X-1 XP-1	c-96		縄文後期後半	1993	1		28		28		(5)	
全域	X-4 XP-1	b-113		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-2	c-113		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-3	a-113		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-4	a-114		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-5	Z-113		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-6	Y-113		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-7	d-113		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-8	e-112		縄文後期後半	1993	1		33		35			
全域	X-4 XP-9	f-113		縄文後期後半	1993	1		33		34			
D	GP-1001	M-110	Ⅳ	縄文後期後葉	1995	5		44		45		5	
D	GP-1002	N-110	Va	縄文後期後葉	1995	5		44		45		6	
D	GP-1003	M-109	Va	縄文後期後葉	1995	5		44		47		7	
D	GP-1004	N-109	Va	縄文後期後葉	1995	5		48		47		7	
D	GP-1005	O-109	Va	縄文後期後葉	1995	5		48		49		8	
D	GP-1006	P-110	Va	縄文後期後葉	1995	5		48		50		8	
D	GP-1007	N-109	Ⅵ	縄文後期後葉	1995	5		51		51		9	
D	GP-1008	N-110	Va	縄文後期後葉	1997	5		52		53		11	
D	GP-1009	N-109	Va	縄文後期後葉	1997	5		52		55		13	
D	GP-1010	O-111	Va	縄文後期後葉	1997	5		56		57		14	
D	GP-1011	M-111	Va	縄文後期後葉	1997	5		56		58		14	
D	GP-1012	O-111	Va	縄文後期後葉	1997	5		56		59		14	
D	GP-1013	N-111	Va	縄文後期後葉	1997	5		60		61		15	
D	GP-1014	N-111	Va	縄文後期後葉	1997	5		60		62		16	
D	GP-1101	F-117	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		64		70		18	
D	GP-1201	I-114	Va	縄文後期後葉	1997	5		74		75		20	
D	GP-1202	I-113	Va	縄文後期後葉	1997	5		76		76		20	
D	GP-1301	I-119	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		77		80		21	
D	GP-1401	H-122	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		81		83		23	
D	GP-1501	N-117	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		84		86		24	
D	GP-1502	N-117	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		84		87		25	
D	GP-1503	O-117	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		88		87		26	
J	GP-1701	i-140	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	5		90		95		28	
J	GP-1702	i-140	Ⅵ,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	5		90		95		30	
J	GP-1703	h-140	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	5		94		97		30	
J	GP-1704	j-140	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	5		94		97		31	
J	GP-1705	j-140	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	5		96		98		32	
竪穴住居跡													
全域	H-1	k-58	Ⅷ	縄文後期後半	1993	1		48		49		(10)	
A	ALH-1	W-52	Ⅵ	縄文早期後半	1997	3	1	44	1	45	2	11	
A	ALH-3	K-44	Ⅴ	縄文前期前半	1997	3	1	44	1	47	2	29	
A	ALH-4	L-47	Ⅴ	縄文前期前半	1997	3	1	46	1	50	2	31	
A	ALH-5	H-45	Ⅷ	縄文早期後半	1997	3	1	49	1	52	2	33	
A	ALH-6	H-40	Ⅵ	縄文前期前半	1997	3	1	53	1	54	2	34	
A	ALH-7	I-41	Ⅷ	早期後半～前期前半	1997	3	1	57	1	58	2	35	
A	ALH-8	J-41	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	57	1	58	2	36	
A	ALH-9	L-41	Ⅵ	縄文早期後半	1997	3	1	57	1	59	2	37	
A	ALH-10	M-44		縄文早期後半	1997	3	1	60	1	61	2	38	
A	ALH-11	I-42	Ⅵ	縄文前期前半	1997	3	1	64	1	65	2	39	

表Ⅳ－３　キウス4遺跡遺構一覧(2)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
A	ALH-12	J-40		縄文前期前半	1997	3	1	64	1	66	2	40	
A	ALH-13	K-43	V	縄文早期後半	1997	3	1	67	1	68	2	41	
A	ALH-14	J-40		縄文早期後半	1997	3	1	70	1	72	2	42	
A	ALH-15	K-42	VI	縄文早期後半	1997	3	1	74	1	75	2	43	
A	ALH-17	M-43		縄文早期後半	1997	3	1	74	1	76	2	44	
A	ALH-18	L-44		縄文早期後半	1997	3	1	79	1	80	2	29	
A2	LH-19	G-39	V	早期後葉～前期初頭	1998	4		67		70		25	
A2	LH-20	E-42	V	縄文早期後葉	1998	4		67		70		25	
A2	LH-21	F-40	V	縄文早期後葉	1998	4		68		71		27	
A2	LH-22	G-38	V	縄文前期初頭	1998	4		68		72		28	
A2	LH-23	E-41	VD	縄文早期後葉	1998	4		69		73		29	
D	LH-1	T-107	V	縄文後期中葉	1997	5		146		146		49	
L	H-1	T-63	Vb	縄文後期後半	1996	2		196		195		419	
Q	LH-23	q-64	Ⅷ	縄文中期後半	1998	7	1	25	2	2	3	8	
Q	LH-25	o-63	Ⅷ	縄文中期後葉	1998	7	1	26	2	4	3	9	
Q	LH-33	j-61	Ⅷ	中期後半～後期前半	1998	7	1	27	2	6	3	10	
R	RLH-1	u-80	Ⅷ	縄文早期後半	1998	6		317		318		376	
R	RLH-2	t-75	VI	後期初頭以前	1998	6		320		319		376	
	建物跡												
F	建物1	Y-73		縄文後期後葉	1997	8	1	244	1	245	2	9	
F	建物2	Y-73		縄文後期後葉	1997	8	1	247	1	248	2	9	
F	建物3	X-74		縄文後期後葉	1997	8	1	249	1	250	2	9	
F	建物4	X-74		縄文後期後葉	1997	8	1	252	1	253	2	9	
F	建物5	Y-75		縄文後期後葉	1997	8	1	254	1	255	2	9	
F	建物6	X-75		縄文後期後葉	1997	8	1	257	1	258	2	9	
F	建物7	X-76		縄文後期後葉	1997	8	1	260	1	261			
F	建物8	W-73		縄文後期後葉	1997	8	1	262	1	263			
F	建物9	U-75		縄文後期後葉	1997	8	1	264	1	265			
F	建物10	U-75		縄文後期後葉	1997	8	1	267	1	266			
F	建物11	U-77		縄文後期後葉	1997	8	1	267	1	268			
F	建物12	W-78		縄文後期後葉	1997	8	1	269	1	269			
F	建物13	W-78		縄文後期後葉	1997	8	1	270	1	271			
F	建物14	V-79		縄文後期後葉	1997	8	1	272	1	273			
F	建物15	U-79		縄文後期後葉	1997	8	1	274	1	275			
F	建物16	U-79		縄文後期後葉	1997	8	1	276	1	277			
F	建物17	T-80		縄文後期後葉	1997	8	1	278	1	279			
F	建物18	R-77		縄文後期後葉	1997	8	1	279	1	280			
F	建物19	Q-69		縄文後期後葉	1997	8	1	281	1	282			
F	建物20	Y-71		縄文後期後葉	1997	8	1	282	1	284			
F	建物21	X-71		縄文後期後葉	1997	8	1	284	1	285			
H	HLH-1	e-59	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	3	1	261	1	263	2	157	
H	HLH-2	e-57	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	3	1	262	1	264	2	159	
H	HLH-3	e-56	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	3	1	262	1	246	2	160	
H	HLH-4	f-52	Ⅷ	不明	1997	3	1	262	1	246	2	160	
H	大型柱穴列	e-61	VI	縄文後期後半	1997	3	1	262	1	265	2	161	
J	掘立柱建物跡	r-128	V	近世	1998	5		169		170		51	
K	KLH-1	d-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	3	1	277	1	282	2	166	
K	大型柱穴列	d-69	VI	縄文後期後半	1997	3	1	277	1	279	2	168	
Q	建物1	p-57	VI	縄文後期後葉	1998	7	1	29	2	9	3	11	
Q	建物2	o-55	VI,Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	31	2	13	3	12	
Q	建物3	m-54	Vb	縄文後期後葉	1998	7	1	33	2	15	3	13	
Q	建物4	n-54		縄文後期後葉	1998	7	1	34	2	17			
Q	建物5	o-61	SE-2,Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	35	2	18	3	14	
Q	建物6	j-52		縄文後期後葉	1998	7	1	36	2	20			
Q	建物7	n-54		縄文後期後葉	1998	7	1	37	2	21			
Q	建物8	p-55	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	37	2	22	3	14	
Q	建物9	n-54		縄文後期後葉	1998	7	1	39	2	23	3	14	
Q	建物10	k-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	40	2	25	3	15	
Q	建物11	o-63	SE,Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	42	2	29	3	16	
Q	建物12	m-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	43	2	31	3	18	
Q	建物13	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	34			
Q	建物14	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	35	3	19	
Q	建物15	j-66		縄文後期後葉	1998	7	1	47	2	39	3	19	
Q	建物16	h-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	49	2	43	3	21	
Q	建物17	k-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	50	2	45	3	22	
Q	建物18	n-74		縄文後期後葉	1998	7	1	52	2	49	3	24	
Q	建物19	i-53		縄文後期後葉	1998	7	1	53	2	53	3	24	
Q	建物20	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	54	2	55	3	25	

表Ⅳ－４　キウス4遺跡遺構一覧(3)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Q	建物21	n-73		縄文後期後葉	1998	7	1	55	2	57			
Q	建物22	p-73		縄文後期後葉	1998	7	1	56	2	59			
Q	建物23	m-73		縄文後期後葉	1998	7	1	56	2	61	3	25	
Q	建物24	f-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	57	2	65			
Q	建物25	k-54		縄文後期後葉	1998	7	1	58	2	67			
Q	建物26	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	59	2	68			
Q	建物27	j-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	60	2	69	3	25	
Q	建物28	j-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	61	2	71			
Q	建物29	m-57	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	62	2	73			
Q	建物30	l-55	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	63	2	75			
Q	建物31	h-55	Ⅷ？	縄文後期後葉	1998	7	1	64	2	77			
Q	建物32	f-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	65	2	78			
Q	建物33	t-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	65	2	79			
Q	建物34	s-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	66	2	82			
Q	建物35	h-57		縄文後期後葉	1998	7	1	67	2	83	3	26	
Q	建物36	k-53	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	68	2	84			
Q	建物37	m-54		縄文後期後葉	1998	7	1	69	2	85			
Q	建物38	l-53		縄文後期後葉	1998	7	1	70	2	86			
Q	建物39	f-68		縄文後期後葉	1998	7	1	70	2	87	3	26	
Q	建物40	f-68		縄文後期後葉	1998	7	1	71	2	89	3	26	
Q	建物41	o-63	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	72	2	91	3	27	
Q	建物42	j-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	74	2	94			
Q	建物43	n-60		縄文後期後葉	1998	7	1	75	2	95	3	28	
Q	建物44	n-60		縄文後期後葉	1998	7	1	76	2	97	3	29	
Q	建物45	h-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	77	2	99			
Q	建物46	g-60	SE,Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	78	2	101	3	29	
Q	建物47	f-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	79	2	102			
Q	建物48	l-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	80	2	103			
Q	建物49	h-57		縄文後期後葉	1998	7	1	81	2	104	3	30	
Q	建物50	h-59		縄文後期後葉	1998	7	1	82	2	105	3	30	
Q	建物51	l-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	83	2	107	3	30	
Q	建物52	j-62	SE,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	84	2	111	3	31	
Q	建物53	n-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	85	2	113	3	33	
Q	建物54	n-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	86	2	115	3	34	
Q	建物55	m-58	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	87	2	118	3	34	
Q	建物56	r-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	88	2	119	3	35	
Q	建物57	s-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	89	2	119	3	35	
Q	建物58	k-73		縄文後期後葉	1998	7	1	90	2	120			
Q	建物59	l-52		縄文後期後葉	1998	7	1	90	2	121			
Q	建物60	l-52	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	91	2	122			
Q	建物61	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	91	2	123			
Q	建物62	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	92	2	125			
Q	建物63	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	93	2	127	3	35	
Q	建物64	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	94	2	131			
Q	建物65	k-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	95	2	133			
Q	建物66	o-70		縄文後期後葉	1998	7	1	96	2	135			
Q	建物67	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	96	2	137	3	35	
Q	建物68	g-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	97	2	139			
Q	建物69	m-70	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	98	2	142			
Q	建物70	k-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	143	3	36	
Q	建物71	m-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	144			
Q	建物72	l-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	100	2	145			
Q	建物73	p-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	101	2	146			
Q	建物74	p-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	101	2	147	3	36	
Q	建物75	j-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	102	2	148	3	37	
Q	建物76	j-56	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	103	2	149			
Q	建物77	u-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	104	2	149			
Q	建物78	o-57	Ⅵ～Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	104	2	150	3	37	
Q	建物79	n-74	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	105	2	151	3	38	
Q	建物80	m-60		縄文後期後葉	1998	7	1	106	2	155	3	38	
Q	建物81	i-71		縄文後期後葉	1998	7	1	107	2	157			
Q	建物82	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	107	2	159			
Q	建物83	o-60		縄文後期後葉	1998	7	1	108	2	161			
Q	建物84	n-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	109	2	163	3	39	
Q	建物85	m-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	110	2	166			
Q	建物86	m-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	167	3	36	
Q	建物87	p-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	169			
Q	建物88	p-71	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	112	2	170			

表Ⅳ－５　キウス4遺跡遺構一覧(4)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Q	建物89	q-58	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	112	2	171	3	40	
Q	建物90	k-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	113	2	172	3	41	
Q	建物91	l-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	115	2	173			
Q	建物92	n-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	175	3	42	
Q	建物93	m-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	176			
Q	建物94	m-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	178			
Q	建物95	n-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	179	3	42	
Q	建物96	m-66	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	118	2	180	3	43	
Q	建物97	k-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	119	2	182			
Q	建物98	p-60		縄文後期後葉	1998	7	1	120	2	183			
Q	建物99	h-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	120	2	184	3	44	
Q	建物100	k-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	121	2	185	3	44	
Q	建物101	j-67	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	123	2	187			
Q	建物102	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	123	2	188	3	45	
Q	建物103	o-62		縄文後期後葉	1998	7	1	125	2	189	3	46	
Q	建物104	o-67	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	125	2	190			
Q	建物105	q-56	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	7	1	126	2	190	3	47	出入口のみ
Q	建物106	f-68		縄文後期後葉	1998	7	1	127	2	191			出入口のみ
Q	建物107	f-68		縄文後期後葉	1998	7	1	127	2	191			出入口のみ
Q	建物108	e-68		縄文後期後葉	1998	7	1	128	2	192			出入口のみ
Q	建物109	e-69		縄文後期後葉	1998	7	1	128	2	192			出入口のみ
Q	建物110	l-56		縄文後期後葉	1998	7	1	129	2	192			出入口のみ
R	建物跡1	y-71	Ⅵ～Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		24		24		374	
R	建物跡2	y-71	Ⅵ～Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		24		24		374	
R	建物跡3	q-77	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		27		28		375	
R	建物跡4	t-74	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		29		29			
R	建物跡4'	t-74	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		29		29			
R	建物跡5	q-76	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		30		31			
R	建物跡5'	q-76	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		30		31			
R	建物跡6	s-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		33		34			
R	建物跡6'	s-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		33		34			
R	建物跡6"	s-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		34		34			
R	建物跡7	s-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		35		34			
R	建物跡7'	s-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		35		34			
R	建物跡8	u-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		36		36			
R	建物跡9	u-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		36		36			
R	建物跡10	t-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		37		38			
R	建物跡10'	t-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		37		38			
R	建物跡11	t-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		38		38			
R	建物跡12	r-69	SE-2,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		39		41			
R	建物跡13	r-69	SE-2,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		39		41			
R	建物跡14	r-69	SE-2,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		40		41			
R	建物跡15	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		43		43			
R	建物跡16	t-75	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		44		44			
R	建物跡17	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		45		45			
R	建物跡18	u-73	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		46		47			
R	建物跡19	u-73	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		46		47			
R	建物跡20	u-73	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		47		48			
R	建物跡21	v-72	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		47		49			
R	建物跡22	v-72	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		48		49			
R	建物跡23	v-72	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		48		49			
R	建物跡23'	v-72	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		49		49			
R	建物跡24	v-72	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		50		49			
R	建物跡25	v-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		50		51			
R	建物跡26	v-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		51		52			
R	建物跡26'	v-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		51		52			
R	建物跡27	q-76	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		53		52			
R	建物跡28	q-76	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		53		54			
R	建物跡28'	q-76	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		53		54			
R	建物跡29	r-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		54		55			
R	建物跡30	r-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		56		56			
R	建物跡30'	r-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		56		56			
R	建物跡31	s-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		57		57			
R	建物跡32	s-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		57		57			
R	建物跡33	r-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		61		58			
R	建物跡33'	r-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		61		58			
R	建物跡34	v-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		61		59			
R	建物跡34'	v-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		62		59			

表Ⅳ－６　キウス4遺跡遺構一覧(5)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	建物跡35	u-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		62		63			
R	建物跡36	u-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		62		63			
R	建物跡37	w-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		63		64			
R	建物跡38	u-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		64		65			
R	建物跡38'	u-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		64		65			
R	建物跡39	p-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		65		66			
R	建物跡39'	p-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		66		66			
R	建物跡40	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		66		67			
R	建物跡40'	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		67		67			
R	建物跡41	q-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		68		69			
R	建物跡42	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		71		71			
R	建物跡42'	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		71		71			
R	建物跡43	q-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		72		72			
R	建物跡43'	q-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		72		72			
R	建物跡44	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		73		73			
R	建物跡45	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		74		74			
R	建物跡45'	q-74	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		75		74			
R	建物跡46	r-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		75		76			
R	建物跡46'	r-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		75		76			
R	建物跡47	r-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		77		77			
R	建物跡48	s-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		78		78			
R	建物跡49	s-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		79		79			
R	建物跡49'	s-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		79		79			
R	建物跡50	s-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		80		80			
R	建物跡51	p-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		81		81			
R	建物跡51'	p-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		81		81			
R	建物跡52	q-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		82		83			
R	建物跡52'	q-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		82		83			
R	建物跡53	r-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		83		84			
R	建物跡53'	r-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		83		84			
R	建物跡54	q-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		85		85			
R	建物跡55	q-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		86		87			
R	建物跡56	s-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		87		88			
R	建物跡57	t-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		88		89			
R	建物跡57'	t-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		89		89			
R	建物跡58	u-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		90		90			
R	建物跡59	v-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		90		91			
R	建物跡59'	v-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		91		91			
R	建物跡60	v-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		92		92			
R	建物跡61	u-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		93		93			
R	建物跡62	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		94		95			
R	建物跡63	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		94		95			
R	建物跡64	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		94		95			
R	建物跡65	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		94		95			
R	建物跡66	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		94		95			
R	建物跡67	q-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		97			
R	建物跡68	q-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		99			
R	建物跡69	q-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		101		103			
R	建物跡70	r-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		102		105			
R	建物跡71	q-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		107			
R	建物跡72	s-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		110			
R	建物跡73	r-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		111			
R	建物跡73'	r-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		110		111			
R	建物跡74	r-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		113		115			
R	建物跡75	q-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		113		117			
R	建物跡76	r-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		114		119			
R	建物跡77	s-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		119		120			
R	建物跡78	q-68	Ⅶ,SE-2	縄文後期後葉	1998	6		120		121			
R	建物跡79	q-68	Ⅶ,SE-2	縄文後期後葉	1998	6		120		121			
R	建物跡80	q-68	Ⅶ,SE-2	縄文後期後葉	1998	6		121		121			
R	建物跡81	r-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		122		123			
R	建物跡82	r-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		122		124			
R	建物跡82'	r-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		122		124			
R	建物跡83	t-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		124		125			
R	建物跡83'	t-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		124		125			
R	建物跡84	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		125		126			
R	建物跡85	t-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		126		126			
R	建物跡86	q-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		127		127			

表Ⅳ－７　キウス4遺跡遺構一覧(6)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	建物跡87	r-67	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		127		128			
R	建物跡88	w-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		128		129			
R	建物跡89	s-75	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		129		130			
R	建物跡90	r-73	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		130		131			
R	建物跡91	r-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		132		132			
R	建物跡92	t-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		132		133			
R	建物跡93	u-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		134		134			
R	建物跡94	u-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		135		134			
R	建物跡95	u-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		135		136			
R	建物跡96	s-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		136		137			
R	建物跡97	s-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		137		138			
R	建物跡98	r-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		139		138			
R	建物跡99	q-65	SE-2,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		139		139			
	土壙												
全域	P-1	i-79		縄文後期後半	1993	1		52		52		(12)	
全域	P-2	k-60		縄文後期後半	1993	1		53		53		(13)	建物80（Q地区）
全域	P-3	l-59		縄文後期後半	1993	1		53		53		(13)	建物80（Q地区）
A	ALP-1	Y-45	V	縄文後期後半	1997	3	1	81	1	83	2	17	水場遺構
A	ALP-2	Z-46	V	縄文後期後半	1997	3	1	81	1	86	2	15	水場遺構
A	ALP-3	Z-47	V	縄文後期後半	1997	3	1	97	1	99	2	13	水場遺構
A	ALP-4	Z-47	V	縄文後期後半	1997	3	1	97	1	99	2	13	水場遺構
A	ALP-5	Y-47		縄文後期後半	1997	3	1	105	1	106	2	13	
A	ALP-6	Y-47		縄文後期後半	1997	3	1	105	1	106	2	18	
A	ALP-7	X-46		縄文後期後半	1997	3	1	105	1	106			
A	ALP-8	W-46		縄文後期後半	1997	3	1	105	1	106	2	20	
A	ALP-9	c-47		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	106			杭穴
A	ALP-10	c-47		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	106	2	20	杭穴
A	ALP-11	c-47		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	106	2	20	杭穴
A	ALP-12	c-47		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	106			杭穴
A	ALP-13	b-46		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	106			杭穴
A	ALP-14	a-47		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	106			杭穴
A	ALP-15	X-43		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	107			杭穴
A	ALP-16	X-43		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	107			杭穴
A	ALP-17	X-43		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	107			杭穴
A	ALP-18	X-43		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	107	2	19	杭穴
A	ALP-19	Y-44		縄文後期後半	1997	3	1	104	1	107			杭穴
A	ALP-20	M-41	Ⅵ	縄文早期後半	1997	3	1	112	1	114	2	45	土壙
A	ALP-21	M-42	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	112	1	114	2	45	土壙
A	ALP-22	P-40	Ⅵ	縄文早期後半	1997	3	1	113	1	114	2	45	土壙
A	ALP-23	N-39	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	113	1	115	2	45	土壙
A	ALP-24	S-45	Ⅴ	早期後半～前期前半	1997	3	1	113	1	115	2	46	土壙?
A	ALP-25	G-43	Ⅴ	早期後半～前期前半	1997	3	1	113	1	115			土壙
A	ALP-27	K-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	116	1	118	2	46	土壙
A	ALP-28	M-42	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	116	1	118	2	46	土壙
A	ALP-29	I-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	116	1	118	2	46	土壙
A	ALP-30	G-41	Ⅵ	縄文前期前半	1997	3	1	117	1	118	2	46	土壙
A	ALP-31	I-43	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	117	1	119	2	47	土壙
A	ALP-32	H-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	117	1	119	2	47	土壙
A	ALP-33	G-41	Ⅵ	縄文前期前半	1997	3	1	120	1	119	2	47	土壙
A	ALP-34	I-41	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	120	1	119	2	47	土壙
A	ALP-35	G-41	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	121	1	123	2	48	土壙
A	ALP-36	H-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	121	1	123			土壙
A	ALP-37	H-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	121	1	123			土壙
A	ALP-38	H-40	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	122	1	123			土壙
A	ALP-39	H-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	122	1	123	2	48	土壙
A	ALP-40	J-41	Ⅵ	早期後半～前期前半	1997	3	1	122	1	126	2	48	土壙
A	ALP-41	Q-41		不明	1997	3			1	23			杭穴
A	ALP-42	Q-41		不明	1997	3			1	23			杭穴
A	ALP-43	P-41		不明	1997	3			1	23			杭穴
A	ALP-44	M-45	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	124	1	126	2	48	土壙
A	ALP-45	L-41	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	124	1	126	2	48	土壙
A	ALP-46	K-43	ALH13床	縄文前期前半	1997	3	1	124	1	128	2	48	土壙
A	ALP-47	N-38	Ⅶ	不明	1997	3	1	125	1	126	2	48	土壙
A	ALP-48	L-44	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	125	1	126	2	49	土壙
A	ALP-49	L-44	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	125	1	126			土壙
A	ALP-50	M-43	ALH17床	縄文早期後半	1997	3	1	127	1	128	2	49	土壙
A	ALP-51	K-43	ALH13壁	早期後半～前期前半	1997	3	1	127	1	130			土壙
A	ALP-52	H-39	Ⅶ	早期後半～前期前半	1997	3	1	129	1	130			

表Ⅳ－８　キウス4遺跡遺構一覧(7)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
A	ALP-53	G-42		不明	1997	3			1	23			杭穴
A	ALP-54	G-42	Ⅷ	早期後半～前期前半	1997	3	1	129	1	130	2	49	土壙?
A	ALP-55	O-47	Ⅷ	早期後半～前期前半	1997	3	1	129	1	130	2	49	土壙
A	ALP-56	M-43		不明	1997	3			1	23			
A	ALP-57	P-45		不明	1997	3			1	23			
A	ALP-58	P-45		不明	1997	3			1	23			
A	ALP-59	K-45	Ⅷ	早期後半～前期前半	1997	3	1	129	1	130			土壙
A	ALP-60	H-40	Ⅷ	早期後半～前期前半	1997	3	1	131	1	130			
A	ALKP-1	R-36	Ⅴ		1997	3	1	104	1	109	2	21	
A	ALKP-2	b-47	Ⅴ	縄文後期後半	1997	3	1	105	1	106	2	20	
A2	LP-61	C-59	Ⅵ	縄文後期後葉?	1998	4		74		81		32	
A2	LP-62	F-39	Ⅴ	縄文前期初頭	1998	4		74		83		31	
A2	LP-63	F-37	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		75		81		32	
A2	LP-64	F-45	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		75		84		34	
A2	LP-65	E-43	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		76		84		34	
A2	LP-66	F-44	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		76		84		34	
A2	LP-67	F-44	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		76		84		34	
A2	LP-68	F-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		77		84		35	
A2	LP-69	F-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		77		85		35	
A2	LP-70	F-43	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		78		85		35	
A2	LP-71	G-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		78		85		36	
A2	LP-72	F-38	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		78		85		36	
A2	LP-73	F-38	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		79		86		36	
A2	LP-74	G-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		79		86		36	土壙墓?
A2	LP-75	F-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		80		86		37	
A2	LP-76	G-43	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		80		86		37	柱穴
A2	LP-77	F-43	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		80		86		37	柱穴
A2	LP-78	F-42	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		88		86		37	
A2	LP-79	G-42	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		88		86		38	
A2	LP-80	G-42	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		88		86		39	
A2	LP-81	F-42	Ⅵ	早期後葉～前期初頭	1998	4		88		86		39	
A2	LP-82	G-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		89		87		38	
A2	LP-83	F-39	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		89		87		38	
A2	LP-85	G-39	Ⅵ	縄文前期初頭	1998	4		90		87		39	
A2	LP-86	F-38	Ⅴ	早期後葉～前期初頭	1998	4		90		87		39	
D	LP-1	H-111	Ⅵ	縄文後期	1997	5		139		140		46	
D	LP-2	S-113	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	5		126		127		39	土壙墓
D	LP-3	S-113	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	5		126		127		40	土壙墓
D	LP-4	N-112	Ⅴ	後期後半～晩期	1997	5		139		140		46	
D	LP-5	L-125	Ⅵ	縄文早期	1997	5		139		140		47	
D2	LP-6	T-97	Ⅵ	縄文早期末葉	1997	5		139		142		47	
D	LP-7	R-110	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		99		100		33	仮称X-αの墓?
D	LP-8	R-110	Ⅵ,Ⅷ	縄文後期後葉	1997	5		99		100		33	仮称X-αの墓?
D	LP-9	M-119	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		126		129		40	土壙墓
D	LP-10	M-115	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		128		129		40	土壙墓
D	LP-11	R-109	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	5		101		102		34	仮称X-αの墓?
D	LP-12	S-110	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	5		101		102		35	仮称X-αの墓?
D	LP-13	O-122	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		128		130		41	土壙墓
D	LP-14	L-112	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		128		130		42	土壙墓
D	LP-15	M-113	Ⅷ	縄文後期後葉	1997	5		132		131		42	土壙墓
D	LP-16	R-111	Ⅵ	縄文後期～晩期	1997	5		141		142		47	
D	LP-17	S-129	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		132		131		43	土壙墓
D	LP-18	Q-136	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		132		133		43	土壙墓
D	LP-19	F-129	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		132		133		44	土壙墓
D	LP-20	K-129	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	5		134		135		45	土壙墓
D	LP-21	J-110	Ⅳ	縄文後期後半	1997	5		134		135		45	土壙墓
D	LP-22	L-108	Ⅴb	縄文後期後半	1997	5		136		136		46	土壙墓
D	LP-23	N-107	Ⅵ	縄文後期	1997	5		141		142		47	
D	LP-24	J-109	Ⅵ	後期後葉以前	1997	5		141		143		48	
D	LP-25	N-109	Ⅴa	後期後葉以降	1995	5		141		143		48	
D	LP-26	M-110	Ⅴa	縄文後期後葉	1995	5		141		143		48	
E	TP-1	J-98	Ⅴ	不明	1995	5		144		144		49	
F	P-91	X-74			1997	8	1	286	1	289	2	10	柱穴
F	P-92	X-73			1997	8	1	286	1	289			柱穴
F	P-93	X-73			1997	8	1	286	1	289			柱穴
F	P-94	X-75			1997	8	1	286	1	290	2	11	出入口
F	P-95	W-75			1997	8	1	286	1	290			柱穴
F	P-96	V-75			1997	8	1	286	1	290			柱穴

表Ⅳ－９　キウス4遺跡遺構一覧(8)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
F	P-97	Y-72			1997	8	1	286	1	290			柱穴
F	P-98	X-72			1997	8	1	286	1	291			柱穴
F	P-99	X-75			1997	8	1	287	1	291			柱穴
F	P-100	Z-74			1997	8	1	287	1	291			柱穴
F	P-101	W-74			1997	8	1	287	1	291			柱穴
F	P-102	V-74			1997	8	1	287	1	292			柱穴
F	P-103	Z-75			1997	8	1	287	1	292			柱穴
F	P-104	Z-75			1997	8	1	287	1	292			柱穴
F	P-105	X-75			1997	8	1	287	1	292			柱穴
F	P-106	Z-72			1997	8	1	287	1	292			柱穴
F	P-107	Y-71			1997	8	1	287	1	293			柱穴
F	P-108	X-76			1997	8	1	287	1	293			柱穴
F	P-109	X-71			1997	8	1	288	1	293			柱穴
F	P-110	X-75			1997	8	1	288	1	293			柱穴
F	P-111	T-76			1997	8	1	288	1	293			柱穴
F	P-112	Y-74			1997	8	1	288	1	293			柱穴
F	P-113	W-72			1997	8	1	288	1	293			柱穴
F	P-114	W-72			1997	8	1	288	1	293			柱穴
G	P-115	F-66	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	8	1	300	1	303	2	11	土壙墓
G	P-116	E-67	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	8	1	300	1	303			土壙墓
G	P-117	J-69	Ⅴ	縄文後期後葉	1998	8	1	300	1	303	2	11	土壙墓
F	P-118	P-68	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	8	1	300	1	304	2	11	土壙墓
F	P-119	S-68	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	8	1	301	1	304	2	11	土壙墓
G	P-120	M-78	Ⅴb	縄文後期後葉	1998	8	1	301	1	304	2	12	土壙墓
G	P-121	K-78	Ⅴb	縄文後期後葉	1998	8	1	301	1	305	2	11	土壙墓
G	P-122	H-75	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	8	1	301	1	305	2	12	土壙墓
G	P-123	C-78	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	8	1	301	1	305	2	13	土壙墓
G	P-124	C-78	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	8	1	301	1	306	2	13	土壙墓
F	P-125	D-83	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	8	1	302	1	306	2	12	土壙墓
F	P-126	I-86	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	8	1	302	1	306			土壙墓
F	P-127	K-87	Ⅴ	縄文後期後葉	1995	8	1	302	1	307	2	13	土壙墓
F	P-128	I-87	Ⅵ	縄文後期後葉	1995	8	1	302	1	307			土壙墓
F	P-129	Q-65		縄文後期後葉	1997	8	1	310	1	312	2	14	フラスコ状ピット
F	P-130	P-66		縄文後期後葉	1997	8	1	310	1	313	2	14	フラスコ状ピット
F	P-131	P-66		縄文後期後葉	1997	8	1	311	1	314	2	15	フラスコ状ピット
F	P-132	P-80		縄文後期前葉	1997	8	1	338	1	339			墓壙
F	P-133	O-80		縄文後期前葉	1997	8	1	338	1	339			土壙
G	P-134	O-80		縄文後期前葉	1998	8	1	338	1	339			土壙
G	P-135	O-80		縄文後期前葉	1998	8	1	338	1	339			土壙
G	P-136	H-74		縄文後期前葉	1998	8	1	340	1	342	2	16	竪穴遺構
G	P-137	H-73		縄文後期前葉	1998	8	1	340	1	342	2	16	竪穴遺構
G	P-138	I-71		縄文後期前葉	1998	8	1	340	1	343	2	17	竪穴遺構
G	P-139	L-72		縄文後期前葉	1998	8	1	341	1	344	2	17	竪穴遺構
G	P-140	J-73		縄文後期前葉	1998	8	1	341	1	345	2	18	竪穴遺構（住居）
G	P-141	K-73		縄文後期前葉	1998	8	1	341	1	345			竪穴遺構
G	P-142	H-76		不明	1998	8	1	349	1	352			墓壙?
G	P-143	K-80		不明	1998	8	1	349	1	352			墓壙?
G	P-144	N-80		不明	1998	8	1	350	1	352			土壙
F	P-145	O-79		不明	1997	8	1	350	1	352			土壙
F	P-146	P-79		不明	1997	8	1	350	1	353			土壙
F	P-147	P-79		不明	1997	8	1	350	1	353			土壙
F	P-148	P-80		不明	1997	8	1	350	1	353			土壙
F	P-149	Q-78		不明	1997	8	1	350	1	353			土壙
F	P-150	Q-78		不明	1997	8	1	350	1	353			土壙
F	P-151	R-79		不明	1997	8	1	350	1	354			土壙
F	P-152	R-79		不明	1997	8	1	351	1	354			土壙
F	P-153	U-77		不明	1997	8	1	351	1	354			土壙
F	P-154	U-77		不明	1997	8	1	351	1	354			土壙
G	P-155	O-71	Ⅵ,Ⅶ	不明	1998	8	1	351	1	354			土壙
G	P-156	B-60			1998	8	1	358	1	360			ローム質埋土
G	P-157	C-60	Ⅶ		1998	8	1	358	1	360			ローム質埋土
F	P-158	R-70	Ⅶ		1997	8	1	358	1	360			ローム質埋土
F	P-159	O-74			1997	8	1	358	1	360	2	19	ローム質埋土
F	P-160	Q-74			1997	8	1	358	1	361			ローム質埋土
F	P-161	R-75			1997	8	1	358	1	361			ローム質埋土
F	P-162	S-78			1997	8	1	358	1	361			ローム質埋土
F	P-163	T-78			1997	8	1	358	1	361			ローム質埋土
F	P-164	U-78			1997	8	1	358	1	362			ローム質埋土

表Ⅳ－10　キウス4遺跡遺構一覧(9)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
F	P-165	U-78			1997	8	1	359	1	362	2	19	ローム質埋土
F	P-166	U-78			1997	8	1	359	1	362	2	19	ローム質埋土
F	P-167	U-79			1997	8	1	359	1	362			ローム質埋土
F	P-168	W-77			1997	8	1	359	1	363	2	19	ローム質埋土
F	P-169	W-75			1997	8	1	359	1	363			ローム質埋土
F	P-170	T-84			1997	8	1	359	1	363			ローム質埋土
F	P-171	T-85			1997	8	1	359	1	363	2	9	ローム質埋土
F	P-172	U-86			1997	8	1	359	1	364			ローム質埋土
F	P-173	U-88			1997	8	1	359	1	364			ローム質埋土
G	P-286	E-62	Ⅷ		1998	8			1	357			ローム質埋土
G	P-287	E-62	Ⅷ		1998	8			1	357			ローム質埋土
G	P-288	E-62	Ⅷ		1998	8			1	357			ローム質埋土
H	HLP-332	d-55	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	3	1	269	1	267	2	163	土壙
H	HLP-333	e-61	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	3	1	269	1	265	2	163	土壙
H	HLP-563	e-53	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	3	1	270	1	268	2	163	土壙
H	HUKP-1	h-50	Ⅲ		1997	3	1	275	1	276	2	162	
I	ILP-1	v-100	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	3	1	343	1	343	2	199	貯蔵穴
I	ILP-2	x-102	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	3	1	344	1	345	2	199	貯蔵穴
I	ILP-3	w-100	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	3	1	344	1	347	2	199	貯蔵穴
I	ILP-4	o-100	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	350	1	349	2	200	土壙墓
I	ILP-5	x-106	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	3	1	350	1	350	2	200	土壙墓
I	ILP-6	w-104	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	3	1	351	1	351	2	200	土壙墓
I	ILP-7	x-100	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	351	1	352	2	200	土壙墓
I	ILP-8	o-100	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	352	1	352	2	201	土壙墓
I	ILP-9	w-101	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	353	1	353	2	201	土壙墓
I	ILP-10	v-105	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	3	1	354	1	354	2	201	土壙墓
I	ILP-11	m-107	Ⅴb	縄文後期後葉	1997	3	1	354	1	355	2	201	土壙墓
I	ILP-12	u-102	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	355	1	356	2	202	土壙墓
I	ILP-13	s-103	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	356	1	357	2	202	
I	ILP-14	4-98	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	357	1	358	2	202	貯蔵穴
I	ILP-15	v-105	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	3	1	357	1	359	2	202	土壙墓
I	ILP-16	t-104	Ⅴ	縄文早期	1997	3	1	359	1	360	2	203	Tピット
I	ILP-17	q-102	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	359	1	360	2	203	
I	ILP-18	q-104	Ⅴ	縄文後期	1997	3	1	361	1	361	2	203	土壙墓
I	ILP-19	5-100	Ⅴ	縄文	1997	3	1	361	1	362	2	203	
I	ILP-20	v-95	Ⅴ	縄文	1997	3	1	362	1	362	2	204	
I	ILP-21	n-94	Ⅴ	縄文	1997	3	1	362	1	363	2	204	土壙墓
I	ILP-22	v-95	Ⅴ	不明	1997	3	1	364	1	364	2	204	
I	ILP-23	v-95	Ⅴ	縄文	1997	3	1	364	1	364	2	204	
I	ILP-24	u-95	Ⅴ	縄文	1997	3	1	365	1	365	2	205	土壙墓
I	ILP-25	u-95	Ⅴ	縄文	1997	3	1	365	1	365	2	205	
I	ILP-26	u-95	Ⅴ	縄文	1997	3	1	366	1	366	2	205	
I	ILP-27	o-97	Ⅶ	縄文早期	1997	3	1	366	1	367	2	205	Tピット
I	ILP-28	r-94	Ⅴ	縄文	1997	3	1	366	1	367	2	206	
I	ILP-29	y-104	Ⅶ	縄文早期	1997	3	1	367	1	368	2	206	
K	KLP-90	a-69	Ⅵ	縄文後期後葉	1997	3	1	278	1	280	2	173	
Q	P-1	l-55	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	137	2	198	3	51	フラスコ状ピット
Q	P-2	p-58	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	7	1	149	2	215	3	56	
Q	P-3	l-55	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	149	2	215	3	56	
Q	P-4	p-58	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	7	1	149	2	215	3	56	
Q	P-5	i-55	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	151	2	194	3	47	墓壙
Q	P-6	m-56	Ⅷ	縄文後期後葉?	1998	7	1	150	2	215	3	56	
Q	P-7	o-58	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	7	1	104	2	150	3	37	建物78
Q	P-8	n-57	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	7	1	104	2	150	3	37	建物78
Q	P-9	n-57	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	150	2	215	3	56	
Q	P-10	g-55	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	146	2	213	3	55	
Q	P-11	t-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	139	2	204	3	51	フラスコ状ピット
Q	P-12	t-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	147	2	214			
Q	P-13	r-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	155	2	219	3	58	柱穴
Q	P-14	t-62	Ⅷ	縄文後期中葉	1998	7	1	155	2	219	3	59	柱穴
Q	P-15	t-62	Ⅷ	縄文後期中葉	1998	7	1	156	2	220			柱穴
Q	P-16	g-55	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	147	2	214	3	55	
Q	P-17	r-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	148	2	214	3	55	
Q	P-18	l-54	Ⅵ	縄文後期	1998	7	1	150	2	216			
Q	P-19	m-54	Ⅵ	縄文中期	1998	7	1	145	2	212	3	53	
Q	P-20	k-53	Ⅵ	縄文中期	1998	7	1	150	2	216			
Q	P-21	h-58	Ⅴ	縄文後期後葉	1998	7	1	82	2	105			建物50
Q	P-23	q-64	Ⅷ	縄文中期以降	1998	7	1	148	2	214	3	55	

表Ⅳ－11　キウス4遺跡遺構一覧(10)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Q	P-24	I-57	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	156	2	220	3	59	柱穴
Q	P-25	i-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	123	2	188	3	45	建物102
Q	P-26	i-59	V	縄文後期後葉	1998	7	1	82	2	105	3	30	建物50
Q	P-27	h-59	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	49	2	43	3	21	建物16
Q	P-28	i-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	49	2	43	3	21	建物16
Q	P-29	u-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	151	2	216	3	56	
Q	P-30	s-64	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	156	2	220	3	59	柱穴
Q	P-31	h-59	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	78	2	101	3	29	建物46
Q	P-32	n-56	Ⅶ,Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	131	2	194	3	47	墓壙
Q	P-33	r-63	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	157	2	220	3	59	柱穴
Q	P-34	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	40	2	25	3	15	建物10
Q	P-35	p-55	VI	縄文後期後葉	1998	7	1	126	2	190	3	46	建物105（出入口）
Q	P-36	q-56	VI	縄文後期後葉	1998	7	1	126	2	190	3	46	建物105（出入口）
Q	P-37	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	123	2	188	3	45	建物102
Q	P-38	k-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	157	2	220	3	60	柱穴
Q	P-39	i-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	123	2	188	3	46	建物102
Q	P-40	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	157	2	221	3	60	柱穴
Q	P-41	g-60	盛土	縄文後期後葉	1998	7	1	49	2	43	3	21	建物16
Q	P-42	i-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	49	2	43	3	21	建物16
Q	P-43	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	123	2	188	3	45	建物102
Q	P-44	i-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	84	2	111	3	31	建物52
Q	P-45	j-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	84	2	111	3	31	建物52
Q	P-46	k-61	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	50	2	45	3	22	建物17
Q	P-47	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	158	2	221	3	60	柱穴
Q	P-48	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	84	2	111	3	32	建物52
Q	P-49	f-60	盛土	縄文後期後葉	1998	7	1	140	2	205	3	52	フラスコ状ピット
Q	P-50	i-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	151	2	216	3	57	用途不明
Q	P-51	m-59		縄文後期後葉	1998	7	1	106	2	155	3	38	建物80
Q	P-52	h-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	158	2	221	3	60	柱穴
Q	P-53	i-67		縄文後期後葉	1998	7	1	47	2	39	3	19	建物15
Q	P-54	g-68		縄文後期後葉	1998	7	1	70	2	87	3	26	建物39
Q	P-55	g-68		縄文後期後葉	1998	7	1	71	2	89			建物40
Q	P-56	g-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	158	2	221			柱穴
Q	P-57	g-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	159	2	222	3	60	柱穴
Q	P-58	f-68		縄文後期後葉	1998	7	1	71	2	89	3	26	建物40
Q	P-59	f-68		縄文後期後葉	1998	7	1	70	2	87			建物39
Q	P-60	f-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	159	2	222			柱穴
Q	P-61	l-68	Ⅷ	縄文後期	1998	7	1	135	2	196	3	50	墓壙
Q	P-62	m-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	167			建物86
Q	P-63	m-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	100	2	145			建物72
Q	P-64	m-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	176			建物93
Q	P-65	m-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	167	3	39	建物86
Q	P-66	n-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	167	3	39	建物86
Q	P-67	n-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	167			建物86
Q	P-68	p-70	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	159	2	222			柱穴
Q	P-69	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	54	2	55	3	25	建物20
Q	P-70	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	35	3	19	建物14
Q	P-71	h-63		縄文後期後葉	1998	7	1	114	2	172	3	40	建物90
Q	P-72	k-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	120	2	184			建物99
Q	P-73	k-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	50	2	45	3	22	建物17
Q	P-74	k-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	121	2	185	3	44	建物100
Q	P-75	k-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	40	2	25			建物10
Q	P-76	k-64	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	40	2	25	3	15	建物10
Q	P-77	k-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	160	2	222	3	60	柱穴
Q	P-78	k-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	121	2	185	3	44	建物100
Q	P-79	j-66		縄文後期後葉	1998	7	1	47	2	39	3	19	建物15
Q	P-80	k-64		縄文後期後葉	1998	7	1	114	2	172	3	41	建物90
Q	P-81	p-56	VI	縄文後期後葉	1998	7	1	126	2	190	3	47	建物105
Q	P-82	m-59		縄文後期後葉	1998	7	1	76	2	97			建物44
Q	P-83	o-59		縄文後期後葉	1998	7	1	76	2	97	3	29	建物44
Q	P-84	m-62	SE-2	縄文後期	1998	7	1	145	2	212	3	54	
Q	P-85	l-61	SE-2	縄文後期後葉	1998	7	1	143	2	210	3	53	
Q	P-86	m-60	SE-2	縄文後期後葉	1998	7	1	151	2	216	3	57	
Q	P-87	m-60		縄文後期後葉	1998	7	1	76	2	97	3	28	建物44
Q	P-88	l-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	152	2	216	3	57	
Q	P-89	l-62	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	152	2	217	3	57	
Q	P-90	k-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	43	2	31	3	17	建物12
Q	P-91	l-60		縄文後期後葉	1998	7	1	106	2	155	3	38	建物80

表Ⅳ－12　キウス4遺跡遺構一覧(11)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Q	P-92	m-63		縄文後期後葉	1998	7	1	72	2	91	3	27	建物41
Q	P-93	l-60	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	43	2	31	3	18	建物12
Q	P-94	l-61	Ⅷ?	縄文後期後葉	1998	7	1	160	2	223	3	60	柱穴
Q	P-95	m-59		縄文後期後葉	1998	7	1	160	2	223			柱穴
Q	P-96	o-62	Ⅷ?	縄文後期後葉	1998	7	1	161	2	223	3	61	柱穴
Q	P-97	p-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	42	2	29	3	16	建物11
Q	P-98	m-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	43	2	31	3	18	建物12
Q	P-99	o-63	Ⅷ?	縄文後期後葉	1998	7	1	161	2	223	3	61	柱穴
Q	P-100	p-63		縄文後期後葉	1998	7	1	72	2	91	3	27	建物41
Q	P-101	g-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	97	2	139			建物68
Q	P-102	f-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	97	2	139			建物68
Q	P-103	f-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	97	2	139			建物68
Q	P-104	h-71		縄文後期後葉	1998	7	1	92	2	125			建物62
Q	P-105	j-70		縄文後期後葉	1998	7	1	96	2	137	3	35	建物67
Q	P-106	j-70	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	161	2	224			柱穴
Q	P-107	j-70		縄文後期後葉	1998	7	1	54	2	55			建物20
Q	P-108	i-70		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	35			建物14
Q	P-109	j-70		縄文後期後葉	1998	7	1	93	2	127	3	35	建物63
Q	P-110	i-71		縄文後期後葉	1998	7	1	93	2	127	3	35	建物63
Q	P-111	o-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	132	2	195	3	49	墓壙
Q	P-112	g-59	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	78	2	101	3	29	建物46
Q	P-113	j-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	40	2	25	3	15	建物10
Q	P-114	j-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	50	2	45	3	23	建物17
Q	P-115	l-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	40	2	25	3	15	建物10
Q	P-116	l-63		縄文後期後葉	1998	7	1	114	2	172	3	41	建物90
Q	P-117	k-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	121	2	185	3	44	建物100
Q	P-118	k-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	121	2	185	3	45	建物100
Q	P-119	i-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	162	2	224	3	61	柱穴
Q	P-120	i-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	162	2	224	3	62	柱穴
Q	P-121	i-71		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	35	3	19	建物14
Q	P-122	i-70		縄文後期後葉	1998	7	1	94	2	131			建物64
Q	P-123	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	107	2	159			建物82
Q	P-124	j-72		縄文後期後葉	1998	7	1	94	2	131			建物64
Q	P-125	m-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	176			建物93
Q	P-126	j-70	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	162	2	224			柱穴
Q	P-127	i-70		縄文後期後葉	1998	7	1	92	2	125			建物62
Q	P-128	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	93	2	127			建物63
Q	P-129	j-72		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	35			建物14
Q	P-130	j-72		縄文後期後葉	1998	7	1	54	2	55			建物20
Q	P-131	m-72		縄文後期後葉	1998	7	1	55	2	57			建物21
Q	P-132	n-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	179			建物95
Q	P-133	o-74	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	163	2	225			柱穴
Q	P-134	n-73		縄文後期後葉	1998	7	1	52	2	49			建物18
Q	P-135	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	46	2	34			建物13
Q	P-136	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	92	2	125			建物62
Q	P-137	j-72		縄文後期後葉	1998	7	1	92	2	125			建物62
Q	P-138	i-71		縄文後期後葉	1998	7	1	54	2	55			建物20
Q	P-139	i-70		縄文後期後葉	1998	7	1	91	2	123			建物61
Q	P-140	j-70		縄文後期後葉	1998	7	1	93	2	127			建物63
Q	P-141	r-65	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	163	2	225	3	62	柱穴
Q	P-142	n-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	35	2	18	3	14	建物5（出入口）
Q	P-143	n-61		縄文後期後葉	1998	7	1	76	2	97	3	29	建物44
Q	P-144	n-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	164	2	225			柱穴
Q	P-145	n-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	164	2	225	3	62	柱穴
Q	P-146	n-62		縄文後期後葉	1998	7	1	72	2	91	3	27	建物41
Q	P-147	l-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	153	2	217	3	58	
Q	P-148	l-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	153	2	217	3	58	
Q	P-149	n-62	SE-2	縄文後期後葉	1998	7	1	35	2	18	3	14	建物5（出入口）
Q	P-150	l-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	43	2	31	3	18	建物12
Q	P-151	o-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	85	2	113	3	32	建物53
Q	P-152	n-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	164	2	225	3	62	柱穴
Q	P-153	n-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	86	2	115	3	33	建物54
Q	P-154	n-65	Ⅷ	縄文後期後半	1998	7	1	109	2	163			建物84
Q	P-155	p-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	165	2	226	3	62	柱穴
Q	P-157	i-65	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	165	2	226	3	63	柱穴
Q	P-158	m-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	133	2	195	3	49	墓壙
Q	P-159	p-61	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	132	2	194	3	49	墓壙
Q	P-160	n-61		縄文後期後葉	1998	7	1	165	2	226	3	63	柱穴

表Ⅳ－13　キウス4遺跡遺構一覧(12)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Q	P-161	m-67		不明	1998	7			2	226	3	63	柱穴
Q	P-162	m-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	118	2	180	3	43	建物96
Q	P-163	m-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	118	2	180	3	43	建物96
Q	P-164	m-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	118	2	180	3	43	建物96
Q	P-165	m-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	83	2	107	3	30	建物51
Q	P-166	m-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	109	2	163	3	39	建物84
Q	P-167	m-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	166	2	226	3	63	柱穴
Q	P-168	m-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	85	2	113	3	32	建物53
Q	P-169	o-64		縄文後期後葉	1998	7	1	42	2	29	3	16	建物11
Q	P-170	k-66		縄文後期後葉	1998	7	1	47	2	39	3	19	建物15
Q	P-171	j-71		縄文後期後葉	1998	7	1	107	2	159			建物82
Q	P-172	i-71		縄文後期後葉	1998	7	1	96	2	137			建物67
Q	P-173	i-71		縄文後期後葉	1998	7	1	94	2	131			建物64
Q	P-174	l-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	143	3	36	建物70
Q	P-175	k-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	143	3	36	建物70
Q	P-176	k-69	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	143	3	36	建物70
Q	P-177	k-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	143	3	36	建物70
Q	P-178	j-68		縄文後期後葉	1998	7	1	47	2	39	3	20	建物15
Q	P-179	l-68	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	100	2	145			建物72
Q	P-180	k-71		縄文後期後葉	1998	7	1	94	2	131	3	28	建物64
Q	P-181	l-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	50	2	45	3	22	建物17
Q	P-182	l-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	166	2	227	3	64	柱穴
Q	P-183	p-63	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	166	2	228	3	64	柱穴
Q	P-184	p-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	167	2	228	3	64	柱穴
Q	P-185	m-60		縄文後期後葉	1998	7	1	153	2	219	3	58	
Q	P-186	m-60		縄文後期後葉	1998	7	1	75	2	95	3	28	建物43（出入口）
Q	P-187	l-63	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	43	2	31	3	17	建物12
Q	P-188	p-57	Ⅷ	縄文早期後半	1998	7	1	146	2	213	3	54	
Q	P-189	m-61		縄文後期後葉	1998	7	1	75	2	95	3	28	建物43（出入口）
Q	P-190	m-62	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	134	2	196	3	50	墓壙
Q	P-191	m-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	167	2	228			出入口ピット?
Q	P-192	m-66	Ⅷ	不明	1998	7	1	167	2	228			出入口ピット?
Q	P-193	m-66	Ⅷ	不明	1998	7	1	168	2	228	3	64	柱穴
Q	P-194	o-64		縄文後期後葉	1998	7	1	72	2	91	3	27	建物41
Q	P-195	n-64	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	86	2	115	3	34	建物54
Q	P-196	n-64	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	85	2	113	3	33	建物53
Q	P-197	m-65	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	168	2	228	3	64	柱穴
Q	P-198	m-63	Ⅷ	不明	1998	7	1	168	2	229	3	64	墓壙か柱穴
Q	P-199	l-66	Ⅷ	不明	1998	7	1	135	2	196	3	50	墓壙
Q	P-201	m-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	105	2	151			建物79
Q	P-202	m-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	169	2	229			柱穴
Q	P-203	m-73		縄文後期後葉	1998	7	1	56	2	61			建物23
Q	P-204	m-72		縄文後期後葉	1998	7	1	52	2	49	3	24	建物18
Q	P-205	k-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	115	2	173			建物91
Q	P-206	l-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	115	2	173			建物91
Q	P-207	l-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	115	2	173			建物91
Q	P-208	l-73	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	115	2	173			建物91
Q	P-209	l-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	80	2	103			建物48
Q	P-210	l-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	80	2	103			建物48
Q	P-211	q-63	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	169	2	229			柱穴
Q	P-212	o-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	170	2	230	3	65	建物跡71(R地区)
Q	P-213	o-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	169	2	229	3	65	柱穴
Q	P-214	n-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	83	2	107			建物51
Q	P-215	n-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	85	2	113	3	33	建物53
Q	P-216	n-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	118	2	118	3	44	建物96
Q	P-217	n-66	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	109	2	163	3	39	建物84
Q	P-218	p-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	170	2	230	3	65	建物跡70,71(R地区)
Q	P-219	o-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	170	2	230			建物跡68(R地区)
Q	P-220	p-67	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	171	2	231			柱穴
Q	P-221	o-74	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	105	2	151	3	38	建物79
Q	P-222	p-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	171	2	231			柱穴
Q	P-223	p-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	171	2	231			柱穴
Q	P-224	n-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	175	3	41	建物92
Q	P-225	m-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	175	3	42	建物92
Q	P-226	n-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	175	3	42	建物92
Q	P-227	n-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	175	3	42	建物92
Q	P-228	n-72	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	179	3	42	建物95
Q	P-229	o-71	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	179	3	42	建物95

表Ⅳ－14　キウス4遺跡遺構一覧(13)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Q	P-230	n-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	179	3	42	建物95
Q	P-231	m-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	98	2	142			建物69
Q	P-232	m-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	98	2	142			建物69
Q	P-233	m-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	98	2	142			建物69
Q	P-234	n-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	98	2	142			建物69
Q	P-235	n-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	110	2	166			建物85
Q	P-236	m-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	110	2	166			建物85
Q	P-237	m-69	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	110	2	166			建物85
Q	P-238	l-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	110	2	166			建物85
Q	P-239	l-69	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	144			建物71
Q	P-240	l-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	100	2	145			建物72
Q	P-241	m-64	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	83	2	107	3	30	建物51
Q	P-242	n-63		縄文後期後葉	1998	7	1	42	2	29	3	17	建物11
Q	P-243	m-64	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	86	2	115	3	34	建物54
Q	P-244	m-64	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	172	2	231	3	65	柱穴
Q	P-245	m-64	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	109	2	163	3	39	建物84
Q	P-246	m-64	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	86	2	115	3	34	建物54
Q	P-247	o-64		縄文後期後葉	1998	7	1	83	2	107	3	31	建物51
Q	P-248	n-64	Ⅶ	不明	1998	7	1	172	2	232			柱穴
Q	P-249	m-64	Ⅶ	不明	1998	7	1	172	2	232			柱穴
Q	P-250	p-63	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	173	2	232	3	66	柱穴
Q	P-251	o-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	100	2	145			建物72
Q	P-252	m-67	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	176			建物93
Q	P-253	n-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	178	3	26	建物94
Q	P-254	m-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	178	3	26	建物94
Q	P-255	m-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	116	2	176			建物93
Q	P-256	m-69	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	99	2	144			建物71
Q	P-258	o-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	126	2	190	3	26	建物104
Q	P-259	n-68	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	117	2	178			建物94
Q	P-260	p-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	169			建物87
Q	P-261	p-70	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	173	2	232			柱穴
Q	P-262	p-69	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	111	2	169			建物87
Q	P-263	o-73		縄文後期後葉	1998	7	1	55	2	57			建物21
Q	P-264	n-74		縄文後期後葉	1998	7	1	55	2	57			建物21
Q	P-265	n-74		縄文後期後葉	1998	7	1	52	2	49			建物18
Q	P-266	l-72	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	80	2	103			建物48
Q	P-267	l-71	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	80	2	103			建物48
Q	P-268	o-67	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	101	2	147	3	36	建物74
Q	P-269	p-67	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	173	2	232	3	66	柱穴
Q	P-270	n-65	Ⅶ	不明	1998	7	1	175	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-271	h-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	174	2	233	3	66	柱穴
Q	P-272	k-63		縄文後期後葉	1998	7	1	114	2	172	3	41	建物90
Q	P-273	i-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	120	2	184	3	44	建物99
Q	P-274	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	84	2	111	3	32	建物52
Q	P-275	j-62	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	174	2	233	3	66	柱穴,出入口?
Q	P-276	j-63	SE	縄文後期後葉	1998	7	1	155	2	219			
Q	P-277	o-62	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	42	2	29	3	17	建物11
Q	P-278	o-62	Ⅶ	縄文早期?	1998	7	1	147	2	213	3	54	
Q	P-279	i-63		縄文後期後葉	1998	7	1	174	2	233	3	66	柱穴
Q	P-280	j-62	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	7	1	175	2	233	3	66	柱穴
Q	P-281	m-74		縄文後期後葉	1998	7	1	56	2	61	3	25	建物23
Q	P-282	l-74		縄文後期後葉	1998	7	1	55	2	57	3	24	建物21
Q	P-283	l-74		縄文後期後葉	1998	7	1	52	2	49			建物18
Q	P-284	s-64	Ⅶ	不明	1998	7	1	175	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-285	q-63	Ⅶ	不明	1998	7	1	177	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-286	r-62	Ⅶ	不明	1998	7	1	177	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-287	r-63	Ⅶ	不明	1998	7	1	177	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-288	r-63	Ⅶ	不明	1998	7	1	177	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-289	t-62	Ⅶ	不明	1998	7	1	177	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-290	t-62	Ⅶ	不明	1998	7	1	178	2	235	3	67	ロームピット
Q	P-291	m-57	Ⅶ	不明	1998	7	1	178	2	235			ロームピット
Q	P-292	k-64	V	縄文後期後葉	1998	7	1	50	2	45	3	23	建物17（出入口）
Q	P-293	p-67		不明	1998	7							柱穴
R	RLP-1	p-90	盛土	縄文後期後葉	1998	6		240		240		378	土壙?
R	RLP-2	v-90	Ⅶ	縄文早期後半	1998	6		320		321		378	土壙
R	RLP-3	v-90	Ⅶ	縄文早期後半	1998	6		321		321		378	土壙
R	RLP-4	p-82	Vb	縄文後期後葉	1998	6		240		241		378	土壙
R	RLP-5	p-81	Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		241		241		379	土壙

表Ⅳ－15　キウス4遺跡遺構一覧(14)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	RLP-6	s-65			1998	6		147		146			柱穴状ピット
R	RLP-7	q-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		97		386	建物跡67
R	RLP-8	s-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		111			建物跡73
R	RLP-9	s-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		110		111			建物跡73'
R	RLP-10	s-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		113		115		386	建物跡74
R	RLP-11	r-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		111		386	建物跡73'
R	RLP-12	q-65	SE	縄文後期後葉	1998	6		242		242		379	土壙
R	RLP-13	q-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		99		386	建物跡68
R	RLP-14	q-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		97		387	建物跡67
R	RLP-15	q-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		107		387	建物跡71
R	RLP-16	q-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		101		103		387	建物跡69
R	RLP-18	s-67			1998	6		165		164		387	柱穴状ピット
R	RLP-19	r-67			1998	6		163		162		387	柱穴状ピット
R	RLP-20	r-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		99		388	建物跡68
R	RLP-23	q-65	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		111		388	建物跡73・73'
R	RLP-24	r-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		111		386	建物跡73
R	RLP-25	q-67			1998	6		161		160		388	柱穴状ピット
R	RLP-26	q-66	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		102		105		386	建物跡70・74
R	RLP-27	q-66			1998	6		101		103		388	建物跡69
R	RLP-28	r-67			1998	6		96		97		389	建物跡67
R	RLP-30	r-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		101		103			建物跡69
R	RLP-31	r-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		109		107			建物跡71
R	RLP-32	r-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		113		115			建物跡74
R	RLP-33	q-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		96		99			建物跡68
R	RLP-34	q-79	Ⅵ,Ⅶ	縄文後期後葉	1998	6		242		243		379	土壙墓?
R	RLP-35	p-79		縄文後期後葉	1998	6		243		244		379	土壙
R	RLP-36	p-78		縄文後期後葉	1998	6		243		245		379	土壙
R	RLP-37	p-78		縄文後期後葉	1998	6		246		246		380	土壙
R	RLP-38	o-77			1998	6		229		228			柱穴状ピット
R	RLP-39	p-77		縄文後期後葉	1998	6		246		247		380	土壙
R	RLP-40	r-71		縄文後期後葉	1998	6		247		247			土壙（帖土ピット）
R	RLP-41	r-67	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		102		105			建物跡70
R	RLP-42	q-68	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		102		105			建物跡70
R	RLP-43	t-75	Ⅵ	縄文後期後葉	1998	6		29		30			建物跡4
R	RLP-44	n-75			1998	6		217		216			柱穴状ピット
R	RLP-45	n-75			1998	6		217		216			柱穴状ピット
R	RLP-46	n-75			1998	6		217		216			柱穴状ピット
R	RLP-47	q-66			1998	6				152			
R	RLP-48	n-75			1998	6		217		216			柱穴状ピット
R	RLP-49	n-75			1998	6		217		216			柱穴状ピット
R	RLP-50	n-75			1998	6		217		216			柱穴状ピット
R	RLP-51	q-69		縄文後期後葉	1998	6		248		248		380	土壙
R	RLP-52	y-70		縄文後期後葉	1998	6		248		249		380	土壙
盛土遺構（北側）													
A	AM	Y-52		縄文後期後半	1997	3	1	38	1	39			
A	AMF-1	Y-53	盛土	縄文後期後半	1997	3	1	38	1	39	2	22	
A	AMF-2	Y-52	盛土	縄文後期後半	1997	3	1	38	1	39	2	11	
A	AMF-3	a-51	盛土	縄文後期後半	1997	3	1	38	1	39			
A	AMF-4	a-51	盛土	縄文後期後半	1997	3	1	38	1	39			
A	AMF-5	Z-52	盛土	縄文後期後半	1997	3	1	38	1	39			
F	盛土1層	Q-66		縄文後期後葉	1997	8	1	59	1	59			
F	盛土3層	R-67		縄文後期後葉	1997	8	1	62	1	64			
G	盛土4層	M-72		縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	67			
G	盛土5層	N-77		縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	盛土13層	O-76		縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	54			
G	盛土14層	N-76		縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
F	盛土17層	R-86		縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	51			
F	盛土19層	Q-84		縄文後期後葉	1997	8	1	53	1	53			
F	盛土22層	R-88		縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	54			
F	盛土23層	Q-86		縄文後期後葉	1997	8	1	58	1	59			
G	盛土26層	K-78		縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
F	盛土27層	O-83		縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	盛土28層	P-84		縄文後期後葉	1997	8	1	53	1	53			
G	盛土29層	M-74		縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	62			
F	盛土30層	P-85		縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	盛土31層	P-83		縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	盛土32層	O-83		縄文後期後葉	1997	8	1	69	1	68			
G	盛土33層	M-76		縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			

表Ⅳ－16　キウス4遺跡遺構一覧(15)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
G	盛土34層	L-77		縄文後期後葉	1998	8	1	42	1	42			
G	盛土35層	M-75		縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	盛土36層	M-74		縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	盛土37層	K-73		縄文後期後葉	1998	8	1	69	1	68			
F	F-22	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
G	F-41	O-79	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-42	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-43	O-79	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-45	O-80	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
F	F-302	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-310	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-352	Q-86	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-369	O-82	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-388	N-83	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-391	N-83	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-406	M-82	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-407	N-82	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-412	P-82	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-419	O-82	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-420	O-83	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-421	N-81	盛土26	縄文後期後葉	1997	8	1	47	1	48			
F	F-422	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-425	P-83	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-426	P-83	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-427	P-82	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-428	P-83	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-429	P-82	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-430	P-82	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-432	P-82	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-435	O-83	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-436	O-83	盛土27	縄文後期後葉	1997	8	1	51	1	52			
F	F-439	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-440	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-441	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-442	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-443	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-444	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-445	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-446	P-80	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-447	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-448	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-449	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-450	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-451	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
G	F-452	O-80	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-453	O-80	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
F	F-454	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-455	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-456	P-80	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-457	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-460	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-461	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-462	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-463	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-464	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-465	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-466	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-467	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-468	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-469	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-470	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-471	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-472	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-473	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-474	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-475	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-476	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-477	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			

表Ⅳ－17　キウス4遺跡遺構一覧(16)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
F	F-478	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-479	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-480	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-481	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-482	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-483	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-484	P-81	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-486	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-487	O-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-488	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-489	P-81	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-490	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-491	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-492	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-495	Q-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-496	Q-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-497	Q-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-498	Q-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-499	Q-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-508	P-84	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-512	P-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-513	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-514	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-516	P-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-520	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-521	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-522	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-523	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-524	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-525	P-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-538	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-539	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-540	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-541	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-543	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-544	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-550	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-551	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-552	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-553	Q-82	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-554	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-555	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-556	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-557	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-558	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-559	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-560	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-561	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-562	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-564	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-565	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-571	P-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-572	P-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-573	P-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-574	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-575	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-576	Q-84	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-580	Q-85	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-618	Q-86	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-624	P-84	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-626	Q-86	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-627	Q-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-632	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-633	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-634	P-86	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-635	P-87	盛土30	縄文後期後葉	1997	8	1	65	1	66			
F	F-636	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-640	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			

表Ⅳ－18　キウス4遺跡遺構一覧(17)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
F	F-642	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-643	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-644	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-645	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-647	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-651	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-652	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-653	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-654	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-655	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-656	P-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-658	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
F	F-660	Q-83	盛土31	縄文後期後葉	1997	8	1	68	1	69			
G	F-704	N-76	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-705	M-72	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-707	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-708	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-709	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-710	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-718	N-78	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-731	M-75	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-732	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-739	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-740	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-741	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-743	O-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-754	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-755	M-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-772	N-80	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-773	N-79	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-774	N-79	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-777	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-789	N-79	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-790	N-79	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-794	N-79	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-797	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-799	N-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-812	N-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-813	N-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-814	N-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-845	N-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-920	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-921	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-922	O-78	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-923	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-924	N-79	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-925	O-78	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-926	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-927	N-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-928	N-78	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-929	M-80	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-930	M-80	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-931	N-79	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-935	N-77	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-936	N-77	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-937	N-77	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-938	L-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-939	L-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-940	L-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-941	L-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-942	L-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-943	N-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-944	N-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-963	L-80	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-964	L-80	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-965	L-80	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-966	L-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-977	M-77	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			

表Ⅳ－19　キウス4遺跡遺構一覧(18)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
G	F-978	M-77	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-979	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-996	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-997	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-998	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-999	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1001	K-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1002	K-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1003	N-77	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1004	N-75	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1005	N-74	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1006	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1007	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1008	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1009	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1010	M-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1011	N-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1012	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1013	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1014	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1016	N-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1017	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1018	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1019	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1020	L-75	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1021	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1022	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1036	L-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1037	N-75	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1038	N-74	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1039	M-74	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1040	N-74	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1041	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1042	L-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1043	K-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-1044	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1054	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1055	L-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1056	L-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1057	N-72	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1058	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
F	F-1067	M-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
F	F-1068	M-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
G	F-1086	N-80	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1121	N-80	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1122	O-80	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1125	L-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1126	L-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1128	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1129	M-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1130	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
F	F-1142	N-81	盛土13	縄文後期後葉	1997	8	1	54	1	55			
G	F-1143	N-75	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1144	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1146	L-72	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1149	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1150	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1151	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1152	L-75	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-1153	J-77	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-1154	J-77	盛土26	縄文後期後葉	1998	8	1	47	1	48			
G	F-1156	L-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1202	O-79	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1203	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1204	O-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1250	N-75	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1251	N-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1252	N-77	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			

表Ⅳ－20　キウス4遺跡遺構一覧(19)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
G	F-1255	N-76	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1281	N-76	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-1323	M-77	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1324	N-77	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1327	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1329	M-77	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1330	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1331	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1332	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1333	M-77	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1334	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1335	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1336	N-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1337	N-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-1347	M-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1348	M-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1349	M-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1350	M-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1351	M-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1352	M-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1353	O-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1354	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1356	N-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1357	N-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1358	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1359	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1360	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1361	O-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1362	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1363	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1364	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1379	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1380	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1381	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1382	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1383	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1384	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1385		盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1386	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1387	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1388	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1389	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1390	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1391	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1392	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1393	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1394	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1395	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1396	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1397	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1398	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1399	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1400	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1401	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1402	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1403	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1404	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1405	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1409	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1410	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1411	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1412	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1413	N-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1414	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1415	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1416	O-78	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1417	O-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1418	N-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			

表Ⅳ－21　キウス4遺跡遺構一覧(20)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
	F-1420	O-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1421	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1422	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1423	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1424	L-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1430	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1432	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1433	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1434	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1435	M-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1436	M-73	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1437	O-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1438	O-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1439	N-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1516	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1650	N-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1651	N-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1652	N-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1653	N-74	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1654	N-73	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1655	O-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-1732	K-74	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1733	K-74	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1734	K-74	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1736	K-74	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1739	K-74	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1749	L-73	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1750	M-73	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-1751	K-74	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-2086	N-72	盛土4	縄文後期後葉	1998	8	1	65	1	66			
G	F-2123	M-75	盛土35	縄文後期後葉	1998	8	1	43	1	44			
G	F-2149	M-78	盛土13	縄文後期後葉	1998	8	1	54	1	55			
G	F-2205	M-77	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-2217	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2218	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2219	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2224	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-2225	M-74	盛土36	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	61			
G	F-2226	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2230	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-2231	M-75	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-2248	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2249	M-76	盛土33	縄文後期後葉	1998	8	1	58	1	60			
G	F-2250	M-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2252	L-76	盛土5	縄文後期後葉	1998	8	1	45	1	46			
G	F-2254	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-2261	M-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-2262	M-62	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
G	F-2287	O-76	盛土14	縄文後期後葉	1998	8	1	61	1	63			
H	HM-1	d-55		縄文後期後葉	1997	3	1	250	1	251	2	154	
H	HM-2	e-61	VI	縄文後期後葉	1997	3	1	257	1	258	2	155	
H	HM-3	b-52		縄文後期後葉	1997	3	1	259	1	260	2	156	
H	HMF-1	c-57	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	266			HMF一覧表 (P.574)
H	HMF-2	d-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-3	d-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-4	d-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-5	c-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-6	c-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-7	d-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-8	d-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-9	d-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-10	d-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-11	c-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-12	c-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-13	d-53	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	268			
H	HMF-14	d-53	盛土	縄文後期後葉	1997	3							
H	HMF-15	d-53	盛土	縄文後期後葉	1997	3							
H	HMF-16	d-53	盛土	縄文後期後葉	1997	3							

表Ⅳ－22　キウス4遺跡遺構一覧(21)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
H	HMF-17	d-53	盛土	縄文後期後葉	1997	3							
H	HMF-18	e-60	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	265			
H	HMF-19	d-60	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	265			
H	HMF-20	i-51	盛土	縄文後期後葉	1997	3							
H	HMF-21	d-54	盛土	縄文後期後葉	1997	3							
H	HMF-22	c-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-23	c-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3			1	267			
H	HMF-24	c-55	盛土	縄文後期後葉	1997	3							
L	N盛土	Q-64		縄文後期後葉	1996	2		58					
L	C盛土	T-62		縄文後期後葉	1996	2		78					
L	S盛土	U-60		縄文後期後葉	1996	2		96		97			
L	Q-63 F-1	Q-63	N盛土	縄文後期後葉	1996	2		58		59			
L	P-64 F-1	P-64	N盛土	縄文後期後葉	1996	2		60		60			
L	R-61 F-4	R-61	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-2	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-3	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-4	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-5	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-6	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-7	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	S-62 F-8	S-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	V-62 F-2	V-62	C盛土	縄文後期後葉	1996	2		78		79			
L	T-61 F-6	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		109			
L	T-61 F-7	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		109			
L	T-61 F-8	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		109			
L	T-61 F-11	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		100		101		418	
L	T-61 F-12	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		111			
L	T-61 F-13	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		111			
L	T-61 F-14	T-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		111			
L	S-61 F-1	S-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		107		107			
L	S-61 F-2	S-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		107		107			
L	T-60 F-3	T-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		108		109			
L	T-60 F-4	T-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		108		109			
L	T-60 F-5	T-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		108		109			
L	T-60 F-6	T-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		108		109			
L	U-59 F-3	U-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		110		111			
L	U-60 F-1	U-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		112		111			
L	U-60 F-7	U-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		112			
L	U-60 F-8	U-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		112			
L	V-59 F-2	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		112			
L	V-59 F-6	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		115			
L	V-59 F-7	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		115			
L	V-59 F-8	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		115			
L	V-59 F-9	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		115			
L	V-59 F-14	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		113		115			
L	V-59 F-15	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		114		115			
L	V-59 F-16	V-59	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		114		117			
L	V-60 F-10	V-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		116		117			
L	V-60 F-11	V-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		116		117			
L	V-60 F-15	V-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		116		118			
L	V-60 F-16	V-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		119		118			
L	V-60 F-17	V-60	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		119		118			
L	V-61 F-10	V-61	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		119		120			
L	V-62 F-1	V-62	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		121		121			
L	V-62 F-3	V-62	S盛土	縄文後期後葉	1996	2		121		121			
Q	盛土遺構			縄文後期後葉	1998	7	1	207	1	208	3	72	2か所あり
盛土遺構(南側)													
I	IMA	n-93	V	縄文後期後半	1997	3	1	315	1	312	2	196	
I	IMB	p-54	V	縄文後期後半	1997	3	1	326	1	312	2	196	
I	IMAF-1	o-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			IMAF一覧表(P.315)
I	IMAF-2	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312	2	206	
I	IMAF-3	n-96	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
I	IMAF-4	n-96	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
I	IMAF-5	n-96	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
I	IMAF-6	n-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
I	IMAF-7	n-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
I	IMAF-8	n-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
I	IMAF-9	n-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			

表Ⅳ－23　キウス4遺跡遺構一覧(22)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Ⅰ	IMAF-10	n-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	316			
Ⅰ	IMAF-11	o-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-12	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-13	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-14	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	316			
Ⅰ	IMAF-15	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-16	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-17	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-18	p-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-19	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-20	o-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-21	p-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	316			
Ⅰ	IMAF-22	p-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-23	o-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	316			
Ⅰ	IMAF-24	p-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMAF-25	p-92	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	316			
Ⅰ	IMBF-1	q-92	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			IMBF一覧表(P.326)
Ⅰ	IMBF-2	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-3	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-4	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-5	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-6	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-7	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-8	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-9	q-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-10	q-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-11	r-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-12	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-13	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-14	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-15	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-16	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-17	q-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-18	q-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-19	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-20	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-21	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-22	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-23	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-24	r-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-25	s-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-26	s-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-27	s-93	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-28	s-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-29	s-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-30	s-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-31	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-32	s-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-33	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-34	r-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-35	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-36	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-37	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-38	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-39	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-40	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-41	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-42	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-43	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-44	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-45	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-46	r-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-47	q-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-48	q-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-49	q-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-50	p-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-51	p-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-52	p-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			

表Ⅳ－24　キウス4遺跡遺構一覧(23)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
Ⅰ	IMBF-53	p-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
Ⅰ	IMBF-54	p-95	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	328			
Ⅰ	IMBF-55	p-94	盛土	縄文後期後半	1997	3			1	312			
R	RMA	p-91		縄文後期後半	1998	9	1	178	1	178	2	296	
R	RMA'	p-90		縄文後期後半	1998	9	1	40	1	40	2	296	
R	RMB	r-91		縄文後期後半	1998	9	1	182	1	182	2	297	
R	RMD	q-85		縄文後期後半	1998	9	1	50	1	50	2	298	
R	RMD'	p-85		縄文後期後半	1998	9	1	187	1	187			
R	RME	t-82		縄文後期後半	1998	9	1	100	1	100	2	303	
R	RMG	v-83		縄文後期後半	1998	9	1	120	1	120	2	306	
R	RMJ	t-87		縄文後期後半	1998	9	1	130	1	130	2	306	
R	RMK	x-85		縄文後期後半	1998	9	1	135	1	135	2	307	
R	RMV	t-83		縄文後期後半	1998	9	1	218	1	218	2	317	
R	RMW	w-80		縄文後期後半	1998	9	1	190	1	190	2	313	
R	RMX	y-81		縄文後期後半	1998	9	1	140	1	140	2	307	
R	RMY	x-77		縄文後期後半	1998	9	1	144	1	144	2	308	
R	RMZ	v-75		縄文後期後半	1998	9	1	168	1	168	2	312	
R	RMAF-1	o-89	A2	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMAF-2	o-89	A2	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMAF-3	p-88	A2	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMAF-4	o-89	A3	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMAF-5	o-89	A3	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMAF-6	p-89	A3	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMAF-7	p-88	A15	縄文後期後半	1998	9	1	42	1	43			
R	RMBF-1	r-91	B2	縄文後期後半	1998	9	1	184	1	184	2	297	
R	RMDF-1	r-85	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	69	2	299	
R	RMDF-2	p-85	D6	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	74			
R	RMDF-3	p-85	D6	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	74	2	300	
R	RMDF-4	q-85	D6	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	74			
R	RMDF-5	q-85	D8	縄文後期後半	1998	9	1	78	1	76			
R	RMDF-6	q-85	D9	縄文後期後半	1998	9	1	78	1	76			
R	RMDF-7	r-85	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75	2	297	
R	RMDF-8	q-88	D12	縄文後期後半	1998	9	1	78	1	76			
R	RMDF-9	q-88	D12	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	76			
R	RMDF-10	q-88	D12	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	76			
R	RMDF-11	q-87	D12L	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	76	2	301	
R	RMDF-12	q-87	D13	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	76			
R	RMDF-13	q-87	D5	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	73			
R	RMDF-14	q-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72	2	301	
R	RMDF-15	q-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-16	q-83	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	70	2	301	
R	RMDF-17	r-83	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	70			
R	RMDF-18	r-83	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	70			
R	RMDF-19	r-83	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	70			
R	RMDF-20	r-84	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	70			
R	RMDF-21	q-84	D3	縄文後期後半	1998	9	1	64	1	71			
R	RMDF-22	q-84	D3	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	71			
R	RMDF-23	p-84	D3	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	71			
R	RMDF-24	q-84	D3	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	71			
R	RMDF-25	r-82	D3	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	71			
R	RMDF-26	q-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72	2	301	
R	RMDF-27	p-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72	2	301	
R	RMDF-28	r-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-29	q-84	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-30	q-85	D6	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	74	2	301	
R	RMDF-31	r-85	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75	2	301	
R	RMDF-32	r-87	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75			
R	RMDF-33	r-87	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75			
R	RMDF-34	q-87	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75			
R	RMDF-35	r-84	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-36	r-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-37	r-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-38	r-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-39	r-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-40	r-83	D4	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	72			
R	RMDF-41	q-86	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75	2	301	
R	RMDF-42	q-86	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75	2	301	
R	RMDF-43	q-86	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75			

表Ⅳ－25　キウス4遺跡遺構一覧(24)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	RMDF-44	p-86	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	77	2	300	
R	RMDF-45	p-86	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	77			
R	RMDF-46	p-87	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	77			
R	RMDF-47	q-84	D5	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	73			
R	RMDF-48	q-84	D5	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	73			
R	RMDF-49	q-83	D3	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	73			
R	RMDF-50	p-87	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	71			
R	RMDF-51	r-84	D5	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	77			
R	RMDF-52	r-84	D5	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	73			
R	RMDF-53	r-83	D5	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	73	2	301	
R	RMDF-54	p-85	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	73			
R	RMDF-55	q-85	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	78			
R	RMDF-56	q-85	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	79			
R	RMDF-57	q-85	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	79			
R	RMDF-58	q-86	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	79			
R	RMDF-59	q-86	D15	縄文後期後半	1998	9	1	79	1	79			
R	RMDF-60	q-84	D6	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	74			
R	RMDF-61	r-84	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75			
R	RMDF-62	r-84	D6	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	74			
R	RMDF-63	q-84	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75	2	301	
R	RMDF-64	q-84	D7	縄文後期後半	1998	9	1	68	1	75			
R	RMDF-65	r-84	D7	縄文後期後半	1998	9			1	75			
R	RMDF-66	q-84	D3	縄文後期後半	1998	9	1	67	1	71			
R	RMDF-67	p-84	D20	縄文後期後半	1998	9	1	187	1	188			
R	RMEF-1	s-84	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-2	s-85	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-3	s-85	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-4	u-80	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107	2	305	
R	RMEF-5	u-81	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-6	t-81	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-7	t-82	E2	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	106			
R	RMEF-8	t-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-9	t-83	E2	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	107			
R	RMEF-10	t-83	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-11	t-84	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-12	t-84	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-13	t-83	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109	2	305	
R	RMEF-14	s-84	E2	縄文後期後半	1998	9			1	107			
R	RMEF-15	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-16	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	106			
R	RMEF-17	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	106			
R	RMEF-18	s-81	E2	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	106			
R	RMEF-19	s-81	E2	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	106			
R	RMEF-20	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-21	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-22	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-23	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-24	s-81	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-25	s-81	E2	縄文後期後半	1998	9			1	106			
R	RMEF-26	u-81	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-27	t-82	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	110			
R	RMEF-28	t-82	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	110			
R	RMEF-29	t-82	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-30	t-83	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109	2	305	
R	RMEF-31	t-83	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	107			
R	RMEF-32	s-82	E2	縄文後期後半	1998	9			1	108			
R	RMEF-33	s-81	E2	縄文後期後半	1998	9			1	108			
R	RMEF-34	t-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-35	t-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-36	t-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-37	t-84	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	109			
R	RMEF-38	t-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-40	s-83	E2	縄文後期後半	1998	9			1	108	2	305	
R	RMEF-41	s-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-42	s-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-43	s-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMEF-44	s-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109	2	305	
R	RMEF-45	s-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			

表Ⅳ－26　キウス4遺跡遺構一覧(25)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	RMEF-46	t-82	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-47	t-81	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-48	t-81	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-49	t-81	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	110			
R	RMEF-50	s-82	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-51	s-82	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-52	t-81	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110	2	305	
R	RMEF-53	t-81	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-54	t-82	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110	2	305	
R	RMEF-55	s-82	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	110			
R	RMEF-56	t-81	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	110	2	305	
R	RMEF-57	s-82	E3	縄文後期後半	1998	9			1	110			
R	RMEF-58	s-82	E3	縄文後期後半	1998	9	1	103	1	110			
R	RMEF-59	t-84	E3	縄文後期後半	1998	9			1	109			
R	RMGF-1	u-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-2	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9	1	123	1	125			
R	RMGF-3	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-4	w-83	G2	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-5	w-83	G2	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-6	w-83	G2	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-8	v-85	G2	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-9	v-81	G2	縄文後期後半	1998	9	1	123	1	125			
R	RMGF-10	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-11	v-84	G2	縄文後期後半	1998	9	1	124	1	126			
R	RMGF-12	w-84	G3	縄文後期後半	1998	9	1	124	1	126	2	306	
R	RMGF-13	v-82	G1	縄文後期後半	1998	9	1	123	1	125			
R	RMGF-14	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9	1	124	1	125	2	306	
R	RMGF-15	w-81	G2	縄文後期後半	1998	9	1	124	1	125	2	306	
R	RMGF-16	w-81	G1	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-17	w-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-18	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-19	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-20	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-21	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-22	v-82	G2	縄文後期後半	1998	9			1	125			
R	RMGF-23	v-84	G3	縄文後期後半	1998	9	1	124	1	126	2	306	
R	RMGF-24	v-84	G3	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-25	v-84	G3	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-26	v-84	G3	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMGF-27	v-84	G3	縄文後期後半	1998	9			1	126			
R	RMJF-1	t-87	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132	2	306	
R	RMJF-2	t-87	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132			
R	RMJF-3	t-87	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132	2	306	
R	RMJF-4	u-86	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132			
R	RMJF-5	u-86	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132			
R	RMJF-6	u-87	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132			
R	RMJF-7	u-86	J2	縄文後期後半	1998	9	1	130	1	132			
R	RMKF-1	x-84	K1	縄文後期後半	1998	9	1	135	1	137	2	307	
R	RMKF-2	x-84	K2	縄文後期後半	1998	9	1	135	1	137	2	307	
R	RMXF-1	y-81	X2	縄文後期後半	1998	9	1	140	1	142			
R	RMXF-2	y-82	X2	縄文後期後半	1998	9	1	140	1	142	2	307	
R	RMXF-3	y-82	X2	縄文後期後半	1998	9	1	140	1	142	2	307	
R	RMXF-4	y-82	X2	縄文後期後半	1998	9	1	140	1	142	2	307	
R	RMXF-5	x-81	X2	縄文後期後半	1998	9	1	140	1	142			
R	RMYF-1	x-75	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154			
R	RMYF-2	y-75	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154	2	310	
R	RMYF-3	y-75	Y1	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-4	x-77	Y1	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-5	x-77	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-6	w-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-7	w-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-8	w-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-9	x-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-10	x-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-11	w-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-12	w-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153	2	310	
R	RMYF-13	w-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-14	x-77	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			

表Ⅳ－27　キウス4遺跡遺構一覧(26)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	RMYF-15	x-76	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154			
R	RMYF-16	w-77	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-17	x-76	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154			
R	RMYF-18	w-77	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153	2	310	
R	RMYF-19	x-76	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154	2	310	
R	RMYF-20	x-76	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154			
R	RMYF-21	w-77	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-22	w-76	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154			
R	RMYF-23	v-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-24	y-76	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	154			
R	RMYF-25	v-78	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	153			
R	RMYF-26	v-80	Y10	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-27	y-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	155			
R	RMYF-28	x-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	150	1	155			
R	RMYF-29	x-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-30	x-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-31	y-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-32	y-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-33	y-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155	2	310	
R	RMYF-34	y-73	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-35	y-73	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-36	y-72	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-37	y-72	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-38	y-73	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMYF-39	y-72	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-40	y-72	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-41	y-74	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-42	y-74	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-43	y-74	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-44	y-74	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-45	y-74	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-46	y-73	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-47	y-73	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156	2	310	
R	RMYF-48	x-72	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-49	y-72	Y3	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	156			
R	RMYF-50	w-74	Y2	縄文後期後半	1998	9	1	157	1	155			
R	RMWF-1	x-82	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	201	2	314	
R	RMWF-2	y-82	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	201	2	314	
R	RMWF-3	y-81	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	201	2	314	
R	RMWF-4	x-81	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	201			
R	RMWF-5	x-81	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	201	2	314	
R	RMWF-6	v-87	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	202			
R	RMWF-7	y-82	W3	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	204			
R	RMWF-8	y-82	W3	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	204			
R	RMWF-9	y-82	W3	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	204			
R	RMWF-10	y-82	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	201			
R	RMWF-11	v-85	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	202			
R	RMWF-12	w-84	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	202			
R	RMWF-13	v-85	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	202	2	314	
R	RMWF-14	x-75	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	200			
R	RMWF-15	x-75	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	200			
R	RMWF-16	x-75	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	200	2	314	
R	RMWF-17	x-75	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	200	2	314	
R	RMWF-18	x-75	W2	縄文後期後半	1998	9	1	195	1	200	2	314	
R	RMWF-19	x-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	203	2	314	
R	RMWF-20	y-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	203			
R	RMWF-21	x-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203			
R	RMWF-22	x-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203			
R	RMWF-23	y-82	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201	2	314	
R	RMWF-24	y-82	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201			
R	RMWF-25	y-82	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201			
R	RMWF-26	y-81	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201			
R	RMWF-27	w-85	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	202			
R	RMWF-28	y-80	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204	2	314	
R	RMWF-29	w-86	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204	2	314	
R	RMWF-30	v-87	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204	2	314	
R	RMWF-31	v-87	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204	2	314	
R	RMWF-32	y-83	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204	2	314	

表Ⅳ－28　キウス4遺跡遺構一覧(27)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
R	RMWF-33	w-83	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201			
R	RMWF-34	w-83	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201			
R	RMWF-35	y-74	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200	2	314	
R	RMWF-36	y-73	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200	2	314	
R	RMWF-37	y-72	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200			
R	RMWF-38	z-73	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200			
R	RMWF-39	z-73	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200			
R	RMWF-40	x-78	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	201			
R	RMWF-41	x-78	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-42	w-78	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-43	w-78	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-44	x-77	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-45	x-77	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-46	x-77	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-47	x-76	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	204			
R	RMWF-48	y-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203			
R	RMWF-49	y-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203			
R	RMWF-50	y-75	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203			
R	RMWF-51	t-83	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	202			
R	RMWF-52	y-73	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203	2	314	
R	RMWF-53	x-74	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200			
R	RMWF-54	x-74	W2	縄文後期後半	1998	9	1	198	1	200			
R	RMWF-55	x-74	W3	縄文後期後半	1998	9	1	199	1	203			
R	RMVF-1	s-85	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-2	s-84	V4	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	232	2	318	
R	RMVF-3	t-87	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	228	2	318	
R	RMVF-4	t-86	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	228			
R	RMVF-5	t-86	V3	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	231			
R	RMVF-6	t-87	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	228	2	318	
R	RMVF-7	s-85	V1	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-8	s-86	V1	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-9	s-85	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-10	s-85	V3	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	231			
R	RMVF-11	t-86	V3	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	231			
R	RMVF-12	s-85	V3	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	231			
R	RMVF-13	w-73	V3	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	229	2	318	
R	RMVF-14	w-76	V3	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	229			
R	RMVF-15	w-76	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229			
R	RMVF-16	w-77	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229			
R	RMVF-17	w-77	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229			
R	RMVF-18	w-77	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229	2	319	
R	RMVF-19	v-77	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229			
R	RMVF-20	v-77	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229			
R	RMVF-21	v-77	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	229			
R	RMVF-22	r-85	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	231			
R	RMVF-23	r-85	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	231			
R	RMVF-24	q-86	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	231			
R	RMVF-25	s-86	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	231			
R	RMVF-26	t-80	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	230			
R	RMVF-27	t-81	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	230			
R	RMVF-28	t-82	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	230			
R	RMVF-29	s-86	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	231			
R	RMVF-30	s-82	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227	2	318	
R	RMVF-31	s-82	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-32	r-83	V3	縄文後期後半	1998	9	1	226	1	230			
R	RMVF-33	r-83	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	230			
R	RMVF-34	r-83	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	230			
R	RMVF-35	s-83	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	230			
R	RMVF-36	t-84	V1	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-37	t-84	V1	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-38	y-72	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	229			
R	RMVF-39	z-72	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	229			
R	RMVF-40	z-73	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	229			
R	RMVF-41	r-83	V3	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	230			
R	RMVF-42	s-84	V2	縄文後期後半	1998	9	1	225	1	227			
R	RMVF-43	s-85	V4	縄文後期後半	1998	9	1	232	1	232			
	河道跡												
A	河道跡1	X-53	Ⅲ		1997	3	1	35	1	36	2	10	

表Ⅳ－29　キウス4遺跡遺構一覧(28)

地区	遺構名	発掘区	検出層位	時期	調査年	報告書番号	本文		図		写真		備考
							分冊	ページ	分冊	ページ	分冊	ページ	
A	河道跡2	Y-49	Ⅳ		1997	3	1	35	1	36	2	9	
A	河道跡3	Y-46			1997	3	1	35	1	36	2	10	
A	河道跡4	b-48			1997	3	1	35	1	36	2	10	
A	河道跡5		Ⅳ		1997	3	1	37			2	10	
A2	河道跡1	A-52他	Ⅲ	アイヌ文化期	1998	4		30		32		5	
A2	河道跡2	B-40他	Ⅲ	縄文、続縄文	1998	4		30		33		10	
L	旧河道		Ⅲ上		1996	2		25		26		403	
R	RUR-1	w-79他	Ⅲ	10～18世紀	1998	6		323		324		382	
R	RLR-1	u-83	Ⅴb	縄文後期後半	1998	9	2	2	2	2	2	337	
R	RLR-2	x-74	Ⅴb	縄文後期後葉	1998	6		260		261		382	
R	RLR-3	v-65他	SE-2	縄文後期後葉	1998	6		261		262		382	
R	RLR-4	w-76他	白粘土	早期後半～前期	1998	6		323		325		383	
R	RLR-5	u-79他	Ⅴc	早期後半～前期	1998	6		325		326		383	
R	RLR-6	w-75他	Ⅴc	早期後半～前期	1998	6		325		326			
R	RLR-7	x-66	Ⅴd	縄文後期後半	1998	9	2	7	2	7	2	323	
R	RLR-8	u-79他	Ⅶ	早期後半～前期	1998	6		327		328		383	
R	RLR-9	w-79他	Ⅶ	早期後半～前期	1998	6		327		328		383	
R	RLR-10	w-74他		縄文早期後半	1998	6		327		328		383	
	その他												
D	北側直線状盛土	R-97他		縄文後期後葉	1997	5		113		122		37	
D	南側直線状盛土	H-112他		縄文後期後葉	1997	5		112		115		36	
D	道跡	S-98他	Ⅴ	縄文後期後葉	1997	5		113		115		38	
D	炭窯	L-110		近代	1997	5		171		174		52	
L	杭跡1	T-58	Ⅲ		1996	2		25		28		404	
L	杭跡2	U-58	Ⅲ		1996	2		25		28		404	
L	杭跡3	U-59	Ⅲ		1996	2		25		28		404	
L	集石	J-62	Ⅲ	アイヌ文化期	1996	2		24		24		404	
Q	LZ-1	t-59	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	193	2	246	3	70	溝状遺構
Q	杭列	q-57	Ⅷ	縄文後期後葉	1998	7	1	193	2	245	3	70	SP-1281～1302

引用・参考文献

Ⅰ章・Ⅱ章・Ⅳ章

（1）報告書

（財）北海道埋蔵文化財センター（1987）『木古内町新道４遺跡』北埋調報52

千歳市教育委員会（1994）『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書　ⅩⅨ

（財）北海道埋蔵文化財センター（1994）『千歳市キウス４遺跡』（事前発掘調査概報）

千歳市教育委員会（1996）『末広遺跡における考古学的調査　Ⅳ』千歳市文化財調査報告　ⅩⅩⅠ

千歳市教育委員会（1997）『キウス４遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告　ⅩⅩⅢ

苫小牧市埋蔵文化財調査センター（1997）『柏原５遺跡』

（財）北海道埋蔵文化財センター（1997）『千歳市キウス４遺跡』北埋調報119

南茅部町埋蔵文化財調査団（1997）『八木Ａ遺跡　八木Ｃ遺跡』

（財）北海道埋蔵文化財センター（1998）『千歳市キウス４遺跡（２）』北埋調報124

（財）北海道埋蔵文化財センター（1999a）『千歳市キウス４遺跡（３）Ａ・Ｈ・Ｋ・Ｉ地区』北埋調報134

（財）北海道埋蔵文化財センター（1999b）『千歳市キウス４遺跡（４）Ａ２地区』北埋調報135

函館市教育委員会（1999）『函館市石倉貝塚』

（財）北海道埋蔵文化財センター（2000a）『千歳市キウス４遺跡（５）』北埋調報144

（財）北海道埋蔵文化財センター（2000b）『千歳市キウス４遺跡（６）』北埋調報148

（財）北海道埋蔵文化財センター（2000c）『千歳市キウス４遺跡（７）』北埋調報152

（財）北海道埋蔵文化財センター（2001）『千歳市キウス４遺跡（８）』北埋調報157

（財）北海道埋蔵文化財センター（2003）『千歳市キウス４遺跡（９）』北埋調報180

（財）栃木県文化振興事業団（1994）『寺野東遺跡－発掘調査概要報告－』栃木県埋蔵文化財調査報告第152集

（財）栃木県文化振興事業団（2000）『寺野東遺跡Ⅴ（縄紋時代　環状盛土遺構・水場の遺構編－１）』
栃木県埋蔵文化財調査報告第200集

（2）論文・報文

宮　宏明（1988）「スタンプ状土製品に関する若干の問題」北海道考古学　第24輯

山田悟郎（1993）「北海道の遺跡から出土した植物遺体について」『古代文化』第45巻第４号

永嶋正春（1997）「漆と赤色顔料」『保存科学研究集会』奈良国立文化財研究所

佐藤智雄（1998）「北海道の動植物を意匠する製品」『東北民俗学研究』第６号　東北学院大学ＯＢ会

江原　英（1999）「寺野東遺跡環状盛土遺構の類例－縄紋後・晩期集落の一形態を考える基礎作業－」
財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　研究紀要第７号

高橋和樹・藤原秀樹（1999）「北海道的墓制の成立－周堤墓から御殿山系墓－」
『日本考古学協会1999年度調路大会研究発表要旨』

藤原秀樹（1999）「道央部における縄文後期の墓制について－周堤墓を中心として－」
『南北海道考古学情報交換会第20回記念シンポジウム発表要旨』

吉田邦夫（2002）「放射性炭素年代－道具からの脱却－」『日本考古学協会第68回総会研究発表要旨』

（3）単行本・その他

永田方正（1984）『北海道蝦夷語地名解』草風館

小林達雄編（1989）『縄文土器大観４　後期　晩期　続縄文』小学館

堀田　満ほか（1989）『世界有用植物辞典』平凡社

知里真志保（1993）『分類アイヌ語辞典　植物編・動物編』知里真志保著作集　別巻Ⅰ　平凡社

国立歴史民俗博物館（1994）『漆文化－縄文・弥生時代－』

（財）北海道埋蔵文化財センター（1997）『美々・美沢－新千歳空港の遺構と遺物－』

八戸市博物館（1997）『風張遺跡の縄文社会』

（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会（2002）『シンポジウム「よみがえる青田遺跡」川辺の縄文集落』

Ⅲ章－１・２

石井淳平（2001）「Ｖまとめ　４キウス４遺跡の構造と建物の配列について」
『千歳市キウス４遺跡（８）』北埋調報157　北海道埋蔵文化財センター
石川　徹（1969）「北海道千歳市キウス環状土離外縁部墳墓について」『北海道考古学』第５輯
今村啓爾（2002）『縄文の豊かさと限界』日本史リブレット２　山川出版社
大谷敏三（1975）「北海道縄文晩期における墓制について（１）」『先史』９
大谷敏三（1978）「「環状土離」について」『考古学ジャーナル』№156
加藤晋平（1981）「北アジア史のなかで」『北見市史』上巻　北見市
木村英明（1981）「６．若干のまとめ」『柏木Ｂ遺跡』　恵庭市教育委員会
木村尚俊（1984）「周堤墓」　『北海道の研究１　考古篇Ⅰ』　清文堂
小杉　康（2001）「巨石記念物の謎を探る」『新北海道の古代１　旧石器・縄文文化』北海道新聞社
佐藤　剛・長谷山隆博（2002）「野花南周堤墓群詳細測量調査の報告」『北海道考古学』第38輯
標津町教育委員会（1979）『標津の竪穴』Ⅱ
椙田光明（1999）「伊茶仁ふ化場第一竪穴群遺跡」『市町村における発掘調査の概要（平成10年度）』
北海道教育庁生涯学習部文化課
椙田光明（1999）「環状土離の調査　伊茶仁チシネ第三竪穴群遺跡」
『標津町ポー川史跡自然公園紀要　標津の自然歴史文化』第７号
瀬川拓郎（1983）「縄文後期～続縄文期墓制論ノート」『北海道考古学』第19輯
千歳市教育委員会（1979）『千歳市における埋蔵文化財（上）』
手塚　薫（2001）「千島列島北部オンネコタン島ネモ湾に所在する周堤をもつ特殊な遺構について」
『北海道開拓記念館研究紀要』第29号
長沼正樹（2001）「アムール下流域における新石器時代集落遺跡の調査報告―マリ５遺跡2000年度発掘調査略報―」
『第２回北アジア調査研究報告会』
野村　崇（1997）「北海道・東北縄文人の大土木工事をたどる」『三内丸山遺跡と北の縄文世界』朝日新聞社
林　謙作（1977）「縄文期の葬制　第Ⅱ部　遺体の配列、とくに頭位方向」『考古学雑誌』63－３
林　謙作（1979）「縄文期の村落をどうとらえるか」『考古学研究』103
藤原秀樹（2000）「１　キウス周堤墓群周辺の研究史と周堤墓の数」
『千歳市キウス４遺跡（５）』北埋調報144　北海道埋蔵文化財センター
藤原秀樹（2000）「２　北海道における周堤墓の分布」
『千歳市キウス４遺跡（５）』北埋調報144　北海道埋蔵文化財センター
北海道埋蔵文化財センター（1999）『芦別市滝里遺跡群Ⅸ』北埋調報137
北海道埋蔵文化財センター（2003）『千歳市オルイカ１遺跡』北埋調報188
矢野　等（1998）「野花南環状土離について」『郷土研究』第19号　芦別郷土研究会

Ⅲ章－３・４

（１）報告書

(財)北海道埋蔵文化財センター（1989）『小樽市忍路土場遺跡・忍路５遺跡』北埋調報53
(財)北海道埋蔵文化財センター（1997）『美沢川流域の遺跡群　ＸＸ』北埋調報113
苫小牧市埋蔵文化財調査センター（1997）『柏原５遺跡』
(財)北海道埋蔵文化財センター（2003）『八雲町野田生１遺跡』北埋調報183

(財)岩手県埋蔵文化財センター（1982）『萪内遺跡』岩手県埋文センター文化財調査報告書第32集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1986）『馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第99集
福島県立博物館（1988）『三貫地貝塚』福島県立博物館調査報告第17集
秋田県教育委員会（1988）『中小坂遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書　第177集

秋田県鷹巣町教育委員会（1990）『藤株遺跡』発掘調査報告書Ⅰ
八戸市教育委員会（1990）『風張（1）遺跡Ⅰ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第40集
八戸市教育委員会（1991）『風張（1）遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1994）『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集
山形県埋蔵文化財センター（1995）『宮の前遺跡　第２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第19集
秋田県鷹巣町教育委員会（2000）『伊勢堂岱遺跡　詳細分布調査報告書（３）』
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（2000）『長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集

（2）論文・報文

大場利夫・扇谷昌康（1953）『エリモ遺跡』日高教育研究所
大場利夫・石川徹（1956）『手稲遺跡』札幌郡手稲町教育委員会
札幌西高校郷土研究部（1959）「長沼町幌内タンネトウ遺跡略報」『郷土の科学』26
野村崇（1962）「長沼町幌内堂林遺跡調査概要」『郷土の文化財』1
大場利夫・渡辺兼庸（1966）「北海道爾志郡三ツ谷貝塚」考古学雑誌51-4
野村崇・宇田川洋（1967）『長沼町幌内堂林遺跡調査報告』長沼町の文化財2
大場利夫・石川徹（1967）『千歳遺跡』千歳市教育委員会
磯崎正彦ほか（1968）「十腰内遺跡」『岩木山』岩木山刊行会
我孫子昭二（1969）「東北地方における縄文後期後半の土器様式～所謂「コブ付土器」の編年～」石器時代9
山内清男（1969）「福島県小川貝塚調査報告」『山内清男・先史考古学論文集　第11集』先史考古学会
名取武光・松下亘（1969）「北海道」『新版考古学講座３　先史文化』
野村崇（1977）『長沼町幌内タンネトウ遺跡の発掘調査』
鷹野光行（1978a）「トコロチャシ南尾根遺跡出土の縄文時代後期の土器についての若干の考察」『トコロチャシ南尾根遺跡』
鷹野光行（1978b）「北海道における縄文時代後期中葉の土器の編年について」考古学雑誌63-4
鷹野光行（1981）「北海道の土器」『縄文文化の研究４　縄文土器　』雄山閣
我孫子昭二（1981）「瘤付土器（新地式）」『縄文文化の研究４　縄文土器　』雄山閣
静内町教育委員会（1984）『御殿山遺跡とその周辺における考古学的調査　－静内町遺跡分布調査報告書　その２－』
野村　崇（1984）『長沼町12区Ｂ遺跡の発掘調査』長沼町教育委員会
岡田康博（1986）「十腰内第Ⅲ群・第Ⅳ群・第Ⅴ群土器の再検討」弘前大学考古学研究3
高柳圭一（1988）「仙台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」『古代』第85号
宮古市教育委員会（1996）「近内中村遺跡－平成８年度　現地公開・スライド映写会資料－」
北越考古学研究会（1997）「新潟県北部地域における縄文時代後・晩期の研究－新発田市中野遺跡の共同資料調査－」
北越考古学８
東北大学文学部考古学研究室・岩手県花泉町教育委員会（1997）『中神遺跡の調査』
福田正宏・前田　潮（1998）「縄文時代後・晩期における礼文島」筑波大学先史学・考古学研究　第９号
鈴木克彦（1999）「北海道渡島・檜山地域の後期後半の編年―北海道西南部の縄文後期の編年学的研究３―」
『古代』第107号
奥三面を考える会（2001）『三面川流域の考古学』
工藤　肇（2000）「柏原Ⅰ～Ⅳ式について　～柏原５遺跡出土の縄文後期後葉の土器を主体に～」
『苫小牧市埋蔵文化財調査センター　所報２』
縄文セミナーの会『後期後半の再検討』第14回縄文セミナー
縄文セミナーの会『後期後半の再検討―記録集―』第14回縄文セミナー
小林圭一（2001）「東北南半の瘤付土器成立期の様相」『後期後半の再検討―記録集―』第14回縄文セミナー

（3）単行本・その他

秋田県教育委員会（1999）『秋田ふるさと紀行ガイドブック　史跡・考古編』

報告書抄録

ふりがな	ちとせしきうすよんいせきじゅう
書名	千歳市キウス４遺跡(10)
副書名	北海道横断自動車道(千歳～夕張) 埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)
シリーズ番号	第187集
編著者名	佐川俊一、藤原秀樹、阿部明義
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832　北海道江別市西野幌685番地１　　TEL 011-386-3231
発行年月日	西暦 2003年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
キウス4遺跡	北海道 千歳市 中央 208-16ほか	01224	A-03-92	42° 52′ 48″	141° 42′ 45″	＊ （下記）	49,649㎡ （全体）	北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
キウス4遺跡	集落 墓域	縄文時代 後期後半 縄文時代 早期後半 ～前期前半 縄文時代 中期後半 アイヌ文化期	周堤墓 土壙墓 直線状盛土 道跡 掘立柱建物跡 フラスコ状ピット 盛土遺構 水場遺構 焼土 竪穴住居跡 杭列	土器 特に縄文後期後葉 土製品 土玉・スタンプ形土製品・耳栓・ 焼成粘土塊など 石器 石鏃・石錐・スクレイパー・つまみ付 きナイフ・石斧・たたき石・すり石・ 砥石・台石・石皿ほか 石製品 玉・垂飾・異形石器・石棒ほか 骨角器 鉄製品（マレクほか） 木製品（脚付容器ほか） 繊維製品 漆製品 アスファルト塊 古銭　　ほか	国指定史跡キウス周堤墓群に近接する周堤墓群 200軒を超える建物跡群 盛土遺構を主に土器・石器等約600万点出土。 低地部から容器などの木製遺物が出土。

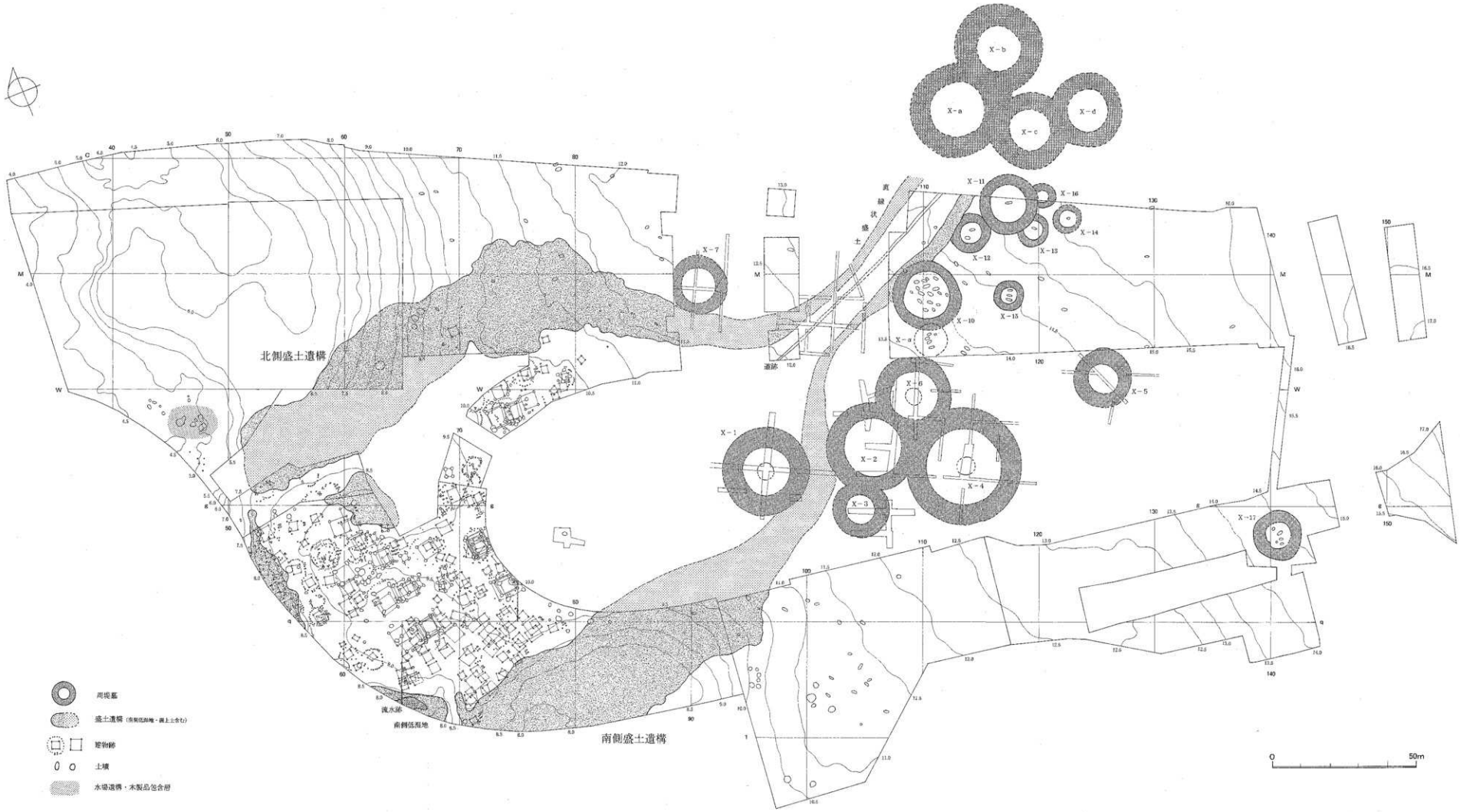
※調査期間：19930714～19930802・19931012～19931027・19950904～19951025・19960507～19961031・19970506～19971030・19980506～19981111

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第187集

千歳市　キウス４遺跡(10)

―北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　平成15年３月31日
編　集　財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地１
TEL 011-386-3231
印　刷　柏楊印刷株式会社
〒007-0802　札幌市東区東苗穂２条３丁目４-48
TEL 011-789-2377



千歳市キウス４遺跡 遺構位置図 （縄文時代後期後半）